

明治三十一年一月一號

國
法
汎
論

イ、カ、ヅ、ル、ン、ケ、ニ、リ、著
從五位加藤弘之譯

文
部
省

國法汎論小引

一維新以來、廟議專ヲ開化ノ進歩ヲ急務ト爲シ、制度文物ノ大ヨリ、百工技藝ノ廣ニ至リ、一ニ歐風ニ師倣ス、實ニ盛世ノ洪舉ニシ、億兆ノ大幸ナリ是ニ於テ洋書ノ繙譯梓ニ上ル者、陸續トシテ間斷ナク上ハ、廟議ノ萬一ヲ裨補シ、下ハ斯民ノ新化ヲ作振ス、亦盛事ト謂ハサル可シヤ、就中制度律令ノ事ニ係ル者、亦尠カラズ、然ルニ其書タル多クハ、唯各國列邦ニ於テ、現ニ適用スル所ノ制度律令ヲ説ケル者ニシテ、汎ク文明世外ノ法典ヲ舉ク、之ヲ通論スル者ニ非ス、而シテ能ク之ヲ通論スル者ハ、僅ニ泰西國法論一書荷蘭ハヒ、セリシテ、著述ニシテ、中判事津田眞道ガ所譯ナリ、アルノミ是故ニ余通論ノ書ヲ譯セント欲スル久シ、然ルニ王事鞅掌、未タ業ヲ起スニ暇アラズ、客歲測ラ

ス、叨リニ歐洲ノ國法論ヲ進講スヘキノ寵命ヲ辱ウス、天恩隆渥、感竦ノ至リニ耐ヘス、宿志モ亦是ニ因テ果スヲ得ル、歡喜ノ窮リナキ、豈啻ナランヤ、是ニ於テ瑞士人ブルンナチ、リ氏述ル所ノアルゲマイチス、スターツレフト(國法汎論ノ義)ヲ取り、直ニ譯業ヲ起シ、一欸譯成ル毎ニ、輒チ進テ之ヲ侍講ス、仰、汎論ノ書タル、博採約說、詳細遺スナシ、故ニ意味文義ノ間、微分細剖、ヨク其旨ヲ窮ルニ非レハ、其遂ニ造ル難シ、是ヲ以テ史志ニ深キ者ト雖モ、沉潜反覆、玩味スルニ非レハ、其意ノ通スル、恐クハ易クニ非ス、讀者先ツ泰西國法論ニ就テ、國法ノ大綱ヲ窺ヒ、更ニ此編ニ參シ、其要領ヲ審ニシ、而シテ後各國ノ法典ヲ涉獵セハ、規矩賴ル所アリ、取捨宜ク得テ、更ニ此編ニ參シ、其要領ヲ審ニシ、而シテ後各國ノ法典ヲ涉獵セハ、規矩賴ル所アリ、

凡ソ江湖讀書ノ徒、譯書ノ拙文ヲ尤ル者少カラズ、蓋シ譯業ノ難キヲ察セサルニ由ルナリ、夫レ殊方異域ノ言語文章、我ト其脈理ヲ同ウセサル、恐クハ漢梵ノ比ニアラサルヘシ、況ヤ其說ク處、概略學科術、以テ紀事史乘トハ、其難易亦自ラ異ルナヤ、且ツ學科術、旨タル、絶テ皇漢人ノ言ヲサレ、所ニシテ、歐人獨リ發明論說スル者居多ナリ、故ニ縱令ニ能文ノ士、刻苦勉勵シテ之ニ從事ス、雖モ自未ク曾テ見ス意未ク曾テ思ハサル所チ、漢字ヲ以テ國文ニ屬ス、抑亦難ト哉、而シテ讀者大抵小説野乘ト同日ノ看ヲ爲シ、唯其解シ易キヲ欲ス、故ニ一讀解シ得サルニ遇ヘハ、罪ヲ譯者ノ文章ト師シ、拙文讀ムニ堪ヘスト爲ス、思ハサルノ甚シキ者、蓋シ讀者從來ノ癖ナリ、今者天下

凡例

一書中太古ト記ス者ハ、開闢ヨリ紀元四百七十六年雄略天皇二十年ニ至ル世代ヲ云ヒ、中古ト記ス者ハ、四百七十六年ヨリ一千四百九十二年明應元年ニ至ルヲ云ヒ、新世ト記ス者ハ、一千四百九十二年ヨリ一千七百八十九年寛政元年ニ至ルヲ云ヒ、又最新世ト記ス者ハ、一千七百八十九年ヨリ今時ニ至ルヲ云フ。

一幾世期ト記ス者ハ、世代ヲ著ス稱ニシ、凡一百年ヲ一世期ト稱ス、故ニ紀元初年ヨリ一百年ニ至ル世代ヲ第一世期ト云ヒ、一百年ヨリ二百年ニ至ル世代ヲ第二世期ト云フ、他ハ之ニ倣フ、
一原註ノ短文ナル者ハ、夾註トナシ、長文ハ○◎等ノ符號ヲ用ヒ、毎條ノ末ニ附記ス、但シ讀者ノ解シ易カラサル註、及ヒ必要ナラサル者ハ、省畧ニ從フ、又譯者ノ註解ハ、必ス「按」字ヲ冠シ、原註ト區別ス。

一原語ノ旁側ニ單雙柱ヲ標シ、物名ヲ識別ス、
柱右ニ在ル者ハ、名氏、左ニ在ル者ハ、物名、及ヒ一切ノ名稱ナリ、又
柱右ニ在ル者ハ、地名、左ニ在ル者ハ、官職爵位、及ヒ官司ノ名稱亦之ニ屬ス、
 卽チパルメント英ノ立コソヘント佛ノ議會ノ名、類是ナリ。

弘之又識

國法汎論首卷

緒論目錄

- 第一款 國法及國政
- 第二款 國法私法ノ所ニ以相殊一
- 第三款 前款舉ル所ノ外仍_ホ國法ノ關涉
- 第四款 國法汎論及_ヒ國法各論
- 第五款 國法ノ淵源 甲 憲法
- 第六款 同上 乙 國約
- 第七款 同上 丙 慣用
- 第八款 同上 丁 論究
- 第九款 國法及_ヒ國家假法
- 第十款 研究ノ方法

國法汎論首卷

瑞士

イ、カ、ブルン、チ、ユリ 著
加藤弘之 譯

緒論

第一款

國法

スターツ、及ヒ國政、ボリ

往古希臘國ニテハ、政治上ニ關係スル諸學ハ、總テ之ヲ國政學(ボリヤツキ)ト稱シタリシカ、近今ハ

國法學(スターツレフト)ト國政學トナニ科ニ分テ、各殊ノ學科トナス、

國法ト國政ハ、現ニ實際上ニ於テハ、混同シテ相離ル可カラサル者ナルヲ、唯學科上ニ於テノミ、之ヲ

區分スルハ、甚タ異シム可キニ似タレド、此事已ムヲ得サルニ出ルモノニテ、其理趣ハ、下文ニ於テ明

瞭ナリ、○國法國政ハ、素々各殊ノ事ニシテ、其關涉スル所、亦相同シカラス故ニ國家治平ヲ得ル所以

ノ理ヲ精究センニハ、先ツ其學ヲ二科ニ分テ、一ハ國家存在ノ理ヲ論シ、一ハ其元氣活動ノ方ヲ論ス、

先ツ各科ニ就テ、其理ヲ精究セサレハ、全體ノ理、得テ精究ス可ラサレハ也、○學科上教ル所ノ方法、

其宜シキヲ得レハ、實際上施設ノ事、都テ其當ヲ得ルハ論ヲ須ス、故ニ國法國政ヲ分テ二科ノ學ト爲

シ、以テ各個ニ講習スルニ至リシヨリ、國法ノ條規始テ明瞭ト也、且_ツ其範圍ノ増進セシ、昔日、ニ數

倍シ、國政モ亦此混同ヲ免カレシヨリ、其範圍自ラ判然タルヲ得テ、進步亦頗ル廣大ナルニ至リタリ、

國法學ハ、單ニ今日國家ノ斯ク存在シ、且_ツ規律ノ現存シテ、之ヲ保續スル所ノ景狀、及ヒ國家ノ

元氣、活動ヲ生スル所以ノ本源ヲ論スルモノニシテ、必竟其歸ヲ要スレハ、國家現ニ存在スル所ノ

體勢ヲ講スル學アリ、國政學ハ、特ニ國家ノ元氣旺盛シテ、活動スル所以ヲ論スル者ニシテ、今日政

ヲ施ス所以ノ目的、及ヒ此目的ヲ達シ得可キ措置方法、且_ツ今日ノ景狀ニ隨テ、彼此憲法ノ當否利害

ヨリ、其他憲法ノ弊害ヲ除去改正スルノ術ハ如何スヘキ等ヲ說ク、之ヲ要スルニ、國家ノ發運活動ス

ル方ヲ講スル學ナリ、

二首

是故ニ法ト政トハ、動靜行止ノ差違アリ、之ヲ生物ニ譬フレハ、法ハ猶體軀ノ靜止スルカコトシ、政ハ、
 猶精神ノ發動スルカコトシ、
 國家ハ、道義ヲ具有スル一物ナリ、故ニ國法國政共ニ必ス道義ノ務アリ、去レテ法政二科、獨リ道義
 ノミヲ以テ論ス可カラズ、亦徒ニ此二科ヲ以テ、道義學ノ一端ト爲ス可カラズ、此二科ノ資ル所恒ニ
 國家ニ在リ、其論スル論亦恒ニ國家ニ在リ、故ニ之ヲ國家學ト云ヘシ、
 法政ノ二科ヲ以テ、全ク關係セサルモノトシ、嚴ニ之ヲ區分スルハ、甚タ不可トス、國家ハ生活物ナリ
 國家荷クモ生活セント欲セハ、其體軀タル法、精神タル政、兩ツナカラ能ク親和混同セスハ有ル可ラサ
 ルコト固ヨリ論ヲ須タズ、○其體タル法ト雖モ、終始靜止シテ、絶エテ變動ナキモノニアラス、又精神タ
 ル政モ終始變動シテ、絶エテ休止スルコト無キモノニアラス、既ニ古今憲法ノ沿革アリシハ、即チ法ニ
 變動アリシ證ナリ、又憲法ヲ制立スルハ政ナレトモ、既ニ制立シテハ、此政全ク止マレハ、即チ政ニ休
 止アルノ證ナリ、○是故ニ法制共ニ或ハ靜止アリ、或ハ變動アリテ、其偏倚セサルコト、諸生活物ノ動靜
 ナ兼備スルト、全ク相異ナラス、○以上論スル所ニ據レハ、絶テ法制ノ別無キカ如シト雖モ、之ヲ熟思
 スレハ、却テ其別ノ判然タルヲ覺フヘシ、且ツ先ツ國法沿革史ト、國制沿革史ト相殊ナル所以ヲ視ル
 ヘシ、國法沿革史トハ何ソ、國家目今ノ存在ヲ得シ所以、且ツ現ニ行ル、制度憲法ノ由テ立チシ所以、
 及ヒ其變通改革アリシ跡等ニ限リテ、其他ニ論及セズ、又國政沿革史トハ、歷世人君宰輔ノ賢愚明暗、
 及ヒ施政ノ得失當否、或ハ其得失當否ノ爲メニ、臣民上一般ニ係ル所ノ禍福利害ノ轉變等、都テ國家
 古今ノ事蹟ニ就テ論說スルヲ云フ、○國法ヲ整理シテ、之ヲ最モ確明ニナスモノハ、即チ憲法(ケセツ
 ツ) (國憲(ヘルハッスング))ト云フヘシ、又國政ニ氣力ヲ與ヘテ之ヲ著明ニナスモノハ、國家實際ノ
 統御(政令(レギリソング))ト云フヘシ、故ニ政ハ專ラ術ニ屬シテ、學ニ屬セズ、○法ハ政ノ基本
 ニシテ、政治活動ノ規律ヲ定ムルモノナリト雖モ、又孤立シテ國家ノ用ヲ濟スモノニ非ラサルヤ必
 セリ、加レテ時勢ノ變遷ニ從テ、法ニ弊害ノ生スルヲ預防シ、以テ其時勢ニ適應スル良法ヲ立ツルハ、
 政ノ力ニアラサレハ能ハズ、故ニ法ハ政ヨリ其呼吸ヲ資取スルモノト云フヘシ、政若シ此呼吸ヲ與
 フルコト能ハサレハ、法ハ恰モ死體ニ殊ナラス、○政亦然リ、政ハ時勢ノ變遷ニ隨テ、其適宜ノ治ヲ爲ス
 モノナリト雖モ、若シ法ノ以テ之カ限制ヲ爲スニ非レハ、其弊ヤ苛酷暴虐ニ陷テ、遂ニ國家ノ敗亡ヲ
 醸スル必然ナリ、

第二款 國法私法(アリハートレフト)ノ所以相殊

國法ハ、其根據チ國家ニ資ルモノニシテ、即チ公權ヲ定ムル規律ナリ、私法ハ、其基礎チ民人ニ藉ルモ
 ノニシ、民人ノ私權ヲ定ムル規律ナリ、○但シ又其素性ハ、國法ニ屬スヘキカ如クシテ、却テ私法ニ屬
 スルモノアリ、又私法ニ屬スヘキカ如クシテ、却テ國法ニ屬スルモノアリ、譬ヘハ、國家所有物(ヒス
 クス)ノ法ノ如キ、元來國法ニ屬スヘキカ如クシテ、反テ私法ニ屬スルハ何ソヤ、縱令ヒ國家ト雖モ
 土田物件等チ有スルノ理ニ於テハ、決シテ民人ノ土田物件チ有スルノ理ト殊ナラス、故ニ之ヲ國家
 ノ私有ト稱シテ、國家チ一ノ私人ト視做スナリ、又乞願ノ權利(ペナチオンス、レフト) (按、民人政府
 ニ願フ可キコトアルキハ、其事チ爲シ得ヘキ權利) 刻書自由ノ權利(プレスフライハイト) (按、政府ノ
 檢閲ヲ乞フコトナク、著書ヲ自由ニ出版シテ、世ニ公ケニ爲シ得ルノ權利) 等ノ如キ民人ノ公權ハ、素ト
 私法ニ屬ス可キカ如クシテ、却テ國法ニ屬スルハ何ソ、是等ノ權利ハ、元來民人ノ國家ニ對シテ行フ
 可キ權利ニシテ、專ラ國法ニ關スル者ナレハナリ、
 是故ニ國法ハ基礎チ國家ニ資リ、定立スル所ニシテ、素ト國家全體ノ爲メニ設ルモノナル故、民人決
 シテ毫モ恣マ、ニ取捨スル能ハサルモノナリ、○私法ハ之ニ反シテ、其基礎チ民人ノ稟性情體或ハ
 其意思ニ資リテ定立スル所ニシテ、素ト民人ノ爲メニ設ルモノナル故、民人相議シテ、雙方一致ス
 ルキハ其權利ヲ取捨變革スルコト得ヘシ、○去レテ私權中ニモ、其與廢國家ノ利害ニ關係アルモノ
 ハ、如キニ至リテハ、民人又決シテ恣マ、ニ取捨變革スル能ハサルコト、固ヨリ論ヲ須タズ、
 國法ニ於テ定ムル所ノ權利ハ、皆ニ公權利タルノミナラス、又兼テ公義務アリ、故ニ都テ其公權利チ
 有シテ、之チ行フノ權アル者ハ、亦必ス之チ行フノ公義務アリト云フヘシ、譬ヘハ、國君ハ、皆ニ其臣民
 チ統御スルノ權アルノミナラス、亦共ニ之ヲ統御スルノ義務アリ、法官ハ、皆ニ獄訟ノ事ヲ掌ルノ

三首

四首

權利アルノミナラス、亦共ニ此事ヲ掌ルノ義務アルカ如シ、但シ私法ニ於テ定ムル所ノ權利ニ至テハ然ラス、此權利ヲ行フト、否トノ如キハ、之ヲ有スル者ノ意ニ任シテ可ナリ、本來此二權利ノ規律此ノ如ク相異ナル所以ハ、殊ニ之ヲ定ムルノ意、相反スルヲ以テナリ、私權利ハ、唯民人ノ爲ニ立ル所ニシ、民人ニ屬シ、公權利ハ、國家全體ノ爲メニ立ル所ニシ、專ラ國家全體ニ屬ス、是即相異ノ因テ生スル所以ナリ、○縱令公權利ト雖、國家若シ之ヲ止メト欲セハ、能ク之ヲ廢棄スルノ權アリ、唯其各部局（按、各院各局等）或ハ其職官等ノ權ヲ以テ、之ヲ廢棄セント欲スルモ、決メ能ハサルナリ、以上説ク所ニ反シテ、常理ヲ以テ論ス可カラサル者、又許多アリ、今左ニ三例ヲ舉グ、

（第一）乞願ノ權利、或ハ公事ノ集會ニ加ハ、ル可キ權利等ハ、民人ノ公權利ナリト雖、之ヲ行フト否トニ至リテハ、其意ニ任セテ妨ケナシ、其故ハ此公權利ヲ立ルノ本意、殊ニ民人ニ自由ヲ與フルカ爲メニ設ル者ニシテ、專ラ國家全體ノ公利ノ爲メニ、建ツルニ非サルヲ以テナリ、

（第二）代議士ヲ選擇スルノ公權利ハ、其選擇者タル者、故ナシシテ、之ヲ廢棄スルヲ得サルコト、固ヨリ論無シ、去レ、其居民大概選擇ノ權利ヲ得ル所ノ國、或ハ之ニ選擇ノ權利ヲ與フルノ意、素ト專ラ國家ノ爲メニ已ムヲ得サルニ出デスシテ、殊ニ人民利益ノ爲メニスル所ノ國々ニ於テハ、民人此權利ヲ行フト否トハ、其意ニ任セテ可ナリ、但シ然ラサルキハ、通常強ヒテ此權利ヲ行ハシムルコト、當然ナリトス、

（第三）後見ノ權利ハ、私權ナレ、素ト後見人ヲ利スルカ爲メニ與フル權利ニアラス、專ラ後見ヲ受ル者ノ爲ニ、許ス權利ナル故、舊ニ後見人ノ權利タルノミナラス、亦兼テ其義務ト稱ス可キ者ニシテ、決シテ隨意ニ棄ルコト能ハサルナリ（按、上ノ二例ハ、公權ト雖、棄テ得ヘキノ例下ノ一例ハ、私權ト雖、棄ル能ハサルノ例ナリ、）

以上論スルカ如ク、公權利ハ、舊ニ權利タルノミナラス、亦兼テ公義務タリ、故ニ公權利ヲ有スル者ハ、一人ニシテ必ス權利義務ノ二事ヲ兼ヌル者ナリ、去レ、此二事ヲ兼ヌルヲ以テ、決シテ公權利ヲ私權利ニ及ハサル者ト爲スヘカラス、是ニ因テ却テ公權利ノ私權利ニ優ル所ヲ知ルヘシ、何者、公權利ノ

舊ニ權利タルノミナラス、亦兼テ公義務タル所、自ラ其中ニ道義ノ存スルモノアリテ、私有權利ノ獨リ之ヲ有スル者ノ、利トナルカ如キニ非カレハナリ、○公權利ノ品階愈高ケレハ、之ヲ行フノ公義務、亦愈之レト密合シテ、決シテ相離レズ、國君ノ權利ヲ以テ、其私有ナリトシテ、其行廢、國君ノ隨意ニアリト思フハ、大ニ國法ヲ汚辱スルモノト云フヘシ、國君ノ權利ハ、決シテ自己ノ權利ニアラス、國家ニ對シテ必然行フヘキ義務タルコト、苟モ忘ルヘカラス、

以上説ク所ヲ以テ、國法私法ノ別ヲ視ルヘシ、但シ又茲ニ一種此二法ノ中間ニ位スルカ如キモノアリ、例ヘハ、邑法及ヒ大會社法等ノ如シ、去レ、是等ノ法、實ニ此中間ニ位シテ、獨立スルモノニアラス、會社法ト總稱スル者ノ如キハ、或ハ私法ニ屬スルアリ、或ハ國法ニ屬スルアリ、又ハ此二法相混合スル者アリテ、一樣ナラス、

第三款 前款舉ル所ノ外、仍舊國法ノ關涉、

（第一）列國法（ヘルレフト、又萬國公法ト譯ス）ハ、列國相關係スル所ノ、規律ヲ定ムルモノニシ、其干涉スル所、僅ニ一國ニ止マラス、○列國ノ相關係スルハ、一國內各民ノ相關係スルト、其理同一ナルカ如シ、去レ、其際ニ行ハル、所ノ法ハ、決シテ國內ノ私法ヲ推廣シテ、直チニ列國ノ際ニ及ホシタル者ニハアラス、抑此法タルヤ、字内ノ人類ヲ一體ト視做シテ、萬國ノ全體ニ及ホス可キモノナルカ故ニ、其理ニ至テハ、舊ニ國法ノ國家全體ニ關涉スルカ如キノミナラス、更ニ大イナル公權ヲ定ムルモノト謂フヘシ、○設令字内萬國ヲ統一スル所ノ大政府アリテ、萬國ニ於テ普ク遵奉スヘキ憲法律令ヲ制定セハ、列國法ナル者ハ、乃チ變シテ字内國法（エリトスターツレフト）ト爲ルヘシ、去レ、未嘗テ此ノ如キ大政府大憲法アラス、故ニ列國法未ダ實ニ十全完備ノ地位ニ至ラサルナリ、是故ニ今世ニ在リテハ、國法ハ、既ニ十全完備ノモノト稱ス可ク、列國法ハ、未ダ十全完備セサルモノトシテ、其別ヲ立テ、以テ國法學ニ於テハ、國家ヲ一個ノ公權ト視做シテ、其法ヲ論シ、而テ列國相關係スル所ノ法ノ如キハ、姑ク之ヲ列國法ノ學ニ讓ラサルヲ得ス、

五首

(第二)之ニ次テ、國法ト相分カル、者ハ、神法キルヘンレフト、(按)神教宗徒ノ憲法ナリ)ナリ、國事ト神事ノ相分ル、其端ハ、既ニ往古ニ胚胎セシト雖也、實ニ全ク相分レシハ、甚ク晩シ、昔者羅馬國ニテモ、仍ホ神法(ユス、サクルム)ヲ以テ國法(ユス、プブリクム)ノ一部分ト爲シタリ、

基督教世ニ行ハル、ニ及ヒ、國事ト神事ト始テ相分レテ、各個ノ者ト成ルニ至レリ、抑基督ノ神教タルヤ、其基ヒテ國家ニ資ラス、自ラ相離レテ存在スルモノナルカ故ニ、其法モ亦近今國法ト全ク相分別ス、○去レテ神事ノ法、全ク國家ニ關係セサルコト能ハス、且ツ神事國事相關涉スル所ノ規律ハ、素ト其基ヒテ國家ニ資リテ定ムルカ故ニ、神法亦必ス國法ノ部屬タラサルヲ得ス、

(第三)治罪法(ストラフプロツェス)及ヒ刑法(ストラフレフト)ハ、實ニ全ク國法ニ屬シ、訴訟法(シヒールプロツェス)モ亦大概之ニ屬ス、○治罪訴訟ノ二法ハ、國家其臣民ヲ保護シテ、之レカ爲メニ其權利ノ枉害セラル、ヲ防クニ在リ、又刑法ニ至テハ、其刑ヲ施スノ本旨タルヤ、獨リ權利ノ枉害ヲ受ケタル民人ヲ保護シテ、之ヲ防ク爲メノミナラス、素ト其罪科ヲ以テ、國家全體ノ安寧ヲ害シ、秩序ヲ紊ルカ故ニ、全ク之ヲ防クニ在リ、是レ蓋シ近世刑法ノ大ニ開明進歩シタル所以ナリ、

去レテ訴訟法及ヒ刑法ハ、國法中ヨリ分派シテ、之ヲ別種獨立ノモノト爲サ、ルヲ得ス、蓋シ然ラサルヲ得サル所以ニ理アリ、其一ハ此二法素ト私法ト關係密合スルモノニシテ、殊ニ訴訟法ハ、實ニ唯私法ヲ保護シテ、私權利ノ枉害ヲ防遮スル所以ノモノ、且ツ刑法モ亦大概然ル所以ノ者ナルニ由リ、又其一ハ、此二法關涉スル所ノ範圍、頗ル廣大ナルノミナラス、其主掌スル所ノ事理、亦切要ニシテ、偏ニ特立專殊ヲ要スレハナリ、

第四款 國法汎論(アルゲマイチス、スターツレフト)及ヒ國法各論(ベソソデレス、スターツレフト)

各殊ノ國ニ就テ、其國法ヲ論スルモノヲ、國法各論ト云フ、例ヘハ羅馬民主國ノ國法論、英國ノ國法論、

イギリス

或ハ獨乙列國ノ國法論ト云フカ如シ、又各殊ノ國法ニ著意セス、唯汎ノ國家タルヘキ者ノ法ヲ論スルヲ、國法汎論ト云フ、是故ニ國法各論ハ、單ニ其國ノ制度風俗ニ基キ、國法汎論ハ、專ラ一般ノ人性

及ヒ世界ノ公理ニ基イテ論スルモノナリ、嘗テ國法ヲ汎論スル所ノ學士ヲ視ルニ、動モスレハ單ニ性理ヲ以テ國法ヲ説ク、蓋シ其意謂ヘテク、唯理是レ窮ムレハ、國法ノ學茲ニ成ルヘシト、是ニ於テ所謂探理國法論(ヒロソヒセス、スターツレフト)即チ天理國法論(ナチニールリヘス、スターツレフト)等、ノ學派起レリ、而シテ此學派現立國法論(ボシヂーヘス、スターツレフト)按)各國現ニ定立セル國法ヲ講スル派、及ヒ探理國法論(ヒス

トリセス、スターツレフト)按)專ラ古今沿革ノ蹟ヲ探討シテ、講スル派、ト相表裏ス、余ヲ以テ之ヲ觀レハ、是等諸派ノ所見ハ、皆共ニ偏倚シテ其當ヲ得ス、凡ソ國家ノ事ハ、單ニ性理ヲ以テ論スヘカラス、又單ニ古今ノ沿革事蹟ヲ以テ論スヘカラス、常ニ性理ト沿革事蹟トノ二事上ニ注目著意シ、之ニ基イテ論述スレハ甚ク可ナリ、故ニ汎論各論共ニ、決シテ此二事ノ一ヲ缺クヘカラス

字内一般ノ民彝通俗ハ、必ス各國各種ノ民性風俗ニ先スルコト、理ノ當然ナルカ如ク、國法汎論ハ、必ス國法各論ニ先スルコト、亦理ノ當然タリ、○國法汎論ノ本旨トスル所ハ、專ラ各國ニテ撰定スヘキ國法ノ根據トナルヘキ、本理ヲ查定スルニ在リ、此本理既ニ明カナレハ、時處ノ宜シキニ應シテ、千狀萬態、皆其用ヲ爲スヘシ、○汎論ニ於テ著眼スヘキ、古今ノ沿革事蹟ハ、歴々數國ノ沿革事蹟ニ止マラス、

字内萬國古今大沿革ノ事蹟ナレハ、學者タル者、能ク之ニ注意スルヤ、理ノ宜シク取用スヘキモノト、宜シク取用スヘカラス者トナリ、且ツ現ニ實際ニ用フヘキ器材ノ、自ラ此事蹟中ニ充滿スルヲ領解シ得可シ、然ルニ單ニ性理ヲ論スルノ徒ハ、決シテ之レヲ領解スルコト能ハス、○古今萬國ノ事蹟ニ著眼注意シテ、之ヲ探討スルヤ、凡ソ開闢渾沌ノ大古ヨリ漸ク、變遷沿革シテ以テ今日ノ文明開化ヲ致セシ所以、及ヒ其際ニ當リ、時論屢變化シ、國體制度亦屢變革セシ所以ヲ通知シ、且ツ各國列邦、今日ノ開明ヲ裨補セシト、否トナ知ルコト、甚ク難キニアラス、

法レハ吾輩國家學ヲ論究スルノ本旨タルヤ、專ラ古今萬國ノ變遷沿革ヲ示サントニハアラス、唯汎

今時ニ適應スル所ノ國法ヲ論究スルニ在リ、故ニ古今歷世ノ國體法制ヲ論究スルハ、唯專ラ今日ノ參考ニ備ヘ、以テ古今ノ沿革ヲ視テ、目今ノ進歩ヲ示サント欲スルニ在ルノミ。○古時隆盛ノ諸大國大イニ今日ノ開化文明ヲ促シ、以テ國法ノ沿革進歩ヲ裨ケシモノ、少カラス、且ツ其中ニ就テ、自ラ淺深ノ差等アリ、例ヘハ往古アリヤ人種(又インド、セルマーチント稱ス、(按)高架索人種ノ一ニシテ、今ノ亞細亞土其、或ハ亞刺比亞邊ニ住セシ者ナリ)ノ古今變遷沿革、專ラ神教進歩ノ裨益トナリシカコトシ、サレハアリヤ人種ノ實ニ太古ノ野鄙陋劣ナル國體ヲ一洗シ、漸ク文明優隆ノ國體ト爲セシハ、此人種始テ歐羅巴ニ蔓衍セシ、以後ノコナリ。○此人種中ニ就テ太古ニ在テハ希臘羅馬ノ二國、中古(按)紀元四百七十六年ヨリ、千四百九十二年ニ至ルヲ云、即我 雄略天皇二十年ヨリ明應元年ニ至ル、其間千零十六年)ニ在テハ日耳曼國(獨ノ國ノ稱名、但シ英語ニテハ今仍獨乙國ヲ日耳曼ト云)ノ文明彬々タル、殊ニ他邦ニ卓絶シタリ、故ニ今時歐洲各國文明優隆ノ國體ヲ備ヘシハ、全ク此三國ノ開明ヲ集成セシモノト云フヘシ、就中英國ノ如キハ、庶民ニ至ル迄、此三國ノ開明ヲ得テ、知識益々闢ケ、大イニ國事ノ進歩ヲ裨補シ、之ニ次テ佛國亦頗ル文明ヲ極メテ、國事ノ進歩ヲ増セシ、甚少カラス。○亞米利加洲國事ノ開明ハ、基イテ歐洲ニ資ルト雖モ、殊ニ北亞米利加ノ如キハ、亦能ク自ラ進歩セシ者ト云フヘシ。

是故ニ吾輩論究スル所ノ國法汎論ノ學ハ、元來今時文明世界ノ通論公理ヲ示シ、以テ時處ノ宜キニ隨テ、千狀萬態、能ク其用ヲ爲スヘキ基本ヲ開ク者ナレハ、徒ニ紙上ノ空談ト視做スヘカラス、現ニ今日ノ實際止ニ施シテ、其効ヲ奏スルコト、頗ル少シトモ、唯各國民性習俗ノ各、異ナルカ爲メニ、其奏効ノ形狀、亦自ラ差異アルノミ。

附論)亞立斯度德爾(按)希臘ノ碩學、紀元前三百八十四年ニ生レ、三百廿二年ニ死ス。カ其著書中ニ、^{アリフトテレス}通法各法ノ別ヲ立テタリト雖、吾輩論スル所ノ國法汎論國法各論トハ、全ク其歸ヲ異ニセリ、其通法ト稱スル者ハ、絶エテ國家ニ著意セズ、唯天理自然ニ生スル所ノ公法ヲ云ヒ、又各法ト稱スルモノハ、法書ニ記錄スルト、セザルトニ論ナク、各國其宜キニ隨テ、制立スル所ノ國法ヲ云フ。

第五款 國法ノ淵源(クエルレン、デス、スタイツレフツ)

甲 憲法(ゲス、ゲセツ)

國法ヲ認知シ易カラシメンカ爲メニ、詳明ニ記載シテ、之ニ至壯至大ノ形狀ヲ與ヘシ者ヲ稱シテ、憲法ト云フ、是故ニ國法ナル者ハ、其形狀ヲ得テ、憲法トナルニ及ヒ、始テ確乎著明ナルヲ得ルナリ。○國家ハ憲法アリテ、始メテ其全體ノ規制定ルヲ得、以テ能ク其權利ヲ保存スルヲ得ルナリ、故ニ能ク其權利ヲ確明ニスルモノハ、獨リ憲法ノミ。

是故ニ眞ノ憲法タル者ハ、必ス國家ノ外、能ク之ヲ示令スル者アルナシ、但シ又其部局等各、自局ノ爲メニ制立シ、自己ノ權ヲ以テ、示令スル規律ノ如キモ、亦同シク憲法ト稱スルヲ得可シ、例ヘハ王室ノ戚族憲法(ハミリーングセツ、デル、ギナスナー)或ハ一家憲法(ハウスゲセツ、デル、ギナスナー)及ヒ各府各邑ノ法度(スタット、規則(オルド、メン、グ)等ノ如シ、○又國家ヨリ示ス所ノ布令(ヘル、オルト、メン、グ)ノ如キモ、是等諸法ト、其等位ヲ異ニセス、○

○按)國家出ス處ノ布令ナレハ、是等諸法ノ上ニ立ツヘキカ如シト雖、必竟此布令ナル者ハ、政府立法府ト議シテ、制定スル者ニアラス、政府國憲許ス所ノ範圍中ニ於テ、自ラ制定スル所ノモノナレハナリ。

國家其國法ヲ制定スルノ權ヲ以テ、私法ヲ制定スルノ權ト、全ク同視スヘカラス、國家其國法ヲ制定スルハ、即チ自己分上ノ事ヲナスモノニ、其處分ノ自在ナル、私法ヲ制定スルト自ラ異ナリ、蓋シ國家ノ私法ヲ制定スルハ、自己ノ事ヲナスニ非ス、私人ノ爲メニ施設スル者也、私人ノ交際ニ至リテハ、事端滙際ナシ、而シテ每事必スシモ國家ノ管スル所ニアラス、是故ニ其規律ヲ定ムルモ、亦全ク自

在ナルヲ得サル也。○私人ハ元來國家ノ力ヲ借リテ、始メテ私人トナルニ非ス。私人ハ、素ヨリ私人ナリ。故ニ其權利ニ至テモ、亦國家ノ力ヲ借リテ、始メテ立ツニ非ラス。本來固有スル所ノ權利ナリ。唯此固有スル所ノ權利、國家ノ力ヲ借リテ始メテ全備スルヲ得、且其保護ニヨリテ、確固ナルヲ得シノミ。故ニ私法上、國家ノ殊ニ務ムヘキハ、民人天然有スル所ノ權利、及ヒ時世ノ沿革ニヨリテ、得シ所ノ權利ヲ辨識シテ、之ヲ調理スルニアリテ、決シテ恣ニ之ヲ制定スルニ在ラス。○此理ニ戻ルカ、爲ニ生スル所ノ利害ハ、末篇ニ於テ詳論スヘシ

第六款 同上

乙 國約(スタートリヘル、ヘルタラグ)

現ニ行ハル、所ノ國法ヲ、互相約束ヲ以テ認識シ、或ハ編成シ、又ハ改革スル等ノ事、屢々之アリ、之ヲ稱ノ國約ト云フ。○列國、此約束ヲ舉行スルハ、眞ノ國約ト稱スヘクシテ、即列國法ノ一種ヲ生ス。又一國內ニ於テモ、國事ニ預ルヘキ權利ヲ有スル所ノ各黨、互ヒニ此ノ如キ約束ヲ爲スコトアリ。例ヘハ羅馬ノバトリシール(按古時羅馬ノ貴族)ト、プレベス(按同上ノ平民)ト相結ヒシ約束、或ハ又

中古ニ在リテハ、國君其下諸等ノ臣民ト、互ニ爲セシ約束ノ如シ。

國約ノ憲法ト相類似スル所以ハ、其條規ノ制ニ至テモ、亦憲法條規ノ如ク、之ヲ明記シ、且、必ス全權者アリテ、之ヲ示令スルニ在リ、但シ又憲法ト大ニ相異ナル所アリ、元來憲法ヲ制定スルハ、國家ノ各部局、眞ニ同心一體トナリテ、之ヲ爲スト雖モ、國約ニ至リテハ、然ラス。凡ソ國事ニ預ル所ノ各部局皆均シク獨立ノ全權アリテ、各其言ハント欲スル所ヲ闡述シ、然後ニ其論ヲ合シテ之ヲ一決ス。○是故ニ憲法ノ體裁ト、國約ノ體裁ヲ比較シテ、國家ノ爲メニ其可否ヲ考ルキハ、憲法體裁ノ大ニ、國家ニ益アルコト明カナリ。何者、既ニ論スルカ如ク、憲法ノ體裁タル、必ス國家全ク一體トナリテ、其欲スル所ヲ述ルモノニシテ、各部局相離離スル所ナケレハナリ。○唯列國相約シテ立ツル所ノ規律ニ至リテハ、素、共ニ合立スル所ノ立法府ナキヲ以テ、必ス國約ノ體裁ヲ用ヒサルヲ得サルナリ。

英國ニ於テ、國王ト、上院下院相共ニ協力同心シテ、憲法ヲ制定スルカ如ク、眞ニ公正ノ國憲アリテ、憲法制定ノ一、決シテ一君或ハ一議局等ノ意ニ出テス、必ス立法諸部局ノ協力同心ニ由ル所ノ各國ニ於テハ、絶テ國約ノ意アルコトナシ。然ルニ動モスルハ、協力同心ヲ誤認シテ、合論一決ト混スル者アリ、別ヲ知ラスト云フヘシ。○巴力門(按一ニ立法府、或ハ議事院ト云フ)定制スル所ノ憲法ノ如キハ、國事ニ預ルヘキ獨立全權ノ諸黨、互ニ其欲スル所ヲ述ヘテ、之ヲ決定スル所ノ國約ト、相距ル霄壤ナリ。抑、巴力門ノ各部ハ、決シテ獨立シテ制法ノ權ヲ有スル者ニアラス。君主兩院相合シ、協力同心共ニ一體トナリテ、始メテ此權ヲ得ル者ナリ。故ニ憲法ナル者ハ、絶ヘテ一體ノ意ヲ離ル、コトナシ。○是故ニ國內ニ於テ、國法ヲ立ルニ就テ、國約ノ體裁ヲ用フ可ラサル所以ハ、殊ニ此體裁、國家ノ勢力ヲ分離シテ、其一體タルヲ損シ、國家全體ノ法ヲ舉テ、其各部ノ欲スル所ニ任スニ在リ、之ヲ要スルニ、各部ヲ先キニシ、全體ヲ後ニシテ、大ニ前後輕重ノ權ヲ誤ルニ在リ。○古時日耳曼各國ノ國法タル、大體國約ノ體裁ヲ用ヒテ、國家ノ一體タル所以ヲ失ヒ、是ニ由テ大ニ國家ノ活動力ヲ減損シ、且ツ國家全體ノ公利公安ヲ害セシ。亦少カラサリシカ、國家ノ開明漸ク増進スルニ隨テ、次第ニ國約ノ體裁ヲ廢シテ、憲法ノ體裁ヲ用ヒ、或ハ全ク廢棄スル能ハサルモ、大ニ之ヲ變革シテ、殆ント憲法ノ體裁ニ類似スル者トナセシ事ハ、其史ニ載テ瞭然ナリ。

○按此條ノ意解シ難キニ似タリト雖モ、先ツ國約ヲ立ルノ專志ト、憲法ヲ立ルノ專志ト、其異ナル所以ヲ知レハ、隨テ憲法國約ノ異ナル所以モ亦自ラ明亮ナリ。蓋シ國約ヲ立ルニ於テハ、各部局必ス先ツ自局ノ利害ヲ謀リテ、而後ニ全局ノ利害ニ及ホスト雖モ、憲法ヲ立ルニ至リテハ、論謀常ニ全局ノ利害ヲ主トシテ、敢テ專ラ各部局ノ利害ヲ顧ルコトナシ。是レ即チ合論一決ト、協力同心ノ別アル所以ナリ。

〔附論〕國約ハ、永世不變ノ者ナリト論スル者アリ、甚ク誤ルト謂フヘシ。凡ソ人世ノ事、古今時代ノ轉變アルハ、論ヲ俟タスシテ、人ノ能ク知ル所ナリ。國家ノ事ト雖モ、亦決シテ此理ヲ免ル、コト能

ハス、古來未ダ嘗テ不變不壞ノ國約アラサリシヲ、猶不變不壞ノ憲法アラサリシカ如シ、法律若シ
眞ニ天理ノ當然ノミニ出レハ、全ク不變不壞ノ者タルヘケレハ、素ト古今萬國、轉遷變化スル所ノ
人事ヲ定斷スル規律ナレハ、亦宜シク時ニ隨テ、轉遷變化スヘキヲ、固ヨリ論ナクシテ、即是ノ天理
ノ當然ナリ、唯憲法ノ體裁ヲ用フルト、國約ノ體裁ヲ用フルトノ差ヒニ由テ、此理ノ異ナルヲ、絶テ
アラサルナリ、

第七款 同上

丙 慣用(ヘルコムメン、又ゲチーンノハイト)

正シク憲法ニ明記スル者ノ外、尙官民共ニ、諸公事ニ於テ、其心中、事理當然トシテ、現ニ安シ行フ所
ノ法少カラス、此法タルヤ、元來民心ノ默許ヲ經ル既ニ久シク、遂ニ慣用ノ法トナリテ、公然之ヲ行フ
ニ至リシヨリ、全ク當然ノ法タルヲ得テ、乃チナチオナーレス、レフト
ヲ論ス、宜シク參看スヘシ、

羅馬ノ國法中、殊ニ緊要トスヘキ條規ハ、大概憲法或ハ國約ヲ以テ、確定明記セシ者ニアラス、從來
其國民ノ間、理ノ當然ナル所ニ適應スル良好ノ習慣ヨリ出テ、自ラ法トナリタルモノ多シ且ツ中
古各國ノ國法ニ至リテモ、又大抵慣用ニ出ルモノ多シ、現今英國ノ國法モ、亦憲法上ニ確定明記セス
シテ、唯慣用ヨリ自ラ法トナリシモノ居多ナリ、其他各國共ニ、多少ノ慣用法アラサルハナシ、

故ニ慣用法ハ、眞ニ國法ノ一源淵ニシテ、決シテ輕忽ニ考フヘカラサルハ、固ヨリ論ナシ、但シ此法ヲ
以テ、憲法ニ比較シテ、其得失如何ヲ考フルハ、憲法ノ確實明亮ナルニハ如カス、蓋シ慣用法ハ、預
メ理非得失ヲ論シテ、定メタル者ニアラスシテ、唯自然ニ出ル者多シト雖モ、憲法ハ然ラス、必ス理ノ
當然ニ由テ、論定セシ者ナレハナリ、去レモ又慣用法ノ憲法ニ優ル所ナキニアラス、慣用法ハ、素ト勢
ノ自然ニ出ルカ故ニ、勢轉變スレハ、法モ亦隨テ轉變シテ、自ラ時ノ宜シキニ適應スルヲ、憲法ヲ改革
シテ、時宜ニ適セシムルノ難キカ如クナラス、

所謂勢ナルモノハ、自然實際上ニ生スルモノニシテ、且ツ人性賦稟スル所秉辨ノ心、亦隨テ之ヲ認許
スル者ナリ、故ニ民心ニ於テモ遂ニ默許シテ、之ヲ法トスルナリ、

法ナル者ハ、元來他方ヨリ來ル者ニアラス、又他方ニ移スヘキ者ニモアラス、唯現存スル所ノ景況、及
ヒ方向、即チ是ナリ、故ニ國家現存ノ景況、及ヒ方向、即チ是レ國法ナリ、

第八款 同上

丁 論究(ヂー、キッセンシヤフト)

國法論究ノ本旨タルヤ、專ラ新法ヲ生殖スルニ在ラス、唯專ラ現存ノ法ヲ辨知スルニ在リ、是故ニ、論
究ハ實ニ法ノ淵源ト稱スルニ足ラス、通常唯法ノ淵源ヲ探討スルノミ、
去レモ論究ナル者、唯法ノ淵源ヲ探討スルノミニ止マラス、時アリテ亦之ヲ産殖スルヲアリ、故ニ亦
法ノ淵源トナルヲアリ、而シテ其淵源タルニ二様アリ、

其一 論究ハ以上三淵源(按憲法、國約及ヒ慣用法ノ三ツヲ云)ノ如ク、唯法トナルヘキ器材ヲ、
湊合スルノミニアラス、亦此器材ヲ精練シテ、之ニ其善美ヲ與ヘ以テ大ニ現存ノ法ヲ増大スルヲ儘
コレアリ、譬ヘハ、立法者、法ヲ制立スル始ニ方リ、或ハ之ヨリ他日將サニ全法上ニ關係スル、利害得
失ノ生セントスルヲ、窮盡スル能ハサルコトアレモ、却テ論究者ハ、其論究ニ由テ之ヲ探求スルヲ、多次
之アルカ如シ、○其他又慣用法ヲ論究シテ、其理ヲ明亮ニナシ、且ツ之ニ由テ、遂ニ慣用法ヲ確定明記
シテ、憲法トナスノ基ヲ開クコトアリ、是レ皆論究ノ功ナリ

其二 第二ハ、更ニ緊要ナル者ニシテ、即チ法理ノ論究ナリ、法理ノ論究ナル者ハ、敢テ現存ノ法ヲ講ス
ルニアラス、故ニ直ニ現存ノ法ニ關係スルコトナク、專ラ理ノ當サニ然ルヘキト、否トニ就テ講論研究
スルヲ云フ、○此ノ如キ法理、次第ニ民心ニ浸漸シ、自ラ其認許ヲ得遂ニ國家ノ採用ヲ以テ、其保護
ヲ受ルニ至ラサレハ、未ダ嘗テ眞法トナルコト能ハス、○憲法ノ制立ニヨラス、唯此ノ如キ法理ノ論究
ニヨリテ、現存ノ國法ヲ増大セシメ、多次コレアリキ、是レ即チ論究ナル者、國法ノ一淵源トナリテ、他

三淵源ト並列スルヲ得ル所以ナリ、
 讀者論究ノ字ヲ誤解シテ、單ニ讒學ノト爲スヘカラス又書籍上ノ研究ノミト爲スヘカラス、凡當
 路者、今日國家政治上ノ論議ニ方リテ、其說ヲ演述ノ之ヲ示シ、以テ衆心ヲシテ之ニ敬服セシメ、將軍
 ノ戰場ニ於テ、日々兵士ト共ニ遵守スヘキ規律ヲ示シ、以テ兵卒ノ疑ヲ解テ、其一定ノ方向ヲ與ヘ法
 官ノ獄訟ヲ掌リ、能ク理非曲直ヲ明カシ、其事ヲ裁決シ、以テ衆人ヲシテ惑フ所ナカラシメ、又新聞
 著者ノ己カ論說ヲ陳述シテ、遂ニ能ク輿論ノ方向ヲ一ニシ、且ツ未ダ曾テ衆人ノ辨知スル能ハサル
 理義ヲ明晰ニシ、遂ニ國家ヲシテ、其理義ヲ採リテ、以テ國法ノ條規ヲ改増セシムル等、其他此ノ如キ
 ノ類、皆能ク其論究ヲ以テ、現存ノ國法ヲ、増大スト云フヘシ。○但シ此ノ如キ論究ヲ以テ、眞ニ國法
 増大ノ裨益ヲナスハ、殊ニ當路者ニ在リトス、古今王侯輔弼、賢明ノ譽ヲ得ル所以ノモノハ、決シテ
 威權ヲ擴張シ、或ハ憲法ヲ制立シテ、國法ヲ増大セシ功業ニ因ルナリ。
 能ク臣民ヲ甘服セシメ、以テ其國法ヲ増大スルノ功業ニ因ルナリ。
 論究ニヨリテ起立スル所ノ法ハ、能ク慣用法ニ類似スル所アリ、即チ論究法ノ條規ハ、彼ノ憲法、或ハ
 國約ノ條規ノ如ク明記シテ、實ニ政府ヨリ示令セシ者ニアラス、唯全ク輿論ノ認許ニヨリテ、始メ
 テ、能ク行ハル、者ニシテ、猶慣用法ノ明記スルコトナク、唯一般ノ慣用ニ由テ行ハル、カ如シ、故ニ論
 究法ハ、眞ニ確定スルモノニ非スシテ、自ラ轉變變化ヲ免ル、能ハス、去レテ又時勢ニ隨テ、活用ス
 ルノ大利アリ。○但シ又其慣用法ト相異ナル所以アリ、即チ慣用法ノ起立ハ、專ラ從來ノ習慣ヨリ出
 テ、一般ノ民情、識ヲス知ラス、之ヲ法トナスニアリト雖、論究法ニ至テハ、專ラ一般ノ知識開進ス
 ルニ隨テ、其理義ノ協否ヲ辨別シテ、然後ニ始メテ認許スルヨリ起立スルモノナリ、故ニ論究法ノ慣
 用法ト相異ナル所以ハ、宛々モ慣用法ト、憲法ト相異ナルノ理ニ同シ。
 所謂性法、ナツトル、即チ良知法、ヘルムンフトレフト、(按)現ニ定立セル法ニハアラス、自然ノ可否得
 失ニ就テハ、古來議論紛然トシ、一定セサレ、以上ノ論ニ由テ之ヲ考フルルハ、其理自ラ明瞭ナルベ

シ、此法タル、譬ヘハ普拉士、(按)希臘有名ノ學者ニシテ、紀元前四百
 エフテル、(按)普拉士現ニ定立セル法ニ關セテ、專ラ天理ニ因テ自ラ民
 ニ在テ、未タ一般ノ識得ニヨリテ、國家ノ法トナラサル間ハ、決シテ眞法トナスニ足ラス、
 元來天賦ノ人性ニ出ル法論ハ、基キテ天理ニ資ルカ故ニ、都テ今日ニ施シテ、大ニ宜シキ所以ヲ説ク
 者アレ、未タ此理ヲ以テ、實ニ法タルニ足ルト、爲スヘカラス、都テ論究ノミニ由テ、法ノ生スル者
 ニハアラサルナリ。○性法學ニ於テ論究スル所ノ法、一般ノ識得ニ由テ、遂ニ認許ヲ得ルニ至レハ、始
 メテ眞法タルヲ得可シ、故ニ始メテ法ヲ産出スル者ハ、論究ニシテ、嗣後能ク之ニ莫實ヲ與フルモノ
 ハ、一般ノ識得ナリト云フヘシ。

既ニ羅馬ノ私法ノ如キモ、過半ハ論究ヨリ生セシ者ニシ、一ニ緊要ノ規律スラ、尙性法ヨリ取りテ設
 ケタル者ナリ、譬ヘハ過誤罪(ハートルラッシグカイト、羅何語ニテクルバト云)ノ法ノ如キハ、素ト人
 ノ通性ヲ論究ノ、之ニ基キ、設立セシ者ナリ。○凡人ノ識得、道ニ於テ緊要ナル事ヲ認メテ、法ニ於テ
 モ亦緊要トナシ、國家亦此識得ニヨリテ、生シタル法ヲ取りテ、之ヲ國法トナスニ至レハ、道ト法ト相
 離レサルカ故ニ、眞ニ貴重スヘキ國法、始メテ立ツト云フヘシ、是ヲ以テ實ニ治平ノ道ニ長シタル當
 路者ハ、勢ニヨリテ、障礙セラル、有ラサレハ、必ス勉メテ性法ニ基キ、其國法ヲ立ルヲ本旨トナス
 (附論第一)性法ノ一ニ就テ、バウルス、(按)紀元十年ノ頃ニ、小亞細亞シリシオンニ
 一、天神ハイデ、(按)未ダ眞神ヲ知ラサル、國民ノ義ニシテ、ノ精神ニモ、尙必法ヲ銘ス、故ニ其知識
 二、因リテ、自ラ之ヲ悟リ得ルナリト、○メラシト、(按)獨乙人、一千四百九十七年
 中ニ、現立法ハ、性法ヲ精密ニ確定スルモノナリ、故ニ天性國法、(按)即性法中ニ國法、私法等ノ別
 アリ、天性國法トハ、即チ精密ニ確定スルモノハ、即チ憲法、國約、慣用法、及論究法ナリト、説ケリ

性法中ノ國法ナリ、
 ナチニールリヘス、スターツレフト

〔同上第二〕始テ法ノ生産セシ時ヲ索メ、且ツ其生産ヲ助ケシ諸原因ヲ探討スルハ、儘能クシ難キ
ヲアリテ、總テ天造物ノ始メテ、生産セシ時ヲ測ルニ異ナラス、去レテ此法實ニ國家ノ認許ヲ得、始
メテ眞法トナリテ、明瞭確實ナルニ及ヒテハ、之ヲ知ルコト難キニアラス。

第九款

國法及ヒ國家假法、スタートリヘル、ベシツ。

私法ニ於テ所有(アイゲンツーム)ト假所有(ベシツ)ノ別アルカ如ク、國法ニ於テモ亦、眞ノ國法
ト國家假法トノ別アリ、何チカ假法ト云、即未ダ法ノ名ヲ得ス、唯勢ニ因テ自カラ國家今日ノ實際上
ニ生スル規律アリ、之ヲ名ケテ假法ト云ヒ、以テ眞ノ國法ト分ツナリ、
假法モ亦國法學ニ於テ敬重スヘキ者ナリ、然ル所以ニ二理アリ、第一ニハ、假法ハ現ニ實際上ニ生ス
ルガ故ニ、必ス能ク之ヲ保護シテ、其妨害ヲ預防セサル可ラス、第二ニハ、假法ハ自ラ一眞法ノ萌芽ニ
シテ、國法期年(按)下文ニ詳ナリ)ヲ經レハ、遂ニ眞法トナル者ナレハナリ、○假法ノ國法ニ於ケル
ヤ、假所有ノ私法ニ於ルヨリモ、其關係スル所更ニ大ナリ、何者、假法ノ途ニ轉シテ眞法トナルハ、假
所有ノ途ニ轉シ、眞所有トナルヨリモ、猶密勿ク、且ツ其眞法トナルノ氣勢モ、亦駭々トシテ更ニ大イナ
レハナリ、○若シ私法ヲ犯シ、妄ニ人ノ所有ヲ妨害スル者アルニ方リテハ、國家ノ法院能ク妨害セラ
ル、者ヲ保護スルヲ以テ、其害ヲ防止スル難ラスト雖モ、若シ國法許サ、ル所ノ處置ヲ以テ、公權ヲ
犯ス者アルハ、國家ノ威力ト雖モ、或ハ容易ク之ヲ防制スル能ハサルコトアリ、斯難易ノ差異アルカ
爲メニ假所有ノ眞所有ニ轉スルト、假法ノ眞法ニ轉スルトノ、難易遲速モ亦自ラ差異ナキ能ハス、去レ
テ此難易遲速ノ差異、決シテ唯此ノ如キ勢ニノミ由ルニアラス、殊ニ國法私法ノ本性、自ラ相異ナル
ニ由ルナリ、
玆ニ人アリ、自ラ許シ、此即チ法ナリトシテ之ヲ行フト雖モ、他人敢テ之ヲ認許セサルハ、理ノ當然
ニシテ、實ニ私法ニ於テ然ルノミナラス、國法ニ於ケルモ亦然リ、故ニ假法ノ轉シテ眞法トナルニハ、
其事必ス先リ理義ノ二源ニ基カサルヘカラス、○今其本性ノ相異ナル所以ヲ論センニ、曾テ我ニ屬セ

ナル物ヲ取リテ、之ヲ我有ト爲サントスルニ方リテ、此物本來所有主ナケレハ論ナシ、若シ他人曾テ
此物ヲ有スルハ、即チ我レト同等ナル人ノ權利ヲ犯スノ利アリ、然ルニ假法ノ轉シテ眞法トナルハ、
之ニ異ナリ、抑國家ノ事體タル時ノ流行ニ隨テ、漸ク轉變ヲ生シ、此勢中假法自ラ生シ、國家ノ一體内
ニ於テ、現ニ今日ノ實際上ニ行ハル、カ故ニ、之ヲ防避セント欲スル者自ラ少ク、遂ニ國家自ラ之ヲ
認許シテ、以テ法トナスニ至ル、是即チ假法假所有ノ轉シテ、眞法眞所有トナルニ、難易遲速ノ差異
アル所以ナリ、○

〔按〕此章ハ、假法假所有ノ轉シテ、眞法眞所有トナルニ、難易遲速ノ差異アルハ、唯勢ノ然ラシ
ムルノミニアラス、亦專ラ國法私法ノ本性相異ナルニ因ル所以ヲ論スル者ニシテ、頗ル解シ難
キニ似タリ、去レテ熟讀玩味シテ、其本性ノ異ナル所以ヲ極メレハ、亦解シ難キニ非ス、畢竟私法ハ、
民人相對スル所ノ法ナレトモ、國法ハ、全ク國法一體内ノ法ナルカ故ニ、此二法ノ本性相異ナレリ
ト云フナリ、

右論スル所ヲ以テ、左ニ舉ル所ノ二派ノ僻論ト參考スルルハ、上ニ論スル所更ニ明瞭ヲ得、兼テ其中
正ヲ得ル所以ヲモ知ルニ足ル、

〔第一派〕成功事業ノ學派(テオリイ、デル、ソーゲナンテン、ハイツアッコムブリス)ナル者アリ、此學
派ハ特ニ實際ノ轉變變化ニ因ルヲ本旨トスル者ニシテ、總テ事業上ニ顯ハル、權力ヲ以テ、法ノ出
ル所ト爲ス、故ニ現ニ權力ニ因テ成功シタル事業ハ、即チ直ニ法トナシテ、此他決シテ法ト稱スヘキ
者アラストシ、又現ニ權力足ラスシテ、成功スルコト能ハサリシ事業ハ、即チ直ニ不法ト爲シテ、此外決
シテ不法ト稱スヘキ者アラストス、是故ニ覆法ノ事業モ、遂ニ其効ヲ奏スレハ直ニ取リテ當埋ノ事
トナシ、若シ其効ヲ奏スル能ハサレハ、直ニ斥シテ非理ノ事トナス、總テ此ノ如ク、唯今日事業ノ成敗
ノミチ以テ、理非善惡ヲ定メ、以テ法不法ノ因テ起ル根源トナス、斯法トナシ、或ハ不法トナシ、取捨
スル所、專ラ今日ノ形勢時態ニ因ルカ故ニ、形勢時態忽チ轉變スレハ、其取捨亦之ニ應シテ變化スル

モノニシテ、絶て道ノ正邪、理ノ當否ニ依リテ、法ヲ論スルコトナシ。

此學派、佛國顛覆(按)一千七百八十九年ニ顛覆起リ、王室倒レテ民主政體トナリタリ)以來、歐羅巴大地(按)英國ヲ除キ、全歐ノ陸地ヲ云)ニ於テ、再三實際ニ用ヒラレ、嘗テ此論ニ反セシ徒スヲ、遂ニ之ヲ信用シ、普ク國法ノ理ヲ誤ルニ至リシハ、眞ニ歐洲ノ不幸ト云フヘシ。

○按佛國ノ顛覆歐洲各國ニ波及シ、一千七百年ノ末ヨリ、八百年ノ初ニ至リ、各國民人肆マ、

ニ王室ヲ倒シ、以テ民主政體ヲ立ント企テシヲ云フ、全ク此災害ヲ免レシハ、獨リ英國ノミ、此學派者流時勢ノ變化ニ因テ、法モ亦變化スル所以ヲ論スルハ、大ニ見ルヘシト雖モ、絶て理義ニ著眼シテ、法ノ善惡可否ヲ論スルコトナク、唯今日事業ノ成敗ノミヲ以テ、法ヲ論スルハ、甚ダ僻論ニシテ、其害最モ甚カラス、假法ノ轉シテ眞法トナルヤ、國家民人之ヲ當然ノ事トシ、認許スルニ因ルノミ、但シ國家民人實ニ之ヲ認許セシト否トハ、儘定斷シ難キコトナキニアラス、サレドモ之ヲ認許スルノ機會、全ク無シト云フハ、甚ク不可ナリ、即左ニ舉ル所ノ數條ハ、此機會ノ至ルト否ノ分界ニシテ、又之ニ由リテ國法期年ノ至ルト否トナ知リ得ヘシ。

〔甲〕國內ニ於テ、二黨(按)一ハ、新黨ニシテ舊政府ヲ倒シ、舊法制ヲ毀テ、以テ國家ヲ一新セントスル者ナリ、一ハ、舊黨ニシテ新黨ヲ抗拒シテ以テ舊政府ヲ保テ、舊法制ヲ護ラントスル者ナリ、間、變化ノ爲ニ起リタル、爭鬪未タ止マヌシテ、國家民人未タ嘗テ一般ニ新黨ヲ認許スルニ至ラサレハ、變化一新ヲ遂ケント欲スル所ノ黨與(按)即新黨ナリ)ノ勢力、縱令ヒ大ニ舊黨ニ超フトイヘドモ、未ク國家民人之ヲ認許セシ機會ト云フヘカラス、故ニ國法期年モ、亦未タ至ルト云フヘカラス。

〔乙〕新黨遂ニ舊黨ヲ壓倒シテ、一時全勝ヲ獲タリトイフモ、勢未タ全ク一新セス、民心亦全ク服從セズ、動モスレハ舊黨再ヒ起ラントスル機アルハ、假法未タ全ク眞法トナリタリト云フ可カラス、(按)新黨ノ法制、未ダ實ニ眞ノ法制ト稱スルニ足ラサルヲ云。

〔丙〕國家ノ法制秩序ヲ保護ス可キ權利義務ヲ執ル所ノ國家職官等、新法制、新秩序ヲ默許、或ハ明許セサレハ、眞ニ假法ノ轉シテ眞法トナリシト云フヘカラス、但シ國家ノ權柄ヲ握レル諸府(按)立法府、司法府等、又ハ國民之ヲ默許、若クハ明許スルハ、更ニ要ナリトス。

〔丁〕各國政府ハ、互ニ各國ノ和親平安ヲ保護スヘキ者ナルカ故ニ、外國政府、亦之ヲ認許スルヲ要ス、○右ノ諸件悉ク備リテ、一モ遺ス所ナケレハ、是ニ於テ假法始テ實ニ眞法トナレリト云フヘシ、初、假法ノ所業ト目セシモノモ、遂ニ轉シテ當理ノ事トナルヘシ。

〔第二派〕守法ノ學派(レギチミスナセ、テオリ)ナル者アリ、此學派ハ、殊ニ法ノ理義ニ出ルヲ貴ヒ、恒ニ之ヲ變革セサルヲ以テ本旨トナス、故ニ唯今日事業ノ成敗ニ因テ、法ヲ論スル所ノ成功事業派ト全ク相表裏ス、是ヲ以テ此學派ハ、大ニ取ルヘキ所アルカ如シト雖モ、亦甚ダ偏倚スル所アルヲ以テ遂ニ取ル可カラサルニ歸ス。

素、守法(シギチミテ)ト云ヘル語ハ、法制ヲ遵守スルノ義ナレハ、此學派者流、實ニ今日ノ形勢事情ニ適應スル法ヲ守ルヲ以テ本旨トスレハ、眞ニ是レノ間然スヘキ所無シト雖モ、其本旨トスル所、反テ此ノ如クナラス、更ニ時勢ノ變遷轉化ニ著眼スルコトナク、徒ニ舊法古制ニ拘泥スルカ故ニ、實ニ今日ノ形勢事情ニ適應セサル、死法ヲ墨守スルモノニシテ、眞ニ有名無實ト云フヘキノミ、是レ即此學派ノ大ニ偏倚スル所ニシテ、敢テ取ル可カラサル所以ナリ故ニ此學派ハ、元來法ノ理義ニ出ルヲ、以テ本旨トスレド、其守ル所ハ却テ理義ニ出テズ、猶死體ヲ抱テ以テ生力盛ナル人ト爲ルカ如シ、其陋愚モ亦甚シト云ヘシ、○總テ此學派ヲ唱フル徒ハ、絶て今日時勢ノ轉遷變化、及ヒ人知ノ開明進歩スル所以ノ理ヲ知ラサルカ故ニ、常ニ舊法古制ノ區域ヲ出ルコト能ハス、然ルニ古今萬國ノ沿革ヲ歴視スルニ、時勢ハ實ニ此徒ノ見ルカ如クナラスシテ、流行變遷日々止ルナシ、基督ノ語ニ之レアリ、曰ク、死人ヲ埋葬スルハ、死人ニ任シテ可ナリト。

○按)約書ニ載スル所ノ語ニシテ、或人將ニ基督ニ服從セントスルニ方リ、先ツ死人ヲ埋葬シ

テ、然後ニ服從セシト云ヒシ時、基督之ニ答テ曰ク「死人ヲ埋葬スルノ事ハ、死人ニ任シテ可ナリ、汝敢テ勞スルヲ要セズ、直ニ余ニ服從スヘシト」今茲ニ此語ヲ以テ比論トナスハ、蓋シ守法ノ學派ヲ唱フル徒ハ、決シテ、今日ノ用ヲ爲サ、レハ、猶死人ノコトシ故ニ此ノ如キ死人ハ、死法ヲ守ルヘシ、仍シ生力盛ナル徒ハ、敢テ此ノ如キ死法ヲ守ルヘカラスト云フノ意ナリ、古今邦國甚多シト雖モ、此學派ノ如ク、絶ヘテ時勢ノ變遷轉化ヲ知ラス、徒ニ舊法古制ヲ墨守シ、仍モ存在スルヲ得シ者ハ、未ダ曾テ有ラサルナリ、然ルニ近今尙此論ヲ主張シテ、遂ニ國家ノ災害ヲ醸セシ者少カラス、眞ニ慨歎スヘキナリ、

〔附論第一〕ニールブル（按）噠國人、一千七百七十六年ニ生レ、其八百三十一年ニ死ス、ノ顛覆史ニ云、覆法ノ業モ、遂ニ期年ヲ經テ、當理ノ事トナレハ、國法ニ於テ之ヲ許スノ理、宛モ私法ニ於テ、假所有ノ期年ヲ經レハ、眞所有トナルヲ許スノ理ニ同シ、

〔附論第二〕教、王ツツカリアス、及ヒフランケン（按）中古歐羅巴ノ大國、國民第八世期（按）紀元七百年代期ト云フモノ、ニ於テ、此ノ如キ守法論ノ、敢テ取ル可カラサル所以ヲ、證明シタリ、何者、教王ツツ皆之ニ倣フ、

ツカリアスハ、守法論ノ取ルニ足ラサル所以ヲ論シ、眞ニ君主ノ職ヲ盡シ、且ツ自ラ能ク其權力ヲ施行スル所ノ者實ニ君主ノ稱ヲ得ルヲ當然ナリト云ヒ、又佛朗哥國國民ハ、既ニ久シク君職ヲ汚シテ、徒ニ有名無實ノ位ヲ保ルメロインゲル氏ノ王位ヲ奪テ現ニ政柄ヲ執レルヘルツォフ（按）爵名通常ト、カロリンゲル氏ヲ、遂ニ王位ニ進メタレハナリ、

○〔按〕紀元七百五十二年（天平勝寶四年）カロリンゲル氏ビビン、デル、カライイナル、メロキンゲル氏ヲ倒シテ、自ラ佛朗哥國ノ王位ニ登リタリシカ、是レ皆教王ツツカリアス及ヒ佛朗哥國民ノ助ケシ所ナリ、彼有名ナルカル、デル、ゴローセ（甲利大帝）ハ、此ビビン、デル、カライイナルノ

子ニシテ、大ニ其版圖ヲ增大シ、遂ニ羅馬國ヲ復興シテ、羅馬帝トナリタリ、

〔同上第三〕奧地利帝ユーセフ二世（按）一千七百四十一年ニ生レ、九十年ニ殞ス、嘗テ普魯士王非的利二世（又非的利大王ト稱ス、一千七百十二年ニ生レ、八十六年ニ殞ス）ニ書ヲ贈リテ、守法ノ意ヲ述ヘタリ、但其意ハ却テ成功事業ノ論ニ近シ、其書ニ云、「陛下即チ君主ナリ、陛下果シテ君主ナラハ、必君主ノ權利ヲ知リタマハサルノ道理アル可カラス、余カ土耳其國ヲ攻メト欲スルヤ、唯嘗テ彼ニ奪掠セラレシ州郡ヲ復スルノ外、決シテ他意アルニアラス、是即チ舊法ヲ守ラント欲スルナリ、嘗テ失ヒシ土地ヲ復セント謀ルハ、豈唯土耳其人ノミニ止マランヤ」

○〔按〕一千七百十八年（享保三年）ニ於テ、奧地利先帝カル第六世土耳其ノ地ヲ略セシニ其後一千八百三十八年（天保九年）ニ於テ土耳其ノ爲メニ再ヒ奪ヒ返サル、故ニユーセフ二世此ノ如キ論ヲ獲セシナリ、去レハ條理全ク條整ハフ、取ルニ足ラサルナリ、

〔同上第四〕一千八百十四年（文化十）佛國恢復（按）一千七百年代ノ末ヨリ、那破倫第一世帝位ニ登リ帝位ヲ奪ハレシカハ、政柄再ヒ舊王ノ時ニアタリテヒュルストタルレーランドナル者（按）佛人一千室ニ復シタリ、故ニ之ヲ恢復ト云、七百五十四年ニ生レ、一千八百三十八年ニ死ス、舊王室ノ寶座ヲ得ルヲ當然ナリトシ、守法ノ論ヲ主張シ、以テ覆法顛覆ノ論ヲ擯斥セシカレ、其論甚レ備少、且ツ教法ノ意及ヒ國家ヲ以テ君主私有トスルノ意ヲ間ユルカ故ニ、全ク中古ノ世ニ適スヘクシテ、決シテ方今文明ノ世ニハ適セズ、

第十款

研究ノ方法（メトード）

國法學ヲ研究スル方法數種アリ、就中正方二類アリ、變方亦二類アリ、其正方二類ト云フハ、即探理國法論（ヒロンヒセ、メトード）及ヒ探蹟國法論（ヒストリセ、メトード）按、其ニ本卷第四款ニ出ツ、

是ナリ、又變方二類トハ、即正方二類ノ大ニ偏倚セル者ニシテ、一ヲ偏埋國法論アポストラクト、イデアト云ヒ、二ヲ偏蹟國法論アインサイナグ、エムピリセ、メトードト云フ、即チ第一ハ探埋國法論ヨリ變生シ、第二ハ探蹟國法論ヨリ變生シタル者ナリ、此ノ如ク探埋探蹟ノ二方相生セシハ、素法ニ理義ニ出ル者ト、專蹟ニ出ル者トノ二類アルト、且ツ國法ヲ研究スル徒ノ、氣質各相異ナルトニ由ルナリ、

法ハ素ト性理ヲ以テ其精神トナス、故ニ必理義ヲ合有セサル可カラズ、去レテ今日ノ實際ニ用フルニ至リテハ、又今日ニ適スル形體有ラサル可ラス、然ルニ偏埋法論ノ如キハ、全ク其今日ニ適スル形體ノ要ナル所以ヲ知ラスシテ、絶エテ之ニ注意セス、故ニ國法ヲ論スルニ唯理ノ當否是求メテ、決シテ國家ノ實際ニ適スルト否トニ、著眼スルコトナシ、○普拉士スラ尙其レプブリッキ(按)本卷第八款ニ出ツノ法ヲ論スルニ方リテ、此ノ如キ弊ニ陷ルヲ知ラズ、大ニ人ノ性情ニ戻レル制度ヲ立テタリ、去レテ普拉士ハ知識頗ル廣博ニシテ、且好テ制度ノ態勢ヲ精美ニセシカハ、其論中絶テ枯瘦缺乏ノ弊アルヲ見ス、然ルニ近今ノ學者ニ至テハ、其論中動スレハ枯瘦缺乏シテ、全備セサル者多シ、○國家ハ道義ヲ含メル有機體(按)有機體トハ各部ノ機關アル體ト云ヘルコトニシテ、即活物ヲ云、國家トシ故ニ國家ヲ以テナルカ故ニ決シテ獨リ性理ヨリ生セシ者ニアラス、活體ニ比スルナリ、其法亦決シテ性理論ヲ集録セシ者ニアラス、是故ニ偏埋法論ハ、學科上ノ研究ニ於テハ、遂ニ無用ノ長物ニ屬シ、又之ヲ實際上ニ施ス時ハ、實ニ恐ルヘキ災害ヲ生シ、遂ニ現立法ヲ破碎顛覆スルニ至ルヘシ、國家將サニ傾覆セントスル時ニ方リテハ、民心暴ニ發動シ、此ノ如キ法論ニ依據シテ、現立法ノ限界ヲ破壞セント欲スルノ情愈盛ナルヲ以テ、此論方ニ盛強ノ威力ヲ得、其勢宛カモ惡鬼ノ如ク、遂ニ萬類ヲ傾倒スルニ至ル、○佛國ノ顛覆ハ、民心暴ニ發動シテ、此偏埋論ヲ實際ニ施セシ者ナリ、以テ此論說ノ誤ラサルヲ明證スルニ足ル、那

破倫(按)第一世也ノ語ニ、性理者流遂ニ佛國ヲ傾倒シタリト云ヒシハ、確言ト云フヘシ、(按)佛國ノ鼻祖ハ、ルウソウニシテ、爾來其說ヲ信奉スル者益多シ、遂ニ佛國ニテハ性理家、盛ニ自由(フ之ヲ實際ニ用ヒ、今ニ至リテ其餘毒猶消セス、眞ニ歎息スヘシ、○佛國ニテハ性理家、盛ニ自由(フライハイト)及ヒ同等グライフハイト、按萬民絶エテ貴賤尊卑等ノ別ナシ、全ク同等ナリト云義、權利ヲ主張シテ、佛國ヲ瓦解セシメ、遂ニ流血ヲ以テ之ヲ灌キ、獨乙國ニテハ學者科主政體ノ理ヲ主張スルコト甚々シキニ過キテ、公事自由ノ權利ボリチーセ、フライト、(按)民人會合ノ權利、結社ノ權利、ヲ遮欄限制シ又歐洲列國各其國論乞願ノ權利等、其他民人ノ國事ニ關スル自由權利ヲ云フ、

チ主張スルコト甚々過盛ニシテ、遂ニ歐洲一般ノ平和ヲ妨害シタリ、是ニ由テ之ヲ觀レハ、縱令ヒ大ニ確實ノ論ニシテ、實ニ國家ニ益アルモノトイヘ、單ニ理ニ據テ之ヲ講究シ、加フルニ褊少狹窄ノ見ヲ以テ、之ヲ實際ニ施サント欲スルハ、其害擧テ云フヘカラス、

之ト相反スル氷炭ノ如シト雖モ、亦甚偏倚セルモノハ、即偏蹟法論ナリ、此論ハ專ラ現立法、或ハ從來ノ實迹ニノミ拘泥スルカ故ニ、其研究スル所、絶ヘテ理ノ當否ヲ考索セス、徒ニ古今ノ事蹟ヨリ、法ノ成材ヲ湊合スルノミ、此法論古今實際ニ用ヒラレシコト多ク、殊ニ威權ヲ專擅セント欲スル奸臣等ノ、尤モ好テ取ル所也、○此法論ハ、偏埋論ノ如ク、直ニ國家ヲ覆滅スルニ至ラスト雖モ、小害自カラ積重ノ遂ニ大害ニ至リ、以テ全國ノ安寧ヲ破リ、其道義力ヲ鎖シ、其元氣ヲ傷シ、譬ハハ光輝アル劍ニ漸ク鏽蝕ヲ生シテ發銜シ、遂ニ光輝ヲ全蝕スルカ如シ、是時ニ至リ、之ヲ既倒ニ救テ、恢復ヲ謀ラント欲スルモ、亦挽回スル能ハス、甚キニ至リテハ、遂ニ滅亡ニ歸スルノミ、亦如何トヘスヘカラス、○偏埋論ノ國家ヲ害スル、其迅速ナル、譬ハハ急性熱ノ迅劇ニシテ、立トコロニ死生ヲ決スルカ如ク、又偏蹟論ノ國家ヲ傷フル、其遲緩ナル、譬ハハ慢性病ノ緩慢ニシテ、容易ニ死生ヲ決セスト雖モ、遂ニ痼疾トナルカ如シ、

探蹟法論ト偏蹟法論(按)探蹟論ハ正方ニシテ、偏蹟論ハ其變方ナリトチ擧ケ、比シテ其異ナル所ヲ以論セシ、探蹟論ハ、偏蹟論ノ如ク、徒ニ現存ノ法、或ハ從來ノ實迹ニノミ拘泥シ、漫ニ之ヲ尙重ス

ル者ニ非ス、必古今變遷沿革ノ迹ヲ探討シ、其開明進歩ノ實ヲ考察シ、以テ其理義如何ヲ通考ス、故ニ實際ニ著眼スルヲ主旨トスレドモ、荷クモ之ニ拘泥スルコトナク、必ス其間ニ取捨損益ノ權度ヲ存ス、純正ノ探理論ハ、能ク此探理論ト相合スル者ニシテ、徒ニ空理ニヨリテ法ヲ論スル者ニ非ス、必ス理ト實トノ二件ニ著意シテ、決シテ、其一ヲ失フコトナシ、唯探理論ニ於テハ、先ツ時勢ノ沿革ト古今進歩ヲ追考シ、而シテ後理義ノ分割ニ及ホスト、雖也探理論ニ於テハ、然ラス、先ツ人性ヲ識別シ、理義ヲ探討シ、而シテ後時勢ノ變遷ニヨリ、人心ノ感動相異ル所以ヲ考察ス、是此二方ノ相合スト、雖也、亦別アル所以ナリ、古今許多ノ碩學アリト雖也、實ニ此二方（按）探理論ノ二方）ヲ兼備スル者ハ、殆ト罕ナリ、其故ハ、各天賦ノ氣稟ニ因テ、專ラ一方ニ偏スレハナリ、亞立斯度德爾ノ如キハ、實ニ二方ヲ兼備セシ者ニシテ、眞ニ感歎スルニ堪ヘタリ、此人太古ニ生レ、未ダ文明開化ノ盛世ニ遇ハサリシカレ、其議論セシ所ノ國家學ハ、眞ニ後世千歳ノ總鑑トナリテ、今ニ至リテ仍ホ亡フルコトナシ、又羅馬人西施羅（按）有碩學ニシテ、紀元前百零六年ニ生レ、希臘諸碩學ノ講究セシ性理ヲ以テ基本トシテ、國家學ノ範圍ヲレ、同四十四年ニ殺害ニ逢ヒタリ、（按）一千五百三十年ニ生レ、其五百九十七年ニ死ス、以太利人造リ、羅馬國治平ノ實際ヲ以テ、其中ニ充テタリ、○佛人ボゲン（按）一千五百三十年ニ生レ、其五百九十七年ニ死ス、以太利人ヒコ（按）一千六百六十九年ニ生レ、其英人バコデ、ヘルラム（按）一千五百六十二年ニ生レ、其六百二十六年ニ死ス、世ノ學者中ニテ、理蹟ノ二方ヲ兼備セシ巨擘ト云フヘシ、又英人ベルグ（按）一千七百三十年ニ生レ、モ亦英國ノ國家學ヲ講スルニ方リテ、西施羅ノ如ク善能ノ說辭ヲ以テ先其沿革事蹟及形勢ヲ論シ、又性理ノ力ヲ以テ、大ニ此學ヲ潤飾シタリ、○以太利人マッキアエリ（按）一千四百六十九年ニ生レ、其五百二十七年ニ死ス、ハ、其著書中、自ラ辛苦艱難ヲ嘗ク、人性民情ニ通曉シ、以テ發明セシ所ヲ辨論シ、佛人孟得斯答（按）一千

九百五十五年ニ生レ、其七百五十五年ニ死スル、ハ、活眼ヲ以テ自在ニ人世ヲ洞觀シ、以テ其發揮セシ精美ノ理ヲ辨論セリ、實ニ此兩氏ハ、能ク理蹟ノ二方ヲ兼備スト云フヘシ、但シマッキアエリノ論ハ、專ラ探理論ニ屬シ、孟得斯答ノ論ハ、專ラ理蹟ニ屬ス、又瑞士ノ佛語ヲ用フル地方ニ生ラルルウツ（按）一千七百一十二年、瑞士人トナリ、一千七百一十七年ニ生レ、（按）一千七百四十七年ニ生レ、獨乙ノ諸學者ノ如ク、專ラ理論ヲ旨トシテ、之ニ偏スルコト、殆ト此論ノ鼻祖タル普拉士ヨリモ甚シク、遂ニ空理ニ陷レリ、以上論スルカ如クナル故ニ、理蹟二方ハ、決シテ相矛盾スル者ニアラス、却テ互ニ相資益スル者ナリ、故ニ史學者流、自ラ知ル所ヲ以テ、法斯ニ盡セリト爲シ、其他決シテ新法ノ生スヘキ者アラストセハ、是レ甚シク、彌狹ナル識見ト云フヘシ、又理學者流、自ラ知ル所ヲ以テ、法斯ニ盡セリト爲シ、其他決シテ理ノ求ムヘキ者アラストセハ、是レ甚シク、淺陋ナル識見ト云フヘシ、純誠ナル史學者ハ、必シ性理ノ貴重セサル可カラサルヲ知り、兼テ之ヲ學ヒ、眞正ナル理學者ハ、必事蹟ノ考察セサル可カラサルヲ知リテ、併テ之ヲ學フナリ、但シ理蹟二方共、必利害ヲ兼有スル者ナリ、即探理論ノ利ト稱スヘキハ、殊ニ其効驗ニ富ミ、且適實ナルニアリ、蓋シ史書職ル所、古今ノ事蹟ハ、千狀萬態ナル實迹ニシテ、且大ニ確證トスルニ足ルヲ以テナリ、○縱令ヒ碩學鴻儒ノ發揮セシ理ト雖也、之ヲ古今ノ實際ニ顯ハシテ、比較スルハ、僅ニ微薄ノ碎片ニシテ、譬ヘハ霧霞ノ浮霏ナルカ如ク、決シテ確實ナル能ハス、但シ又探理論ノ害ト稱スヘキハ、其胸中古今ノ事蹟ニ富ムヲ以テ、遂ニ理ノ一途ニ歸スルニ暗ミ、古今沿革ノ千差萬別ナルニ迷フテ、理非得失ヲ辨スルコト能ハス、且常ニ既往ノ事歴ニ束縛セラレ、自在ニ現今ト將來ノ事ニ注思スル能ハサルニ在リ、但シ探理論ニ於テ、全ク此弊ヲ避ク可ラサルニ非サレドモ、古今許多ノ探理論者流、又探理論ノ利トスヘキハ、殊ニ其立論ノ純清單一ニシテ、常ニ理ノ一事ヲ以テ、其至極ノ目的ト爲シ、

六二 著

終始此目的ニ到著スルヲ以テ本旨トスルニ在リ、故ニ其効驗ニ至テハ、殊ニ人性天理ニ出ルモノナ
リ、但シ常ニ理ノ極ニ到著スルヲ本旨トシテ、之ニ全力ヲ竭スヲ以テ、一理中又自ラ數理ノ存スルヲ
悟ラス且古今實際ノ千差萬別ナルニ暗ク、及ヒ古今萬方、風俗人情ノ差異アルヲ詳ニセス、一概理
ニヨリテ、萬事ヲ裁定セント欲スルカ故ニ、遂ニ時ト處トニ適應セル法ヲ立ルヲ能ハス、徒ニ有名無
實ノ空理ヲ主張シ、尙且天然生育ノ理ヲ知ラサルヲ以テ、譬ヘハ未熟ノ菓實ヲ摘テ、以テ之ヲ美味
トシ、無根ノ樹木ヲ植テ、以テ、成長スヘシト思フニ均シク、常ニ理ヲ索メテ遂ニ空理ニ流ル、是レ即
探理論ノ害ト云フヘシ、古今許多ノ理學者流、能ク此弊ヲ踏サル者ハ、殆ント罕ナリ

緒論 終

國法汎論首卷 終

大井潤一 校



川上 寛 著



右画ク處ハ本書論說中引證ス有名ナル人物ノ肖像ナリ

國法汎論卷之六^上 目錄

ザー、スウエネローチテート、及ヒ國家ノ元首、

- 第一款 スウエネローチテートノ義、
- 第二款 スターツ、スウエネローチテート、及ヒレゲンテン、スウエネローチテート、
- 第三款 第一スターツ、スウエネローチテートノ大意、
- 第四款 第二ヒュルステン、スウエネローチテート、

録目上六

本書譯成上梓ヲ謀ル、其序次將ニ首卷ニ次キ、逐卷續譯上梓スヘシ、然ルニ本卷以下論說スル所却テ今日ノ政務ニ切要ナルヲ以テ、前數卷ヲ闔キ、先ツ本卷ヲ譯シ、以テ進講シ且ツ上梓ス、上帙數卷ノ如キハ、將ニ餘力ヲ以テ補譯上梓セントス、讀者之ヲ諒セヨ、

壬申五月

譯者識

瑞士

イ、カ、ブルン、チ、ユリ、加、藤、弘、之、譯

ザー、スウエネローテテート（スターツ、ホーハイト）（按）此語、泰西國法論ニ主張ト譯スレバ、尙穩當トスヘカラス、故ニ今原語ヲ從用ス、詳ナル

「ハ本文ニ就及ヒ國家ノ元首、ス、スターツ、オ、ラ、着ルヘシ、スウエネローテテート（スターツ、ホウハイト）ノ義

第一款 スウエネローテテート（スターツ、ホウハイト）ノ義

スウエネローテテート（中古ノ羅句語ニテス、プレミタスト云フ、ノ名稱及ヒ辭義ハ、其根元羅馬ニ出ツル者ニシテ、即チ國家ノ最上權、オ、ハ、ル、ス、テ、ス、或ハ至高權、ヘ、フ、ス、テ、ス、（ス、ア、レ、マ、ボ、テ、ス、ダ、ス、）ト云フ義ナリ、而シテ此權ヲ特有スル者ヲスウエネローント云、

ボナン（按）緒論第十款ニ出ツ、始メテスウエネローテテートノ語ヲ以テ、佛國國法ノ基礎トナシ、且ツ學科上ニ於テ、其義ヲ論究シタリシ以來、此語國家學及ヒ治平ノ實際上ニ於テ、大ニ關係アル者トナレリ、

近今ノ法學者ハ、大略スウエネローテテートノ義ヲ解テ、十分不羈無限ノ國權トナス者多ク、且ツ佛王

路易第十四（按）一千六百三十三年ニ生レ、四、及ヒ其國ニテ一千七百九十三年寬政五年、本文三年ハ、恐ラシクハ二年ノ誤、

ニ立チシコンヘント（按）佛國領土ノ時ニ於、ノ議論モ、亦之ニ同ウシテ、「吾ハ即國家ナリ、而シテ國家ハ十分不羈無限ノ全權ヲ握ルモノナリ」ト謂ヘリ、去レテ全ク條理ヲ失ヒシ言ト云ヘシ、○然ルニ方今代國府ヲ設置セル國（ソ、ア、レ、セ、ン、ク、リ、チ、フ、ス、タ、ー、ト、）ニ於テハ、決シテ無限ノ政權アルコトナシ、加之十分不羈ノ權ナル者ハ、萬國共ニ決シテ之ヲ有スル者アルナシ、若シ之ヲ有スル者アルハ、

下民決シテ公事自由ノ權利(ボリチーゼ、フライハイト)ヲ保ツ能ハス、國家ノ諸部局亦其權利ヲ保ツ能ハサルコ必然ナリ、古今萬國此ノ如キ全權ヲ取ラント欲シテ、永ク其志ヲ得シ者ハ、未ダ曾テ之ヲアラス、但シ國家ハ國ノ全體ナルカ故ニ、國家自ラ此全權ヲ握リ得ルハ、當然ナルカ如シト雖モ、決シテ亦此全權ヲ握ルコ能ハス何者、外ニハ列國各其自己ノ權利ヲ有スル者アリテ、之ヲ限制シ、内ニハ國家固有ノ性アリテ、自ラ之ヲ限制シ、且ツ其諸部局及ヒ各民、皆相應ノ權利ヲ有スル者アリテ、亦皆之ヲ限制スレハナリ。

○ナエールス 佛人、一千七百九十七年ニ生ル。

佛國顛覆史ニヤコゼテ(按)暴論ヲ以テ、自由ノ權利ヲ主張セシ黨)ノ論ヲ舉ク、曰ク、「ナチオン(按)兆民ヲ合稱スル語)ハ、常ニ萬事ヲ爲シ、萬事ヲ爲シ得ル

ノ權利ヲ掌握ス、是レ即十分不羈無限ナル全權ノ因テ起ル所以ニシテ、此全權ハ、敢テ他ニ授托スヘキ者ニアラス、○是故ニナチオン敢テ路易第十四ニ恭順スルコ能ハス、(按)蓋シヤコビテ、ナチオンノ握ルヘキ者ニシテ、敢テ他ニ授托スヘキ者ニアラス、是故ニ路易第十四カ、意、元來國家ノ全權ハ、

「吾ハ即國家ナリ」ト云ヒシカモ、此ノ如キ暴言ニハ、恭順スル能ハスト云フナリ。

○ホルマエール(按)澳地利人、一千七百八十一年ノ著書ニ一千八百十四年(文化十一年)ニ於テハ、

ノールヘル國ノ論ヲ舉ク、曰ク、「スウエーリーチテートノ權ハ、決ク專横ノ權ニアラス、英國王此權ヲ

掌握スルノ理、絶ヘテ他各國ノ王ト異ナラス、英民自由ノ權利ヲ有スト雖モ、決ク王權ヲ犯スコトナク、却テ之ヲ翼ケテ、益堅固ナラシム、」(按)スウエーリーチテートノ權ハ、決ク專横ノ權ニアラサハナシ、然モ誰カ敢テ英國王ヲ以テ、スウエーリーチテートノ權ヲ握ラサル者トセン、又臣民自由ノ權利ヲ有スルコ、英國ノ如キハナシ、然モ誰カ敢テ英民ヲ以テ王權ヲ犯ス者トセン、蓋シスウエーリーチテートノ權、自由ノ權利ハ、全ク並ヒ行ハレテ、相反ラサル者ナリ。

スウエーリーチテートノ語ヲ翻シ、獨乙語ニ譯セント欲スルニ、穩當ノ語ヲ得ス、或、オーベルゲワルト(按)上權ノ義)ト云ヒ、又古時瑞士國ニテヘーフステ、ゲワルト(按)至高權ノ義)或ハグレーステ、ゲワルト(按)最大權ノ義)ノ語ヲ用ヒタレモ、此諸語ハ、皆國內臣民ニ對シテ稱スルニハ適當ナレモ、外國ニ對シテ、自國獨立ノ權ヲ著ハスニハ、概シテ適當セサルナリ、○スターツホーハイト(按)未ダ穩當ノ譯字ヲ得ス、但シ其意ヲ解スレハ、凡ソ「國家ノ高尊ナル事」ト云フカ如シ、ノ語ヲ用フレハ、内外ニ對シ、共ニ適當スヘシト雖モ、然レモ此語ハ、專ラ國家ノ尊貴顯榮ヲ示スニ適シテ、權威ヲ示スニ宜シカラス、去レモ、此語ヲ以テスウエーリーチテートニ代フルモ、恐ラクハ十分不羈無限ノ全權ト解スルカ如キ謬誤、自ラ少ナカルヘシ。

スウエーリーチテート即スターツホーハイトトハ、國家ノ不羈ナルコト(按)前文ニハ十分不羈ト云ヒ、茲ニハ單ニ不羈ト云フ、宜シク注意ス、威力ノ充滿スルコ、國家諸權柄ノ上ニ位スルコ、及ヒ唯一ナルコト云フ、故ニ左ニ舉ル所ハ、即真ニスウエーリーチテートノ要件ナリ。

「第一」國權ノ不羈ナルコト、十分不羈ナルト云フニハアラス、決シテ外國ノ權柄、若クハ國內各部局ノ權柄等ニ、從屬セサルヲ云フナリ、但シ外ハ列國法(合同法ブンデスレフト)ノ爲メニ、限制セラレ、内ハ政府諸部局、或ハ代國府ノ議論ノ爲メ、ニ限制セラレ、ハ、固ヨリ當然ナルコトニシテ、決ク之ニ由テスウエーリーチテートノ義ヲ害スルコトナシ、(按)茲ニ論スル所、即チ國權ノ十分不羈ナルカハ、明證ナリ。

「第二」國家ノ尊嚴威力充滿スルコト、昔時最モ高等ノ法院ヲ稱シテ、スウエーリーチ、ゲリフツホフ(按)スウエーリーチテートノ權アル法院ノ義)ト云ヒシカモ、素ト此法院タル、實ニスウエーリーチテートノ權ヲ有スルニアラス、唯此權ノ一端ヲ有スルニ類似スルノミ、然ルニ唯此一端アルヲ視テ、實ニ此權ヲ有セリトスルハ、甚ダ誤レル者ニシテ、亦論スルニ足ラス、若シ總テ最高等ノ職官ヲ以

答、異ナルカ故ニ、其答ル所亦未タ嘗テ一定スルヲ見、ス故ニ講論研究ニ由テ、偏見臆説ノ宿習ヲ去リ、遂ニ眞理ヲ悟リテ、確答ヲナスヲ要ス。

〔第一〕ルウソウノ説、及ヒ佛國顛覆以來、漸ク變衍セシ論ヲ信スル徒ハ、之ニ答ヘテ曰ク、「ホルク」(按)下文ニ於テ詳ナリ、ナル者スウエネーテテートノ權ヲ握ル」ト即通常謂フ所ノホルク、スウエネーテテート即是ナリ。

但シ此ノ如ク答ル徒ニ向テ猶一問アリ、曰ク、「所謂ホルクトハ、何者ヲ指スヤ」ト、然ルニ此ノ如キ徒中ニ仍カ一論アリ、其一論ハ、譬ヘハ數千萬ノ原素ノ散亂スルカ如ク、制度モナシ、亦序次モナシ、徒ニ渙散セル民ヲ指シテホルクト爲シテ此ホルクヲ以テ國家ノ大權ヲ掌握スル者ト爲ス、是即實ニ國家ヲ根底ヨリ傾覆スルノ暴論ト云フヘシ、若シ此暴論實際ニ行ハルレバ、國家決シテ存在スル能ハス、國家果シテ存在スル能ハサレバ、之ヨリ生スル所ノスウエネーテテートノ權、豈能ク獨リ存在スルヲ得ンヤ、其誤レル論ヲ俟タズ、明ナリ。○是故ニ此ノ如キ暴論ハ如何ナル政體ニ於テモ、決シテ適合セサルナリ、然ルニ尙此ノ如キ暴論家ハ、之ヲ以テ民人專權政體カデナリ、(按)國家

ヲ以テ全クホルクノ専ラニスヘキ者トナシ、ホルクノ、ナ立テント欲スレバ、此ノ如キ暴論ニハ、此政體ハ、決シテ限制セサルヲ以テ本旨トスル政體ナリ、體スラ尙合セサルナリ、何者、縱令ヒ民人專權政體ノ國タリト雖モ、徒ニ數千萬ノ原素ノ散亂セルカ如ク、制度序次ナキ衆庶民人ノ、其國權ヲ執ルニハアラス、必ス制度序次ノ具備セル國會(ホルク)ス、サムルノ、アリテ、國權ヲ施行スレハナリ。

又一論ハ、同等ノ權利ヲ以テ相結ビ、其共欲スル所ヲ施行スル國ノ民人ヲ指目シテ、ホルクト爲シ而シテ此ホルクヲ以テ、國權ヲ握ル者トナス、是即チ民人國權ヲ執ル所ノ民人政體(デモカラナリ、(按)説下文ニ見ユ)ノ論ナリ、故ニ此論ハ、唯民人政體ニ於テノミ取ルヘシ、既ニ代國府ヲ設置セル、民人政體レブレセントエナリ、(按)デモカラナリ、(按)立憲民主政體ヲ云)ニ於テハ、國ノ民人相合シ、直ニ國權ヲ施行スルニ非ス、必此民人ニ代ハルヘキ代國府アリテ、之ヲ施行スルカ故ニ、殆トト此ノ如

キ論ニハ合セサルナリ、此類ノ論説ハ、總テ國家ノ元首ヲモ、賤民ト同等ノ如ク視做シ、且ツ少數ノ治者(按)政府官員)ヲ以テ、多數ノ被治者(按)國國民)ニ從屬スルカ如ク視做ス者ニシテ、譬ヘハ首ヲ以テ足トナシ、足ヲ以テ首トナスカ如クナレバ、決シテ他ノ諸政體ニ合セサル、固ヨリ論ナシ、是故ニ、第一論ハ、以テ政府ヲ傾倒シテ、遂ニ民人ヲ統御スル者有ラサラシムルニ足リ、第二論ハ、天下ノ民人ヲ合シテ、之ヲ以テ國權ヲ握ル者ト爲シ、以テ擅ニ其欲スル所ヲ爲サシムルニ足ルト云フヘシ、但シ、儘又此二論相合シテ、殆ト分レサルコトアリ、而シテ總テ此ノ如キ論説ヲ唱フル徒ハ、常ニ此論ヲ偏用シテ、大ニ可ナル所以ヲ主張スト雖モ、此論ト合スヘキ者ハ、僅ニ萬民直預政體ウノヨツテ、バ

一レ、デモカラナリ、(按)萬民直ニ國政ニ預ル政體ナリ、上ニ民人政體ト云ヒシハ、即是ナリ)ノミニシテ、其他ノ諸政體ニハ、決シテ適合セズ、故ニ此論ハ全ク諸政體ヲ壞破シテ、遂ニ萬民直預政體ヲ起ス所ノ者ニシテ、國家ノ爲ニ大害アリ、

又一派全ク之ト相反セル論ヲ主張スル徒(現存ノ政府及ヒ其法制ヲ惡ミ、之ヲ傾覆センコトヲ企ルニ方リ、此ノ如キ論説ヲ假リテ、其志ヲ遂ケント欲スルコトアリ)○又佛國顛覆ノ時ニ方リ、此ノ如キ論説、最モ恐怖スヘキ兵器ノ如ク、大ニ壞破ノ効ヲ奏シタリ、既ニ一千七百九十二年(寬政四年)第四月二十日ニ於テ、佛國ヲオナール、ヘルサムルノ、(按)佛國顛覆ノ際、一千七百八十九年、ホルク自ラ

ニ二類アリ、即八十九年ニ立テ九十年ニ閉チ者ヲ、コンスタトイレンデ、ナチオナル、ヘルサムルノ、ト云ヒ、九十年ニ立テ九十二年ニ閉チ者ヲ、ゲセツゲーベンデ、ナチオナル、ヘルサムルノ、ト云フ、戰旨ヲ填地利ニ宣ヘシ時、(按)佛國顛覆ヲ起スニ方リテ、填地利國帝之ヲ妨遮セントセシ故ト云フ、佛ノ議會遂ニ之ト兵端ヲ開クコトヲ決シテ、其意ヲ宣ヘタリ、

ルウソウノ論ヲ取テ之ヲ公布シタリ、其言ニ云、佛國スウエネーテテートノ權ハ、獨リ佛國ホルクノ手中ニ在リ、此故ニホルクノ意思ハ、最モ尊キ者ニシテ、之ヲ施行スルノ權ハ、敢テ他ニ授托スヘキニアラス、獨リ後世億兆ノ權利ノミ、能ク之ヲ限制スルヲ得可シ、(按)將來億兆ノ意思變スルルハ、

七上六

キ論ニハ合セサルナリ、此類ノ論説ハ、總テ國家ノ元首ヲモ、賤民ト同等ノ如ク視做シ、且ツ少數ノ治者(按)政府官員)ヲ以テ、多數ノ被治者(按)國國民)ニ從屬スルカ如ク視做ス者ニシテ、譬ヘハ首ヲ以テ足トナシ、足ヲ以テ首トナスカ如クナレバ、決シテ他ノ諸政體ニ合セサル、固ヨリ論ナシ、是故ニ、第一論ハ、以テ政府ヲ傾倒シテ、遂ニ民人ヲ統御スル者有ラサラシムルニ足リ、第二論ハ、天下ノ民人ヲ合シテ、之ヲ以テ國權ヲ握ル者ト爲シ、以テ擅ニ其欲スル所ヲ爲サシムルニ足ルト云フヘシ、但シ、儘又此二論相合シテ、殆ト分レサルコトアリ、而シテ總テ此ノ如キ論説ヲ唱フル徒ハ、常ニ此論ヲ偏用シテ、大ニ可ナル所以ヲ主張スト雖モ、此論ト合スヘキ者ハ、僅ニ萬民直預政體ウノヨツテ、バ

一レ、デモカラナリ、(按)萬民直ニ國政ニ預ル政體ナリ、上ニ民人政體ト云ヒシハ、即是ナリ)ノミニシテ、其他ノ諸政體ニハ、決シテ適合セズ、故ニ此論ハ全ク諸政體ヲ壞破シテ、遂ニ萬民直預政體ヲ起ス所ノ者ニシテ、國家ノ爲ニ大害アリ、

又一派全ク之ト相反セル論ヲ主張スル徒(現存ノ政府及ヒ其法制ヲ惡ミ、之ヲ傾覆センコトヲ企ルニ方リ、此ノ如キ論説ヲ假リテ、其志ヲ遂ケント欲スルコトアリ)○又佛國顛覆ノ時ニ方リ、此ノ如キ論説、最モ恐怖スヘキ兵器ノ如ク、大ニ壞破ノ効ヲ奏シタリ、既ニ一千七百九十二年(寬政四年)第四月二十日ニ於テ、佛國ヲオナール、ヘルサムルノ、(按)佛國顛覆ノ際、一千七百八十九年、ホルク自ラ

ニ二類アリ、即八十九年ニ立テ九十年ニ閉チ者ヲ、コンスタトイレンデ、ナチオナル、ヘルサムルノ、ト云ヒ、九十年ニ立テ九十二年ニ閉チ者ヲ、ゲセツゲーベンデ、ナチオナル、ヘルサムルノ、ト云フ、戰旨ヲ填地利ニ宣ヘシ時、(按)佛國顛覆ヲ起スニ方リテ、填地利國帝之ヲ妨遮セントセシ故ト云フ、佛ノ議會遂ニ之ト兵端ヲ開クコトヲ決シテ、其意ヲ宣ヘタリ、

ルウソウノ論ヲ取テ之ヲ公布シタリ、其言ニ云、佛國スウエネーテテートノ權ハ、獨リ佛國ホルクノ手中ニ在リ、此故ニホルクノ意思ハ、最モ尊キ者ニシテ、之ヲ施行スルノ權ハ、敢テ他ニ授托スヘキニアラス、獨リ後世億兆ノ權利ノミ、能ク之ヲ限制スルヲ得可シ、(按)將來億兆ノ意思變スルルハ、

能ク從來ノ法制ヲ變更シ得可シト云フ意、政府縱令憲法、慣用法、條約、或ハ布令等ヲ用フルモ、決シテ億兆ヲ服從セシムルヲ能ハス、獨リナチオン（按）ホルクニ同シ、ノミ自ラ能ク憲法ヲ制定シ、或ハ之ヲ革正スル特權アリ、他人敢テ之ヲ專ラニスル能ハス、ト、（按）大意謂ラク「スウエーデン、テート」ノ權ハ、終始ホルクノ手中ニ止マル者ナリ、故ニ法制ヲ立テ、或ハ之ヲ改ムル等ノ事、獨リホルクノ專ラニスル所ニシテ、政府敢テ此權ヲ握ル能ハス、ト、茲ニ他人ト云フハ、即億兆中ノ一人、若クハ數人ヲ指スナリ、○ナチオナルヘル、サムルング、ニ代リ、ナチオナル、コンヘント

（按）一千七百九十二年ニ立ナシ議會、立ツニ至リ、更ニ此論ヲ擴張シテ、終ニ王位ヲ傾倒シタリ、（按）此議會遂ニ國君路易第十六ヲ死刑ニ處シタリ、
○傳教總裁（エトスイテン、ゲテラール）ライチツ、（按）西班牙人、一千五百十二年ニ生レ、五百六十五年ニ死ス、傳教士ベルナルミン、（按）以太利人、一千五百四十二年ニ生レ、六百二十一年ニ死ス、及ヒマリアナ（按）西班牙人、一千五百三十六年ニ生レ、六百二十三年ニ死ス、等ノ如キ諸人ハ、神教ノ威力ヲ以テ、國事ヲ制御セシムルヲ欲シ、教皇（パブスト）ハ、天神ヨリ威權ヲ授カリシ者ナレハ、則チ國君ノホルクヨリ、威權ヲ授カリシ者ト、同日ノ論ニアラサル旨ヲ以テ、教皇ヲシテ恣ニ國君ヲ制御セシメンコトヲ謀レリ、蓋シ其意通常ホルクス、スウエーデンチテートヲ唱フル徒ノ論ト、全ク相反スト雖モ、教皇ノ威權ヲ擴張センカ爲メ、姑ク此論ヲ假リタルナリ、○但シ輒近ニ至リ、ルウソウノ論最モ盛ニシテ、人心ヲ煽動スルモ更ニ甚シカリキ、ルウソウノ論ニ據レハ、各民相合シテホルクトナリ、以テスウエーデンチテートノ權ヲ掌握ス、故ニ各民相合シテ、共ニスウエーデン（按）注上ニ見ユ）トナリ、又分レテスウエーデンノ臣民トナル、元來スウエーデンチテートノ權ナル者ハ、即一般ノ意思ニシテ、一般ノ意思ハ、決シテ他ニ授托スヘキ者ニ非サルカ故ニ、ホルク多數ノ意思相合スレハ、政府ト雖モ、遂ニ之ニ恭順セシメ、或ハ政府ヲ傾倒シ、又ハ國權ヲ變更スル

等皆其欲スル處ニ任シ、ホルクハ敢テ法ノ爲メニ、束縛限制セラル、者ニアラス、ホルクノ欲スル所ハ即法トナリ、其欲セサル所ハ即不法トナルト、是即ルウソウノ論大略ナリ、故ニ此論ニ據レハ天下ノ各民ハ、悉ク國權ニ預ルヘキ者ニシテ、彼ノナチオナル、ヘルサムルング（按）全國家ニ代ハル所ノ議會ノ義）ヲ置テ、ホルクノ代議者ト爲スカ如キモ、全ク用フ可ラサルナリ、去レモ若シ此論ヲ以テ、實際ニ施サントスレハ、國家ノ法制秩序モ、決テ保存スル能ハス、加之此ノ如キ自由ノ權利、決シテ永續スル能ハサル事、前チ俟スシテ明カナリ、
一千八百四十八年（嘉永元年）第二月、佛人復々顛覆ヲ起シ、巴里斯ノ府廳ニ於テ同上ノ論ヲ公告シテ之ヲ實際ニ施シ、遂ニ立憲君主政體ヲ廢シテ、民主政體トナシ、一旦假政府ヲ置テ、之ニ全權ヲ委託シタリキ、（按）一千八百四十八年第二月佛人顛覆ヲ起シ、オルレンアン氏ノ（按）一千七百九十年ニ生ル、此顛覆ノ時ニ假政府主長ノ一ノ公布書ニ云、佛國ノ民、丁年ニ至レル者ハ、皆スターツ、ビ人ニシテ、外務ミニニステルヲ兼チタリ、
（按）本義ハ、國家ノ臣民、云フコトナレモ、國民ヲ悉クスターツ、ビエルゲルト云フニアラス、スル、ゲルト、スターツ、ビエルゲルトト稱スルニハ、必ラス定法アリテ、各國相同シカラス、但シ婦女、少年、刑人、及ヒ貧救ニシテ國家ノ教育ヲ受ル者等ハ、各國共ニ之ヲスターツ、ナリスターツ、ビエルゲルト者ハ、ビエルゲルトト稱スルコトナシ卷之二第廿一款ニ詳ナリ、參看スヘシ、
皆選擇者（按）立法院ノ議員ヲ選擇スル者）タリ、選擇タル者ハ、皆スウエーデンチテート、是ヲ以テ各民ノ權利ハ皆同ウシ、且ツ毫モ限制スル所ナシ、故ニ各民互ヒニ、汝カ權ハ吾權ヨリ強大ナリト云フコトヲ得ス、各民皆自己ノ威力ヲ知リテ之ヲ施行シ、且ツ自修ノ權利ヲ守リ、敢テ自ラ輕スルコト勿レト、
（第二）以上論スル所、ホルクス、スウエーデンチテートノ説ハ、素ト國權ヲ確定セント欲シテ、却テ國家ヲ破壞スルニ至リ、或ハ萬國ノ政體ヲ變シ、悉ク民主國ト爲サントスル者ナリ、故ニ佛國二三ノスターツマン（按）經世ニ巧ナル徒、或ハ現ニ政柄ニ預レル徒ノ義ニシテ、君ハ此論ノ甚ク國家ニ害アルヲ臣共ニ通シ用フ、穩當ノ譯字ヲ得サルヲ以テ今原語ヲ記ス、

以テ之ヲ排斥シ而メ其知或ハ、正理ヲ以テ、スウエローチテイトノ權ノ由テ出ル所ト爲シ、以テ、ホルクス、スウエローチテイトノ權ヲ主張セシ徒ノ過誤ヲ規サントシ、大ニ刻苦セリ、其志ハ實ニ嘉ミスヘシト雖也、曾テ、其功ヲ遂クルヲ能ハサリキ、
 ○權ナル者ハ、素ト人ニ關屬スル者ナリ、故ニ國權モ亦實ニスタートリヘ、ベルセノリフカイト、
 (按)國家人ト云、カ如キ義、蓋シ國家ハ、有機活ニ關屬ス、唯國家此權ヲ施行スルニ方リテハ、必其知及ビ正理ニ則ラサルヲ得ス、然ルニ論者全ク此理ヲ知ラス、シテ、國權ヲ以テ其知及ビ正理ヨリ出ル者ト爲セシハ、大ニ誤ルト云ヘシ、此論ハ彼ノホルクス、スウエローチテイトノ權ヲ主張スル徒ノ、萬國ヲ以テ民人專權政体ト爲サント欲スル説ト、其威ハ全ク相表裏スレ也、大ニ誤ル所以ハ皆同一ナレハ、共ニ取ル可ラサルニ歸ス、蓋シ權素ト人ニ關屬スレ也、唯之ヲ施行スルニ方リテハ、必其知正理ニ則ルヲ要スト云フノ論、最モ確實ニシテ、上ノ二論ニ優ルヲ甚ク大ナリ、

○(按)佛人、一千七百六十三年ニ生レ、八百四十五年ニ死ス、一千八百二十年(文政三年)第三月廿七日ノ

演述「按」議院ニ於テ、其論ヲニ云、「民ノ相合せル者ニハ、必二個ノ原質アリ、即チ体ト神ト是ナリ、而シテ、各民ノ身及其氣力、並ニ其意思ヲ云、各民ノ身及其氣力、意思ヲ以テ体ト爲ス、殆ト解民ヲ主トスル者ニシテ、其誤リ亦以テ彼ノルウツウノ論ニ、スヘカラス、且ツ之ヲ体ト爲ス、ハ、國法ニ於テ、各異ナラサルニ非ラスヤ、(按)即著者演述ヲ難スルノ文ナリ、又神トハ、當理ノ事ヨリ生スル所ノ法ナリ、○專ラ体ヲ以テ主トスル者ハ、スウエローチテイトノ權ハ、即各人相合スル者ノ多數ト、及ビ其意思多數ノ專ラニスル所ニシテ、即チホルクス、スウエローチテイト、是レナリ但シ多數ノ意思ナル者、此暴權(按)ホルクス、スウエローチテイト)ヲ以テ、一人若ハ數員ニ委託スル歟、或ハ一人若ハ數人、多數ノ意思ニ背テ、此暴權ヲ奪フハ、特ニ此暴權ノ質ヲ變セサルモ、自ラ和柔ノ權ト

ナル可シ、然リト雖也、未ダ全ク粗魯ノ權タルヲ免ル、一能ハス、故ニ遂ニ無限權、及ビ特權ノ根本トナルヘシ、(按)演述者、專ラ体ヲ以テ主トスル徒ノ誤ヲ舉ルナリ、○然ルニ專ラ神ヲ以テ主トシ、法ヲ貴フハ、スウエローチテイトノ權ヲ掌握スル者ハ、即正理ナリ、何者、法ナル者ハ、必理ニ出テサル可ラサルヲ以テナリ、○自由ヲ貴フ國憲ハ、必粗魯ノ權ヲ去リ、正理ヲ以テ權ト爲ス、本旨ト爲スト、(按)以上即演述ノ文ナリ、

「第三」又一派別ニホルクス、スウエローチテイトヲ唱フル者アリ、此派ニテホルクト稱スル者ハ、第一條ニ云フ所ノ數千萬ノ原素ノ散亂セルカ如ク、制度序次ナク、渙散セル民ヲ指テ云フニアラス、必ヤ相ヒ合同シテ、風俗言語嗜欲ヲ共ニシ、且ツ其中自ラ尊卑、貧富、大小等ノ差等アツテ、相合セル一團人衆ヲ云フ、是レ即チチオン(按)チオン、ノ説卷之二第二款ニ見ユ)ナリ、而シテ此チオンヲ以テ、即國家ノ法制ヲ變革スル權ヲ掌握スル者ト爲ス、但シ此チオンナル者ハ、法制序次ヲ得ルニ宜シト雖也、未ダ全ク法制序次ノ整ヒタル者ニハアラサルナリ、

是故ニチオンナル者ハ、其法制序次、全ク整フハ、則始テ國家トナルナリ、(卷之二第二款ヲ參看スヘシ)故ニチオンナル者全クスタートツ、ホーハイトノ權(按)スウエローチテイト、ニ同シ)チ生スヘキ根本ニアラストハ云フ可ラスト雖也、チオン決シテ直ニ此權ヲ生スル者ニアラス、チオン先ツ國家ヲ成シ、國家成テ然後ニススタートツ、ホーハイトノ權始テ生ス、故ニチオンハ、スタートツホーハイトノ根本ニ似タレ也、直ニ之ヲ以テ眞ノ根本ト爲スハ、不可ナリ、

此派ニ於テ論スル所ノホルクス、スウエローチテイトノ權ハ、獨乙ニテ稱當ノ語ヲ以テ譯スレハ、チオンナル、スウエローチテイトノ權ト云フヘシ、去レ也上論ノ如ク未ダ國家トナラサルチオンノ權ナルヲ以テ、決シテ國權ト稱スルニハ足ラサルナリ、
 「第四」以上諸派ノ論說皆非ナリ、實ニホルクト稱スル者ハ、即國家(スタート)ト云フニ同ウシテ、之

ナ譬フレハ猶人身ニ頭首四肢ノ序次アルカ如ク、必序次法制ノ具備シテ、相合スル所ノ人衆ヲ指
言スルナリ、而シテホルクノ頭首四肢ナル者ハ、實ニスターツ、ベルセシリフカイト(按)本款(第二)
ノ條ニ出ツ、ニ於テ最モ緊要ナル者ナリ、
國家ハ一人身ナルヲ以テ、必不羈ナラサル可ラス、十分ノ威力ヲ備ヘサル可ラス、至高ノ位ヲ占メ
サル可ラス、及ヒ唯一ナラサル可ラス、之ヲ要スルニ、國家ハ必スウエネーテイトノ權ヲ握ラサル
可ラサルナリ、是ニ由テ之ヲ觀レハ、一人身ナル國家ハ、即スウエネー(按)スウエネーテイト
ト、ノ權ヲ掌握スル者)ナリ、故ニ此スウエネーテイトヲ稱シテスターツ、スウエネーテイト
ト云フ、

是故ニスウエネーテイトノ權ハ、國家未ダ立サル時先ダツテ生スル者ニアラス、又國家ノ外ニ在
ル者ニアラス、尙且國家ノ上ニアル者ニアラス、實ニ是國家ノ權力及ヒ尊嚴ナル者即是レスウエネー
テイト也故ニ此權ハ、全國家ノ權ト云フ可シ、全國家ノ權ハ、其各部ノ權ヨリ更ニ強大ナルヲ以テ、
全國家ノスウエネーテイトハ、其一部ノスウエネーテイト(按)蓋シ下條(第五)ニ論スル所ノ
ノ上ニ位スル一固ヨリ論ナキノミ
上ニ論スルカ如ク、ホルクト稱スル者ハ、決シテ渙散セル人衆ヲ云フニアラス、必ス制度序次ノ其間
ニ整然タル者アリテ、相統合セル人衆ナレハ、其中必頭長アリテ、最高ノ地位ヲ占メ、最大ノ職務ヲ執
リ、其他ノ部分ニ於テモ、亦各相應スル所ノ地位職務アリ、故ニ此意ヲ以テホルク、スウエネーテイト
トトナ説ケハ、實ニ此語ノ本義ニ協フト云フヘシ、然ルニホルク、スウエネーテイトトナ説ク所
ノ徒、從來此本義ヲ失フカ故ニ、今此語ヲ用フルキハ、學者ヲシテ大ニ迷ハシムルノ恐レアリ、故ニ此
語ヲ捨テ、之ニ代フルニスターツ、スウエネーテイトノ語ヲ以テス、佛國國法學者ハ、スウエネー

テテード、ナシオンノ語ヲ用フルト雖、獨乙ニテハ此語甚ダ穩當ナラス、佛ニテハ此語獨乙ノスタ
ーツ、スウエネーテイトト全ク同義ナリ、
○六チニ (按)佛人、一千七百九十八年ニ生ル)ガ一千八百四十八年(嘉永元年)或人ニ與ル書

ニ云、一スウエネーテイトノ權ハ、ホルクノ掌握スル所ナリト云フノ論甚可ナリ、去レ其ホル
クト云フ語ヲ用フル意ノ差ヒ從テ、取捨セザル可ラス、若シ國憲法制ヲ以テ相合セル人衆ヲ指シ
テ、ホルクト稱シ、而シテ君民(按)即國憲法制ヲ以テ相合セル人衆ナリ)共ニ、スウエネーテイト
トトナ同握スル者トスレハ、實ニ善美ト稱スヘシ、去レ若シ此ノ如ク相合セル人衆ノ中ニ於テ、只
其一部分ヲ拔キ、或ハ君主ノミヲ以テホルクトナシ、(彼ノ余則國家ナリト云ヒシハ此意也、(按)
路易第十四ノ語ナリ)或ハ君主ヲ除キ、單ニ巴力門バールメントノミヲ以テホルクトナシ、又ハ制度序次ナリ、
渙散セル人衆ヲ舉テホルクト總稱スルカ如キハ、俱ニ甚ダ誤レル者ニシテ、遂ニ國家ヲ害スルノ
論ナリ、敢テ採用スヘカラス)ト、○シスモンヤ(按)瑞士人一千七百七十二年ニ
生レ八百四十二年ニ死ス、著書中、スウエ
ネーテイト、ザニー、ペーアルナル語ト、スウエネーテイト、ザニー、ナシオンナル語ノ相異ナル所
以テ明カニシ、甲ヲ捨テ、乙ヲ取ルヘキヲ論シタリ、(按)此論亦スチニヘノ論ニ同シ)
スターツ、スウエネーテイトノ權ハ、能ク國家ノ内外ニ發達ス、即外ハ諸外國ニ對シテ獨立不羈
ノ權トナリ、且シ神教ニ對シテ、現世國ノ權トナリ、内ハ即チ臣民ニ對シテ全國家ノ制法權トナリ、以
テ對耀スルナリ、

是故ニ英國人ハ、巴力門ヲ以テスウエネーテイトノ權ヲ掌握スル者ト爲ス、何者、巴力門ナル者ハ
即全國家ニ代ル者ニシテ、國君其首座ヲ占ムルヲ以テナリ、○但シ此ノ如キ事、決シテ英國ニ止
マルニアラス、其他方今代國府(按)立法府ナリ)ヲ設置セル國ニ於テモ、亦獨リ君主ヲ以テ全ク國
家ノ上ニ位スル者トセス、必亦國家中ノ一人トシテ、唯其首領タル者ト爲スノミ、此故ニ君主一人決

シテスウエローチテイトノ權ヲ施行スルコト能ハス、亦必全國家ニ代ハル所ノ代國府ト共ニシテ、備
 メテ能ク之ヲ施行スルヲ得ルナリ。○バトリモニアシル、スタート（按）國家ヲ以テ君主ノ私有ト
 爲ス國ノ制度ヲ貴テ、國家ヲ以テ君主ノ私有ト爲シ、且ツスウエローチテイトノ權ヲ以テ、獨リ一君
 主ノ手中ニ在リトスル學派、及ヒアブソルチナチセル、スタート（按）君權無限ノ國ノ制度ヲ貴テ、
 獨リ一君主ヲ以テ國家ト爲シ、以テスターツ、スウエローチテイトヲ捨テ、ヒュルステン、スウエロー
 チテイト、（按）君主國權ヲ握ルチ云）ヲ取ル所ノ學派ニ於テハ、君主ノ威權ナル者ハ、元、全國家ノ
 權方ヲ集合統一セル者ナルヲ知ラス、故ニ縱令ヒ君主及ヒ王室斷滅スト雖モ、國家ハ獨リ依然トシテ
 變動セサル理ニ於テモ亦知リ得サルナリ。○

○英國王頭理第八世（按）一千五百零九年ニ、巴力門會議ノ時ニ於テ、議員ニ演述セシ旨趣アリ其
 言ニ云、余法官ノ説ク所ヲ聽クニ、吾カ巴力門タルヤ、吾カ王位ヲ以テ頭首ト爲シ、汝群臣ヲ以テ四
 肢ト爲シテ、全然相離レサル者ナリ、故ニ縱令ヒ微賤ナル一議員ニ係レル利害得失ト雖モ、敢テ之
 ナ小事トセス、必吾身及ヒ國院ニ係ル所ノ利害得失ト爲スヘシ、吾カ王位ノ實ニ尊貴ナルハ、唯國院
 會集スル時ニ在ルノミト云ヘリト、

○ツエッペル（按）獨乙人、一千八百零七年ニ生ル、其著書中ニ此ノ如キスターツ、スウエローチテイトハ獨乙國ニ
 適セサル旨ヲ論セシノミニ非ス、總テ君主國ニ於テハ、唯ヒュルステン、スウエローチテイトヲ以
 テ當然ノトト爲シ、民主國ニテハ、唯ホルツス、スウエローチテイトヲ以テ當然ノトト爲シテ、其旨
 ナ論セシトハ雖モ、古時羅馬ノ民主政体トナリシ時、及ヒ帝國トナリシ後モ、共ニマエスタス、ポア
 リ、ロマン（按）羅馬國民、スウエローチテイトノ權ヲ掌握スル義ノ制度ヲ立テ、而シテ羅馬國民ノ

意思ヲ以テ國法ト定メ爲シ、且民主政体ノ時ニ於テハ、政柄ヲ以テコンスルニ委任シ、又最高ノ
 政務及賦稅ノ事務ヲ以テ、悉ク之ヲセナリトニ委任シタリ（是亦スウエローチテイトノ一分ト云
 ハサル可ラス、又方今英國ニテ、巴里門ノスウエローチテイト即全國家ノスウエローチテイトナ
 リ、チ以テ國君ノスウエローチテイト全ク相併合スルカ如キハ、全クツエッペルノ論ト相表裏ス
 ト謂フヘシ、獨乙國トイヘ他ノ列國ニ對シテハ其スウエローチテイトハ、全ク全國家ノ權タル
 一論ヲ俟メテ明瞭ナリ、○他ノ列國ニ對シテ、スウエローチテイトノ權ヲ掌握シ得ル國家タ
 ル者ニシテ、國家内ノ各民、及ヒ國家ノ君主ニ對シテ、スウエローチテイトノ權ヲ掌握スル能ハサ
 ルノ理、決シテ有ル可ラス、獨乙國ニテモ他ノ各國ノ如ク、其憲法ハ即國家ノ憲法ニシテ、決シテ君
 主ノ憲法ニアラス、其負債ハ即國家ノ負債ニシテ、君主ノ負債ト全ク相異ナリ、故ニ獨乙國ニ於テ、
 君主國家ヲ私有セシ、古昔ノ陋習未ダ全ク滅セシニハアラサレモ、其國法タル、方今文明世外一般
 ノ公理ニ背キ、獨リホルクシテ、君主ノ僕妾ト爲シ、國家ノ威權ヲ以テ、君主ノ威權ニ吞併セラル
 、者ノ如クスルノ理ハ、絶ヘテアラサルナリ、○ツエッペル斯クヒュルステン、スウエローチテイト
 ノ權ヲ主張スレモ國權ヲ以テ無限ノ全權トセサルハ、甚タ善クスヘシ、去レモ獨乙各國及ヒ羅馬人
 種ノ各國（按）歐洲南西ノ各國ニシテ、殊ニ以太利、葡萄牙、西班牙、佛蘭西等ヲ云フ）ノ事蹟ヲ見
 ルニ、共ニ輓近ニ至リ、君主威權ヲ擅ニシテ、大ニホルクノ權利ヲ枉害セシハ、蓋シ專ラヒュルステ
 ン、スウエローチテイトヲ主張スルノ徒ノ論ニ依據セシナリ、

（第五）但シ既ニ論スル所ノ全國家掌握スルスウエローチテイトノ外、尙又國內ニ於テ、別ニ國家頭
 首ノスウエローチテイトト稱スル者アリ、之ヲ稱シテレゲンテン、スウエローチテイトト云フ、但
 君主國ニ於テハ、此權最モ著顯ナルヲ以テ、又之ヲヒュルステン、スウエローチテイト（按）前條ニ云

ツ、ヒルステン、スウエネーテ、トト語同ウシテ、其義ハ即チ相異ナリト云フ。首々
ル者ハ、其各部府及其各民ニ對シテ、最大ノ威權ヲ執リ、至高ノ地位ヲ占ム、故ニ英ノ國ニテハ、國王ヲ
スウエネーテ（前ニ註ス）ト稱シ、且ツ其他ノ君主國ニ於テモ、亦君主ニ此スウエネーテトノ權
ヲ歸ス、

前篇ニ論スル所ノスターツ、スウエネーテトト、此章ニ云フ所ノヒルステ、スウエネーテ
テートトハ、實際上ニ於テ、決シテ相矛盾スル者ニアラス、故ニアラス故ニスウエネーテ、シテートニ此
二類アリト雖、是ニ由テ、此權相分レ、ホルクト君主ト各其一半ヲ掌握シテ、相抗拒スルノ憂ヒ決
シテアルコトナク、且ツ二權各々唯一ニシテ又盛大ナリ、去レテ之ヲ分テハ、即判然二類トナル、一ハ即全國
家ノ有スル權ニシテ、君主ハ唯其首座ニ位スルノミナルカ故ニ、敢テ君主ノ專ニスル所ニアラス、
二ハ即君主自己ノ有スル權ニシテ、敢テ他人ノ關スル所ニアラス、此第一權ハ、全國家ノ有スル者ナ
ルヲ以テ、君主獨リ掌握スル所ノ第二權ノ上ニ位スルコト固ヨリ論ヲ俟タズ、國家ノ憲法ヲ制定スル
ハ、獨リ國家全体ノ權力ニ在ルノミ、去レテ君主タル者、此憲法ノ區域内ニ於テ、自己手中ニ在ル所ノ
大權ヲ施行スルニ於テハ、決シテ他人ニ限制セラルコトナシ、○是故ニスターツ、スウエネーテト
トハ專ラ憲法制定ノ權ト云フヘク、又ヒルステ、スウエネーテトトハ專ラ政令ノ權ト云フ可シ、
第一權休止スレバ、則第二權行動ス、故ニ此二權ハ、實際上ニ於テ、容易ニ相抗拒スル者ニアラス、又
理ニ於テハ、決シテ相抗拒セサル者ナリ、蓋シ此二權若シ相抗拒スレバ、君主ノ一身ニシテ相抗拒スルナ
リ、何者、第一權ハ、君主國家ノ各部局ト共ニ之ヲ掌握シ、又第二權ハ、君主獨リ之ヲ掌握シ、二權共ニ
君主ノ預所ナレハナリ、
故ニデモカラチヤセ、ホルクス、スウエネーテトト
ウエネーテトトヒルステ、スウエネーテトナル二權ハ、彼此相抗拒シテ、俱存共立ス可ラス
トトナリ、

ト雖、ヒルステン、スウエネーテトトヒルステ、スウエネーテトトノ二權ハ、人身ノ全體ト

頭首トノ如ク、相合同シテ、決シテ分限スルコトナシ、

一附論ニ又ホルクス、スウエネーテトトト唱フル一別派アリ、但シ此派ニテハ、其立論ホルクノ多
數、國家ノ大權ヲ掌握スルコト云フニアラス、政體制度ハ、素トホルクノ爲ニ建設スル者ナルヲ以テ、
必ホルク多數ノ安寧ニ害アル政體制度アル可ラストノ意ヲ以テ、ホルクス、スウエネーテトト
ヲ説クナリ、此論ハ決シテ不可ト云フ可キニ非ラス、去レテ此意ヲ以テホルクス、スウエネーテトト
ト稱スルハ甚タ誤レリ、○又國權悉クホルク多數ノ意思ニ出ルヲ以テ至當トナシ、此理ニ據テホ
ルクス、スウエネーテトトト唱フル學派アリ、
按此學派ニテホルク自ラスウエネーテトトノ
權ヲ掌握スルヲ至當トスルニアラス、唯此權素ト
ホルク多數ノ意思ニ出ル、實ニ萬民政治國ノ國憲ノミナラス、或ハ又君主政治國ノ國憲トイヘ亦
以テホルク多數ノ意思ニ出ル所ト爲セル者アルハ、此學派ノ論ノ如シ、譬ハ羅馬帝國、及ヒ佛蘭西帝
國ノ國憲ノ如キモ、羅馬帝國ノ國法學ニ據テ之ヲ考レバ、其ホルク多數ノ意思ニ出ルトス、又瑞士
各邦ノ邦憲ニ於テモ、ホルクナル者即スウエネーテトトト記サ、レテ、スウエネーテトトトノ
權ハホルクニ出テ、ゴローセル、ラート（按立法府ナリ）之ヲ施行スト記載ス、譬ハ一千八
百三十一年（天保二年）ニ於テ議定セルナリ、（按瑞士合邦ノ一）ノ邦憲第一條ニ記ス所モ
亦此ノ如シ、去レテ此ノ如キ論ニ至テハ、決シテ世界萬國ニ通スル者ニアラス、且ツスウエネーテト
トトノ理ハ、永世不變ノ者ナルニ、僅カニ此ノ如キ事蹟ニ據テ、此權ノ理ヲ論スルハ甚不可ナリ、○
又一種強暴ナル人衆態ニ政府ヲ傾倒シ、且國憲ヲ壞破スルノ權ヲ以テ、ホルクス、スウエネーテ
トトト爲スノ論アリ、此論ハ既ニ實際ニ施行セシコト多クナリト雖、最モ害アル者ニシテ、縱令
萬民政治ノ國法トイヘ、決シテ此論ヲ用フルコト能ハス、

第三款

第一 大ターツ、スウエローチテイトノ大意(イノハルト)

(第一) 制度序次ノ具備セルホルクハ、是レ即國家ニシテ、此國家ナル者ハ、先自己ノ顯榮尊嚴ヲ敬重スヘキノ權利ヲ保有ス、古時羅馬ニテハ、國家ノ顯榮尊嚴ヲ稱シテ、マエステイトト云ヘリ、故ニ羅馬國ノ體面威權及ヒ其制度序次ヲ大ニ毀損スル者アレハ、則之ヲマエステイトヲ毀損スル罪科シ、レセ、マエステイト爲シタリ、

(第二) 國家諸外國ト、獨立不羈ノ威力ヲ對峙シ得ルハ、其スウエローチテイトノ一要件ナリ、若シ國家獨立ノ權ヲ失フテ、外國ノ制馭ヲ仰クニ至ルキハ、則自己ノスウエローチテイトヲ失フテ、外國ノスウエローチテイトニ服從スト云フヘシ、

但シ國家總令ヒ外國ニ服從スト雖モ、或ハ其スウエローチテイトヲ全喪スルニ至ラサルコトアリ、蓋シ其制馭ヲ受ル、未タ十分無限ニ至ラスシテ、獨立ノ權仍ホ存スル所アル者是レナリ、乃チ盟邦合邦等ノ如キ相聯合セル國ニ於テハ、其各邦皆全國ニ從屬シテ、其制ヲ受ルト雖モ、必スウエローチテイトノ若干部分存スル有テ、尙ホ其邦内ニ行ハル、何者、實ニ外面ノ權ヲ失フト雖モ、未タ決シ内面ノ權ヲ失フニ至ラサレハナリ、○是故ニ瑞士國ニテハ、合邦ノ事務ヲ統掌スル全權ヲ稱シテ、ブンテス、スウエローチテイト(按)合邦ノスウエローチテイトト云義)ト云フト雖モ、又各邦ノ事務ヲ統掌スル權ヲ稱シテカントナール、スウエローチテイト(按)各邦ノスウエローチテイトト云フ義)ト云フ、又北亞米利加合邦及ヒ獨乙盟邦ノ如キモ、其全國ノスウエローチテイトト、其各邦ノスウエローチテイトトヲ分別スルコト、瑞士ニ異ナラス、

各邦ノ全國ニ於ケルヤ、僅ニ其一部分ナリト雖モ然レモ、其内部ニ於テハ、亦尙國家ノ制度序次アリテ、立法府政府、其他諸部局等、都テ國家緊要ノ機關ヲ備ヘ、以テ自ラ其政務ヲ專行ス、是故ニ此ノ如キ各邦ト雖モ、仍ホスウエローチテイトノ若干部分ヲ有スト云フヘシ、去レモ各邦若シ實ニ全國ニ合併セラレ、其州縣トナルニ及テハ、既ニスウエローチテイトノ權ヲ全喪スト云フヘシ、但シ此ノ如キ邦、實ニ大國ノ一小屬國トナリテ仍ホスウエローチテイトノ若干部分ヲ有スルト、唯其州縣トナリテ全ク此權ヲ失フトノ分界ニ至リテハ、殆ト判然ナラサルコトアリ、猶ホ千緒萬端ノ世事ニ於テ、區別分界ノ判然ナラサルコト多キカ如シ、

方今外國ニ對シテハ、通常君主ナル者、國家ニ代リテ、大ターツ、スウエローチテイトノ權ヲ施行シ、立法府ハ、絶ヘテ之ニ關係スルコトナシ、但シ此事決シテ理ノ當然ニ出ルニアラス、只事ノ便宜ニ由ルノミ、

(第三) 國內ニ於テスウエローチテイトノ權ノ先ツ發動スル所ハ、國家自ラ其存在ヲ保チ得ル所ノ規律ヲ確定スルト、及ヒ已ムヲ得サルニ方リテハ、之ヲ變革スルトニ於テス、之ヲ稱シ、テホルクノ國憲ヲ制立スル權柄、コンスタトイレンデ、ゲワルトト云フ、○此權柄ハ決シテ制度序次ナキ、ホルク多數ノ手中ニ在ル可ラス、必制度序次ヲ備ヘタル、國家全體ノ手中ニ在ルヘキハ、固ヨリ當然ナリ、而シテ國家タル者、其統一合同、及ヒ制度序次ヲ保存セント欲セハ、必臣民ヲ服從セシメテ、其公權利ヲ制御セサル可ラス、故ニ各民決シテ國家ノ命令ヲ抗拒スルヲ許サス、縱令ヒ其公權利國家ノ爲ニ枉害セラレ、コトアリト雖モ、亦以テ然リトス、

○華盛頓(按)亞米利加合衆國第一世統領、一千七百三十二年ニ生レ、九十九年ニ死ス、ノ論ニ云、
「吾國法ノ大基本ト云フヘキハ、ホルク(按)即全國家ナリ)自ラ國憲ヲ制立シ、且、革正スルノ權ヲ掌握スルニ在リ、故ニ公議ノ定斷ニ由テ、從前ノ國憲ヲ改革スルニ至ル迄ハ、凡ソ臣民タル者、必

此法ヲ遵奉敬重シテ、決シテ之ニ違反スルヲ許サズ、夫レ國憲ヲ制立スルノ權ハ、乃チ獨リホルクノ權利ト、及ヒ威力トニ在ルノ理ニ依テ推考スレハ、臣民タル者、必ス此國憲ニ服從セサル可ラサルヲ固ヨリ論テ俟タズ、故ニホルク憲法ヲ施行スルニ方リテ、之ニ抗拒シ、或ハ他人ノ之ヲ遵奉スルヲ妨碍シ、又ハ政府ノ事務ヲ施行スルヲ妨碍スルカ如キ所業ハ、實ニ吾カ國法ノ大基本ニ背クト云フヘシト、

國法ヲ變革スルニ、其方法ニアリ、一チ改正ト云ヒ、二チ顛覆ト云フ、而シテ此二方法ノ旨タル、理義上ニ於テ迥ニ相異ナリ、凡ソ改革ナル者ハ、第一ニハ、國憲ヲ制立變革スヘキ、權利ヲ固有セル、職官ノ掌ル所ナルヲ以テ、立憲國ニテハ、必ス全國家ニ代ハル所ノ立法院、當然ノ權利ヲ以テ之ヲ掌リ、第二ニハ、改革ヲ爲スニ就テハ、先ツ法ノ精神ニ著眼シ、實ニ時勢ニ後レ、人情ニ適セサル法ハ、之ヲ廢シ、而シテ實ニ時勢人情ニ協合スル所ノ新法ヲ制立シテ、之ニ代フ、故ニ廢立共ニ必已ムヲ得サルノ理ニ出ツ、是レ即改革ナリ、

然ルニ國法ヲ變革スルニ方リテ、國憲職スル所ノ規律ニ背戻シ、或ハ全ク正理ヲ毀壞スルカ如キハ、決シテ改革ト云可ラス、實ニ顛覆ト云フヘキノミ、

國法ヲ改革スルノ權利ハ、方ニ國家活動力ノ發スル所ニシテ、眞ニ緊要ノ權利ナリ、故ニ之ヲ非トスル者ハ、ホルクノ開明進歩ヲ妨碍スル者ニシテ、却テ顛覆ヲ招クニ足ル、

但シラザカーレ、スターツレーレ、〔按〕現存ノ法ヲ根底ヨリ傾倒シテ、國家ヲ一新スルノ論ヲ唱フル學派ナリ、穩當ノ譯字ヲ得サルヲ以テ原語ヲ擧グ、唱フル學派ナリ、穩當ノ譯字ヲ得サルヲ以テ原語ヲ擧グ、

或ハ暴ニ正理ヲ毀壞スル者ナルカ故ニ、決シテ法ニ合スル者ニアラス、縱令ヒ勢ノ趣ク處、民情徧ク之ヲ是トシ、暴ニ公權ヲ變革スル時ト雖モ、亦然リトス、民心久ク抑壓ヲ受ケシ所、一旦綱縛ヲ脱シ大ニ強猛ノ威力ヲ得、勢ヒ噴火ノ暴發スルカ如ク、以テ顛覆ヲ謀ルニ至ルハ、則國法ノ能力之レカ爲ニ沮攔壓縮セラレ、決シテ發動ヲ生スルコト能ハス、故ニ顛覆ヲ以テ國法ノ規律ニ合セント欲スルモ、

決シテ能ハサル所ナリ、○顛覆起ルニ方リ、速ニ壓制ノ力ヲ盡シ、之ヲ變通シテ改革ト爲シ、以テ國家ノ制度序次ヲ全ウスルハ、實ニ國政ノ大業ナリ、國法ノ能力微弱ニシテ、顛覆ヲ沮遏スルニ足ラス、〔或ハ〕改革機ニ後レテ、顛覆ヲ制止スルニ及フ能ハサルハ、遂ニ此大業ヲ成就スル能ハサルヤ必セリ、

上ニ論スルカ如ク、顛覆ハ決シテ法ニ合スル者ニアラサレハ、時勢全ク改革ノ術ヲ用フルニ由シナク、顛覆ヲ施スノ外、國家ノ存在ヲ援ク、其進歩ヲ導クノ方術盡ル時ニ至ラサレハ、決シテ顛覆ノ權利ヲ用フ可ラス、故ニ此權利ハ、眞ニホルクノ不得已ノ權利〔ノートレフト〕ト云フヘキノミ、○國憲ナル者ハ、唯ホルクノ外親ノ規律ナルノミ、若シ國家不足ノ爲ニ、國家將々ニ危亂ニ趨ラントシ、ホルクノ生力將々ニ痿痺セントシ、或ハ天下ノ公益公利將々ニ亡滅セントスルニ至レハ、ホルクナル者強盛活潑ノ威力ヲ發シ、不得已ノ權利ヲ施行シ、以テ切要ノ變革ヲ遂ケサルヲ得ス、所謂不得止ノ事ハ、敢テ示令ヲ知ラス〔按〕古語ニシテ實ニ已ムヲ得サルニ至レハ、敢テ示令ヲ俟タスシテ、處置スヘシト云フ意トハ、則シテ是レノ謂ナリ、○

○スーダツマン〔注前ニ見ユ〕ニイブール〔按〕雙國人、一千七百七十六年、大ニ保守コンセルハチ古制ヲ保守シテ、輕卒ニ之ヲニ生レ、八百三十一年ニ死ス。オソ〔按〕舊法改革スルヲ好マサルヲ云、チ旨トセル人ニテ、既ニ佛國第五月ノ顛覆、按一千八百三十年第五月ニ起リタル顛覆ヲ云、

事ハ、敢テ示令ヲ知ラスト云ヘル古語ヲ非トスル論ハ、最モ厭惡スヘシ、希臘人嘗テ土且其ノ制御ヲ受ケテ、其暴虐ニ困シ、婦女遂ニ其節ヲ全ウスルコト能ハサルニ至リシカ如ク、常ニ苛酷殘虐ノ政令ヲ受ケテ、恣ニ殺戮セラレ、百方スレテ遂ニ免ガル、コト能ハサルニ至レハ、其實ニ已ムヲ得サルノ時ト云フヘシ、此時ニ至リテハ、斷然顛覆傾倒ヲ起シ、此災厄ヲ免レン、謀ルコト、大ニ正理ニ合スト云フヘシ、若シ此ノ如キ時ニ及テモ、仍ニ顛覆ヲ不義トスル者ハ、眞ニ惡人ト云フ可キノミト、

〔第四〕其他緊要ナル憲法ヲ制定スルニ至リテモ、亦スターツ、スウエローチテートノ權ノ掌ル所ナリ、故ニ狹義ノ立法權柄ト云ヘハ國憲ヲ始メ、其他ノ諸憲法ヲ制定スル權柄ナレハ、狹義ノ立法權柄ト云フキハ、國憲ヲ制定スル權柄ヲ除キ、其他諸憲法ヲ制定スル權柄ノミチ云フナリ、語義狹隘ナルヲ以テ、斯ノ如ク云フ、モ亦國憲ヲ制定スル權柄ノ如ク、スターツ、スウエローチテートヨリ、其端正ナル規律ヲ以テ、發動スル者ナリ。

〔第五〕又其他ノ國權モ、皆亦此スターツ、スウエローチテートノ權ニ淵源ス、故ニ國憲及ヒ其他ノ憲法ヲ以テ、諸國權發動スル所ノ規律ヲ定メ、且其力ヲ限制ス、但ッスターツ、スウエローチテートノ權ハ、國憲及ヒ其他ノ憲法ヲ制定スル權柄トナリテ、其能力ヲ顯スト雖モ、其他ノ諸國權上ニハ、通常其能力ヲ施サスノ安息ス、殊ニ君主國ニ於テハ、國家日々變化スル所ノ要件ヲ處分スル事務ハ、皆之ヲ君主ノスウエローチテートニ收攬ス、故ニ日常ノ事務ハ、國家自ラ之ヲ執ラヌシテ安息シ、獨リ元首之ヲ執リテ動行ス、但シ君主自ラ之ヲ執ル者アリ、或ハ其管下ノ職官（按）政府ノ職官）ヲシテ、之ヲ執ラシムル者アリ、

但シ此事務ヲ執ル者（按）即君主チ云フ）實ニ之ヲ執ル能ハサル事務ノ生スル歟、若クハ君主空虛トナリ、國憲ニ於テ未タ嗣君ノ定マラサル時ニ於テハ、國家ノスウエローチテート茲ニ再ヒ其能力ヲ發シテ、其憂害ヲ除キ、且嗣君ヲ定ムルコトニ從事スルナリ。

〔第六〕不保任（ウマヘルアントナルトリフカイト）凡ソ人タル者其諸業ノ行止ニ於テ、天神ニ對シ之ヲ保任セスノ可ナルノ理ハ、絶ヘテアル可ラス、天神ハ、必人世諸業ノ曲直邪正ヲ鑑定シテ、死後ニ之ヲ審判スル者ナリ、故ニホルクナル者ハ、敢テ天神ニ對シ、其所爲ヲ保任セサル能ハス。○又此世界ニ於テモ、ホルク爲ス所ノ善惡邪正ニ由テ、直ニ禍福利害ノ應報アルハ、即其所爲ノ審判ヲ受クル者ナレハ、是亦保任ヲ免ル、一能ハサルノ理ナリ。○去レテ國家内ニ於テ、國家全體ノ曲直邪正、

若クハホルクニ代リテ、最上ノ國權ヲ掌握スル者ノ、曲直邪正ヲ審判スヘキ法官ヲ設置スルコトハ決シテ能ハサルコトナリ、然ルチ若シ強テ之ヲ設置セント欲スルキハ、國家ヲシテ全ク此法官ノ部下ニ屬セシムルノ理ニシテ、譬ヘハ四肢ヲシテ體軀ノ上ニアラシメ、局部ヲシテ全體ノ上ニ位セシムルカ如シ

○ロベスピエール（按）佛人、一千七百五十八年ニ生レ、一千七百九十三年（寛政五年）ヤコビチル

（按）本卷第一款ニ出ツ、ロベスピエールハ此黨ノ巨魁ナリ）ノ黨中ニ於テ、之ニ反セル論ヲ述ヘテ、其論ニ云フ、「余災厄ヲ受ケシ時ニ於テ、敢テ他人ノ應護ヲ要セス、自若トシテ、ホルクハ決シテ、不正ノ事業ヲ爲サ、ル旨ヲ主張シタリ、余ハ斯ノ如ク世人ノ未タ此理ヲ知ラサリシ時ニ於テ、普ク此理ヲ悟ラシメント欲シ、大ニ刻苦セシカ、遂ニ顛覆起ルニ至リテ、世人皆能ク此理ヲ悟リタリト、○但シ佛國人此ノ如キ論ニ迷フテ、大ニ之ヲ信シ、以テ實際ニ施シケレハ、遂ニ大災厄ノ刑ヲ蒙ルコトハナリケリ」（按）此註本文ノ意ト合セサルニ似タリ、恐ラクハ其下

國家自己ノスウエローチテートノ權ヲ施行スルニ方リ、若シ外國ニ對シテ、之ヲ保任スルチ要スルトキハ、則其スウエローチテートノ權ハ、外國ノ爲ニ大ニ限制セラレ、遂ニ其部下ニ屬スルニ至ル可シ、

後世列國法（ヘルケルレフト、（按）一ニ萬國公法ト譯ス）大ニ進歩シ、全世界各國、殆ト相合シテ、一大國家トナリ、而シテ之ヲ統括スル所ノ大政府起ルニ至ラハ、各國皆將サニ此大國家ノ命令ヲ遵奉スルニ至ルヘシ、故ニ此時ニ於テハ各國自己ノ權ヲ施行スルニ就テ、之ヲ保任スルノ制度、始テ起立スヘシ、去レテ此事今日ニ在リテハ、徒ニ紙上ノ空談ナルノミ、恐ラクハ後世遂ニ實事トナルノ日アラ

〔附論〕最近立チシ所ノコンスタイトイレソデ、ナチオナール、ヘルサムルンダ（按）至國家ニ代ハリテ、國憲ヲ制定スル議會ノ

義ノ如キハ、通常一千七百八十九年〔按〕前款ノ論ニ倣元年〔按〕前款ノ論ニ倣佛國ノナチオナル、ヘルサムルンク〔按〕前款ノ論ニ倣ニ出ツ、
 フ者多シ、故ニスターツ、スウエローチテートノ理ヲ以テ、政令施行ノ基本ト爲サス、却テルウソウ
 ナ信シテ、ホルツス、スウエローチテートノ理ヲ取レリ、○但シルウソウノ論ハ更ニ甚シキ者ニシ
 テ、決シテ代國議會ニスウエローチテートノ權ヲ委スルコトナク、必彼ノ原素ノ如ク、制度序次ナク
 渙散セル數千萬ノ民人ヲ以テ、此權ヲ固有スル者トナシ、而シテ此民人其共ニ欲スル所ニ從ヒ、之ヲ
 恣行スルヲ以テ管理ト爲ス、○ナチオナルヘルサムルンクノ論ヲ採リテ之ヲ實際ニ
 施セシハ、譬ヘハ猶ホ彗星ノ赤尾ノ現、レシカ如シ實ニ此議會ルウソウノ論ヲ假テ民心ヲ煽動シ
 以テ一旦其志ヲ得シト雖モ、遂ニ又此論ノ爲ニ倒サル、ニ至レリ〔按〕古時彗星出レハ、必凶事
 アルノ兆トセリ、蓋シヘルサムルンクノ論ヲ用テ、一旦其志ヲ得シハ、遂ニ又此論ノ爲ニ
 倒サル、前兆トナリシヲ喻フルナリ、

第四款

第二

ヒュルステン、スウエローチテート

〔按〕本卷第二款

第二類ノスウエローチテート〔按〕レゲンテン、スウエローチテート、即ヒュルステン、スウエローチ
 テートハ、即チ獨、國家元首ノ手中ニ在ル者ニシテ、方今ノ國法ニテハ、唯君主國ニ於テノミ、獨リ此權
 ナ誤許セリ、故ニ君主ヲ以テ、スウエローチ〔按〕スウエローチテートトシテ、尊崇セラル、ノ權利ヲ
 有スル者トス、亦民主國ノ統領〔ア〕シシテント〕モ實ニ此權ヲ施行スト雖モ、絶、テスウエローチトシ、
 テ尊崇セラル、コトナシ、

羅馬民主政體ノ國法ニ於テ定メシ所ハ、立制ノ意今時ノ民主國ヨリハ、猶廣博ナリキ、故ニ嘗テ王國〔按〕實ニ國家
 タリシ時ニ於テ、君主掌握セシ所ノ權ヲ分掌スルコトスルニ員ニ、マエステートノ權利ノ元首タルニ

足ルノ權利ナリ、本卷第十二款ニ詳ナリ、〔按〕又其後ニ及テセナートニモ亦之ヲ委テタリキ、然ルニ近今ノ民主國ニ
 於テハ、專ラホルクノ特權ヲ貴フコト盛ナルヲ以テ、政府ノ主長ナル者ハ唯ホルクノ指揮ニ由テ、姑ク
 其委任ヲ受ケシ者ト視做セリ、是ヲ以テ主長ナル者、スウエローチテートノ權ヲ以テ、其自己ノ權利
 ト爲スコト能ハス、○

ルウソウガレゲンテン、スウエローチテート〔按〕ヒュルステン、スウエ

思ト云フハホルク全體ノ意思ヲ云フナリ、故ニ其一部分ノ意思ハ、唯其一部分ノ意思ナルノミ、一
 般ノ意思ハ、能ク憲法ヲ布示スヘク、一部分ノ意思ハ、僅ニテクレト〔按〕政府布告ス、チ布示スヘ

シト、去レテ最上ノ國權ヲ以テ、唯憲法ノミチ制立スルノ權トシテ、兼テ政令ヲ施行スル所ノ權ヲ
 ルチ知ラサルハ、甚ダシキ謬見ト云フヘシ、

此權ハシテ有ラストスルノ論アリ、去レテ此論ハ君主其位ヲ得ルノ體裁ニ由テ、其權ニ輕重ノ別アリ
 リトスル者ニシ、甚ダ誤ルト云フヘシ、縱令ニ選立君主ト雖モ、最上ノ國權ヲ以テ、自己ノ權ト爲スニ於
 テハ、決シテ世襲君主ト異ナルコトナシ、○舊羅馬帝〔按〕羅馬帝國ニ新舊ノ別アリ、紀元前卅年ニ奧古
 年ニ於テガル、デル、ゴローセ、教皇ヨリ、羅馬帝ノ及ヒ中古ノ獨乙帝ノ如キハ、皆選立君主ナリ、然リト

位ヲ受テ、羅馬帝國ヲ恢復セリ、是即新帝國ナリ、〔按〕羅馬帝國ニ新舊ノ別アリ、紀元前卅年ニ奧古
 雖モ眞ノスウエローチテートナリテ、自己ノ權ヲ有セシコト、決シテ疑フヘキニアラス、又英國王維廉、ホ

オラニオン〔按〕維廉第三ト云、一千六百五十年ニ生、七百零二年ニ歿ス、ハ始テ王位ニ登リ、オラニオン朝ヲ開キシカモ、其スウ
 エローチテートノ權ニ至リテハ、其嗣君ノ生レナカラニシテ、繼位ノ權利ヲ有セシ者ト、決シテ異ナル

コトナカリキ、
 但シ國法學ニ於テハヒュルステン、スウエローチテートヲ區分シテ、固有〔按〕ウールスブリュンダリ、又オリギチーント、云フ、ト

受有^{アングライテ}ハナヘト云フ、ノ二類ト爲ス、固有ノヒュルステン、スウエローチテートトハ、君主其家ニ
 生レ、當然ノ權利ヲ以テ得タル者、若ハ君主自己ノ力ヲ以テ得タル者ヲ云フ、即世襲君主ノスウエ
 ーチテート、及ヒ攻奪ヲ以テ國ヲ得シ君主ノスウエローチテート、并ニカル、デル、ゴローセ^{(按)初フ}
 王タリ、後ニ羅馬國ヲ恢復メ羅馬帝トナル、即^{(按)普魯士王一千六百八十八}
 紀元七百四十二年ニ生レ、八百十四年ニ殂ス、^{或非的利維廉第一世}
 ノ如ク、親ヲ冠冕ヲ戴キシ君主、^{(按)親ヲ登祚}ノスウエローチテート即是ナリ、○其他獨乙諸選立帝
 ワイルカイセル、^{(按)選立}セシ君主ノ義、^{(按)獨乙帝}
 セラレテ帝位ニ登リシ者、^{(按)選立スル}中ニ於テ、スウエローチテートノ權ヲ、クールヒュルスト
 權利ヲ握^{ユリ}受ケス、天神ヨリ受ケシ者ハ、是亦固有ノスウエローチテートヲ握リシ者ト云フ
 へシ、^{(按)實ニ天神ヨリ受ケシニアラス、唯此ノ如ク託言スルノミ、}
 受有ノスウエローチテートトハ、ホルク若クハ選擇者ヨリ授托セラレタル者ヲ云フ、既ニ羅馬ノ國
 法ニ於テハ、帝ノ權柄ハ、即羅馬ホルクヨリ授托セラレタル者トセリ、^{(卷之四第十七款ヲ參看スヘシ、}
 且ッ其後ノ選立君主國ノ制度ニ至テモ、亦通常此ノ如シ、○但シスターツ、スウエローチテートニ至リ
 テハ、決シテ此ノ如キ差別ナク、皆固有ノ者ノミナリ、
 下ノ諸款^{(按)第十二、十三、十四款ヲ云フ、}ニ於テ、國家元首ノ權利ヲ論スルニ方リテヒュルステ
 スウエローチテートノ權ヲ更ニ精論スヘシ、
 譯者曰、第一款ヨリ本款ニ至ル、論說甚タ深奧ニシ、解シ易カラサル者居多ナリ、讀者宜ク細玩
 スヘシ、但シ又誤譯ノ多カラシキ者アテハ、幸ニ忠告セヨ、猶再思ヲ加フヘシ、
 大井潤一 校

國法汎論卷之六 上終



西ク慶ハ本書論說中引證スル有名ナル人物ノ肖像

畫模克上川



フリードリヒとバルコローセ

リカルド三世



ナポレオン三世

ヘルナトツテ

エッセルソ

ローマン二世

國法汎論卷之六 中 目錄

第五款 國家ノ元首

第一款 君主國ニテ其得位ノ體裁

第六款

第二款 世襲法

第七款 繼位ニ就テ人體ノ應否

第八款

第三款 民主國ニテ元首起立ノ體裁

第九款 先君ノ義務嗣君ニ遞傳スルノ法

第十款

第四款 攝政職ノ設置

第十一款 政柄ノ失去

イ、カ、ブルンチユリ 著
加藤弘之 譯

第五款

國家ノ元首(スマーツ、オーベルハウフト)、按(君國主ニテハ、君主ヲ元首ト云フ、)民
主國ニテハ、統領ノ類(元首ト云フ、)

第一

君主國ニテ其得位ノ體裁(エントステーピングスホルメン、イッ、デル、モナヒル
ト、)

君主其位ヲ得ルノ體裁、古今數種アリ、

〔第一〕選立

太古羅馬ノ國法ニテハ、君主ヲ選立スル法ナリキ、又中古ニ及ヒ、教士ノ君主ナル國
ニテハ、エフト、ビシヨフ(按)共ニ教化師ノ官名及ヒ教皇(パプスト)スラ、皆選立ナリキ、其他匈牙

利、波蘭、非尼西亞ノ君主、及ヒ獨乙帝國等ノ君主モ亦、皆選立ニ因テ、其位ヲ得タリ、而シテ非尼西亞國ウシガ

ノ君主ハ、ドローゲト稱シテ、終身其位ニ在ルノ制度ナリキ、

〔第二〕世襲

此體裁中古ニ於テハ、之ヲ用ルノ國處々タリシカ、其後ニ至リ、漸ク歐洲各國ニ行ハレ
テ、今時ハ遂ニ一般ノ通法トナレリ、

〔第三〕世襲選立ノ合制

(按)元ト世襲ノ法ナレド、時アリ賢愚等ニ因テ、取捨選立スル制加爾達
類(按)古時亞弗利加ノ一國及ヒ古時日耳曼各國ノ制度ハ、世襲選立ノ二制ヲ合用セリ、(卷之四第

十五款ヲ參照スヘシ、

〔第四〕養嗣禪位ノ制

羅馬ニテ君主自ラ國法ニ因テ、其繼嗣ニ耐ル者ヲ選舉シ、之ヲ子養シ、以テ其
位ヲ禪リシコアリ、俄羅斯彼得大帝モ一時此ノ制度ヲ立テシコアリ、

六中一

第五 屬國君主ノ選任、大國ノ君主其屬國ノ君主ヲ選任スルコトアリ、中古ノカロリッゲル氏(中古佛朗哥國ノ王ニシテ、後ニ羅馬帝ニ登リシ氏族)及ヒ獨乙建國ノ初メ其小邦ノ君主ヲ選フニ、此制ヲ用ヒ、近今ニ至リテモ那破倫之ヲ用ヒ土耳其國亦之ヲ用フ、

第六 新建國君主ノ選立、新國ヲ建立スルニ方リテ、他各國之ヲ誤訴スルルハ、互ニ條約ヲ定メテ、其君主ヲ選立スルコトアリ、
第七 君主ノ自立、國家戰亂顛覆ノ際、其他危急存亡ノ秋ニ方ロテ、一家傑衆ニ擢テ、國家ノ大權ヲ掌握シ、以テ自ラ君主トナルコトアリ、(本卷第十一款ヲ參照スヘシ)去レテ此ノ如キ大事業、若シ公理ニ戻リ、正義ニ背リキハ、則徒ラニ覆法ノ叛民タルノミ、

比の利、テ、ゴローセ(按)普魯士國王、一千七百十二年ニ生レ、八十六年ニ殂ス、又比の利第二世ト稱ス、曰ク「臣民正義ヲ以テ君主トナルハ、唯選立制度ノ國ニ生レテ、其選立ニ應ル時、若クハ國家將ニ亡ビントスルニ方リテ、忠憤愛國ノ心ヲ以テ、再ヒ國家ノ不羈獨立ヲ復スル時ニ在ルノミ、」ト

第八 強大ナル外國ノ威力ヲ以テ、君主ヲ立置スルコトアリ、
以上諸體裁中、世襲選立ノ二法ニ就テハ、殊ニ其得失利害如何ニ於テ、諸大家ノ所見、及ヒ各國ノ公論紛然一定セザリキ、○選立ヲ以テ是トスル徒ハ、國家終始賢明ノ君ヲ得ント欲セハ、唯選立ノ法ヲ用フルニ如カスト云フ、元來選立法ヲ用フルノ本旨ハ、終始賢君英主ヲ要スルニ在リ、若シ世襲ノ法ヲ用フルキハ、賢明ノ君ヲ必得スル能ハサル、固ヨリ論ヲ須タス、加之選立ノ法ヲ用フル國ニ於テハ、其臣民タル者、司選侯、(ワールフルスト)按昔時獨乙國ニテ、國帝ヲ選擇スル權利ヲ有セシ侯伯ノ類、ノ國帝ヲ選擇スルニ方リテ、之ニ左袒スルト否トハ自己ノ意ニ隨ヒ、其可トスル者ハ之ニ左袒シ、否ラサル者ハ之ニ左袒セサルヲ得ルナリ、○此等ノ利アルヲ以テ、古昔ハ選立ノ法ヲ是トスル論、殊ニ

居多ナリキ、

然ルニ近今ニ至ルニ及ヒ、選立ノ法ヲ非トシ、却テ世襲ノ制ヲ是トス、其勢當ニ學者ノ議論上ノミナラス、世間ノ輿論、亦皆シ此制ヲ是トスルニ至ル、(近今ノ學者中獨シスモンキノミ、(二按)瑞士人一千七百七十三年ニ生レ、八百四十二年ニ死ス)選立制度ノ是ナル所以ヲ主張シタリ、○今下章ニ於テ將ニ選立制度ノ不可ナル所以ヲ論ゼン、

第一 眞ノ賢者ヲ選擇スル、甚ダ易事ナラス、然ル所以ニ二理アリ、選者ノ識鑒其當ヲ失シ、或ハ誤リテ疑德ノ小人ヲ選立ス、是レ一患ナリ、去レテ此選擇ノ一事ニ止ラス、人世萬事、十全ヲ求ムルハ、或ヘルノ甚シキ者ナレバ、此一失ヲ以テ、強テ選立ヲ不可ト爲ルニハ、アラス、尙一理ノ斷然不可ト爲サ、ル可テサル者アリ、凡ハ選立國ニテハ、才德衆ニ超ル者ハ、遂ニ君位ヲ得可キノ制度ナルカ故ニ、其選立ノ時ニ方リテ、權力熾ナル者ハ、獨リ其威ヲ逞クシ、其他比別ノ黨與起リ、公平ノ心ヲ以テ、國家ノ爲メニ謀カルコトヲ遠シ、各私心ヲ抱キ、私利ヲ營ムカ爲メ、遂ニ自餘司選者ノ權利ヲ屈燒シテ自由ノ道ヲ塞キ、以テ選擇公正ヲ蓋ス、不能ハサラン、是レ二患ナリ、是ニ於テ選立ノ制ハ、遂ニ虛器トナリ、其實、獨リ威力熾ナル徒ノ恣ニ其私ヲ營ム具タルニ過キス、羅馬ノ帝爵國タリシ時ニ於テ、此ノ如キ弊害多カリキ、

第二 動モスレハ、司選者中其好ム處ニ併シテ、之ヲ選舉セリ、欲シ、執拗シ、各黨相軋シ、實際猜忌ノ餘、遂ニ戰ヲ用ルニ至リ、國家ノ安寧ヲ害スル憂ヒ、昔時獨乙國ニ於テ屢シ、此ノ如キ弊害ヨリ、國亂ヲ生シ、シヨアリ、但、選立ノ制度ヲ改革シ、其宜シキヲ得ル、此弊ヒテ除ク、難キニアラス、是レ亦獨乙史止ニ歴然、シ、シ、モ、選立ノ國ニ於テハ、踐祚ノ争ヨリ、國亂ヲ生スルコト多シ、去レテ其勢ヒ、其頑執ナラス、國家ノ治安ヲ害スルモ亦淺シ、且鎖制ニ就クモ速ナリ、然ルニ世襲ノ國ニ至リテハ、之ニ由リテ國亂ノ生スルコト甚ダ希ナリ、ト雖モ、若シ一旦騷擾ノ起ルコトアルハ、其勢甚ダ頑執ニシテ、國家ノ治安ヲ傷ルコト少カラス、且ツ之ヲ撲滅スルモ亦甚ダ易事ニアラ

スト謂ヒシハ理ナシト云フ可ラス。

〔第三〕選立數次ナルニ隨テ、曾テ王位ヲ得シ諸家國國ニ充滿シテ、互ヒニ相猜忌シ、各其志ヲ逞ウセト欲シノテ、相爭奪スルノ愛ヒアリ。○此愛ヒハ既ニ隆盛ナル國及ヒ將ニ衰運ニ傾ントスル國等ニテハ、最モ恐ルヘシシテ、國家ノ安寧ヲ害スルノ最モ劇シ、舊羅馬ノ帝國國タリシ時ニ於テ、此禍害多カリキ。○但シ將サニ隆盛ニ至ラントスル國ニ於テハ、此ノ如キ禍難ニ因テ、却テ國家ノ榮利安康ヲ増進スルコトアリ、其例ハ舊羅馬ノ帝國國タリシ時及ヒ民主國トナリシ頃ノ事迹ニ於テ明瞭ナリ。

〔第四〕元君既ニ没シテ、未、嗣君ヲ選立セザルニハ、一時虛位ノ國ツキッセンレイフトナルヲ以テ、是レニ因リテ生スル所ノ禍害亦甚カラズ。○加持力教派(按)一ニ天主教ト云フ)ニテ、其教皇ノ没シタル時、速ニ嗣位ノ教皇ヲ選立スルノ却律ニ倣テ、先君ノ没後、速ニ嗣君ヲ選立スルノ規律ヲ設ルル歟若クハ先君主ノ未タ没セサル時ニ於テ、預メ嗣君ヲ選擇スルノ制度ヲ設ルルハ、一時虛位ノ國トナルカ爲メニ生スル所ノ愛患、或ハ少シク減スヘキカ如シト雖モ、未タ全ク此愛患ヲ根去スト爲ス可ラス。○世襲ヲ非視スル徒ノ論說ニ、世襲ノ國ニ於テ、先君既ニ没シ、嗣君尙幼冲ナルハ、攝政之ニ代リテ、權ニ萬機ヲ掌ルト雖モ、必シモ嗣君ノ爲メニ謀ラス、動モスレハ竊カニ其私ヲ營ム者ニシテ、是レニ因テ生スル所ノ禍難亦甚カラズ、加之此禍難ノ時間ハ、選立國ニテ一時虛位國トナルカ爲メニ生スル禍難ノ時間ヨリモ甚大ナリト云フ(佛國ニ此ノ如キ禍難ノ起リシコト多ク次之アリ)。

〔第五〕司選侯動モスレハ其戚族ヲ選立シテ、世々君主トナサンテ謀ルノ恐レ少カラズ、且ツ又選立國ニテハ、動モスレハ君主自ラ大憲ヲ破ルノ愛ヒアリ。○司選侯ノ權力愈々強大ニシテ、能ク大權ヲ其掌中ニ握ルニ堪ルルハ、是等ノ害亦隨テ愈々大ナリ。

世襲法ノ選立ニ由ル所以ハ、下文ノ數條ニ於ルカ如シ。

〔第一〕王室ト臣民ト相親附スルコト、譬ヘハ指頭首相連絡スルカコトトシ、且ツ其相維持スルヤ、畜ニ一身ノ終生ニ止ルノミナラス、世々繼續シテ斷絶スルコトナシ、是故ニ國家ノ元氣終古衰頽セ

ス、民心ノ和同永ク保存スヘシ、蓋シ世襲君主ハ實ニ國家ノ全力ヲ會メテ、之ヲ一身ニ寄ル者ナリ。

〔第二〕是故ニ世襲君主ハ、實ニ國家ノ全力ヲ一身ニ會ムル者ニシテ、億兆ト世々其存亡ヲ共ニス、故ニ其愛樂利害亦全ク異ナラス、王室ノ利樂ハ、獨リ王室ノ利樂ナルノミナラス、即チ共ニ臣民ノ利樂ナリ、臣民ノ愛患ハ、獨リ臣民ノ愛患ナルノミナラス、即チ共ニ王室ノ愛患ト云フ可ク、盛衰興亡都テ相共ニシテ、決シテ相離レサルナリ。○世襲君主ニアリテハ、實ニ無道ヲ極メテ、子孫ノ存亡ヲモ顧ミサル暴君ニアラサレハ、彼ノ余カ没後大洪水アルヘシ(按)佛國王路易第十五世ノ暴言ニシテ、己レ終身暴逆無道ヲ極メテ一身ノ欲ヲ充レハ足レリ、子孫ノ存亡與敗ニ至テハ、天命ニ任セテ敢テ顧ミスト云フノ意ナリ)ト云フカ如キ暴言ヲ發スルコトハ、決シテ有ラサルヘシ、然ルニ選立君主ノ如キハ、縱令ヒ英明ノ人ト雖モ、一旦私欲ノ念發スルニ至リテハ、動モスレハ國家億兆ヲモ顧ミス、恣意無道ヲ極メテ以テ國家ノ敗亡ヲ招クコトアリ。

〔第三〕王室ト臣民ノ愛樂利害全ク相異ナラス、且ツ奕世君トナリ臣トナリテ相離レサル、指頭首相連絡スルカ如クナルカ故ニ、君臣相愛スルコト情甚タ深ク、億兆ハ一君主ヲ親戴シ、其尊榮ヲ畏敬シ、以テ一君ノ身ハ、即チ是レ國家全力ノ相會マル所ナリト爲ス、是ニ於テ臣民ノ王室ヲ尊崇シ、王事ニ勤勞スルノ赤心益々深ク、隨テ國民ノ性情頗ル寛厚トナリ、其志操モ亦大ニ増進スルヲ得ヘシ。

〔第四〕世襲君主ハ、一身ノ嗜欲及ヒ國家ノ經濟ニ於テ、能ク節度ヲ守ル者多シ、蓋シ今日ノ需用ニ於テ足ラナク知テ、唯失ハントナリテ恐ル、カ故ナリ、是故ニ嗜好ノ慾ヲ恣ニスル、自ラ少ク、常ニ能ク容忍スルモノニシテ、隨テ國家モ亦自ラ豐富ヲ得ルノ理ナリ。

〔第五〕世襲制度ノ國ニテハ、臣民實祚ヲ覬覦スルノ意ヲ生スルコト少シ、縱令ヒ臣民中ニ威望勳勞衆ニ踰ル英傑アルモ、敢テ王位ニ昇ル能ハス、若シ又國家ニ朋黨起リ、互ニ相猜争シテ、其首魁タル者大ニ威力ヲ逞ウシ、國權ヲ操ント欲スルモ、遂ニ君威ニ防遮セラレテ、其志ヲ遂ルコト能ハス、一世襲選立ノ利害得失ハ、以上ノ數條ニ論スルカ如シ、去レテ古來預メ斯利害得失ヲ論究シテ、然後ニ此二制ノ

可否ヲ參決シ以テ其國制ヲ立シモノハ殆希ニシテ多クハ唯古今ノ事迹現在ノ形勢ニ由テ之ヲ定ム畢竟從來因襲ノ制度ニ從フ一最モ緊要ナリ(シスモノナキ論ニ己ムヲ得サル)出テスシテ從來ノ制度ヲ改革スルハ實ニ恐ルヘキ禍害ヲ招ク一必然ナリト云ヘリ

古今沿革ノ蹟ヲ歷着スルニ世襲國ノ一變シテ永ク選立國トナリシハ殆ソト罕レナリ但シ一旦舊王室倒レテ一時選立國トナリシニ無キニシモアラサレハ又直ニ再變シテ選立君主遂ニ新王室ヲ開キ以テ其位ヲ子孫ニ傳フルヲ得シ一多シ○古來選立世襲ニ制共ニ或ハ幸ニシテ數世ノ久シキニ延ル者アリ或ハ不幸ニシテ速ニ斷滅セシ者アリ○或ハ專ラ賢明ヲ貴フ國アリ或ハ專門閥ヲ貴フ國アリテ其意趣各相同シカラス其利害亦時ニ隨テ各殊ナリ○民風衰敗セシ國ニテハ不徳ノ小人ヲ選立シテ其非ヲ悟シス羅馬帝國ノ事蹟ヲ以テ鑑戒トナスヘシ○王室無衰存亡スル所以ノ理宛カモ活物盛衰死生スル所以ノ理ニ異ナラス王室既ニ數世ノ久シキヲ經テ其元氣漸ク衰弊スルコト例ヘハ佛朗哥國(按)歐洲ノ古國)ノメロウソウ朝(按)佛朗哥國初世ノ王室)ニ於ケルカ如ク又君民ノ間相和セスシテ互ニ仇視スルコト例ヘハ英國ノ斯丟亞爾的朝(按)英國ノ先朝)ト其臣民トニ於ルカ如ク又君民ノ心情全ク相離隔スルコト例ヘハ佛國ノボウルボン朝(按)佛國ノ先朝)其臣民トニ於ケルカ如ク或ハ國列邦ノ民心全ク和同セント欲スト雖モ其君主ハ之ヲ喜ハスシテ却テ外國政府ニ依頼シテ其擁護ヲ仰クコト例ヘハ以太利列邦ニ於ケルカ如クナルハ臣民遂ニ國王ノ心ヲ遠シ暴力ヲ以テ之ヲ倒シ遂ニ新王室ヲ戴テ國家億兆ノ和力ヲ復スルハ必然ノ勢ナリ

○國民門閥ヲ重シテ系統尊キ王室ヲ喜フノ情アルハ即世襲制度ノ堅固ニシテ壞レ難キ所以ナリ佛國スラ尙ホ未タ此情ヲ脱セサルハ嘗テ路易那破倫(按)那破倫第三世ナリ)ヲ選擇セシニテ明瞭ナリ但佛國ノ如ク古來數次ノ革命アリテ數王家ノ子孫今尙存ル國ニ於テ君

主政體ヲ存セント欲セバ選立制度却テ利アルヘシ

第六款 世襲法(マス、ニル、ブント)

近世文明開化ノ世トナリシ以來公都テ公私ヲ混淆スルコトナキカ故ニ世襲繼位ノ事ニ就テモ必ズ茲ニ着意シテ繼位ト繼統ト別ヲ明カニシ繼位ヲ以テ國家ノ公事トナシ繼統ヲ以テ王室ノ私事トナシ○去レハ繼位法ハ素ト世襲ニシテ子孫繼續スルヲ主ト爲スカ故ニ全ク繼統法ト相離ル者ニアラス必此法ニ因テ繼位法ヲ定ムル者ナリ

(第一)世襲法ハ國法上ニ於テハ必預定スルコト緊要ナリ然ル所以ハ此事殊ニ國家ノ安危ニ關スル甚大ナルナリ(中古ハ國法上ニ於テハ預メ世襲法ヲ確定スルコト無カリシカ故ニ王族等動モスレハ此事立リ爭論ヲ開キタリ)○是故ニ世襲法ハ必憲法ヲ以テ確定スヘシ決シテ君主ノ意ヲ以テ之ヲ變改セシム可ラス是即通則ナリ古時羅馬ニテハ此ノ如キ制度アラサレバ獨乙ノ私法ニ於テハ此規律既ニ備ハレリ○抑嗣君王位ヲ繼クノ權利タルヤ直ニ之ヲ先君ニ受ルニアラス又先君ノ私身ニ代リテ之ヲ得ルニアラス嗣君ノ之ヲ得ルハ自カラ當然ノ法アリテ之ヲ得ル者ニシテ此事獨乙ノ家産相續法(マス、グロウ、ス、ツ、ツ、ツ、ツ)其理ヲ同ウス○王室一系譬ヘハ一體ノ如ク歷世子々孫々相續シテ斷絶セズ先君沒スレハ嗣君當然ノ權利ヲ以テ直ニ其位ヲ繼ク者ニシテ實詐須臾モ空虛ホラサレハ恰カモ一王ノ永ク死セサルカ如シ

(第二)是故ニ嗣君位ヲ繼クノ權利ハ先君沒シテ然後ニ始メテ得ル者ニアラス必預メ確定スル所ノ者ニシテ實ニ至重ノ權利ナルカ故ニ嚴ニ國法ヲ以テ保護スヘシ君主ノ權雖モ決シテ與奪ヲ恣ニスル能ハサルナリ

歐洲ニテハ藉土ノ制(レ、ヘ、ン、ス、シ、ス、テ、ム)按)稍封建ニ類スル制ナリ卷ノ四第九款ニ詳ナリ大ニ此繼位法ノ起立ニ裨益ヲ爲シタレハ此法タル決シテ其裨益ノミニ因テ起立セシニハアラス繼位ノ事亦實ニ最大公事ナルヲ以テ自カラ起立セシ者ニシテ之ヲ要スルニ此事誠ニ國家ノ大事ナ

レハナリ。故ニ最近ニ至リ、諸土ノ制ハ全ク壞レタレトシ、繼位法ハ共ニ壞ル、コトナク、今仍ホ依然タルハ、蓋シ此理有ルニ因テナリ。

〔第三〕繼位法ハ方今必ス國憲(スターツヘルハッスング)ニ載繼テ確定スル所ニシテ、國憲諸條中ニ於テ重大ナル者ノ一ナリ。

繼位ノ事ハ右ノ如ク至重至大ナルヲ以テ、君主ト雖モ私意ヲ以テ輕シシク動ス能ハサル者ナリ、是故ニ君主遺言或ハ婚媾條約(エーヘルタラグ)〔按〕婚媾ノ時ニ方リテ、將來ノ事ニ就テ、互ヒニ結フ所ノ條約ナリ)又ハ王室ノ一家憲法(ハウスケセツ)等ニ依テ、國憲ヲ犯シテ繼位法ヲ變史スルコトハ萬々得可カラサル者ト爲ス。

中古ノ世ハ實祚ヲ以テ君主ノ私有トナシ、且ツ常ニ國法私法ヲ混淆シテ、未タ其別ヲ立ルヲ知ラサリケレハ、此繼位ノ事ニ就テモ亦、人々ノ所見全ク今世ト異ナリキ、但シ其頃ノ所見今尙未ダ全ク滅盡セス、方今ノ國法中、儘其遺跡ノ存スル者ナキニアラサレハ、既ニ漸次漸消スルノ時ト到レリ。

〔第四〕繼位ノ權利ハ、此ノ如ク公明正大ノ理ニ出ルヲ以テ、方今立憲國(按)立憲政體ヲ立ルノ國ナリ)ノ文明ナル制度ニ於テハ、繼位法ヲ變革セント欲スレハ、必ス國憲ヲ改正スル規律ニ從テ、立法諸部局ノ議定ニ因ラザルコトナク、且ツ君主ノ外尙ホ王族中ニテ、法位ノ事ニ與カル者モ亦、此會議ニ加ハリテ、共議スルヲ要ス、但シ國憲中若此件ヲ載セサレハ、必スシモ之ヲ要セサルコト、猶新法ヲ以テ

一ニ公權利ヲ變革スルニ方リテ、此公權利ヲ有スル者、其會議ニ加ハルヲ要セサルコトナシ、繼位ヲ變更スルノ法數種アリ、或ハ全ク從來ノ繼位法ヲ廢シテ、更ニ其新法ヲ設クル者アリ、或ハ唯一人ヲ除ク者アリ、或ハ并セテ子孫ヲ除ク者アリ、(英國ニテスツアルト氏ヲ廢シ、瑞典國ニテグスターフ第四世ノ子孫ヲ廢シ、佛國ニテボウルボン氏ノ宗家ヲ廢セシノ類是ナリ)又ハ唯一人ヲ立ルコトアリ、或ハ并セテ子孫ヲ立ルコトアリ、(一千八百十年瑞典國ニ於テ、佛國ノマルシャルベルナドッテヲ立タルカ如シ、但シ此時尋常ノ廢立法ヲ用ヒス、ベルナドッテヲ先朝ノ養嗣トシ、其位ヲ繼カシメシカ故ニ、其處置最モ容易ナルヲ得タリ。

〔第五〕世襲法ニ於テ、男ヲ先キニシ、女ヲ後ニスルハ、各國皆同シ、唯其制限ニ至テハ各相異ナリ。

甲 佛國ノ國法ハ羅馬ト同クシテ、女子ハ必ス王位ヲ繼クコト能ハス、瑞典比耳時及ヒ普魯士等亦然リ。

乙 獨乙各國ノ法ニテハ、王族中男子ノ位ヲ繼クヘキ者アレハ、女子決シテ繼位スルヲ得ス、但シ男子全ク缺クルキハ、血統最モ近キ女子位ヲ繼クヲ得、去レハ其子ニ至リテハ、又男ヲ先キニシ、女ヲ後ニスル仍ホ前法ノ如シ、荷蘭國亦然リ。

丙 英國ノ法ハ、本族中男子缺クレハ、繼位ハ支族中ニ男子アリト雖モ之ヲ措キ必ス本族中ノ女子ヲ立ツ、西班牙、葡萄牙亦然リ、此法ヲ用フル國ニ於テハ、王室氏族ノ變革スルコト多クナリ、(按)英人一千七百二十三年ニ生レ、八十年ニ死ス)ノ著書ニ、英國ニテハ、近二百年間、氏族ノ變シタルコト四次ナリ、第一オラニー氏、第二アラウンスワイツ氏、第三ハノーヘル氏、第四コブルグ氏はナリ。

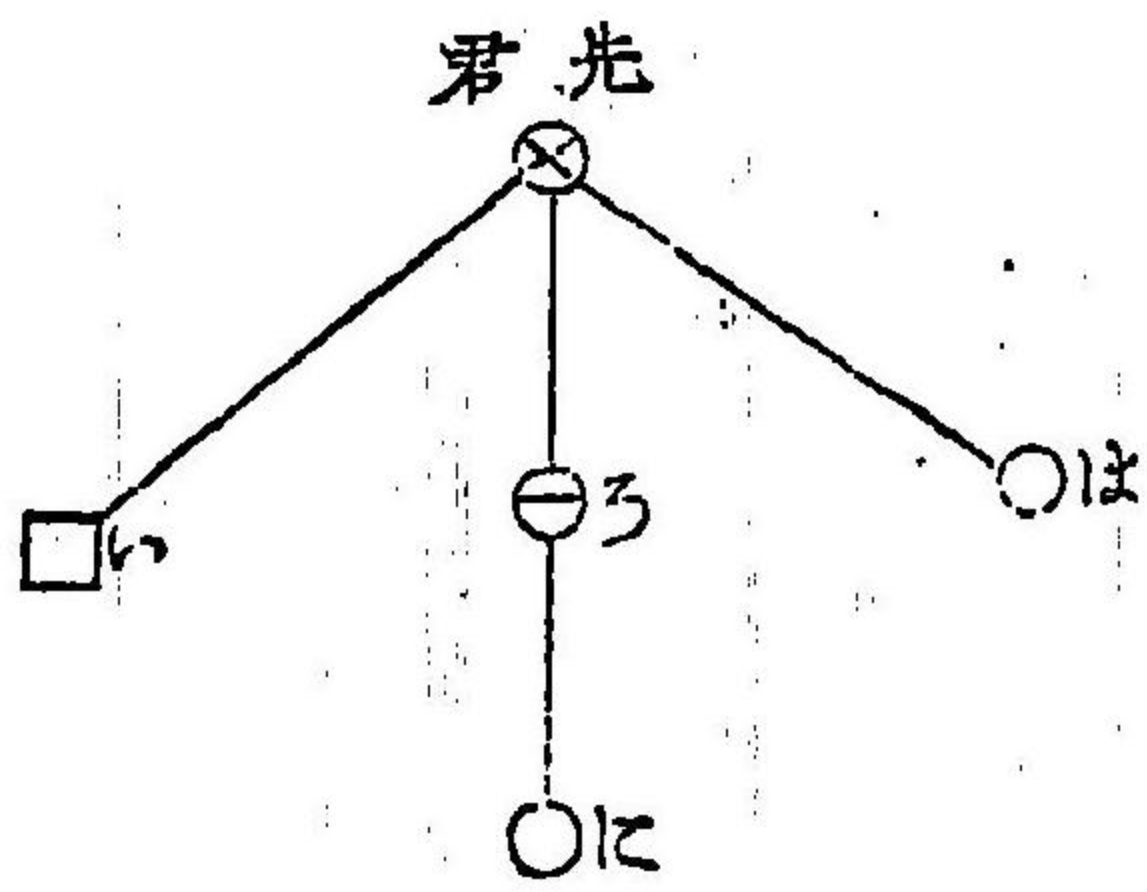
〔第六〕國家ハ專ラ一致和同ヲ要ス、故ニ決シ其版圖ヲ分割スルヲ許サス、故ニ其數人同時ニ王位ヲ繼クヲ許サス、○中古佛朗哥國及ヒ其他ノ各國ニテ、版圖ヲ分割シテ、之ヲ許多ノ嗣君ニ與ヘシコト、譬ヘハ猶尋常遺物ヲ數子ニ分與スルカ如クナリシカ、是レ全ク國家ヲ以テ、君主ノ私有ト爲スノ習俗ヨリ起リシナリ。

〔第七〕世襲繼位ハ、唯嫡出ノ子ニ許スヘシ、決シテ庶山ノ子ニ許スヘカラス、且ツ其他婚媾條約中ニ、將來所生アルモ、決シテ王位ヲ繼カシメサルノ旨ヲ載セシキハ、其子ハ實ニ嫡出ナレハ、敢テ繼位ヲ許スヘカラス、(此ノ如キ制度ヲ立ルハ、他ニ己ヲ得ス、繼位セシムヘキ者有ルヲ以テナリ、去レ若シ此者ノ繼位權利ヲ廢スルキハ、此子直ニ繼位ノ權利ヲ得ヘシ)

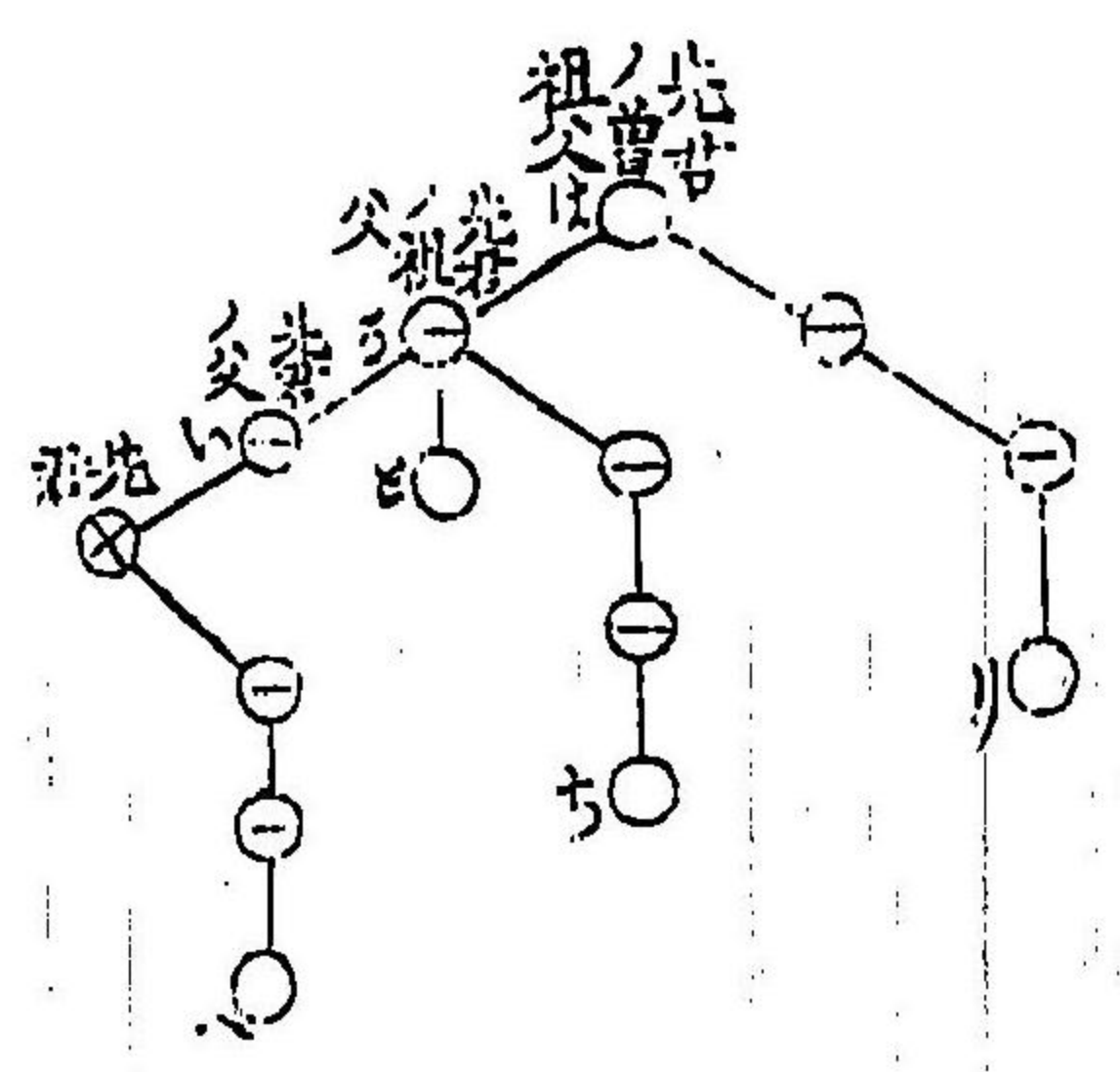
○上ノ〔第四〕ニ論スルカ如ク、國憲ヲ以テ繼位法ヲ變スルキハ、此ノ如キ王子ト雖モ、或ハ亦繼位ノ

權利ヲ得ルコアリ、但シ王室政ヲ私ニ此ノ如キ變史ヲナスヲ得ズ、
 (第八)其他各國近令ノ國憲ニ於テハ多クハ唯同等ノ婚媾(エドモンビルナゲ、エー)〔按〕門閥同
 等ノ男女相婚スルノ義)ニシテ生ル、所ノ子ニ非サレハ敢テ繼位ヲ許サ、ル法ナリ。○現ニ君位ニ在
 ル所ノ氏族、或ハ往時君位ニ在リシ氏族ノ男女、相婚スルヲ稱シテ、同等ノ婚媾トナス、且シ獨乙ノ
 國法ニテハ、輒近君權ヲ奪ハレシ高貴族(スタンデスヘル)ト相婚スルモ亦同等ノ婚媾ト稱シテ
 可ナリ。○然ルニ又儘一家憲法ニ於テ、他族ト相婚スルモハ、縱令ヒ其氏族、國ノ高貴族ニ列スルト
 雖モ、之ヲ同等ノ婚ト稱セサルモ、ハアリ、此事甚ク頑陋ノ習ニシテ、中古ノ風俗ニモ猶劣レリ、
 婚媾ノ一ニ就テ、此ノ如ク制限ヲ立テ、獨乙固有ノ風俗ニシテ、其源ハ私法ヨリ轉シテ、繼位法
 ニ波及シ、今ニ至リテ其遺習ノ尙存スル者ナレバ、大ニ門閥懸隔ノ風ヲ長スル者ニシテ、開化文明ノ
 今日ニ於テハ、決シテ緊要ノ事ト爲スニ足ラス。
 (第九)王家婚媾ノ一ハ、重大ニシテ、其生ル所ノ子、實ニ父ノ私有ヲ得ルノミナラス、兼テ亦繼位ノ權
 利ヲ得ル者ナルカ故ニ、必先國君或ハ代國府ノ許諾ヲ得テ、然後此婚媾ヲ定ムルコト固ヨリ緊要ナ
 リ、何者、此事ノ處置、大ニ國家將來ノ榮辱安危ニ關係スレハナリ。○故ニ此事ニ就テハ、國君及ヒ代
 國府、專ラ國家將來ノ榮辱安危ヲ慮スルコト甚ク緊要ニシテ、決シテ勿ク輕舉ス可カラス、去レテ此事
 既ニ關心ノ累ナゲレバ、自餘ハ都テ、相婚媾スル男女ノ意ニ任スル、固ヨリ當然ナリ、然ルニ尙種々ノ
 陋習ヲ守リ、或ハ他族ノ混同ヲ忌ムテ、男女自由ノ權利ヲ限制スルハ、甚ク非理トス。○王家婚媾ノ
 事ハ、右ノ如ク重大ナルヲ以テ、方今各國ノ國憲、必テ其規律ヲ裁定ス。○
 (第十)西班牙國一千八百三十七年(天保八年)ニ議定スル所ノ國憲第四十九條ニ、左ノ又キ舉ク、曰ク
 「國王將ニ婚媾セントスルニ方リ、必先其旨ヲコレテス。」按一守法府ノ稱號ナリ、ニ告示シ
 而シテ其婚媾條約ニ必シ此府ノ檢査ヲ經テ其許可ヲ取リテ、然後ニ之ヲ締結スルコト、嗣君ノ婚媾ニ
 於ケルモ亦然リ、且シ國君嗣君共ニ憲法ニ於テ、繼位ヲ許サ、ル者ト相婚スルヲ禁ズ、又葡萄牙國

一千八百三十六年(文政九年)ニ議定スル所ノ國憲第九十條ニ、左ノ又キ舉ク曰ク、「若シ自今王子
 ナキカ爲メニ、王位ヲ繼クヘキ王女ハ、必ス國君ノ許可ヲ得サレハ、婚スルコト能ハス、若シ國君既
 ニ没スレバ、必スコレテスノ許可ヲ經テ、然後ニ婚ス、シ而シテ其贅夫ハ、敢テ國事ヲ預ルコト許サ
 ス、且ツ所生アルノ後ニアラサレハ、ケリニシ。」按通常王ト譯ス、ソ號ヲ用フルヲ許サズ、
 (第十)繼位ノ序次ニ於テハ、方今各國皆長幼ノ序ニ從フ法ナリ、此故ニ先君没スレハ、長子必ス其位
 ナリ、長子若シ先君ニ先ツテ没スレバ、長孫之ヲ繼テ、先君ノ次子ハ之ヲ繼クヲ得ズ、其餘都テ亦此
 ノ如ク、必ス本系ヲ先キニシテ、支系ヲ後ニシ、且シ一系中ニテハ、必ス長幼ノ序次ニ從フ、而シテ其規
 律獨リ本族中ニ於テ用フルノミナラス、支族ニ於テモ亦同シ。○繼位ヲ定ムルコト、固ヨリ君主ノ意
 ニ出ル者ニアラサレハ、其序次ニ就テ、族系ヲ親疎遠近ヲ定ムルハ、必ス最後ノ君主夫本位トシテ、之
 ナ論ス、故ニ祖君ハ、素ト此繼位權利ノ生セシ濫觴ナレハ、却テ之ヲ以テ本位ト爲サス。○此事ノ意ハ
 戚族中男子悉ク没シテ、王位女子ニ移ルノ法ニ於テ、自カラ明瞭ナルヲ得可シ。○
 (第十一)ナル孫ハ、(第十二)ナル女、及ヒ(第十三)ナル子ニ先ツテ王位ヲ繼リ、
 (第十四)ハ兄弟姊妹ニテ、○ハ男、□ハ女、○ハ既ニ没シタル男ナ
 リ、即本文先君ノ長子、父君ニ先ツテ没セシ片ハ、其孫王位ヲ繼テ、
 長女及ヒ次子ハ繼ク能ハサルヲ示スナリ

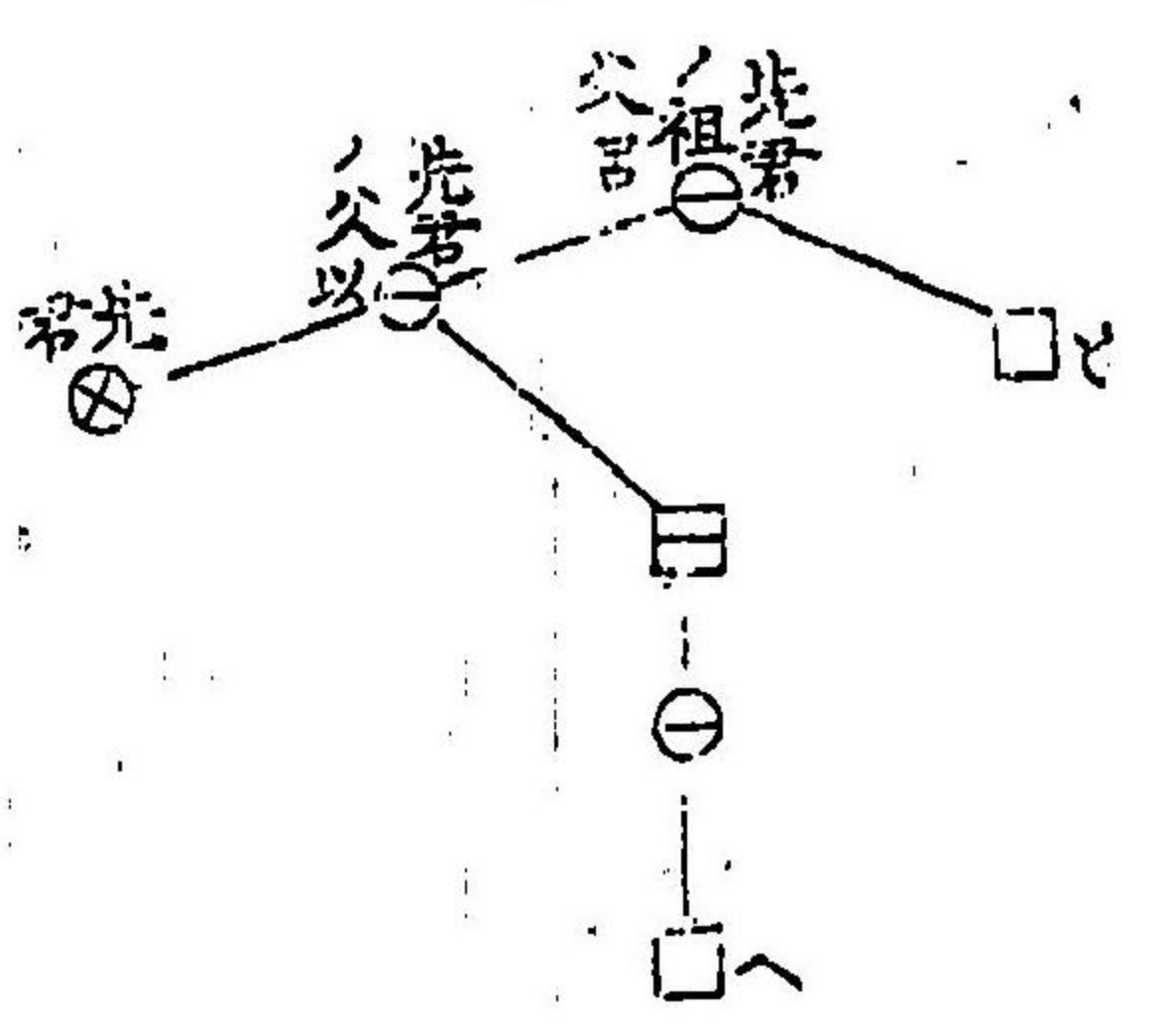


〔按〕(第十一)ハ兄弟姊妹ニテ、○ハ男、□ハ女、○ハ既ニ没シタル男ナ
 リ、即本文先君ノ長子、父君ニ先ツテ没セシ片ハ、其孫王位ヲ繼テ、
 長女及ヒ次子ハ繼ク能ハサルヲ示スナリ



①ナル行孫ハ、②ナル叔父及ヒ③ナル支族ニ先ダテ、又④ハ⑤
ニ先ダテ、⑥ハ、更ニ⑦ニ先ダツ、
〔按〕本系ヲ先キニシテ、支系ヲ後ニシ、且ツ支系中ニモ近キヲ先
キニシテ、遠キヲ後ニスルヲ示ス、即チ本系ニ子ナキハ、先ツ第
一系ニ移リ、更ニ第三、第四ニ移ルナリ、

②世昔ク知ル如ク、埃地利國ニテ、嘗テハブスブルグ氏ニ、男子全ク、缺ケシ時、最後ノ君主ニ最モ親近
ナル女子、宜シク繼位スヘキヤ、若クハ昔時男子ニ先キタ、レテ、王位ヲ繼カサリシ女子、及ヒ其子孫
ハ、往時ノ王ニ親近ナルヲ以テ、今宜シク繼位スヘキヤノ疑議起リ、容易ニ決セサリシカハ、遂ニ第一
論ニ決シ、最後ノ君主ニ親近ナル女子ヲ以テ、王位ヲ繼カシメタリ、バイエルン國ノ國憲ニ載スル
所モ、亦之ニ同シ、○此ノ如ク男子全ク缺ケテ、女子王位ヲ繼クノ序次ニ至リテハ、各國大抵羅馬ノ法
ニ從テ、血脉ノ近キ者ヲ先キトセズ、獨乙ノ法ニ從テ、族系ノ近キ者ヲ先キニシ、而シテ同系中ニテハ
血脉ノ近キ者ヲ先キニス、即チ左ノ圖ノ如シ



①系ニ屬スル所ノハナル從叔女ハ、②系ニ屬スル所ノハナル叔母
ニ先テ位ヲ繼ク
〔按〕族系ノ近キ者ヲ先キニシテ、血脉ノ近キ者ヲ後ニスル所
以テ示ス、即チ①ナル叔母ハ、血脉ニ於テハ、②ナル從叔女ヨリ
近ケレバ、族系ニ於テハ、從叔女ハ叔母ヨリ近キヲ以テ、先ツテ
王位ヲ繼クナリ、

但シ若シ族系血脉共ニ同シキ時ニハ、弟ヲ先キニシ、姉ヲ後ニ爲スヘキヤ、或ハ男女ヲ論ヤス、只長
幼ノ序ヲ用ユヘキヤ、否ニ至リテハ、定則ナシ、英國ノ如キハ、必ス弟ヲ先キニシテ、姉ヲ後ニスル
ノ法ヲ用ヒ、獨乙ノ數國ニ於テハ、男女ヲ論セス、唯長幼ノ序次ニ從フ者アリ、
獨乙ニテハ、長子繼位ノ法、以選侯ノ國ニ於テ始メテ創立シ、爾後獨乙諸國ニ傳播シタリシカ、此法未
ダ立タサリシ前ニハ、各國繼位ノ事ニ就テ爭亂多カリキ、
〔第十一〕君主ノ遺物中ニ就テ、國法ニ屬スル者トシ、私法ニ屬スル者トシ、綿密ニ分別スヘシ、其國法ニ
屬スル者トハ、第一ニ、君主ノ王位ニ在ルヲ以テ、掌握スル所ノ諸公權利〔按〕權利ハ無形物ナレバ
遺物中ノ尤モ重大ナルモノナリ、次ニ、國憲、或ハ一家憲法ニ載定スル所ノ所有物是ナリ、其他創立
建造ノ事ニ由リ、或ハ君主ノ遺言ニ由リテ、國法ニ屬スル遺物トナル者アリ、又私法ニ屬スル遺物ト
ハ、全ク君主ノ私有物ナリ、○國法ニ屬スル所ノ諸遺物ハ、必ス國法ノ定ムル所ニ從テ、唯嗣君獨リ之
ヲ受ルヲ得、私法ニ屬スル所ノ諸遺物ニ至テハ、私法ヲ以テ之ヲ處分ス、是故ニ敢テ實祚ヲ以テ、王家

ノ私遺物ト爲ス可カラス。單ニ私遺物ヲ受ル者ハ、敢テ公遺物ニ關スルノ權ナシ。

○ハリエルン國ノ國憲ニ屬スル遺物ト私法ニ屬スル遺物ノ別ヲ詳ニ記載ス。其國法ニ屬スル遺物トハ、即チ左ノ條件是ナリ。第一、諸簿冊、第二、公事ニ屬スル諸館舍、及ヒ其附屬ノ物件、第三、砲銃、彈藥、兵庫、及ヒ民兵ノ要具、第四、王居ノ樂人、及ヒ吏員ノ官舍、其諸器械、(此器械ハ、王居總裁ノ管スル所ニシテ、王居ノ用ニ供シ、或ハ之ヲ以テ王居ノ盛典ヲ示スナリ)、第五、王居、或ハ宴宮ノ建造、又ハ其粧飾ニ用フヘキ諸具、第六、家寶、及ヒ先君ノ之ニ附加セシ物件、第七、文庫、理學器械庫、天工、諸庫、貨幣庫、古物庫、肖像庫、天文臺、及ヒ其諸器械、圖書庫、銅版圖書庫、其外學術獎勵ノ爲メニ必要ナル物件、第八、國庫貯藏スル所ノ貨幣、及ヒ其他貨本、官舍貯藏スル所ノ天工品、及ヒ歲入ノ未收納セサル物件、第九、公費ヲ以テ得ル所ノ諸物件、其他私ニ得タル不移動物トイヘトモ、先君未嘗テ之カ處置ヲ爲サ、レハ、是モ亦國法ニ屬スル遺物トナルナリ。

第七款 繼位ニ就テ、人體ノ應否(ハルセソリ)、エルホルデルニッセ、デル、ヘーヒグカイト、ツ

〔第一〕中古ノ時代ニハ、各國共ニ、藉土法ノ規律ニ因テ、君位繼嗣ノ法ヲ定ムルコト、殆ト舉世ノ風俗ナリキ、故ニ俗君ノ國(按)教士ニ非ル徒、治ル國チ云フ)ニテハ、總テ教士ノ君位ヲ繼クヲ禁シタリ、例ヘハ、ロンドンゴバルデン(按)中古歐洲ノ一國)ノ藉土法ノ如キ、則チ此禁アリ。○加特力教ノ教士ハ、都テ教皇ノ扶持ヲ仰クヲ以テ、若此徒ヲ舉テ君位ニ莅マシムルハ、之ニ由テ大ニ獨立不羈ノ權ヲ害シ、且ツ國家ノ國家タル所以ヲ失フヲ以テ、今時各國ノ國憲ニ於テモ、亦教士ノ繼位ヲ禁スルコト、古ニ異ナラス、去レテ教士タル者、若シ國家所定ノ規律ニ從テ其職ヲ辭シ、還俗スルハ、繼位ヲ許スコト當然ナリ、但シ素ト教士ノ君權ヲ執レル國ニテハ、此ノ如キ制度ナキコト、固ヨリ論ヲ俟タス。

波羅特士且教派(按)通常耶蘇教、又耶蘇正教ト譯ス、即羅馬教皇ノ管轄ヲ受サル派ナリ)ニテハ、素ト教士ト俗人トノ別ヲ立ルコト、加特力教派ノ嚴ナルカ如クナラス、且ツ教派ノ職官ヨリ、國家ノ職官

ニ轉スルコトモ、決シテ妨ケナキヲ以テ、繼位ノコトニ於テモ、亦絶テ加特力教派ノ如キ制限アラズ、

〔第二〕今時繼位ニ就テ、必ス教派ヲ一定シ、其教派ヲ奉スル者ニアラサレハ、敢テ繼位ヲ許サ、ルノ法ヲ立ル國アリ、

中古ノ頃ハ、專ラ教派ノ同一ヲ貴シ、且ツ國事ト神事ト全ク一致シ、決シテ相離シサルヲ以テ、其本旨トセシカガ、(按)即祭政一致ナリ)此ノ如キ制限ヲ立テシモ、固ヨリ當然ナルコトニテ、既ニ帝ト雖モ、若シ教旨ニ背畔スルハ、直ニ教罰(キル、ペン、バン)〔按〕加特力教派ノ旨意ニ背クハ、羅馬教皇ノ權威ニテ、之ヲ教派ヨリ除クノ罰ナリ)ヲ受ケ、隨テ國憲ヲ失フコト常ナリキ。○然レモ、近今ニ至リテハ、固ヨリ國事神事一致ノ論亡ヒテ、全ク離レシ者トナリ、(按)近今祭政一致ノ論全ク亡ヒシハ、蓋シ開明進歩ノ致ス所ナリ)且ツ君主ノ權柄絶ヘテ、其信奉スル所ノ教派ニ因ルヘキ者ニアラサレハ、敢テ此ノ如キ制限ヲ立テ、規律ト爲ス可ラス、但シ若シ君主信奉スル所ノ教派臣民信奉スル所ノ教派ト相異ナルハ、之カ爲ニ臣民王室ヲ尊崇スルノ心ヲ去リ、且ツ君主其教派ヲ信仰スルコト甚ク厚ク、レハ、安ニ威力ヲ特テ臣民ノ教派ヲ妨害スルノ憂ヒ少カラズ、故ニ君民共ニ同一ノ教派ヲ奉スルハ、大小可ナリ、唯此事ヲ以テ規律ト爲スハ、甚不可ナリ。○但シ基督教ヲ奉スル所ノ各國、方今ハ法理大ニ開明シテ、既ニ頑陋ノ事モ絶ヘダレハ、繼位ニ就テモ、唯基督教ヲ奉スルコトヲ以テ、其制限ヲ立テ、自餘瑣末ノ流派ヲ論スルカ、如キ陋習ヲ廢棄スルニ至ラハ、將來益不可ナルナカルヘシ。

然ルニ英國ノ如クハ、嚴ニ制限ヲ立テ、其國法ニ於テ、波羅特士且王國ト自稱シ、必波羅特士且教派ノ君、其王位ヲ繼クニアラサレハ、決シテ國家ノ安康ヲ保ツコト能ハスト爲ス、故ニ加特力教ヲ奉スル者、及ヒ此教派ヲ奉スル者ト相婚セ、者ハ、決シテ王位ヲ繼クコト能ハサル者トス。○瑞典ノ如キモ、之ニ相同ウシ、必スアウグスブルグ教派(按)波羅特士且教ノ一派ナリ)ヲ奉スル者ニアラサレハ、繼位ヲ許サス、其他希臘國モ亦其國憲中ニオルト、キス、キリストトリヘ、キルヘ、デス、オリオンド教(按)

一ニ希臘教ト稱スルモノヲ奉スル者ニアラサレハ、繼位ヲ許サ、ルコトヲ裁定シ、又俄羅斯ニテハ帝族ハ必ク希臘教ヲ奉スヘキノ法ヲ立ツ、

〔第三〕王位ハ、必ク有名無實ナルヘカラス、是故ニ嗣君ハ實ニ政權ヲ執ルニ堪ヘサル虧缺〔按〕身體精神、或ハ行狀等ニ於テ、具足セサル所アルヲ云フ、決シテアル可ラス、○古時ノ國法ニ於テハ、大ニ此事ニ着意シタリ、今時モ又仍ホ此ノ如キ虧缺ニハ、必ク着意セサル可ラス、然ルニ嗣君虧缺甚シカラスニテ、必クシモ之ヲ廢スルヲ要セサルニ之ヲ廢シ、或ハ虧缺甚ダシウシテ、之ヲ廢セサルハ、勢、政府亦隨テ立ツヘカラサルニ、仍ホ之ヲ廢セサル等ノ一儘之アリシカ、此等ノ一ハ、舉措其宜ヲ失スル者ニシテ、實ニ非理ト云フヘシ、○此ノ如キ時ニ方リ、或ハ攝政ヲ置テ、政權ヲ委託スルコトアレハ、此事却テ國家ノ災害ヲ生シ易ク、且ツ攝政ノ職タルヤ、唯君主姑ク政權ヲ執ル能ハサルノ事故アルカ爲メニ、一時權ニ設置スル者ニシテ、決シテ終身政權ヲ執ル能ハサル君主ノ爲ニ、置ク可キ者ニアラス、然ルニ此ノ如キ時ニ於テ、此官ヲ置クハ、當ニ利ナキノミナラス、却テ害アリ、○是故ニ嗣君此ノ如キ虧缺アルニ方テハ、必ク機會ヲ失ハス、恰當ノ處分ヲ以テ、此事ヨリ爭論ノ生スルヲ防慮シ、而シテ若シ虧缺實ニ大ニシテ、眞ニ君主タルニ堪ヘサレハ、必ク預メ立法院ノ議定ニ由テ、之ヲ除クヘシ、是即チ國家安寧ノ爲メ、實ニ己ムヲ得サレハナリ、

〔甲〕身體ノ虧缺、サクセンスビエール〔按〕中古獨乙ノ法書ニ於テハ、陰陽人、矮人、不具人、及ヒ癩病ニ罹ル者等ニハ、ランドレフト〔按〕尋常ノ私法ナリ〕ニ屬スル、遺物相續ノ權利スラ、尙許サ、リキ、況テ君位相續ニ於テチヤ、去レテ癩病ノ如キハ、必クシモ治ス可ラサル者ニアラサレハ、唯此疾ニ罹ルノ故チ以テ、其權ヲ奪フハ、甚ダ非理ナリ、故ニ今時ニ至テハ、決シテ此法ニ從フコトナシ、但シ其他ノ虧缺〔按〕陰陽人、矮人、不具人チ云フ〕ヲ受ケタル不幸人ニ、國家ノ尊貴權柄ヲ負荷セシムルハ、實ニ國威ヲ汚スルモノト云フ可シ、

〔乙〕精神ノ虧缺、一千三百五十六年〔正平十一年〕定立スル所ノゴルデチブルレ〔按〕中古獨乙ノ國憲ニ於テ、癡人及ヒ狂人ニハ、繼位ノ權利ヲ許サ、リキ、○此制度ハ、司選侯國〔按〕司選侯治ムル所ノ國ナリ〕ノ爲メニ、始メテゴルデチブルレニ裁定セシト雖モ、必ク此國ノ爲メニ、始メテ設立セシニハアラス、是ヨリ先キ既ニ他邦ニ於テ用ヒシ者チ、此國ニモ亦用シカ爲メニ、始メテ國憲ニ裁定セシナリ、○然ルニ今時繼位ノ事ヨリ爭論ノ生スルヲ恐ル、カ爲メニ、此ノ如キ虧缺アルニ方リテモ、繼位ヲ變スルコトナシ、唯攝政ヲ置キ代リテ政權ヲ執ラシムル國アリ、去レテ此ノ如キ處置、實ニ君民ノ爲メニ利ナルヤ否、未ダ知ル可ラス、

○繼位變更ノ一ニ就テ、爭論ノ生スルモ、立法院ノ議定ニ因テ之ヲ裁決スレハ、和平ニ至ルコト、甚ダ難事ニアラス、然ルニ數十年攝政ヲ置キ、之ニ由リテ生スル所ノ憂害ハ、殆ト除ク可カラサルニ至ルヘシ、○ダールマン〔按〕獨乙人、一千七百八十五年ニ生レ、八百六十年ニ死ス、〕ノ政學書ニ云、

「嗣君此ノ如キ虧缺アルカ爲メニ、其繼位ノ權利ヲ奪フニ方リテハ、先ツ在位ノ君主、其議ヲ親戚ニ下シテ、其許可ヲ取り、且ツ大臣ノ外、立法院モ亦共ニ之ヲ許可セサレハ、決シテ施行ス可カラズ」ト、

〔丙〕行狀ノ虧缺、嗣君行狀不正ノコトアレハ、必ク未ダ其位ヲ繼ガサルニ及ヒ、立法院チシテ之ヲ議セシメ、以テ廢立ヲ定ムヘシ、今時ノ法即チ此ノ如シ、

第八款 第三 民主國ニテ元首起立ノ體裁、〔エントステイ、フランスホルノン、イソ、デル、レブブリッキ〕

〔第一〕凡ソ政府ノ職タルヤ、日々ニ變化轉遷スル所ノ治安ノ要務ニ着目注意シ、其宜シキニ隨テ、其術ヲ活用スル者ナリ。是故ニ先ッ其方法ヲ立ルニ當テ、心思必ク唯一ニシテ、決ッ二途ニ分ルヘカラス。又之ヲ施行スルニ於テ、其能力常ニ前進シテ、決シテ凝滯スヘカラス。但シ民會（ホルクスヘルサムルンク）（按）國民ノ會議ヲ云フ也。若クハ代國府會議ノ政ヲ以テ、此ニ要事ヲ舉ント欲スルモ、決シテ能ハサル所ナリ。是故ニ近今ノ民主國ニテハ、通常政令ノ權柄ヲ以テ、或ハ僅々數人ニ附託シ、或ハ一人ノ全權ニ委任ス。瑞士各邦ノ如キ、多クハ第一法（按）僅々數人ニ托スルモノ）ヲ採用シ、亞米利加ノ如キハ、第二法（按）一人ノ全權ニ任スルモノ）ヲ採用ス。而シテ此兩法共ニ、實ニ君主國建制ノ意ニ倣フコト、顯然ナル者ニシテ、第二法ノ如キハ、殊ニ然リトス。實ニ大國ニ於テハ、此法制ヲ用ルニ非ザレハ、決ッ理治ヲ得ザルナリ。○一千七百九十五年（寬政七年）佛國ニテハ、行法權柄（ホルチ）ヘンデ、グワル、セテ以テ、五名ノギレンク、ウム（按）佛國此年ニ於テ、始テ民主政體ヲ立テ、五名ノ長官ヲ置テ、政府ヲ長トナシタリ）ニ委託シタリ。然レモ五名ノ合議常ニ一致シ難ク、隨テ政令モ常ニ凝滯スルノ患アリシカ故ニ、遂ニ之ヲ廢シテ、更ニコンスラート（按）八員三人アリテ政權ヲ掌握シタリ）ノ官ヲ置キ、而シテ其第一等少コンスレ一人（按）那破倫第一世ヲ第一等ノコンスルトナシタリ）專ラ全權ヲ握リシカハ、政令ノ施設流クカ如ク、聊ガ凝滯スルノ患アラサルニ至レリ。其後一千八百四十八年（嘉永元年）更ニ民主政體ヲ復セシ時ニ於テモ、暫時此ノ如キ合議官ヲ置キシガ、政令復常ニ凝滯スルヲ以テ、直ニ一人ノ統領ヲ舉ケテ、之ニ全權ヲ委テタリ。（按）此時那破倫第三世統領トナリタリ）○國政ノ權一人ニアルキハ、命令常ニ一途ニ出テ、國家ノ一致和同永ク替ラス。隨テ臣民ノ政府ヲ尊親スルノ情自ラ厚ク、且ツ政府モ亦能ク其實ニ任スルヲ得。然レニ國政合議ニ出ルキハ、其權力分ル、ヲ以テ常ニ弱ク、隨テ臣民ノ政府ヲ親親スルノ情自ラ薄ク、且ツ政府官員、其實ニ專任スル者ナキニ至ル。○小國ニテハ、此等ノ憂害、大國ノ如ク甚キニ至ラス。且小國ニテハ、長官一人衆ニ超ルル知略アルキハ、動モスレハ、臣民反テ之ヲ忌惡スルノ情アルモノナリ。故ニ合議ノ制却テ利アリ。○立法府官數十百員ノ中、其所見相表裏シテ、自ラ朋黨ノ相分ルハ、

固ヨリ必然ノ勢ニテ、怪シムニ足ラス。然レモ此弊遂ニ政府ニ及レ、總ニ數目ノ間ニ於テモ、亦所見互ニ表裡スルヨリ、朋黨分ル、ニ至レハ、其一致和同全ク壞ル、モノニシテ、治安ノ憂害甚モ甚カラス。○

① 瑞士合邦エテハ、ブンデスラート（按）此官員七ハアリ、ニ政令ノ權柄ヲ托シ、其各邦ニテハ、ギーリングス、コルレギー（按）此官員數名アリ、ニ政令ノ權柄ヲ托ス。○但シ昔者州邑ニテハ、ラソダマン、都府ニテハ、ビュルゲマイステル、及ヒスルトハイスト云ヘル官員各一人、其長トナリテ、專ラ政權ヲ執リ、又合邦ニテハ、那破倫第一世ノ補助ヲ以テ、國憲ヲ立テシ時ヨリ、合邦ノラソダマント云ヘル官員一名、政府ノ長トナリテ、其政權ヲ掌握シタリ。然ルニ輓近ケンフニテ定立セル國憲、及ヒ今時甚ク合議ノ政ヲ喜フノ民情ハ、恐クハ他日又再變シテ、政權テ一人ニ委託スルニ至ルノ前徴ナラン。

② 瑞士各邦ニテ專ラ用フル所ノ選擇法ハ、政府ノ不和ヲ預防スルニ足ラス。若シ合議府（按）政府ナリ、ノ官員ヲ選擇スルニ方リテ、先ッ統領一人ヲ選舉シ、之ヲ其ノ他ノ人員ヲ預選セシメ、然後ニ立法府ニテ之ヲ議定スルノ法ヲ立ル。然ラサレハ、立法府選舉スル所ノ者、統領ノ意ニ適セサルキハ、政テ之ヲ取ラサルノ權ヲ與ヘナハ、自ラ所見相合スル者、相共ニ政權ヲ執ルコトナルカ故ニ、合議府ノ中、不和ヲ生スルコト少ナカルヘシ。○民主國ニテ、議論一致セサル徒ヲ合シテ、之ヲ合議府ニ置クノ害ハ、君主國ニテ、互ニ和セサル徒ヲ合シテ、ミニストリウム（按）輔相院ノ議）ニ置クヨリモ、其害尙大ナリ。何者、君主國ニテハ、ミニストリウムノ上ニ、尙君主アリテ之ヲ統一スト雖レ、民主國ニテハ、合議府ノ上ニ位シテ、之ヲ統一スル者アラサレハナリ。（按）亞米利加ノ如キハ、民主國トイヘレ、君主國ノ制ニ倣テ、統領一人ヲ置テ、政府ヲ統一スルカ故ニ、此ノ如キ害アラス。）

(第二)政府ノ主長ヲ任スルハ、必ス選擇ニ由ル、畢竟ホルク(按)蓋シ茲ニハ國民ノ義ナリ、親ラ政令ヲ爲ス可ラサルヲ以テ、必ス公議ニ由テ長官ヲ選擇シ、以テ之ニ國家ノ全權ヲ委テ、且其尊嚴ヲ授ルナリ、故ニホルク直ニ政令ヲ爲スニハ非サレド、政府ノ主長ヲシテ、代リテ政令ヲ爲サシムルノ理ナリ。

ホルク親ラ政令ヲ施ス可ト雖、能ク其主長ヲ選擇スル所以ニ就テ、論者既ニ講究スル所アリ、其說ニ據ルニ、ホルク公議ヲ以テ、有徳ノ君子ヲ得ルヲ難キニ非ラス、唯時アリ誤テ尋常ノ人物ヲ選舉スルコトアレド、大ニ誤リテ不徳ノ小人ヲ選任スルカ如キハ、殆ト罕レナリ。○ホルク動モスレハ、治安ニ巧ミナル俊傑ヲ喜ハスシテ、却テ之ヲ避クルコトアリ、且ツ又其好惡愛憎、時アリテ變化スルノ思ヒナキニアラス、然レモ其大人君子ヲ仰慕スル心ハ甚ク深切ニシテ、且ツ其衆目ヨク君子小人ヲ辨識シ、敢テ才德衆ニ擢ニスル所ノ君子ヲ忌妬シ、或ハ姦雄ノ詐謀ニ陥ルカ如キ思ヒナシ。○ホルク常ニ其ノ長ノ聲譽顯榮ヲ禱リ、而シテ自己ノ聲譽顯榮、自ラ其中ニ寓ストス、且ツホルク其主長ヲ選擇シテ、至當ノ人ヲ得ルコト、立法院議員ヲ選擇スルニ優ル數等ナリト云フ、(按)以上、ホルク能ク主長ヲ選擇スル所以ヲ論ス。

右論スル所ノ理ニ由レハ、民主國ニテハ、其主長ヲ任スルニ、必スホルクヲシテ直ニ之ヲ選擇セシムルノ法(ウソミツテハ、ホルクスワール)ハ、全ク廢ス可ラス、却テ立法院ヲシテ選擇セシムルノ法ニ優ルト云フ可シ、古時羅馬ニテ數百年間此法ヲ用ヒ、又方今瑞士各邦ノ中、萬民直預政治(ウソミツテハ、ホルク)レ、デモカラナリ、(按)萬民直預政治ト相反スル者ニモ、所謂代議者ヲ以テ立法院ヲ立ルコトナシ、萬民直ニ國政ニ預ル所ノ政體ナリ、ノ邦ニ於テモ之ヲ用ヒ、以テ國ノ榮譽利益トナス、但シ瑞士合邦及ヒ其各邦ノ中ニモ、代國府(按)即立法院ノ事ナリ)ヲ立ル所ノ邦ニ於テハ、代國府ヲシテ、選擇セシムルノ法ヲ用フ、○此選擇ニ法ノ利害ハ、政府一人ノ統領ヲ置クト、合議府ヲ置クト

トノ差異アルニ因テ自ラ殊ナリ、譬ヘハ財政或ハ庶務等、其他各課ノ長官タルヘキ者ヲ選擇スルニ就キ、其所長ヲ視テ、之ヲ適應セル職ニ選任スルハ、代國府ニアラサレハ、決シテ能ハス、故ニ瑞士國ノ如ク、合議府ノ各員、是等ノ一分課ヲ掌ル者タルキハ、國民ヲシテ、直ニ之ヲ選擇セシム可カラズ、然レモ一人乃至二人ノ統領、國家ノ元首トナリテ、政府ノ各課ヲ統一スル者タルキハ、直ニホルクヲシテ之ヲ選擇セシムルヲ以テ優レリトス。

北亞米利加ニテハ、統領ヲ選任スルニ、以上二法ヲ合用ス、故ニ選擇權利ヲ以テ、立法院ニ與ヘス、亦直ニホルクニモ與ヘス、蓋シ此權ヲ以テ立法院ニ與ヘサルノ意ハ、即チ立法院ノ權力ヲ減殺シテ、其詐謀ヲ防キ、以テ統領ヲシテ立法院衆員ノ部下ニ均シカラサシメ、且ツホルクヲシテ大ニ政治上ニ關係スルヲ得セシメ、メナリ、然レモ又此權利ヲ以テ、直ニホルクニ與フルキハ、ホルクノ權力甚ク強大ニ過キテ、却テ政府ヲ蔑如スルニ至ルノ恐レアリ、是故ニ直ニ之ヲホルクニ與ヘス、必スホルクヲシテ別ニ選擇者タルヘキ者ヲ選擇セシメ、而シテ之ニ統領ヲ選擇スルノ權利ヲ與フ、是即チ二法ヲ合用スル所以ナリ。○是故ニ先ツ每邦會議ニテ、選擇者ヲ選擇スルキハ、此選擇者悉ク集會シ、密議ヲ以テ統領ヲ選擇ス、而シテ其議悉ク畢リタル後、若シ統領ニ選擇セラル、人名、甚ク多クシテ、決定シカタクアアルキハ、之ヲ決議スルノ權ヲ代國府ニ委ヌ。

第三政府主長頻數變更スルキハ、政令更務ノ遺傳屢々斷絶シ、且ツ永久或ハ遠大ノ事ヲ謀リテ、之ヲ起則スルモ、旋テ廢滅スルノ思ヒアリ、其他治安ノ根基ヲ鞏固ニシテ、恒ニ民ノ信義ヲ取ラント欲スルモ、決シテ能ハスシテ、大ニ國家ニ害アリ、故ニ政府主長ノ屢々變更スルハ、甚ク不可トス、去レド民主國元首ノ在職ハ、僅ク數年ヲ以テ期セサル可カラズ、若シ之ヲシテ終身其位ニ在ラシムレハ、即チ是レ君主國ノ選立君主ニシテ、民主國ノ元首ニハ非サルナリ、(是ニ於テ近今之ヲ折衷シテ一法ヲ立テ、元首ノ在職ハ、必ク數年ヲ限ルトイヘド、其人能ク其職ニ適スルキハ、更ニ之ヲ選擇シテ、再ヒ其職ニ就カシムルコト爲セリ)今世ノ民主國ニ於テハ、此法ニ倣フモノ多シ、獨リ一千八百四十八

年(嘉永元年)佛國立ル所ノ國憲ニハ、統領期年ニ至リテ、職ヲ去リシユリ四年ノ間ハ、必ス再任セ
シム可カラサル旨ヲ記載セリ、但シ此法ヲ設ルノ意ハ、蓋シ佛國臣民ノ民主政體ヲ喜フ心情未タ甚
ク確實ナラサルヲ以テ、若シ統領ノ再任ヲ許サハ、此政體又變シテ、更ニ君主國トナラシムルヲ恐
レシナリ、然ルニ遂ニ勞シテ功ナク、政體忽チ變シテ、再ヒ君主政體トナリタリ、(按、此時瑪破倫第三
世ヲ以テ統領トセシニ遂ニ、又君主トナリテ、帝位ニ登リシヲ云フ)

○華盛頓ノ説ニ、統領治安ノ事ニ於テ、聊カ間然スヘキ所ナリ、天下ノ衆望全ク歸スルトモ、必
期
年ニシテ其職ヲ去ラシメント欲スルハ、甚ク誤マレトナリト云ヘリ、然ルニモ、(按、
米國第三世ノ統領)ハ之レニ反シテ、統領再任ヲ許スノ制度アル時ハ、恐クハ遂ニ再三再四ノ復
任ヲモ許スニ至ラント云ヘリ、去レテ建國以來未ダ曾テ此ノ如キ弊アルヲ見ス、

〔第四〕元首或ハ主長諸員ハ、皆自由ノ選擇ニ由リ、既ニ其人物ノ賢愚長短ヲ論定シテ、然後ニ位ニ任
セシ者ナレハ、世襲君主ノ如ク、其人體ノ應否ヲ論スルヲ要セス、
去レテ、通常左ノ規則ニ從フヲ要ス、

〔甲〕選擇ヲ得ヘキ者ハ、必ス國家臣民タルノ權利ニ「スターツビニルゲル」ト云フ、(○)チ全有スル者ニ限
ルヘシ、但シ其他自國ニ生レタル者ニ非カレハ、決シテ選擇セサル法ヲ設ル國アリ、蓋シ我政府外國
ノ議論、或ハ權力ヲ爲シ、動カサル、ニ至ルヲ恐ル、ナリ、

○按、國中ノ民人ハ、悉皆其臣民タリト雖、實ニ國家ノ臣民ト稱スヘキハ、必ス定法アリ、此
定法ニ洩ル、者ハ、國家臣民タルノ權利ヲ有スル者ト云フヲ得ス、即チ女子、少年、刑人、及ヒ貧
ニシテ政府ノ救助ヲ仰ク者等ハ、各國共ニ、國家臣民タルノ權利ヲ有セサル者トス、其他ノ規律
ニ至リテハ、各國皆殊ナリ、第二卷第二十一款ニ詳ナリ、

〔乙〕老成人ニ限ルヘシ、北亞米利加ニテ、統領ハ、必、年齒三十五以上ヲ要ス、瑞士ニテハ、成人年齒以
上ヲ要ス、

第九款 君主ノ義務、嗣君ニ遞傳スルノ法、(ユーベルガング、デル、ヘルブリフツング、デス、
ゲンテン、アウフ、デン、ナーフホルゲル)

嗣君ハ、先君ノ私身ヲ繼續スル者ニアラス、國家ノ君主タル職ヲ繼續シテ、之ヲ掌ル者ナリ、故ニ先
君ノ私ニ負フタル義務ハ、法ニ於テ、決シテ嗣君ニ遞傳スルコトナク、唯君主ノ當職ヲ以テ負フタル義
務ハ、必、嗣君ニ遞傳ス、是故ニ君主既ニ没スルモ、國家及其首ノ生命ハ、仍、依然トシテ、恆ニ絶滅
スルコトナシ、
是ニ於テ、左ノ數件ノ規律アリ、

〔甲〕君主出シシ所ノ布令、任セシ所ノ職務、及、君主ノ職ヲ以テ結ヒシ條約等ノ如キハ、其君主没ス
ト雖、舊ニ仍リテ已ムコトナシ、

〔乙〕君主若シ他人ニ假貸或ハ救助等ノ事ヲ許シ、又ハ職官ヲ與ヘンコトヲ約シテ、既ニ確定セシキハ、
君主縱令、此約ヲ遂クスノ没スト雖、嗣君必、此約束ヲ果スヘキ義務ヲ繼續セサルヲ得ス、○去
レ、此類ノ約束、前ニ未ク確定セル者ニアラサルハ、縱令、現ニ先君トイヘ、法ニ於テ必、之ヲ遂
ヘキ義務ヲ有セス、況テ嗣君此ノ如キ義務ヲ繼續スルノ理ナシ、但シ嗣君仁孝ノ心ヲ以テ、自己ノ私
情ヲ去リ、專ラ先君ノ遺意ヲ繼テ、此約束ヲ果シ、以テ先君ヲシテ信義ヲ失ハサシムルハ、甚ク美事
ナリ、去レ、此事決シテ國法ニ於テ、緊要トスル所ニアラス、唯良政ノ要則ト云フ可キノミ、

〔丙〕先君ノ處分セシ事ニ於テ、外面ノ證ナキ者ハ、嗣君政テ之ニ從フヲ要セス、例ハ、政務施行ノ事
ニ於テ、ミニステル(按、皇國ノ大臣ト各省卿ヲ兼任セルカ如キ高官ナリ、又單ニ大臣ト譯ス)ノ
連署ナキ者、(按)政務施行ニ就テハ、其事ニ預カレルミニステル、君主ト共ニ必、連署スルコト通則ナ
リ、或ハ國憲ノ條規ニ合セサル者等ハ、即、外面ノ證ナキ者ナルカ故ニ、嗣君尋テ之ヲ施行スルヲ要
セス、○總テ此ノ如キコトハ、唯君主ノ威權ヲ恃テ爲ス所ニシテ、決シテ君主タルノ職ヲ以テ爲ス所ニ
アラス、故ニ先君ノ在位中トイヘ、敢テ國法ニ合スル所ノ處分ト爲スニ足ラス、況テ先君ノ没後ニ
於テナシ、

然ルニ又先君ノ處分セシコト、縱令其實著非理ニ屬シ、或ハ大ニ國家ノ公益益ヲ害スルコト明カナリト、既ニ外面ニ於テ、法ニ合スルノ證アルキハ、(按)國憲ニ悖戾スル所ナク、且ツミニステルモ既ニ連署セル者ヲ云フ)嗣君恣ニ之ヲ廢スルヲ許サス、何者、一旦國法上ニ於テ當理トナリシ事、唯君主ノ卒去ニ由テ、忽チ不正非理ト變スルノ理決シテ有ラス、總テ事ノ善惡邪正ハ、君主ノ死生ニ由テ、決シテ變易スル者ニアラザレハナリ、吾輩國法汎論ニ於テ、公明正大ノ理ヲ以テ論スル所此ノ如シ、

(丁)君主變スルカ爲ニ、法亦隨テ變スルノ理、決シテ有ルコトナシ、去レハ先君制定セシ所ノ法ヲ、嗣君更ニ改革スル能ハサルノ理モ、亦決シテ有ルコトナシ、嗣君之ヲ改革スルノ權利ハ、即チ先君ノ之ヲ制定セシ權利ト全ク同一ナリ、何者、國家ハ日々ニ開明進歩スル者ナレハ、其法モ亦隨テ變革セサル可ラサルヲ以テナリ、○去レハ之ヲ改革スルニハ、必ズ國法ニ於テ定ムル所ノ規律ニ由テ處置シ、且ツ之ニ由テ決シテ得有ノ權利(チールエルナルベテス、レフト、(按)權利ニ原有ト、得有ノ別アリ、原有トハ、人生ノナカラニ有スル所ノ權利ヲ云ヒ、得有トハ、作業事故ヨリ生スル所ノ權利ヲ云フ、兵庫縣令神田孝平カ譯スル所ノ性法略ニ詳ナリ)ヲ傷害スルコトナカル可シ、

例ハ先王嘗テ國法ノ規律ニ從テ、自己ノ權利ヲ廢セシコトアリ、今之ヲ復スルコト、縱令ヒ國家ノ爲ニ甚ダ緊要ナリトモ、恣ニ之ヲ爲スヲ得ス、必ズ之ヲ立法府ニ謀リテ、然後ニ議定スルヲ要ス、

(戊)先君ノ私債ハ、嗣君ノ決シテ償フヘキ者ニアラス、唯先君ノ私産ヲ繼續セル者、私法ノ規律ニ從テ、之ヲ償フノ義務ヲ受クヘキノミ、縱令ヒ王室家産(スタムグット、デル、ユロー子)ノ爲ニ、此ノ如キ負債ヲ爲スト雖モ、國君タルノ職ヲ以テ爲セシニアラザレハ、嗣君決シテ之ヲ償フノ義務ヲ受クルコトナシ、○但シ若シ此ノ如キ負債ニ因テ、王室ノ産ヲ増殖スルコトアルキハ、其増殖セシ數ニ應ジテ、之ヲ償ハサル可カラズ、猶ヒデークムミスグット、(按)賣却及ヒ贈遺等ヲ禁スル所ノ遺物)或ハレノノグット、(按)薪土ノ如ク物主ヨリ借用スル所ノ物件)ノ法ニ於ケルカ如シ、

第十款

第四 攝政職ノ設法(ハクリンツング、デル、レグントシヤフト)

第一世襲君主國ニテハ、嗣君幼沖ト雖モ、位ヲ繼テ政權ヲ掌握スルモ妨ケナシ、去レハ成長ノ後ニ至ラサレハ、實ニ此權ヲ施行スルコト能ハス、故ニ其幼年ノ間ハ、必ズ攝政(レグント)ヲ置き、代リテ政權ヲ執ラシムルヲ要ス、

攝政ヲ置クキハ、國家ニ害アルコト多キヲ以テ、昔時既ニ君主ノ幼沖ト稱スル年齒(ミンデルモリグカイト)ヲ、私法ニ於テ幼沖ト稱スル年齒ヨリ短ウスルノ制ヲ立テ、而シテ此年制ヲ過キテ、既ニ成人ノ年齒ホルモリリグカイト)ニ届レハ、直ニ攝政ヲ廢スルヲ以テ、通法トナシタリ、元來國家ノ治安ハ甚ダ容易ノ術ニアラサルニ、斯君主ノ幼年間ヲ縮メテ、眞ニ幼弱ノ君主ニ、政權ヲ施行セシムルハ、甚ク異シムヘキニ似タレハ、是レ實ニ已チ得サルニ出ルナリ、○幼弱ナル君主政權ヲ施行スルカ爲ニ、國家ノ安寧ヲ害スルコト、必シモ之レ無キニアラザレハ、其害タル小ニシテ、猶避ク可シ、然ルニ數年間攝政ヲ置クキハ、動モスレハ、君主ノ權利ヲ害スル者ニシテ、之ニ由テ一旦國家ノ危害ヲ生スルキハ、其患實ニ大ニシテ、容易ニ除ク可ラス、○ゴルデ子、ブルレ、(按)中古獨乙ノ國憲)ノ法ニテハ、年齒十八ヲ以テ、獨乙グールヒルスト、(按)帝ヲ選擇スル權利ヲ有セシ侯)ノ國法上ノ成年齒ト爲シタリ、然ルニ獨乙ノ私法上ニテハ、二十一ヲ以テ成人年齒ト爲シ、羅馬ノ法ニテハ、二十五ヲ以テ成人年齒ト爲シタリ、又近今ノ法ニテモ、通常十八ヲ以テ君主ノ成人年齒ト爲ス、獨乙各國多クハ此例ニ從フ、英國荷蘭比且時亦然リ、○瑞典一千八百零九年(文化六年)ノ國憲第九十三款ニ、君主十八ニ至レハ、(按)國政ヲ議スル官)ホーフステス、トリブナル、(按)高等法院、(按)一審法院)及ヒコレレギ、(按)會議ノ官)ニ參列スルヲ得可シ、但シ私法上ノ成人年齒ニ至ラサル間ハ、敢テ其決議ニ預ルヲ得サル由チ裁定ス、然ルニ西班牙一千八百三十七年(天保八年)ノ國憲第五十六款ニ、齡十四ニ至ル迄チ、君主ノ幼年ト爲ス由チ職ス、(同國一千八百十二

年ノ國憲第五十八章ニハ、年齒十八ヲ以テ君主ノ成人ト爲ス由ヲ載セタリ、又佛國ニテハ甲利第五世在位一千三百七十四年ヨリ、年齒十四ヲ以テ君主ノ成人ト爲シタリ。

(第二)中古ノ國法ニテハ、幼君ニ代リ、政權ヲ掌握スル所ノ攝政職ヲ以テ、兼テ君主ヲ保傳スル職(ホルムドシヤット)ノ如ク視做ス。常ナリシカ、今時ノ國法ニテハ、大イニ其別ヲ明カニシ、攝政職ハ、國家治平ノ爲ニ設ル所ニシテ、全ク君主ニ代リテ、政權ヲ掌握スル者トナシ、保傳ノ職ハ、唯幼君ノ私身ヲ輔翼スル者トナス、是故ニ攝政ト保傳トハ、其人ヲ殊ニスルモ妨ケナク、而シテ攝政ニ任シタル者ニハ、政令ヲ托シ、保傳ニ任シタル者ニハ、君主私有ノ事務ヲ托ス可シ。

是故ニ現立國法(ボシヤター)ニハ、スカーツレフト(按)現ニ設立スル所ノ國法ヲ云フ)中、故ヨリ攝政設置ノ規律ヲ設ケサレハ、必、私法ノ規律(例ヘハ遺言(按)君主ノ遺言)憲法(按)王家戚族憲法、或ハ一家憲法ノ類ヲ云フ歟)或ハ政府命令ヲ以テ定ム)ニ從テ、攝政ヲ任スルコト、當然ナリト云フ論アリ。決シテ取ル可ラス、總テ私法ノ規則ヲ以テ、之ヲ國事ノ區域ニ轉用スルカ如キハ、必、方今ノ制度ニ適セサルナリ、故ニ萬一今時ノ現立國法上ニモ、仍、攝政設置ノ規律ハ、必、私法ニ從フ可キ由ヲ載スルキハ、已ムヲ得サレハ、若シ否ラサレハ、必、國法ノ規律ニ從ハサル可ラサルコト、固ヨリ論ヲ俟タス。

方今ノ諸國憲ニハ、攝政設置ノ規律ヲ裁定スルコト詳ニシテ、或ハ預メ其定規ヲ設クル者アリ、(一)或ハ臨時ニ之ヲ任スルヲ以テ、規律ト爲ス者アリ、(二)攝政ヲ任スルノ權ヲ以テ、單ニ君主ニ托セス、又單ニ兩院ニモ托セス、(三)必、立法府ノ憲法(按)君主兩院相議定スル所ノ憲法ナリ)ヲ以テ、之ヲ定ムルノ規律アリ、(四)蓋シ能ク立憲世襲國(コシスナツチオチルレ、エルブモノナルヒー)ニ適應スル法ト云フ可シ、去レテ若シ君主在命ノ日ニ於テ、未タ此ノ如キ憲法ヲ設立セサレハ、幼冲ナル君主ノ最親戚ノ者、代リテ此憲法設立ノ會議ニ參列ス可シ、而シテ此人若シ決議ニ預ルコトヲ得サルモ、必、共ニ之ヲ議スルノ權アル可シ、荷蘭ノ制度即チ此ノ如シ。

(一)以里國ノ國憲第二篇第十章ニ云、「君主成人年齒ニ達シタル王族ノ中ヨリ、嗣君ノ幼年時、攝政職ニ任ス可キ者ヲ選舉スヘシ、若シ君主未ダ之ヲ選舉セスノ没スレハ、父族(アグナート) (按)俗ニ父方ノ親戚ト云フニ同シ)中ニテ、嗣君ニ次テハ第一ニ繼位ノ權利ヲ有セル成年ノ王族、攝政トナル可シト、○又西班牙國一千八百三十七年(天保八年)ノ國憲第五十七款ニ云、「君主ノ父、又ハ母、或ハ君主ニ次テハ第一ニ王位ヲ繼クヘキ權利ヲ有セル王族、攝政トナル可シト、○葡國一千八百二十六年(文政九年)ノ國憲第九十二章ニ云、「君主ニ最モ親近ナル王族、攝政トナル可シ、但、年齒必二十五以上ヲ要ス」ト、○普魯士國ノ國憲第五十六、及五十七章ニ云、「父族中ニ於テ最モ親近ニシテ、能ク其任ニ堪ユヘキ者、攝政トナル可シ、但、兩院其補助トナリテ之ヲ選擇ス」ト、

(二)比日時ノ國憲第八十一章ニ云、「兩院合併シテ、攝政ヲ選任ス」ト、○瑞典國一千八百零九年(文化六年)ノ國憲第九十三款ニ記スル所セ之ニ同ウシテ、ライフス、ステンデ(按)立法府ナリ、議シテ、一名若クハ數名ノ保傳ヲ選任スト云(按)此一國ノ制度ノ如キハ、攝政ヲ選任スルノ權利ヲ以テ、單ニ兩院ニ托スルナリ、

(三)英國、荷蘭國、佛國等ノ制度ニ於テハ、攝政ヲ選任スルハ、必、立法府ノ憲法ニ出ツ、(按)此三國ノ制度ノ如キハ、即チ立憲世襲國ニ適應スル者ナリ、

(四)第三)但、攝政ヲ設置スルコト、管ニ幼君ノ時ニ於テスルノミニ非ス、又成人年齒ニ屆レル君主ト雖、登祚ノ後、事故發シテ、政權ヲ執ル能ハサルニ方リテ、其事故或ハ甚ダス、イナルコトニ非サル歟、若クハ久シク存スルコトニアラサレハ、必、攝政ヲ置テ、權リニ之ニ政權ヲ托スルヲ要ス、其事故ト稱スル者ハ、左ニ臚列スルカ如シ、

- (甲) 身體ノ虧缺、例ヘハ聾、瘖、啞、及大患、
- (乙) 癡狂及之ニ類スル精神病、例ヘハ癡患及最モ甚シキ憂悶、

(丙)久シキ不在(按)久シク國內ニ在ラサルヲ云、或ハ幽囚
 (丁)大ニ君職ヲ損害スル諸業、例ハ暴逆無道、暴ニ國憲ニ悖戾セル政令、及公然治安ヲ害スル苛政
 (戊)私法ヲ破リテ、自ラ君主ノ體面ヲ汚辱スル所業、
 (己)行狀不善ニシテ、大ニ臣民ノ尊崇ヲ失ヒ、遂ニ政權ヲ保ツコト能ハサルニ至ルヘキ所業、
 右諸事故中、殊ニ丁戊己ノ如キ者アルニ方リテ、攝政ヲ設置シテ、君主ニ代ハラシムルハ、殊ニ條理及
 事業ニ於テ、甚ク施シ難シトス、條理ニ於テ施シ難シトスルハ、何ソヤ、抑此ノ如キ時ニ方リテ、君ノ非
 ナ事ヲ其政權ヲ放ダシムル者ハ、即チ臣民ナルヲ以テ、冠履全ク顛倒スト云フヘシ、故ニ能カニ其政權
 ナ奪フノ外、他罪ヲ加フルコト能ハサルハナリ、又事業ニ於テ施シ難シトスルハ、何ソヤ、總テ暴逆ナル
 君主ハ、輒ク政權ヲ放ツ者ニアラス、必ス暴威ヲ違ウ、攝政ヲ置ント欲スル徒ニ抗シ、以テ遂ニ之ヲ
 壓倒スルニ至レハナリ、但シ合同邦(ツィサムメシゲセツツテ、スターテン)ノ如キハ、各邦憲法ノ外、仍
 全國ノ國憲、若クハ合同國憲ト稱スル、合同各邦ヲ統一スル所ノ規律アルカ故ニ、此ノ如キ時ニ方リテ
 モ、其處置ヲ得ル自ラ難カラズ、(按)獨乙合同邦ノ如キ是ナリ、)是故ニ近今ノ國家學者中、唯甲
 乙丙ノ事故ノ爲ニ、攝政ヲ置クヲ許シ、丁戊己ノ事故ノ爲ニ之ヲ置クヲ許サ、ル者アリ、蓋シ甲乙丙
 ノ事故ノ如キハ、其事實、素ト政權ヲ執ル能ハサルコト明カニシテ、決シテ君主ノ行狀ニ由ル者ニア
 ラサルカ故ニ、速ニ判定シ易シト雖ヒ、丁戊己ノ如キハ、悉ク君主ノ行狀ニ關係スル者ニシテ、自
 ラ甲乙丙ノ如ク判定シ難キヲ以テナリ、○去レヒ此ノ如キ時ニ方リテ、正義ノ術ヲ用ヒテ、速ニ君
 主ノ暴惡ヲ防ク能ハサルハ、臣民殆ント之ニ堪ユル能ハスシテ、遂ニ不正義ノ術ヲ用ヒテ、顛覆
 ナ謀ルニ至ランコト必セリ、但シ此事ニ付テハ、未歎君主不保任ノ條(按)即第十三款)ニ於テ、尙詳論
 セント欲ス、就テ看ル可シ、

(第四)民主國ニテハ、元首幼冲ノ患ナキカ故ニ、攝政ヲ要スルコト幾希ナリ、且若シ統領就職ノ後、事故
 ニ由テ政權ヲ執ル能ハサルハ、必ス副統領之ニ代リテ、政權ヲ施行スルカ故ニ、決シテ政令ノ爲ニ
 妨ケナシ、然ルニ民主國ニテ、一ノ忠ト爲スヘキハ、統領副統領同ク没スル歟、若クハ其在職ノ期既ニ

滿テ、副統領ノ選擇未定マラサル時ニ於テハ、恰モ選立君主國(ワールモナルヒ)ニ於ケルカ如ク
 國家首領ヲ失フテ、一時虛位國(ツィッセンライフ)トナルニ在リ、

第十一款

第五 政柄ノ失去(ヘル、スト、デル、ヘル、シヤフト)

(第一)辭謝(エントサーグング、又アブダングング)君主政權ヲ辭謝シテ、之ニ附屬セル義務ヲ棄テ
 ント欲スルハ、其自由ニ任シテ可ナリ、然ルニ此自由ヲ妨ケテ、猶政柄ヲ掌握セシメント欲スルモ、
 素、治國ノ責ニ任スヘキ力ノ足ラサル者ナシテ、強ヒテ其責ヲ負荷セシメントスルコトナルカ故ニ、甚
 理ニ當ラス、且國事ヲ好マサル者ナシテ、強ヒテ國事ヲ掌ラシメント欲スルモ、國家ニ於テ小益アラ
 スシテ、却テ害アリ、(但シ僅ニ一邑ノ如キ小民主國ニテハ、強ヒテ政柄ヲ掌握セシムルコトアリ、例ハ
 瑞士國一二ノ山邦等ニ於ケルカ如シ、按)山邦トハ山嶽多キ國ヲ云フナリ、)
 但シ世襲國ニテハ、辭謝ニ二様アリ、一チ無約辭謝ト云ヒ、一チ有約辭謝ト云フ、君主其位ヲ辭スルニ
 方リテ、他日重祚ノ約ナケレハ、宛カモ没去ニ由テ、其位ヲ去リシニ殊ナラス、之チ無約辭謝ト云フ、又
 君主嗣君ノ爲ニ謀リテ、一旦其位ヲ讓ルト雖ヒ、嗣君他日若シ先ツテ没スルコトアルハ、必重祚スヘ
 キノ約ヲ立ルコトアリ、之チ有約辭謝ト云フ、

(第二)默謝(スナルシユワイゲンデ、エントサーグング)敢テ自ラ辭謝セズ、唯勢ニ由テ自然辭謝
 トナル者アリ、之チ默謝ト云フ、但シ之ヲ認定スルコト自ラ容易ナラスト雖ヒ、其實ハ決シテ明謝(アウ
 スドリヨックリヘ、エントサーグング、按)前章論スル所ノ辭謝ト云、)ニ異ナラス、君主若シ永シ
 其國ヲ去ル歟、若クハ永シ政務ヲ棄ルニ至ルトキハ、則默謝ト定メテ可ナリ、既ニ一千六百八十八年
 (元祿元年)英國顛覆ノ時ニ於テ、其臣力門議員ノ中、眞ニ王室ニ左袒セシ黨スラ、尙此理ヲ認許シマ
 リキ、(按)英國王ヤーコッブ第二世在位ノ時、教法ノ事ヨリ騷亂起リ、國民王ニ叛テ顛覆ヲ謀リケ
 ルニ、王之ヲ防クコト能ハス、遂ニ佛國ニ奔リ、然ルニ此時王ニ左袒セシ黨スラ、猶之ヲ王トスル
 コト能ハスシテ、其默謝ヲ認定シタリ、)○又君主自カラ其版圖ヲ他人ニ賣却シ、或ハ受與スル時ニ於

テモ、其事ノ理非ヲ論セス、總テ君主ノ默謝ト定メテ可ナリ。

〔第三國憲ノ規律ニ從テ、實ニ君位ニ在ル可ラサルノ理生シタル者〕(アイントリット、アインテル、アブソルト、テノ、ウンヘーヒグカイト) 例ヘハ英國ノ國憲ニ於テハ、君主加特力教派(按)基督教ノ舊派ニ轉依スルキハ、敢テ君位ニ在ル可ラサルナリ。○但方今ハ此ノ如キ時ニ於テモ、亦實ニ甚シカラサル虧缺アル時ニ於ケルカ如ク、唯攝政ヲ置テ、代リテ政權ヲ掌握セシムルヲ以テ、足レリトスル國アリ。

〔第四廢位(アインセツツング)中古ノ頃ニハ、君主國ニテ廢位ノ事アリキ、民主國ノ如キハ、今仍此規律アリト雖、方今君主國ノ國法ニテハ、通常此規律ヲ用フルヲ許サス、(摺本卷第十三款ニ論ス)〕

〔第五奪位(エント、ロオマング)第一敵國外寇、暴威ヲ以テ君位ヲ奪フアリ、第二國民舉テ顛覆ヲ企テ、以テ君位ヲ奪ヒ、君主政體ヲ倒スコアリ、第三、霸者篡奪ヲ企テ、君主ヲ倒シ、以テ國權ヲ吞ムコアリ、古今此等奪位ノ例、最モ甚カラス、〕

右三件(按)〔第五〕中第一第二第三ノ三件ヲ云)ハ皆現ニ君王政治施行ノ事業ヲ奪フ所以ニシテ、未タ併セテ其權利ヲ奪フニアラス、君主事業ト共ニ其權利ヲ放棄セサルキハ、遂ニハ權利ヲ有スル君主ト、及ヒ事業ヲ執レル君主、或ハ政府ト相分レテ、名實相離ル、カ故ニ、各互ニ名實ヲ併有セント欲シテ、相爭フニ至ル、實ニ權利ト事業ノ相分ル、ハ甚ダ歎スヘクシテ、國家ノ忠害之ヨリ大ナルハナシ、

名義正シカラサル君主(按)未タ權利ヲ併有スル能ハスシテ、唯事業ヲ奪ヘル君主、ハ權威自ラ強大ナルカ故ニ、速ニ國民ヲ制服セント欲ス、國家實力アル所ノ政府ナキキハ、其安寧秩序、獨リ存ス可ラサルヲ以テ、臣民亦自ラ此君ニ服從シテ、其命令ニ恭順スルニ至ル、是ニ於テ此君遂ニ其志ヲ得可シ、縱令(儘)之ニ服セスシテ、其命令ヲ拒絶セント欲スル者、若クハ其黨與アルモ、僅々數人ノ力能ク企テ及フ可キニアラス、直ニ兵隊、法官、警守官等ノ爲ニ制壓セラレシムコ必然ナリ、是時ニ方リテ、名義正シキ君主(按)既ニ事業ヲ奪ハレテ、唯空シク權利ヲ有スル君主、己レニ忠良ナル臣民ヲ保護セ

ント欲スルモ、力足ラサルヲ如何セン、君主自ラ臣民ノ權利ヲ保護スルコ能ハサレハ、臣民君主ノ權利ヲ敬重セスト雖、亦之ヲ如何トモス可ラス。○去レハ又名義正シカラサル君主、名義正シキ君主ヲシテ、全ク權利ヲ放棄シムルコ能ハス、其威力ヲ以テ臣民ヲ壓服セシカ如ク、此君主ヲ壓服シテ全ク其權利ヲ奪フコ甚ダ容易ナラス、

○英國ニテハインリヒ第七世ノ時一千四百九十四年(明應三年)巴力門ノ議定ニテ、現ニ事業ヲ執レル君主ニ勳功アリシ徒ヲ、謀反ノ罪、若クハ他罪ヲ以テ刑ス可ラサル旨ヲ令シタリ。○

〔按〕ハインリヒ第七世嘗テリカルド三世ヲ擊テ之ニ勝テ、遂ニ王位ニ登リタレハ、國民猶舊王室ヲ慕フテ、新王室ニ勳功アル者ヲ惡ミシ故、巴力門ニテ此ノ如ク議定シテ之ヲ令シタリ、

玆ニ事業ヲ執レル君主ト云フハ、即ハインリヒ第七世ナリ。

國ノ假法(ベシツツ)遂ニ轉メ國法トナルノ機會ハ、即茲ニ於テ生ス(按)假法轉シテ國法トナルノ論ハ、首卷第九款ニ詳ナリ、國ノ假法ヲ以テ、恣ニ之ヲ國法ト爲サント欲スルモ、決シテ能ハス、然ルニ強ヒテ之ヲ國法ト爲ントスルハ、大ニ法ノ法タル本百ヲ害スト云フ可シ、眞ノ法タルヤ、唯直ニ事業ニ施シ得ルヲ以テ足レリト爲ス可ラス、必亦其間ニ道義ヲ存セスハ有ル可ラス、故ニ徒ニ人力ヲ以テ、假法ヲ轉シ、眞法ト爲サント欲スルハ、甚ダ誤レルコナリ、故ニ霸者其威權ヲ逞ウシテ、國民ヲ制服セシノミニテハ、決シテ名義正シキ君主ト稱スルニ足ラス、代國府、及ヒ諸職官、殊ニ法院等、皆此羈者ヲ認テ君主トスルニ至リテ、始テ眞ニ名義正シキ君主ト稱ス可シ、故ニ此時ニ至リテハ、臣民タル者皆必此君主ヲ奉シテ、其命令ニ恭順セスハ有ル可ラス、(按)假法ナル者、始テ眞法トナルノ機會、即此時ニ在リ、

故ニ曾テ位ヲ奪ハレシ君主、(按)即名義正シキ君主、全ク其權利ヲ失フノ期限アリ、即國內ニテハ、臣民名義正シカラサル君主ニ抗スル能ハスシテ、遂ニ之ニ服從スルニ至リ、又外國ニテハ、其政府兩

君(按名義正シキ君主ト正シカラサル君主ヲ云)ノ間ニ周旋シテ和平ヲ復セントスルノ謀遂ニ成ラサル歟、若クハ兵力ヲ以テ名義正シキ君主ヲ援クルノ力盡テ却テ名義正シカラサル君主ト和スルニ至ルハ、既ニ名義正シキ君主恢復ノ術盡ル時ニシテ、是レ正ニ此君ノ全ク權利ヲ失フノ期限ナリ。

第六攝政ハ嘗テ之ヲ設置セシ旨意已ムキハ、則其職ヲ失フコト當然ナリ、其旨意ノ已ムトハ、即チ幼冲ノ君主没シテ、嗣君位ヲ繼ク歟、若クハ幼君既ニ成人年齒ニ至ルヲ云フナリ、但シ其旨意實ニ已ムヤ否ノ一決シ難キハ、方リテ、攝政ノ廢止ヲ定ムルニ就テハ、必ス嘗テ之ヲ設置セシ時ニ於テ要シタル國法規律ニ從フ可シ。

大井潤一 校

國法汎論卷之六 中終

國法汎論卷之六 下目錄

第十二款

第六 國家元首ノ權利

甲 マエステートノ權利

第十三款

乙 不保任及保任

第十四款

丙 施政權 外權

第十五款

丁 施政權 內權

第一 授官ノ大權

第二 授譽ノ大權

第十六款

第三 兵馬ノ大權

第四 警保ノ大權

第十七款

第五 司法ノ大權

第十八款

第六 財務ノ大權

第七 監臨ノ大權

第十九款

第八 教育方法ノ看護

第九 權利施行ノ體裁即布告及命令
第二十款

第十 政府非常ノ權即國家不得已ノ權

國法汎論卷之六下

瑞士

イ、カ、ブルン、ニ、ユ、リ
加藤 弘 之 譯

第十二款

第六

甲

國家ノ元首權利(ソフテ、デス、スターツ、オ、イ、ベル、ハウ、フ、テ、ス、)マ、エ、ス、テ、イ、ト、ノ、權利(ニ、按、マ、エ、ス、テ、イ、ト、ノ、本、義、ハ、尊、貴、顯、榮、ト、云、フ、カ、如、キ、意、ニ、シ、テ、帝、王、ノ、尊、稱、ニ、用、フル、コ、略、漢、土、ノ、陛下、ニ、相、似、タ、リ、然、ル、ニ、又、君、王、ノ、尊、貴、顯、榮、ニ、關、ス、ル、權、利、ヲ、モ、亦、マ、エ、ス、テ、イ、ト、ノ、權利、ト、稱、ス、猶、本、文、ニ、ナ、リ、)

(第一)君主ハ即スウエノ(按)國家ノ大權ヲ掌握スル者ノ義(ナルヲ以テ、又國家ノ尊貴顯榮ヲモ、一身ニ負荷ス、是故ニ君主タル者ハ、必スマ、エ、ス、テ、イ、ト、ノ、權利、ヲ、有、ス、ル、者、ニ、シ、テ、縱、令、ヒ、マ、エ、ス、テ、イ、ト、ノ、尊、稱、ヲ、得、ル、能、ハ、サ、ル、所、ノ、君、王、ト、雖、モ、此、權利、ヲ、有、ス、ル、ニ、至、リ、テ、ハ、決、マ、テ、異、ナル、コ、ト、ナ、シ、方、今、ハ、マ、エ、ス、テ、イ、ト、ノ、尊、稱、ヲ、以、テ、唯、カ、イ、セ、ル、(按)通、常、帝、ト、譯、ス、故、ニ、以、下、皆、帝、ト、譯、ス、)及、ヒ、ケ、レ、ニ、ク、(按)通、常、王、ト、譯、ス、故、ニ、以、下、皆、王、ト、譯、ス、)ニ、ノ、ミ、用、テ、其、他、ノ、君、主、ハ、縱、令、國、家、ノ、主、權、ヲ、掌、握、ス、雖、モ、決、シ、テ、此、尊、稱、ヲ、用、ヒ、ス、元、來、此、尊、稱、タル、ヤ、羅馬、ニ、テ、帝、位、ヲ、尊、稱、ス、ル、ニ、用、ヒ、タル、ヨ、リ、起、リ、

次、テ、佛、朗、哥、國、ニ、テ、用、ヒ、又、天、ヨ、リ、傳、ヘ、テ、獨、乙、帝、ニ、モ、用、ヒ、タ、リ、其、後、又、中、古、ノ、末、ニ、至、リ、テ、王、ヨ、リ、帝、ヲ、尊、崇、ス、ル、ニ、此、稱、ヲ、用、ヒ、シ、タ、リ、去、リ、王、ハ、帝、室、ヨ、リ、此、稱、ヲ、受、ル、コ、ト、能、ハ、サ、リ、キ、○又、エ、ス、ト、ハ、イ、ン、ノ、議、和、(按)一、千、六、百、十、八、年、ヨ、リ、其、四、十、八、年、ニ、至、ル、迄、三、十、年、間、獨、乙、ニ、テ、戰、争、ア、リ、テ、遂、ニ、エ、ス、ト、ハ、イ、ン、ノ、議、和、ニ、テ、始、メ、テ、和、睦、整、ン、タ、リ、世、之、レ、ヲ、三、十、年、ノ、戰、争、ト、稱、ス、)ノ、後、ニ、至、リ、テ、ハ、獨、乙、政、府、(按)即、帝、ノ、政、府、ナ、リ、)ヨ、リ、王、ヲ、尊、崇、ス、ル、マ、エ、ス、テ、イ、ト、ノ、語、ヲ、用、フル、コ、ト、ナ、リ、且、司、選、侯、(ク、イ、ル、フ、ニ、ル、

但、マ、エ、ス、テ、イ、ト、ノ、權利、ナ、シ、ト、雖、モ、唯、此、尊、稱、ヲ、得、ル、ニ、於、テ、妨、ナ、シ、是、故、ニ、后、妃、及、既、ニ、位、ヲ、禪、リ、テ、

政權ヲ辭セル君主ニモ、其尊榮ヲ表スルカ爲メ、此尊稱ヲ用フルヲ通例トス、
マエステートノ權利ハ、復此尊稱ノ有無ニ關スルコトナシ、是故ニ君主ノ國家元首タル尊榮ヲ毀損
スル者アルキハ、之ヲマエステートベライチング(羅句語ニキリメン、レセ、マエスタナスト云、

〔按〕君主ノ尊榮ヲ毀損スル罪科ノ義)ノ罪ヲ犯セル者トシテ、臣民ノ體面ヲ毀損セシヨリハ、更ニ
重キ刑ヲ加ヘタリ、

方今民主國ノ國法ニテハ、其元首ニマエステートノ權利、及其尊稱ヲ與フルコトナシト雖ヒ、舊羅馬民
主國ノ法ニテハ、其主長ニマエステートノ權利ヲ與ヘシリ、但シ尊稱ハ與ヘサリキ、

〔第二〕君主ハ敢テ侮辱ス可ラス(ワンヘルレツリフカイト、一ト爲シ、且ツ君主ノ身ハ、即チ神聖)ケ
ハイリフト)爲ス、而テ此事モ亦羅馬ノ國法ニ於テ、如クテ詳定セシコナリ、元來羅馬ニテホルクスト
リブン)ノ權利ヲ確保センカ爲メ、若シ之ヲ侮辱スル者アレハ、天神必ス其身驅、及其所有物ヲ没入

ス可シ(サクロサンク)ト定メタリ、然ルニ其後羅馬帝起ルニ至リテ、此ホルクストリブンノ權力、
及ヒ此規律(按)天神必、身驅所有物ヲ没入ス可シト云フ規律)ヲ合セテ、共ニ帝ニ移傳シ、且、基督
教行ハル、ニ至リシヨリ、帝ヲ以テ神聖ト爲ス、意益確實トナレリ、

〔按〕古時羅馬ニバトリシール及ヒアレベスト云ヘル二種ノ民アリテ、バトリシールハ貴族、ア
レベスハ平民ナリシカ、一時此二種ノ民不和ヲ生シテ、遂ニアレベスノ族、ハイリグベルグト云
ヘル山中ニ移住セシニ、其後又バトリシールト條約ヲ爲テ、爾後アレベスノ中ヨリ、代議者ヲ出
シテ、バトリシールト共ニ、國事ヲ議スコトヲ定メタリ、仍テ此代議者ヲ稱シテ、ホルクストリブ
ン云ヒシナリ

加特力教ヲ奉スル所ノ國ニテハ、此二件(按)君主ヲ侮辱ス可ラサルコト、及ヒ君主ヲ神聖ナリト爲
スノ二件)ノ意、今仍盛ナリ、但シ波羅特士日教ヲ奉スル國ニテモ、君主ノ侮辱ス可ラサルノ規律ハ、國

法ニ於テ甚緊要トシテ、嚴ニ之ヲ定ムト雖モ、君主ヲ以テ神聖ナリト爲ス規律ニ至リテハ、方今全ク
廢シタリ、

〔巴〕以里國一千八百十八年(文政元年)ノ國憲ニ云、王ノ身ハ神聖ナリ、敢テ侮辱ス可カラズ、

又西班牙國一千八百三十八年(天保九年)ノ國憲ニ云、王ノ身ハ神聖ナリ、敢テ侮辱ス可カラ
ズ、又、王敢テ保任ノ責ヲ負ハス、(按)保任ノ事、本卷第十三款ニ詳ナリ、又埃地利一千八百
四十九年(嘉永二年)ノ國憲ニ云、帝ハ神聖ナリ、敢テ侮辱ス可ラス、又云、帝敢テ保任ノ責ヲ負
ハス、(按)以上三國ハ、皆專ラ加特力教ヲ尊奉スルノ國ナリ、故ニ今仍君主ヲ以テ神聖ト爲スノ
規律ヲ存ス、然ニ荷蘭一千八百四十八年(嘉永元年)ノ國憲、及ヒ普魯士國一千八百五十年(嘉
永三年)ノ國憲ニハ、唯王ヲ侮辱ス可ラサル旨ヲ載スルヲミ、(按)此二國ハ波羅特士日教ノ國ナ
リ、故ニ王ヲ以テ神聖ト爲スノ規律ナシ、

〔第三〕君主ハ其尊榮及威嚴ヲ表スルカ爲メ、必ズ國ノ表章、ライフスインシグニ(チ尊帶ス、寇ハ
乃マエステートノ表章、劔ハ乃正善ヲ保護シ、邪惡ヲ亂割スル威權ノ表章、環ハ乃公明仁慈ノ表章ナ
リ、其他猶各國皆種種ノ表章アリ、譬ヘハ古時獨ル帝ノ位ニ即シニ方リ、始テ得シ所ノ金ノライフ
スアッセル(按)菓實ノ如ク球形ニ造リシ物)ハ、即全地球ヲ統御スルノ表章、又雙頭ノ鷲ハ、昔時
獨ルノ内相和セシテ、互ヒ抗拒セシテ、國帝始テ立ツニ迫テ、之ヲ和セシメ、以テ一體トナセシ
チ、示スノ表章ナルカ知ク、其他又百合花ハ佛國王表章、獅子ハ英國王ノ表章ナルカ如シ、儘又王自
テ好テ、各種ノ表章ヲ用ルコトアリ、

〔第四〕其他王位ノ尊榮ヲ表スル者二類アリ、其一ハ、即王室ノ職官(ホフスタート)其二ハ、即君主ヲ
崇敬スルニ要スル所ノ善美ノ儀禮、セレモノ、是ナリ、古時佛朗哥國ニテ、王室ニ四種ノ職官(按
四種ノ官トハ、用度ヲ掌ル官、廚房ノ事ヲ掌ル官、密藏ノ事ヲ知ル官、閑廐ノ事ヲ掌ル官是ナリ、マイ

三下六

四下六

エル氏著ス所ノコンヘルサオンス、レキシコン王室ノ部ニ詳ナリ、チ置キシヨリ、中古ノ諸王室、亦皆此制度ニ倣ヒタリ、而今時王室ノ職制、亦之ニ淵源スル者多シ、又今時君主ヲ崇敬スルノ儀禮ニ至リテハ、古時ビツァンツ帝國(按)紀元二百九十五年ニ於テ、羅馬帝テオドシウス、デル、ゴローセ

〔第五〕君主ハ必ス隆盛豐饒ナルヲ要ス、然ラサレハ、快シテ親々タル尊貴ヲ示スニ足ラス、然ルニ民主國ノ如キハ、之ヲ以テ緊要トスルコトナシ、但シ總令ヒ民主國ト雖モ、其主長タル者、衣食ニ乏シク、困厄貧窶、其生ヲ送ルヲ以テ、主適トスルノ理ハ、決シテアル可カラズ、蓋シ主長タル者、此ノ如クナル

五下六

其ニ悉皆帝ノ専ラニスル所、爲セリ、又中古羅馬人種、及ビ日耳曼人種ノ各國(按)羅馬人種ノ各國トハ、歐羅巴ノ南方、及ヒ南西方ノ各國ニシテ、殊ニ以太利、西班牙、葡萄牙國等ヲ云ヒ、又日耳曼人種ノ各國トハ、歐羅巴中央、及ヒ北方ノ各國ニシテ、殊ニ獨ル、荷蘭、瑞典、挪威等ヲ云ヒ、ニテモ、君主巨

甲 眞ニ國家ノ所有タル可キ者ハ、決シテ獨リ君主ニ屬セシ、必ス國家全體ニ屬スル者ニシテ、國家ノ諸歲入ハ、悉皆國家ノ所有スル所ナリ、故ニ又此所有ヲ以テ、諸歲出諸公費ヲ償フコト、當然ナリト爲ス、

乙 王室ノ費用ヲ償フカ爲ニ、國家ヨリ君主ニ附與スル所ノ財用ハ、即チヒールリステト稱スル者ニシテ、之ヲ以テ王室ノ私事ニ費スハ、君主ノ自由ニ任ス、

丙 眞ニ王室ノ私有スルモノ、始テヒールリステノ制ヲ設ケシハ、英國ニシテ、最初ハ毎年巴力門ノ會議ニテ、其額ヲ定メシカ、後世ニ至リテハ、預定額ヲ立テ、屢變更スルコトナシ、但シ其始ニ於テハ、從來王室ニ收受セシ國家

トナリ、且、近今各國立憲君主國トナルニ及ビ、國憲ニ於テ、全ク此ノ如キ混同ヲ廢スルコトヲ確定シタリ、○但シ此ノ如キ公私ノ混同ヲ全廢セシ以來、君主歲入ノ額ハ、全ク代國府ノ議定ニ因ル者トナリテ、從前公私混同セシ世ノ如ク、全ク王室ノ自由ヲササルハ、固ヨリ論ナシ、去レハ此混同ヲ廢セシカ爲ニ、王室會計ノ規則能ク整ヒ、又屢々費用多寡ノ差ヒヲ生スルノ憂、或ハ俄ニ許多ノ費ヲ銷スル等ノ憂全ク止ミ、且、額數既ニ定マンルカ故ニ、預メ費用ヲ算定シテ、其節制ヲ設ルコト、自ラ又容易トナリ、

其他國民モ亦國家ノ經濟ニ預ルヲ得テ、王室奢侈ノ爲ニ、收歛セラル、等ノ患除キ、又王室竊カニ代
國府ニ賄屬シテ、若干ノ徵稅ヲ議定セシムル等ノ弊止ミ、且ツ時勢ノ變化ニ隨テ、チヒールリステノ
額ヲ定ムルヲ、甚々容易トナリ、君民共ニ大ニ便ヲ得ルニ至レリ。

○一千六百八十九年(元祿二年)名聲盛ナル顛覆ノ後、維廉第三及其妃馬亞即位ノ時ニ於テ、始テ
定額ヲ立テタリ(按)一千六百八十九年ニ神教及ヒ暴政ノ事ヨリ顛覆起リ、國王ヤコブ第二
遂ニ佛國ニ奔リタリ)

決シテチヒールリステノ制アル可キ理ナシ、然ルニ方今歐洲各國ノ君位ノ如ク、盛強ノ威望ヲ以テ、
其全權ヲ一身ニ負荷セル者ニ、チヒールリステヲ附與スルハ、眞ニ當理ノ事ト云フ可シ、頭首ハ其滋
養ヲ、體軀ノ各部ヨリ資取スルニアラス、然ラハ則國家全體ノ爲、其埋治ニ勞スル君主ニシテ、其
需用ヲ國家全體ヨリ資取スルヲ、何ソ非理トセソヤ、
チヒトルリステハ、通常毎歲ノ定額金及ヒ王居、宮殿、博物院、其他寶器ノ類、總テ國家ヨリ王室ニ附與
スル者ヲ云フ、英國ニテハ、君主ノ即位毎ニ巴力門憲法(按)王ト兩院ト相議シテ、定メタル憲法ヲ

云)ヲ以テ、其君主在位中ノ定額ヲ立テ、佛國亦其恢復(按)一千八百十四年ボウルボン氏再ヒ王位ヲ
得ルヲ云)ノ時ヨリ、此制ニ倣ヒ、比レ時モ亦此制ニ倣フテ、國憲第四十三條ニ、其旨ヲ記載シ、荷蘭亦
此制ヲ取テ、其國憲第二十一條ニ、之ヲ記載セリ、其他ノ各國、亦此制ヲ取ル者多シ、唯獨乙各
ハ、或ハ預メ金額ヲ定メテ、終ニ變ヒセサル國アリ、或ハ國家ヨリ王室ノ所屬トセルドメーン(按)前
ニ見ユ)ノ稅餉ヲ以テ、其歲入トスル國アリ、○又西班牙ノ如キハ、其國憲第四十九條ニ據ルニ、君
主ノ即位毎ニチヒールリステノ額ヲ定ムルヲ、專ラコルテス(按)立法府ナリ)ノ議ニ委任ス、葡葡

牙ノ國憲第二十七條ニ載スル所モ亦之ニ同シ、又希臘國ニ於テハ、其國憲第三百五十七條ニ、十年毎
ニ會議ヲ以テ、チヒールリステヲ改正スル由ヲ載ス、○但シ兩院ヲシテ其欲スル所ニ隨テ、廢ル君主
需用ノ額ヲ變更セシメ、且ツ此額ヲ以テ明黨相爭フノ侯正ト爲サシムルカ如キハ、實ニ君主ノ君主
ル威望ヲ損スルノ甚々シキ者ト云フ可シ、

○(ヒ)以里國一千八百三十四年(天保五年)ノ國憲第二十三條、及ヒ普魯王國一千八百二十年(文政二
年)ノ國憲第五十九條ヲ參看ス可シ、

○(ニ)ダールマル(按)爾乙人、一千七百八十五年ニ生レ、八百六十年ニ死ス)ノ政學書ニ、毎年金額ヲ
定ムルカ如キハ、一私人ノ家事ニ於テスラ、尙堪ユ可カラズ、去ルチ國家第一等ノ王室ニシテ、此ノ
如キ制アルハ、實ニ笑フヘキコトナラスヤト云ヘリ、埋アル論ト云フ可シ、

○(三)チヒールリステヲ以テ、他ノ國家所有ト全ク相分テ、爾國ニ於テハ、國家ノ歲入、其歲出ヨリ多キハ、
則之ニ由テ國家ノ儲蓄ハ増益スレモ、君主ノ富有ハ決シテ増益セズ、又君主國家ヨリ收受セシチヒ
ールリステヲ節用シテ、貯蓄ヲ爲スルハ、若シ他ノ事故アルニ非レハ、君主ノ富必ズ増益スルヲ得可シ、
王子及ヒ王族ノアツナリ(按)王子王族ノ費用ノ爲ニ、國家ヨリ附與スル所ノ金額)ハ、之ヲチヒ
ールリステノ内ニ算入セシメ、別個ニ附與スルヲ其法トス、總テ君主ノ位置ハ、國家至重ノ者ナルカ故
ニ、其チヒールリステヲ以テ、兼テ多少ノ王子王族ノ需用ニ充ツシムルハ、甚々可ナラス、王子王族ハ自
ラ王室所有ノスタムヘルメーグンス、デル、コロチ)ノ貧富ニ準シ、其品位ニ應セル活計ヲ營、可キノ
權アルノミ、而シテ此活計ノ方法ハ、殊ニ私法ノ規律ニ屬シ、然ルニ君主ノ權利ハ、
殊ニ國法ノ規律ニヨル者ナリ、但シ王子王族ノ活計ノ方法モ亦自ラ王室ノ顯榮、國家ノ威嚴ニ、關係ナ
シト云フ可ラスト、雖モ、決シテ大關係アル者ニハアラス、○歐州各國ニテ、國土ヲ治ムルノ權ハ、必ズ唯一
ナラサル可ラサルノ理、概近始テ明瞭トナリテ、國法ニ於テ、此理ヲ貴重セシカ、故ニ、版圖ハ必ズ分割ス

可ラサルノ法トナリ、且ツドメーン及ヒコローングート(按王室ニ屬スル土地)ニ至リモ、共ニ王位ヲ繼リ所ノ君ニ傳フルコトナリシヨリ、始テアパナトーセノ制起リタリ、故ニ昔時ハ其他ノ王子王族等皆王室ノ所有ヲ君主ノ遺物トシテ、分取スルノ權利ヲ有セシカニ、輒近此權利ヲ廢シテ始テアパナトーセノ制ヲ立テ、王子王族等、之ヲ以テ其需用ニ充ツルコトナリ、而シテ額數ハ、王室所有ノ貧富ニ準シ、且ツ王子王族ノ需用ニ應シテ、國君自ラ之ヲ定メタリ、但近今ノ國法ニテハ、必ス憲法ヲ以テ、其額數ヲ定ムルコトナリタリ

第十三款

乙 不保任、ウソヘルアントナリ、及ヒ保任、ヘルアントナル

第一 國家ノ元首タル者、自己ノ處置ヲ保任スルヲ以テ、良法トスヘキヤ否ノ論、古來各國ニ於テ、相同シカラス羅馬ノ國法ニテハ、民主政體ノ時ニ於テスラ、政府ノ主長タル者、尙其職掌區域内ノ事ニ就テハ、敢テ保任セサルノ法ナリキ、然ルニ古時日耳曼ノ法ハ、全ク之ニ反シ、縱令君主ト雖モ、必ス保任スルヲ以テ當然ノ事トナシタリ、○方今君主政體ヲ立ル所ノ歐洲各國ニテハ、全ク羅馬ノ法ヲ取テ、君主ハ敢テ保任セサル者トス、但シニニステルヲ以テ、其政令ヲ保任ス可キ者トナシ、而シテ君主ハ必スミニステルノ輔佐ヲ得サレハ、敢テ政令ヲ施行ス可ラストナスカ故ニ、君主不保任ノ權利モ、其實ハ自ラ限制セラル、所アリ、唯獨リ佛國那威倫氏ノ國家ニ於テハ、君主敢テ保任スルノ法ヲ立ツ、方今ノ民主政體ニ至リテハ、概シテ日耳曼ノ法ヲ取テ、主長保任ノ制ヲ用フ、○今左ニ古來保任不保任ノ因テ起リタル所以ヲ論ス

第二 羅馬國ニテハ、素ト政體ノ威強ナルヲ以テ、專ラ緊要ノ事トナシタリ、但シ其民主政體ノ時ニ於テハ、政權甚ク強大ニ過キテ、遂ニ專横ニ至ルヲ懼レシカ故ニ、之ヲ預防シテ、主長在職ノ年限ヲ短縮シテ、屢之ヲ改選スルノ法ヲ立テ、且ツ政體ヲ一人ニ托セスシテ、其勢ヲ分割スルノ法ヲ立ク

リ、去ル若シ主長タル者、其在職ノ年限中、必ス其政令ヲ保任セサル可ラサルノ法ヲ立ルルハ、主長ノ威力、遂ニ之ヲ爲ニ滅殺セラレ、且ツ其尊貴顯榮、亦之レニ因テ、陵夷スルニ至ランコト恐レ、加之、國家第一等ノ高官タル者、同等若クハ下等官員ノ審判ヲ受ルハ、條理甚ク紊ル、コト爲セシカ故ニ、主長不保任ノ法ヲ立タルナリ、○是故ニナベリウス、ガラフス(按羅馬民主政體ノ時ニ於テ、ホルクスストリブンノ一人ナリ、ホルクスストリブンハ、本卷第二款(第二)ニ詳ナリ)カ、其同僚マルクスオシタヒウスノ職ヲ放ツノ議ヲ唱ヘテ、遂ニ之ヲ遂ケシハ、即チ從來ノ法ヲ破リタルナリ、既ニ曲塞羅ノ説ニコンスル(按羅馬民主政體ノ時ニ於テ、政府ノ主長ナリ、人員二名トス)ノ職ハ決シテ罪ヲ以テ放ツ可カテスト云ヘリ、其後州縣ノ長官縱令モ、罪アリト雖モ、必ス其在職ノ期滿ル後ニアラサレハ、決シテ法院ニ於テ審判ヲ受クルコトナカリキ、○其後帝國トナルニ及テハ、縱令其官員罪アリト雖モ、帝自ラ其罪ヲ問フニ非サレハ、亦他人ノ之ヲ糾彈スルヲモ許サ、リキ、○帝必、自ラ憲法ヲ敬重スルノ義務ヲ負ハサルニアラス、去レモ若シ時レリテ、自ラ憲法ノ區域ヲ超エ、或ハ不正ノ事ヲナスコトアリハ、決シテ此罪ヲ問フノ方法ハ有ラサリキ、是故ニ帝ナル者ハ絶テ憲法ノ爲ニ、束縛限制セラル、者ニ非スト云フニ至レリ、

第三 中古日耳曼ノ論ハ、全ク羅馬ノ論ト相反セリ、日耳曼人ノ意ニテハ、縱令政權ヲ握リテ、國家ノ尊貴ヲ負ヘル意トイヘモ、罪アレハ之ヲ問フハ、當然ノコトニシテ、公正ノ法ハ、敢テ曲ク可ラストセリ、故ニ通常ハ上等ノ法官、下等ノ官員ヲ審判スルノ法ナリシカニ、若シ上等ノ法官、自ラ法ヲ犯シテ、國家ノ安寧ヲ害スルコトアルハ、其代者(按下等ノ法官ニシテ、上等ノ法官ニ代ハル者ヲ云)上官ノ罪ヲ審判スルノ法ナリキ、

中古ノ頃ニハ、王公侯伯、罪ヲ犯スニ至リテハ、帝之ヲ審判スルヲ以テ、當然ノコトセリ、去レモ此事ノ實ニ行ハレシハ、唯帝ノ統御内ナル獨乙羅馬合國ノミニシテ、其他ハ其督教ヲ奉スル各國トイヘモ

決シテ行ハレサリキ、**按**帝獨乙羅馬ヲ合シテ、之ヲ統御セシ故、此法此合國ニハ行ハレタレ、其餘ノ各國ハ、實ニ帝ノ統御ヲ仰カサリシ故、行ハレサリシヲ云、但右此各國ノ王公モ、亦絶テ帝ノ統御ヲ仰カサリシト云フニハ非サレ、只殆ト帝ノ爵位ヲ尊崇セシノミニシテ、實ニ全ク其統御ヲ受ケシニ非サレハナリ、○其後ニ至リテ、帝獨乙各國王公ノ爵位ヲ放ツニ方リテハ、必ス先ツライフスタク**按**獨乙ノ合議府ノ許可ヲ得サレハ、之ヲ施行スルヲ能ハサルノ法トナリシカ、後年獨乙帝國崩解**按**一千八百零六年、獨乙帝國崩解セリ、然ルニ辛未ノ歲ニ至リ、普魯士王ノ之ヲ恢復シテ、獨乙帝國トナレリ、ノ時ニ至ル迄、各國共ニ、猶帝ノ此權ヲ專ラニスルヲ認許シテ、決シテ帝最大至高ナル帝ノ權威ハ、天神ノ授托スル所トシテ、極メテ之ヲ尊重セシカ、是ニヨリテ、決シテ帝ノ不保任ヲ許スコトハ有ラサリキ、若シ帝ノ犯罪輕ウシテ、其位ヲ失フニ至ラサル者ナレハ、バルツガラーフ、ホン、ライオン**按**バルツガラーフ、シャフト、ナシメシ君、之ヲ審判セリ、去レ、其罪大ニシテ、帝位ヲ放ツカ如キハ、グールヒュルスト**按**本卷第五款第五ニ出ツ、ノ權ニアリキ、○輓近羅馬國法ノ規律ヲ取用スルニ至リ且、スウエーデーテート**按**本卷第一款ニ出ツ、ノ理、大ニ開明セシヨリ、一ルヒュルストノ權ヲ以テ、帝位ヲ放ツノ非理ナル所以、世ニ明瞭トナリテ、學者大ニ此法ヲ排斥セリ**按**グールヒュルストハ、帝ヲ選擇スル權アレ、既ニ之ヲ選擇セシ後ハ、帝ノ統御ヲ仰ク者ナリ、然ルニ猶帝ヲ廢スルノ權アルハ、即チ下ニシテ、上ヲ罰スルモノニシテ、甚ク國家ノ大權ニ害アルヲ以テナリ、

第四近今ノ法ニテハ、君主ノ不保任ニ三様アリ、其一ハ、私法ニ關セル不保任、(アリハートレフトリ、ウンヘルアントナルトリフカイト)其二ハ、刑法ニ關セル不保任、(ストラフレフトリ、ウンヘルアントナルトリフカイト)其三ハ、政治ニ關セル不保任、(ポリチーセ、ウンヘルアントナルトリフカイト)是レナリ、

羅馬ノ法ニテハ、帝ノ專權ヲ准許セシカ、私法ノ事ニ至リテハ、帝ト雖、必ス自ラ保任スルヲ當然ノ事トセリ、但臣民且ニ帝ヲ負債者トシテ、法院ニ訴フルヲ能ハス、去レ、帝亦實ニ一私人ナラスト云フ可ラス、帝果シテ一私人ナレハ、必ス他人ニ相對シテ、私法ニ屬スル所有ノ關係ナキ能ハス、是ニ於テ帝ノ所有ヲ以テ、帝ノ私身ニ代ヘ、之ヲ以テ他ノ私人**按**臣民ヲ云、ト同等ノ者ト視セシナリ、是ニ於テ國家ノ所有タルヒス、**按**前款ニ論セシ如ク、古時ノ法ニテハ、國家ノ所有ト稱スレ、且實有トチ分別スルコト、今時ノ如ク判然クラサリシ故、茲ニヒス、ス、以テ、國家ノ所有ト稱スレ、且實ハ殆ト王室私有ニ異ナラス、**及**ヒヒス、ス、ニ同シキ權利義務ヲ有セル、帝室ノ私有チ、一個ノ負債者ト視做シテ、之ヲ法院ニ訴フルノ權利、臣民ニ在リシカ故ニ、臣民實ニ法院ノ保護ヲ受ル者ニシテ、決シテ帝ノ爲ニ、其權利ヲ枉害セラル、ノ憂ナカリキ、

又方今各國ノ國法トハ、臣民君主ノ負債ノ事ニ就キ、之ヲ訴ヘントスルヲ阻止スルノ理、決シテアル可ラス、實ニ羅馬ノ國法ニ從フヘキ、固ヨリ當然ナリ、但日耳曼ノ法ノ如ク、臣民且ニ君主ヲ負債者トシテ訴フルヲ許シ、以テ其管下ノ法官ヲシテ、君主ヲ審判セシムルカ如キハ、條理ニ戻ルコト甚シウシテ、實ニ君主ノ體面ヲ毀損スルコト、甚クカラサルヲ忘ス可ラス、是故ニ輓近スウエーデーテートノ理開明セシヨリ、遂ニ此法ヲ廢棄スルニ至リタリ、○方今ハ臣民國家ノ所有ニ就テスラ、尙訴訟ヲ爲シ得ルノ法ナレハ、況テ君主ノサヒールリステ、或ハ其私有ニ就テ訴フルヲ得ルコト、固ヨリ當然ナリ、

然ルニ英國ニテハ、此事ノ規律未タ開明セシテ、獨乙ノ法ニ劣ルコト甚ク、何者、英國ノ法ニ於テモ、君主ノ負債ニ就テ、臣民ノ之ヲ訴フルヲ許シ、以テ臣民ヲ保護スルハ、獨乙ニ殊ナラスト雖、唯臣民ノ之ヲ訴フル權利ヲ以テ、決シテ其當然ノ權利トナサス、特ニ國君ノ慈惠ニ出ル者トナセハナリ、

○ブラックトン(按英人、一千七百二十三年ニ生レ、八十年ニ死ス)ノ英法論ニ云、「人若所有ノ事ニ就テ、國君ノ事ヲ訴ヘント欲セハ、カンツテホフ(按上等法院)ニ訴フ可シ、然ルモハ官臣民ノ權利ヲ以テ、國君賜フ所ノ慈悲ト視做シテ、之ヲ保護シ、且國君ノ此臣民ニ對セル義務ハ、法ノ嚴ニ命スル所ト爲サス、特ニ國君慈悲ヲ臣民ニ施スカ爲ノ務トナス。」ト蓋シテラックストン氏ノ說ハ、ブッヘンドルフ(按獨乙人、一千六百三十二年ニ生レ、九十四年ニ死ス)カ唱ヘタル考察性法論(ヘルマイットリヘス、ナツールレフト)ヲ因テスル者ナリ、其論ニ「賢明ナル君主ハ、敢テ臣民ニ對シテ、其約束ヲ破ルヲ欲セサルハ、固ヨリナレド、縱令若ク之ヲ做ルコトアリモ、臣民タル者、上ヲ要シテ、此約束ヲ遂ケントスルハ、大ニ性法ノ理ニ戻レリ。」ト云ヘリ、去レモ其論中相矛盾スル所アルハ、辨テ俟スシテ明カナリ、(按論中相矛盾スル所ト云ヘルコト甚ク難シ、但シ、賢明ノ君ハ、約束ヲ破ルヲ欲セス、云ヒナカラ、縱令約束ヲ破ルコトアリモ、之ヲ不法ト爲サ、ルハ、即相矛盾スル所以ナル歟、猶再考ス可シ)

(第五)刑法ノ事ニ就テハ、私法ノ事ニ於ケルカ如ク、國君ノヒスクス、若クハチヒールリステヲ以テ、國君ニ代ハルヘキ者ト爲ス可ラス、何者、ヒスクス、チヒールリステ等ノ如キ物ハ、固ヨリ罪ヲ犯スヘキ者ニアラス、且國君ニ罰ヲ加ントスル法院ハ、素國君管下ニ屬スル者ナルカ故ニ乃下ニシテ上ヲ罰スルノ理ニシテ、甚ク良法ト云フ可ラス、且縱令私法ノ真否ヲ問ハス、敢テ之ヲ行フモ、君主ヲ罪犯ハトシテ、之ニ刑ヲ加フルハ、其下タル者、實ニ忍テヘカラサルノ極ニシテ、且之ニ由テ大ニ君主ノ威嚴ヲ損シ、大ニ國君ノ安寧ヲ害スル患ノレハナリ、○君主一罪アルニ方リテ、設措テ之ヲ問ハサルモ、必ス其弊害ナシト云フ可ラス、去レモ問ハサルヨリ、生スル弊害ヲ以テ、君主ニ刑ヲ加フルヨリ、生スル所ノ弊害ニ比シテ、之ヲ考フレハ、則問ハサルヨリ、生スル弊害ハ尙小ナリ、若シ君主ノ罪狀ヲ舉テ、之ヲ罰スルモ、是ニ因リテ、遠ニ全國ノ秩序ヲ破リ、安寧ヲ害スルニ至ラント必セリ、是故ニ近今ノ法ニテハ、君主刑法ノ事ニ就テハ、全ク保任セシテ、可ナルノ規律ヲ保守ス、

(第六)政令ノ處置ニ就テモ、亦方今各國ノ國法、皆全ク保任セサルノ規律ヲ用フ、去レモ此規律ヲ用フルノ意、世ニ其體裁ニ至リテハ、舊羅馬ニテ此規律ヲ用ヒシ意、並ニ其體裁トハ、全ク相異ナリ、

羅馬ニテハ、君主ハ敢テ憲法ノ爲ニ限制セラレシテ可ナル者ト爲セシカモ、方今無限ノ君權ヲラサル各國ニテハ、全ク此意ヲ取ラスシテ、君主ナル者ハ、必ス國憲及ヒ憲法ヲ敬重スルノ義務ヲ負荷セル者ト爲ス、故ニ此事ニ就テハ、方今ノ立憲國、皆共ニ羅馬ノ君權無限ノ法ヲ棄テ、而シテ日且曼ノ法ヲ取テ、君主ハ國家法制ノ範圍中ニ於テ、其頭首ニ位スル者トシテ、必ス先ッ其法制ニ從テ、自己ノ權柄ヲ施行シ、且共ニ其法制ヲ保護セサル可ラサル者ト爲スニ至レリ、○各國君主各自カラ許可シテ此ノ如キ義務ヲ負荷セサル可ラサル者トセリ、故ニ國憲憲約(ヘルハッスングスアイト)按國憲ヲ遵奉スヘキ旨ヲ述ル誓約(及ヒ登昨誓約)コロロスングスアイト(按登昨ノ時、爲ス所ノ誓約)ヲ以テ之ヲ天神及ヒ人民ニ誓フテ常法ト爲ス、若シ君主ナシテ現存ノ法ヲ遵守セシムルノ方法、愈少クケレハ、此ノ如キ制度(按誓約ヲ爲スノ制度)愈緊要ニシ、且其善ナリトス、何者、此ノ如キ制度ハ、君主ヲシテ、義務ノ必守ラサル可ラサル所以ヲ辨識セシメ、以テ大ニ其心ヲ獎勵スルニ足レハナリ、

(第七)英國ノ國家學者、國君ノ國憲憲法、及ヒ慣用法ヲ遵守スヘキ義務ト、其保任ノ制度ト、全ク矛盾セサル理ヲ、明示セント欲シテ、「國君ハ敢テ不正ノ事ヲ爲ス能ハス。」ト云ヘリ、去レモ全ク取ルニ足ラス、蓋シ此語ノ意、國君ヲ以テ、完全具備、一點ノ過ナキ人ト爲ス者ニシテ、猶加特別敬禮敬慕ノヲ以テ、大成至聖一小瑕ナキ人ト爲スカ如シ、是即君職純清ナル所以ノ理、及ヒ君主政體完全ナル所以ノ理ヲ以テ、之ヲ體軀ヲ備ヘタル君主ニ移スナリ、○既ニ巴力門ハ此理ニ由テ、國君ノ言行ヲ誹謗セシ徒テ、屢繫獄ノ刑ニ處セシコトアリキ、

○(按)蓋シ本文謂フ所、君職ハ、極メテ純清ナル者、君主政體ハ、極メテ完全ナルハ、固ヨリナレド、是唯十全ノ理ノミ、然ニ此十全ノ理ヲ取り、以テ活體ノ具ヘタル君主ヲ論スルハ、甚ク誤ルト謂フ

へル。活體アル者ハ、終始十全ノ理ニ合スル者ニ非ラスト云フノ意ナリ。
 去レ此ノ如キ事ハ、唯天理政體イデアチカチー(按)實ニ國家ニ主タル者ハ、人ニアラス。天理ナリ
 トスル政體ナリ)ノ國ニ適應ス可クシテ、君主國ニハ、決シテ適應セサルナリ。學者縱令ヒ百方辨ヲ費
 シテ、此ノ如キ理ヲ主張セント欲スルモ、素ト古今萬國ノ事實及ヒ天賦ノ人性ニ戻レル論ナレハ、決シ
 テ其非ヲ掩フ能ハス。總テ人ノ良知ノ許可セサルコトヲ以テ、法上ノ規律ト爲サント欲スルハ、譬ヘ
 ハ猶蘇漢ノ上ニ、宮殿ヲ造ルカ如シ。其地殆固ヨリ昔チ俟タス。○君主若シ小事チモ爲シ能ハサル
 ハ必、又一不正チモ爲シ能ハサル可シ。君主本偶ニ同シウシテ、全ク他人ノ爲ニ、其權ヲ竊マル、歟
 否ラサレハ、君主自己ノ意思ヲ以テ、國家ノ治安ヲ謀ラント欲スルモ、力及ハサルカ爲ニ、遂ニ他人
 ニ、其權ヲ奪ハレテ、實ニ國事ノミナラス、亦一身ノ事スラ、尙之チ自在ニ爲ス能ハサルニ至レハ、君主
 ハ敢テ不正ノ事ヲ爲ス能ハス。ト云フモ可ナリ。去レ此事體此ノ如キニ至リテハ、君主ノ君主タル權
 力ハ、全ク亡滅シテ、一ツモ存スル所ナシ。故ニ君主敢テ不正ノ事ヲ爲ス能ハス。ト云フ語言ハ、君主
 タル者、國家ノ政權ヲ一身ニ統一スル所以ノ條理ト、全ク相矛盾スルコト明ニシテ、且、君主及ヒ國家ノ
 爲ニ、甚々弊害トリ。君主ハ敢テ不正ノ事ヲ爲ス勿レト云ヘハ、眞ニ當理ノ確言ト云フ可シ。

(第八)是故ニ君主不保任ノ法ヲ立ツルヤ、決シテ君主ノ身完全具備シテ、一點ノ過誤ナキチ以テス
 ルニアラス。唯方今ノ世、君主ノ上ニ位シテ、之ヲ審判スル所ノ法院ナキチ以テナリ。且、又君主ヲ罪
 犯人トシテ、之ニ刑ヲ加フルルハ、之ニ由テ生スル所ノ國家ノ災害タル、實ニ君主ノ一ニ暴業ヨリ生
 スル弊害ヨリモ、更ニ甚シキチ以テナリ。(若シ各國ノ上ニ位スル大法院アリテ、能ク各國君主ノ正邪
 曲直ヲ審判シ、且、又此審判ノ爲ニ、國亂ノ生スルコトアルニ方リテハ、能ク之ヲ制壓スルノ權力ヲ
 備フレハ、中古羅馬拘乙合國ノ制ニ倣テ、不保任ノ法ヲ廢スルモ之ニ由テ災害ノ生スルコト、決シテ有
 ル可カラス。後世法理眞ニ開明スルニ至レハ、遂ニ能ク此ノ如キノ法モ行ハル可ク、且、之ニ由テ君
 主ノ權力モ亦、強大トナルニ至ル可シ。蓋シ總テ保任ノ法ハ、人チシテ邪惡ヲ爲サシメサルニ足ルノ

ミナラス、却テ亦舉措處分ヲ、自由ニナサシムルノ良法ナレハナリ。○英國ニテハ、國君不保任ノ法
 チ立ルトイヘル。其ミニスレルヲ舉ルニ方リテハ、必、巴力門多數ノ信スルト、否、チ視テ、然後ニ之
 チ舉ル。然ルニ、北亞米利加ニテハ、大統領保任スルノ法アレハ、其ミニスレルヲ任スルニハ、敢テ代
 國府ノ信否ヲ窺ハスシテ、自由ニ之ヲ舉ル。又佛國ニテハ、曾テ不保任ノ權ヲ握リタ。君主スラ、爲シ
 能ハサリシ事チモ、保任ノ義務ヲ負ヘル大統領ハ、却テ能ク自由ニ處分シ得タリキ。

○路、那破倫(按)那破倫第三世ナリ)一千八百五十二年嘉永五年二月十四日ノ布告書ニ、左ノ
 旨ヲ述、タリ曰ク、(君主不保任ノ法ハ、嘗テ三次ノ顛覆ニ於テ、滅絶セシ者ナルチ、猶此ノ如キ制度
 チ立テ、之チ國憲ニ載スルカ如キハ、實ニ民心チ欺ク者ト云フ可シ)ト。去レ佛國ニ於テモ亦、保任
 ノ法、決シテ眞ノ制度ト稱スルニ足ル地歩チハ、占メサリキ。

君主及ヒ國家共ニ、天神ニ對シテ、其所爲ヲ保任セサルノ罪ハ、決シテアルヘカラス。且、人世ニ於ケル
 モ、一時ハ能ク其所爲ノ非ヲ掩ヒ得ヘキモ、永世遂ニ之チ匿ムコト能ハサルハ、必然ノ理ナレハ、君主不
 保任ノ規律ハ、實ニ君主國ノ條理ニ於テ、緊要ノ事ト云フ可カラス。止方今列國法、未ダ完全ノ地位ニ
 至ラサルカ故ニ、君主保任ノ法ヲ用フルルハ、之ニ由テ國家ノ大騷亂チ生シ、其害却テ不保任ノ法ヲ
 用フルルヨリ起ル所ノ害ヨリモ、更ニ倍蓰センコトヲ恐ル、カ爲ニ、已ムチ得ス。不保任ノ法ヲ用フルナ
 リ、但、不保任ノ法、雖ヒ、決シテ全ク限界ナキニハアラス。必、之チ限制スル者ナシト云フ可ラス。其
 故ハ何ソヤ、君主實ニ此權利ヲ恃ミ、苛酷暴虐ヲ恣行スルルハ、臣民敢テ之ニ恭順セス。遂ニ顛覆チ
 謀リ、以テ嚴罰ヲ君主ニ加フルニ至レハナリ。

(第九)方今各國、皆共ニ君主不保任ノ制度ヲ用フルハ、羅馬ノ國法ニ同シト雖ヒ、又別ニ、ミニスレル
 保任ノ制ヲ立テ、以テ君主不保任ノ弊害ヲ救フカ故ニ、羅馬ノ法トハ全ク同シカラス。
 立憲國ニ於テハ、君主政令ヲ施行スルニ就テ、必、ミニスレルノ輔翼ヲ假ラサルチ得スト爲ス。是ニ

於テミニステル必、政令ヲ保任スルノ法ヲ立テ、政令若シ憲法及シ憲法ニ悖戻スルコトアルハ、則ミニステルヲ以テ、必、其罪ヲ負當セサル可ラサル者ト爲ス、是ヲ以テ不保任ノ權利ヲ有セル、君主モ亦此法ノ爲ニ牽制セラレ自ラ不正ヲ爲ス能ハサルニ至ルナリ蓋ミニステルナル者、君主ノ自ラ爲セル不正ニ代テ、甘シテ其罪ヲ受ル者ハ殆ト希ナルニ由リテナリ、○輒近スウエレトテテートノ理、大ニ開明セシ以降、古時日耳曼ニテ用ヒタル、君主保任ノ制度ノ非ナルヲ知テ、遂ニ之ヲシ、之ニ代ヘテ、君主不保任ノ法ト、ミニステル保任ノ法トナシ、並用スルニ至レリ、此法剛立セシ以來、君權大ニ過キテ、其限界ヲ踰越スルカ如キ弊熾ミ、君主及其寵遇ヲ得タル黨與ニ至リテモ、生半敢テ違法戻典ノ舉アルコトナシ、且、ミニステルモ亦現在ノ形勢ニ着眼シテ、能ク細心ニ事ヲ處ヒスルニ至レリ、故ニ此法アリト雖モ、ミニステル罪ヲ得テ、審判ヲ受ルカ如キハ、世甚ク罕レニシテ、却テ君主及ミニステル等ヲ獎勵シテ、心ヲ其義務ニ竭サシムルニ至レリ、○但シ又此法立テシカ爲ニ、君主ナル者保任ノ義務ヲ抱ケルミニステルノ輔佐ヲ假ラヌシテ、恣ニ事ヲ施設シ、且、臣民モ亦、自然ニ之ヲ默許シテ、其非ヲ論セサルカ如キ弊害、全ク無シトハ云フ可カラズ、○又時アリテハ、此、アルカ爲ニ、ミニステル等ノ威權却テ君主ニ超過シ、君主ハ徒ニ虛器ヲ擁キテ、實權ハ全クミニステルノ掌中ニ歸スルカ如キ弊害モ、亦全ク無シトハ云フ可カラズ、○卷之四第二十一款及卷之七、第五第六款ヲ參看ス可シ、○既ニ一ノ國ニ於テ此ノ如キ弊害ノ生セシコトアリキ、

○佛國ニテ、一千七百九十三年(寛政五年)八月十日ノ事(按此時佛國ニ顛起リ、暴短此日ニ於テ、路易第十六ニ迫リテ幽囚シタリ)起ルニ方リ、衆人(國君(按路易第十六ナリ)ノ己レヲ固ウセンカ爲メ、顛覆黨ヲ敵視セル者ト、嘗テ相結ヒシヲ知リシ後、コンヘント(按議會ノ名)ニ於テ、君主保任不保任ノ制度ニ就テ、盛ニ激論アリシカ、結果遂ニ此議ヲ決シ、國君ヲ黜ケ、併セテ王位ヲ廢シタリ

〔第十〕方今ノ諸民主國ニテハ、政府ノ主長及シ其職員共ニ必ス保任スルノ規律ヲ用フ、私法ノ事ニ於テハ、主長職員、兩ナカラ皆尋常ノ法院ニ於テ、之ヲ審判シ、且、刑法ノ事ト雖モ、尋常ノ罪科ハ、必通例ノ法ヲ以テ審判ス、○私事ニ於テ不正ヲ爲セルニ方リテハ、其審判ノ法、全ク尋常ノ私人ニ異ナラス職官ノ故ヲ以テ、決シテ他法ヲ用フルコトナシ、但シ官事ノ不正ヲ以テ、之ヲ審判スルニ至リテハ、民主國ト雖モ、亦必、別法ヲ用フ、蓋シ職官ノ威權、是ニ由テ減殺センコトヲ恐ル、ナリ、若シ此ノ如キ官事トイヘ、必、常立ノ法院ニ於テ、其審判ヲ行フハ、法院ノ威權、自ラ政府ニ超過スルニ至リ、國家ノ序次、甚ク錯亂スト云フ可ク、且、常立ノ法院ハ、政務ニ密涉セル事件ニ就テ、審判スルハ堪ヘサル者ナリ、(卷之七、第六款ヲ參看セヨ、事理此ノ如キヲ以テ、瑞士國ノ國憲ニテハ、政府其政令ノ施行ニ就テハ、専ラ立法府ニ對シ、保任スルノ規律ヲ立ツ、則、政令權柄ヲ掌握スル徒、立法權柄ヲ掌握スル者ノ、審判ヲ受ルナリ、○又北亞米利加ニテハ、統領及其他ノ職員、罪犯アルニ方リテハ、下院之ヲ訴ヘテ、上院之ヲ審判スルノ規律ナリ、○

○警ヘハチヨリフ邦(按瑞士合邦ノ一ナリ)ノ邦憲第十四條ニ云、「若シ邦憲、憲法、或ハ職務ニ悖戻セル處置アルハ、エローセル、ラート(按立法府)ヨリ、レギオングスタート(按政府ナリ)及、オーベルゲリント(按上院ナリ)ニ將來ノコトヲ被論シ、或ハ其職員ヲ召シテ、之ヲ審判ス」ト、○又瑞士合邦ノ國憲第七十四條ヲ參看ス可シ、

○亞米利加合邦ノ國憲第一款第三條ニ云、「獨リセナート(按即上院ナリ)ノミ國事ニ就テ審判スルノ權アリ、」同上第二款第四條ニ云、「統領、副統領、及其他諸政官、叛國ノ罪ヲ犯シ、或ハ賄賂ヲ貪リ、又ハ其他ノ重罪ヲ犯セルカ爲メ、下院之ヲセナートニ訴フルハ、其職ヲ放ツ可シ」ト、○又佛國一千八百四十八年(嘉永元年)ノ國憲第六十八條ニ云、「統領及シミニステルハ、自己ノ職掌ニ係レ

ル事ハ、統テ之ヲ委任スヘシ、又九十一條ニ云、「ナチオナールヘルサムルング、(按)議會ナリ」
ヨリ統領或ハミニステルノ罪狀ヲ訴フルルハ、オーベルステル、ゲリツツホフ、(按)最高ノ法院
之ヲ裁決ス可シ、敢テ之ヲ他ノ法院ニ委スルコト無ク可シ、」又九十二條ニ「オーベルステル、ゲリ
ツツホフノ官員ハ、法官五名、ゲスナル子(按)重刑ヲ施スニ方リテ、民人中ヨリ、徳望アル者數員
ヲ舉テ、之ニ其罪ノ有無輕重ヲ商議セシム、之ヲゲスナル子ト云フ、」三十六名ナリト、

第十四款

丙 施政ノ權利(レギールングス、レフト) 外權(ステルヘルト、レトツング、ナーフ、アウツセン)

(第一) 國家ノ元首ハ國家ニ代、リテ、其尊榮、權利、及ヒ威方ヲ、他列國ニ示ス者ナリ、而シテ其規律ニ
於テハ、方今君主國民主國共ニ、大抵相同シ、唯君主ノ威權ハ、君主國元首ノ威權ニ比スレハ、更ニ大
ナルノミ、
是故ニ公使、(ゲサンテ)ヲ外國ニ差遣シテ、之ヲ信任シ、或ハ外國ノ公使ヲ受ケテ、之ヲ認ムル等、内
外ノ公事ヲ掌ル權利、全ク元首ニ在リ、去レテ君主敢テミニステル(按)外務ミニステルナリ)ノ輔
佐ヲ假ラスシテ、公使ヲ選任シ、或ハ其章程ヲ設立スルヲ許サス、但シミニステルノ舉ント欲スル者
ハ、君主之ヲ信セスト雖、強ヒテ聽從スルノ理ハ、決シテ有ルコトナシ、又ミニステルノ爲ニ阻攔セラ
レテ、親ラ我公使ニ接遇スル能ハサルノ理モ、亦決シテ有ルヘカラス、加之、立憲國ノ法ニテハ、君主敢
テミニステルノ補佐ヲ論テ俟タスシテ、自ラ内外ノ情實ヲ觀察スルヲ許ス、唯内外交際ノ事ヲ決定
スルニ方リテハ、必スミニステルノ允可ニ賴ラサルヲ得ス、(君主、外國ト事ヲ論定スルカ如キハ、必
ミニステルノ輔佐ヲ假ルニアラサレハ、之ヲ舉行スルヲ許サス、去レテ外國朝廷若クハ其政府ノ情實
事體ニ就テハ、君主直ニ其報告ヲ得テ、毫モ妨ケナシ、

國內ニ於テ君主ヲ除クノ外、自ラ外國ノ公使ヲ認ムル者、絶、テ是レ有ラス、君主ノ信任ヲ受ケスシテ
能ク公使ノ職掌ヲ施行スル者、亦絶、テアルコトナシ、總テ列國交際ノ大事件ハ、獨リ國家ノ元首、及ヒ其
全權ヲ委任セラレタル者、能ク之ヲ掌ルヲ得、唯既ニ條約(ヘルト、レゲ)慣用法、(ヘルコムメン)或
ハ憲法上、預、裁定セル民間私事、(ブリハート、サー)及ヒ警保事務(ポリツァイ、サー)一按)國家、及
民間ノ安寧平穩等ヲ警保スル事務ナリ、卷ノ七第八款ニ詳ナリ、ニ屬スル小事ノ處置ニ至リテハ、
列國下等ノ官吏、互ヒニ國界等ニ相會シテ、專對議定ス、○但シ縱令此ノ如キ小事ト雖、元首或ハ
自ラ之ヲ措置セント欲スルハ、下等官吏ノ之ヲ掌ルヲ停ムルノ權アリ、即チ卑權ハ高權ニ對シテ、
其勢力ヲ失フナリ、
(第二) 君主ハ、宣戰講和ノ權利ヲ掌握ス、但シ此事ハ全ク國家ノ掌ル所ナレバ、君主必、之ヲ一身ニ統
轄スルナリ、故ニ黨人或ハ軍隊、君命ヲ俟タスシテ、能ク外國人ト爭端ヲ開ク可シト雖、敢テ戰爭
ヲ宣告スルヲ得ス、又君命ヲ俟タス、能ク休戰スヘシト雖、敢テ和ヲ講スルヲ得ス、○若シ立法府ヲ
シテ、直ニ宣戰講和ノ義ニ參預セシムルハ、政府ノ權殆ト立法府ニ移ルニ至ルヘシ、故ニ歐洲各國
ニ於テハ、實ニ害アリトス、蓋シ立法府ニテ、此等ノ商議ヲ爲スハ、動モスレハ、敵國ノ利トナルコト多
ク、自國ノ利トナルコトハ、殆ト罕ナリ、○今日下ノ事ニ應メ、之ヲ處置スルコト方リテハ、必、其情實、事體
ヲ沈思熟慮シ、純一ノ意見ヲ以テ、之ヲ決定シ、而メ議既ニ決定セハ、時ヲ費サス、神速ニ之ヲ舉グル
コト、甚、緊要ナリ、然ルニ立法府ノ如キハ、必ス黨論相分レ、商議輒ク一決セサルカ故ニ、此ノ如キ時ニ
當テ、其情實事體ヲ沈思熟慮シ、純一ノ意見ヲ以テ、之ヲ決定スルコト甚難ク、且、既ニ決定スト雖、神
速ニ舉行スルモ、亦甚、難シ、
但シ君主宣戰講和ノ事ヲ獨決スルヲ得ルハ、君主ノ權甚、強大ニ至ルハ、論ヲ俟タス、而シテ其弊害
ヲ數フレハ、君主若シ恣ニ無名ノ師ヲ興シ、或ハ無謀ノ戰ヲ開テ、若シノ軍費ヲ要スルコトアレハ、民人
必、之ヲ償フノ義務ヲ負ハサルヲ得ス、是時ニ至リ、立法府ミニステルノ罪ヲ舉ケ、之ヲ罪スルモ、既

ニ許多ノ人命ヲ殘ヒ、若干ノ財用ヲ費シ、及ヒ國家ノ安寧ヲ傷リシテ如何セシ、且ツ勢既ニ此ノ如クナルニ至リテ、軍費ヲ納ルルニ肯セサルハ、義ニ於テ爲ス可カラサル所ナリ、但シ假令、義不義ニ於テ論セサルモ、若シ之ヲ肯セサルノ機アルキハ、君主兵力ヲ以テ、暴ニ臣民ニ迫ルカ如何セシ、蓋シ獨リ君主宣戰講和ノ權ヲ專ラニスル、其兵ノ底ル所、大凡此ノ如シ、實ニ輕忽ニ考フ可カラス、去レモ又政府此ノ如ク無名ノ軍ヲ興シ、無謀ノ戰ヲ開クニ方リテハ、立法府能クミニスレルノ罪ヲ責問スルノ權利アリ、此權利アルノ利タルヤ、實ニ少カラス、蓋シ立法府此權利ヲ握ルカ故ニ、政府又能ク深謀遠慮シテ、敢テ輕舉妄動ノ事ヲ爲サス、且ツ立法府ノ衆論政府ト相悖ルヲ甚クシキキハ、能クミニスレルヲ退黜セシムルニ足ル、故ニ是ニ由テ、遂ニ能ク廟謨ノ方向ヲ變改セシムルコトアリ、(按ニ蓋君主宣戰講和ノ權利ヲ掌握スルノ弊害、必無シト云フ可ラス、去レモ若シ立法府ヲシテ、此權利ニ預ラシムルキハ其弊害更ニ甚シ、是故ニ立法府ニ此權利ヲ與ヘサルナリ、)

講和ノ事ハ、實ニ戰爭ヲ罷ムルノミニ止マラス、又此事ニ由テ、兩國ノ際、將來永續スヘキ規則ヲ立ルコト屢レ之レアリ、是故ニ講和ノ約、又一種ノ國約(スコーツヘルタラグ)トナリ、而シテ國約ノ規律ニ由テ限制セラル、

民主國ニテハ、宣戰講和ノ權若シ政府ニアルキハ、是ニ由テ政府ノ威力甚ク強大ニ至ランコト恐ル、是故ニ北亞米利加合邦ノ國憲ニテハ、宣戰ノ權利ヲ以テ、エングレンス(按ニ立法府兩院ナリ)ニ委テ、而シテ講和ノ權利ヲ以テ、統領ニ委テタリ、但シ預メセナリト(按ニ上院ナリ)ノ決議許可ヲ得サレハ、之ヲ施行スルヲ得ス、蓋シ此法ヲ立ルノ意タルヤ、戰端ヲ開クヲ以テ、民主國ノ爲ニ甚ク害アリト爲シ、和ヲ講スルヲ以テ甚ク害ナシト爲シ、且ツ宣戰ノ事ハ、勉メテ爲シ難シ、講和ノ事ハ、勉メテ爲シ易リスルヲ以テ、良善ノ事ト爲シタルナリ、○瑞士合邦ノ國憲ニテハ、宣戰講和ノ二權利ヲ以テ、單ニブノヂスヘルサムルング(按ニ立法府ナリ)ニ委ヌ、

〔第三〕外國ト盟約、ブノドニッス、及ヒ國約ヲ結フノ權利、亦元首ノ自ラ掌握スル所ナリ、縱令ヒ元首此權利ヲ施行スルノ全權ヲ握レル國トイヘモ、亦自ラ之ヲ限制スル所ナキニアラス、何者、外國條約ト國內ノ法ト、相關セル規律ニ至リテハ、必ス立法府之ニ預ラサルコトナリ、且ツ二三ノ國ニ於テハ、其國憲中、故ラニ外國條約ニ關セル規律ヲ、裁定スレハナリ、○

○瑞典國ノ國憲第十二條ニ云、「君主外國ト盟約ヲ結フノ權利ヲ掌握ス、但シ必ス預メ外國事務ヲ掌レルミニオステル、及ヒホフカンツレル(按ニ高官ナリ)ノ議ヲ聽カサル可カラス、○荷蘭ノ國憲第五十七條ニ云、「君主講和ノ約、及ヒ外國ト諸條約ヲ結フノ權利ヲ握ル、口若シ條約ノ旨趣、國家ノ大事ニ關ス可シト思フコトアルキハ、必ス之ヲシテラール、スターテン(按ニ立法府ナリ)ノ兩院ニ告諭ス可シ、口若シ歐洲若シハ他洲コアル所ノ荷屬ノ版圖ヲ分割シテ、之ヲ外國ニ與ヘ、或ハ之ヲ外國所轄ノ地ト交易スルノ條約ヲ結フ歟、若シハ、此條約中ニ、從來憲法ニ於テ定メタル權利ヲ改革シ、或ハ別ニ新法ヲ立ル等ノ條件アルキハ、必ス先ツ之ヲシテラール、スターテンニ告諭シテ、其准可ヲ得ルニアラサレハ、君主恣ニ條約ヲ結フヲ得ス」ト、

丁 施政ノ權利(レギールメグスレフト)

內權(インテレゲワルト)

施政ノ權柄ハ、徒ニ各殊ノ權利ヲ集成統合セル者ニハアラス、實ニ一點ノ、中心ニ、充積圓滿セル國權ノ、分レテ各殊ノ權利トナリ、煥然ト諸方向ニ於テ、發耀スル者ナリ、譬ヘハ猶一點ノ光輝、其線ヲ六隅ニ映射シテ、饒ス所ナキカ如ク然リ、○君主國ニテハ、君主乃一點ノ中心トナリテ、國權ヲ一身ニ收攬撮合ス、故ニ君主ハ、立法權柄ニ於テ、實ニ示案ノ權利(イニチアナー)。(按ニ法案ヲ立法府ニ示シテ、之ヲ商議セシムルノ權利)ヲ握ルノミナラス、兼テ亦決定ノ權利(サンクシオソ)。(按ニ立法府ノ商議スル所ヲ決定シテ、眞法ト爲スノ權利)ヲ握ル、故ニ獨リ君主法案ヲ査定シテ、之ヲ眞ノ憲法ト爲

シ、而シテ直ニ之ヲ公告ス、是レ君主乃國家ノ中心トナリテ、昭々タル一致和同ノ德光ヲ、其身上ニ彰ス者ナリ。○君主ハ、立法府ノ首領ナルヲ以テ、此府ノ議定ニ於ケル、或ハ決定シ、或ハ決定セサルノ權アリ、兼テ又施政權柄ヲ掌握スル者タルヲ以テ、其決定セル法ハ、直ニ之ヲ公告シ、以テ臣民ヲシテ之ヲ遵奉セシムルノ權アリ、(卷之五第十一款ヲ參看ス可シ、)然ルニ民主國ニ於テハ、此制度全ク相異ナリ、例ヘハ北亞米利加ノ如キハ、統領決定ノ權ヲ握ルト雖モ、君主國ノ全キカ如クナラス、唯大ニ局促セル拒絶ノ權利(ト、按)立法府ノ議ヲ拒絶スルノ權利ナリ)ヲ掌握スルノミ、又瑞士國ノ如キハ、政府絶ヘテ決定ノ權ヲ握ル能ハス、唯示案ノ權ヲ握ルノミ、但シ憲法ヲ公布スルノ權ニ至テハ、諸民主國ニ於テモ、全ク政府ニ在リ、其他君主内權ヲ施スノ權利ヲ以テ、決シテ單ニ行法權柄(ホルナーヘンデ、ゲワルト)ト、爲ス可ラス、必ク獨立獨行シテ、能ク國家ノ秩序ヲ整理シ、臣民ヲ指揮シ、兼テ又保護シ、及ヒ監督誘導スル諸權柄等、悉皆君主ノ掌中ニ在リ、○凡ソ國家ノ安寧ヲ保テ、及ヒ諸權利ヲ保護スルニ就テハ、殊ニ日々轉化スル所ノ形勢ニ、仔細ニ著眼スルコト、必要ナルヲ以テ、是等ノ諸件ハ皆專ラ君權ノ負荷スル所ナリ、故ニ憲法ナル者ハ、唯日常政令權柄ノ發動スル區域ヲ定メテ、決シテ之ヲ超ユルコト能ハサラシメ、且政令施行ノ方向ヲ與ヘテ、常ニ之ヲ失ハサラシムルニ在ルノミ、現ニ政令ヲ施行スルノ事ニ至リテハ、獨リ君主能ク事情ヲ酌量シテ、自由ニ之ヲ爲ス、固ヨリ當然ナリ、是故ニ左ニ舉ル所ノ數件ハ、特ニ君主ノ主持スル所ナリ、

第一 授官ノ權(アムツホーハイト)

君主ハ、國家諸職官ノ資テ勦ムル所ナリ、故ニ國家諸職官、一モ君主ノ授任ニ由テ、出テサル者ナシ、亦君主ニ從屬セサル者ナシ、往昔既ニ此事ノ緊要ナル理ヲ知り、是ニ由テ大ニ國家ノ和同ヲ鞏固セシカモ、實ニ此理ノ明亮トナリシハ、全ク近今ノ君主國ニ在リ、又此理ニ循テ、諸職官中、互ニ亦其等級ノ高卑ニ由リ、次第ニ高等ニ從屬スル、固ヨリ當然ナリ、

立憲國君主握ル所ノ授官ノ大權ハ、其規模甚大ナリ、官等高ウシテ、愈々君位ニ近ケレハ、君主ノ權愈々自由ニ之ヲ黜陟スルヲ得、殊ニミニステルノ如キハ、君主ニ輔佐シテ、其政令ニ參與スル者ナレト之ヲ黜陟スルハ、獨リ君主ノ自由ニスル所ナリ、○賢明ナル君主ハ、唯自己ノ偏見ヲ用ヒ、或ハ好惡愛憎ニ由リテ、ミニステルヲ舉ルコトナシ、必ク先ニ國家ノ爲ニ謀リ、實ニ其任ニ堪ユヘキ人物ヲ選任スルヲ本旨トナシ、且政府ト立法府ト、其間能ク相和スルコト、甚々緊要ナルカ故ニ、必ク立法府ノ信ヲ得タル者ヲ、選任スルヲ以テ本旨トスルハ、固ヨリ論ヲ俟タス、去レテ君主立法府ノ信不信ヲ窺ヒ、或ハ好惡等ニ隨テ、ミニステルヲ黜陟スルノ義務ヲ負フカ如キハ、斷然アラサル所ナリ、唯現任ノ立法府、若シハ將來任スヘキ立法府ニ、信セサルヘキ人物ヲ撰テ、之ヲミニステルニ任スルハ、則政(ボリ)チツク、巧ナル者ナリ、何者、立法府ノ政府ヲ惡ム、甚シキニ過ルトキハ、之ニ由テ政府ノ威權大ニ痿痺振ハサルニ至レハナリ、但シ君主敢テ立法府ノ薦舉ヲ希フニアラス、必ク自ラ舉任スルナリ、○舊ミニステルヲ罷メ、新ミニステルヲ舉ルニ方リテハ、君主之ヲ舊ミニステルニ議シ、其連署ヲ得テ、之ヲ舉ルコト通法ナレト、此事決シテ必要ノ法ト云フニ足ラス、若シ舊ミニステル、君主ノ舉テント欲スル人物ヲ肯セサルコトアラハ、新任スル所ノミニステルヲシテ、自ラ其選任ニ連署セシメテ可ナリ、舊ミニステルノ肯ンセサルカ爲メ、君主自ラ舉テント欲スル人物ヲ、舉ル能ハサルノ理ハ、萬々有ルコトナシ、立憲國ノ法ニ於テハ、ミニステル選任ノ制ニ就テモ亦、之ヲ保任スル者一人アレハ、則足レリトス、其他ノ官員ヲ選任スルニ至テハ、君主獨リ之ヲ專ラニスル能ハス、必クミニステルノ贊輔ヲ假ラサルヲ得サルナリ、但シミニステルノ薦ムル所ノミヲ取テ、之ヲ任スルヲ要スルニアラス、又能ク必ク其任ニ堪ユヘキ者アルヲ知ラハ、自ラ之ヲミニステルニ詢リ、或ハミニステルノ薦ムル所、若シ自己ノ意ニ適シサレハ、之ヲ拒ム、固ヨリ自由ナリ、○能ク注意シテ、此ノ如キ權ヲ施行シ、以テ其任ニ堪ユヘ

キ人物ヲ簡ンテ之ヲミニステルニ任スルハ、古來賢明ノ君主ノ、獨リ能ク爲ル所ナリ、故ニ縱令ヒ君主
 他ニ如何ナル權利ヲ推ルモ、唯之ニ由テノミ、大イニ國家ノ安危盛衰ヲ生スルニ至ラス、大イニ國家ノ
 安危盛衰ヲ生スル所以ノ者ハ、唯君主ノ聰慧ト否、ナルニ由ルノミ、
 合衆國ノ統領、其諸官員ヲ選任スルノ制度モ、大概亦之ニ同シ、唯別種樞要ノ職官ヲ選ムハ、統領獨
 之ヲ授任スルヲ得ス、必ス先ツ之ヲセナト、(按)上院ナリ)ニ諮リ、其許可ヲ得サル可ラス、但シ下等ノ
 官員ヲ選任スルニ至リテハ、コングレス(按)兩院ナリ)此權ヲ以テ、單ニ統領或ハ法院、(ゲリフツホ
 フ)若シハ諸省ノ長官ニ委附ス、○瑞士國ノ法ハ、諸職官ヲ授任スルノ事ニ於テ、大イニ政府ノ權
 ナ限制シ、多クハ代國府若クハホルクヲシテ選任セシム、但シ此制度アルトキハ、之ニ由テ、遂ニ諸職
 官中ニ朋黨起リ、動モスレハ、政府ノ一和ヲ傷リ、且ツ政令諸務ヲ施行スヘキ諸官員、皆上權ヲ侮慢シ
 テ、之ニ恭順セサルカ故ニ、政府ノ氣力遂ニ痿痺シテ、振ハサルニ至ルノ害アリ、甚ク恐ル可シ、
 ○北亞米利加合邦憲(ブンデスヘルハッスング、ホン、ノールドアメリカ)第二章第三條ニ云、「統領
 セナトト議シテ、左ノ諸官ヲ授任ス、即チ公使、及ヒ其他外國ニ遣スヘキミニステル、(按)上ニ
 云フ所ノミニステルトハ、相異ナリ、)コンスル、(按)通常領事官ト譯ス、)並ニ上等法院ノ法官其他
 未ダ曾テ國憲、或ハ憲法ニ於テ、授任ノ制度ヲ裁定セサル諸職官等是ナリ、但シ縱令ヒ此諸職官
 ト雖モ、コングレスニテ樞要トセサル卑官ナレハ、統領及ヒ法院、或ハ諸省ノ長官等ニ命ヲ傳ヘテ
 之ヲ授任セシム可シト、○又佛國一千八百四十八年(嘉永元年)ノ國憲第六十四章ニ云、「統領自
 由ニミニステルヲ黜陟ス、但シ其他高官ノ黜陟ハ、之ヲミニステルニ議シ、卑官ハ其省ミニステル
 ノ建白ニ因テ、之ヲ黜陟ス可シト、」

第二 授受ノ大權(エーレンホーハイト)

貴爵(アール)按)通例世襲ノ爵ナリ、勳爵(ナール)按)通例國事、軍事、及ヒ學術等ニ於テ、非常ノ
 勳功ヲ奏セシ者ニ與フル爵ニシテ、其人ノ終身ニ止マル(品階)ラング(按)右ニ爵ノ外ニ、品階ト稱ス
 ル者アリ、例ハ英國ノ如キハ、上高等教士ヨリ、下雇夫ニ至ル迄、六十一ノ品階アリ、及ヒ稱號(ナール)
 (按)按官吏ノ榮譽ヲ示ス尊稱、例ハ、皇國ノ殿下、閣下等ノ如キ者、並ニ官名ヲモテ、ナールト云フ、儘
 功勞アリシ官吏ニハ、退職ノ後モ猶官名ヲ與ヘ置クナリ)等ノ如キ、總テ臣民ノ名譽顯榮ヲ表スル
 者ハ、通常君主ノ授ケル所ナリ、臣民ノ勳勞ヲ鑒定シテ、之ヲ敬重スルハ、實ニ君主ノ美麗ナル特權ト
 云フ可シ、君主此一難術(按)即臣民ノ勳勞ヲ鑒定シテ、之ニ爵位ヲ授ケルナリ)ヲ舉行スル、其宜シ
 キヲ得ルハ、大イニ臣民道義ニ進ムノ心ヲ獎勵シ、且ツ臣民ヲ實ニ愛國ノ志ヲ奮起セシムルニ
 足ル、蓋シ此ノ如クナルキハ、天神ノ好シテ、善徳ヲ賞ケルノ心ニモ、亦能ク協合スト云フ可シ、○然ル
 ニ二百年以來、(延寶天和以降)各國君主恣ニ濫賞ヲ行ヒシヨリ、其弊風今仍ホ革マラス、之レガ爲メ
 摺紳家ノ風俗習慣頹敗シテ、其爲メ所兒戲ニ異ナラス、遂ニ眞ニ國家ノ爲メニ其身ヲ勞セシト欲ス
 ル者ナキニ至レリ、故チ以テ賢君英主時ニ世ニ出テ、此弊ヲ矯メント欲スルモ、陵夷ソクシキ之ニ服
 スル者多カラサレハ、又如何ヒス可ラス、豈歎スヘキノ極ニアラスヤ、既ニ歐洲大地ノ數國ニテハ、君
 主臣民ニ賜フ所ノ榮譽、却テ侮辱ノ表記ノ如ク、若シ此榮譽ヲ得テ、高貴ノ人トナルハ、即其負罪ノ
 明證ヲ公示スルカ如ク見ユルニ至レリ、○今世ハ漸ク虛ヲ賤シ、實ヲ貴ムノ時トナレハ、君主此權
 利ヲ施スニ於テモ古時ノ如ク先ツ能ク其勳勞ノ虛實ヲ鑒定シ、然後ニ之ヲ施行スレハ、甚ク可ナリ、
 決シテ全ク此權利ヲ廢棄スルヲ要セス、○

○那破倫第一世カエーレンレギナシ(按)勳爵ナリ)ヲ設立セシハ、蓋シ能ク此理ヲ知レハ、

既ニ一千八百四十八年ニ於テ(嘉永元年)佛國民主政體ヲ復セシ時ニハ、衆論頗ル貴爵ヲ惡シカ
 也、其國憲第百零八章ニ、仍此エーレンレギナシヲ存スル旨ヲ記載セシハ、那破倫ノ卓見ヲ證スル

ニ足レ蓋シニ一レンノギナソノ如キ勳偉ノ具存スルキハ、自ラ人々榮譽ヲ貪ルツ情起リテ、頻リ之ヲ求メノト欲スルニ至ルハ決メ疑フニキニアラス。去レ今日ニ在テハ、人性未タ全ク此情ヲ脱スルニ至ラズ。加之、此情却テ人々相競ラテ、勳功ヲ奏スヘキ一具トナル者ナレハ、今敵ニ此情ヲ奪ハシヨリハ、率之ニ良好ノ目的ヲ與ヘテ、以テ立功ノ一要件ト爲ス。善シトス。○那破倫カシントヘレナニ於テ著セル書中ニ勳偉ニ就テ左ノ如ク云ヘリ。曰「太古ノ善兵ナル民ヲ治シ、術ヲ取テ以テ今時ノ老衰セル民ヲ治メント欲スルハ、甚不可也。今時ノ民、専ラ國家ヲ憂テ、一身ヲ顧ミサル者ハ、實ニ百千萬人中僅ニ一二人ニ過ク。其餘ハ皆自己ノ身ヲ愛シ、自己ノ利ヲ貪リ、自己ノ榮ヲ謀ニ汲々タル者ノミ。凡工人ハ、其己ニ屬スル所ノ材ヲ、恰好ニ用フルノ術ヲ知ラサル可ラス。余曾テ君主政體ヲ恢復シ、勳偉稱號等ヲ復興セシハ、余カ秘策ニシテ、全ク此理ニ出ル也。」○佛國今世ノ開化ヲ考フルニ、民人各衆人ノ爲ニ尊崇セラル、ヲ欲シ、且ツ他人ノ爲ニ尊敬セラル、徒ノ自ラ亦尊敬スルヲ許ス。一般ノ情意ナリト（按以上那破倫ノ語ナリ）○凡ソ稱號ヲ好ムノ情意アルハ、支那人ヲ除クソ外、獨乙人ヲ以テ最モ盛ナリトス。然レニ一千八百四十八年（嘉永元年）フランスホルニテ獨乙各國會議ノ時ニ於テ、其代議者等職掌ヲ帶ヒサル稱號（按職掌ナキ官名ニシテ、唯尊稱トナル者ナ云）ハ、必ス廢スヘキ旨ヲ論シタリ。即チ獨乙人甲極ヨリ俄ニ轉シ、乙極ニ飛行セリ。實ニ驚クニ堪ヘタリ（按獨乙人ハ、素稱號ヲ好ムノ情意盛ナリシニ、俄ニ此ノ如キ論ヲ立テシテ、全ク元來ノ情意ニ相反スルコトナルカ故ニ、如斯ク云フナリ）

○按本文凡ソ工人云々ハ、蓋シ一人君ノ民ヲ治ムルヤ、猶工人ノ工事ヲ營ムカ如シ。工人其工ヲ施サント欲セハ、必ス先ッ己ニ屬スル所ノ材ヲ恰好ニ用フルノ術ヲ知ラサル可ラス。人君其民ヲ治メント欲セハ、必ス先ッ其情意ニ投シテ、之ヲ獎勵スルノ術ヲ知ラサル可ラス。余カ君主政體ヲ恢復シ、勳偉稱號等ヲ復興セシハ、即チ佛人ノ情意ニ投シテ、之ヲ獎勵スルノ秘策ナリキ。ト云

第十六款

第三 兵馬ノ大權（ミリテールホトイト）

君主ノ軍政ヲ統掌スル所ノ首領ナリ故ニ親ラ海陸二軍ヲ統轄シ、軍兵ヲ徵募シ、其將校ヲ選任シ、而シテ將軍ニ號令ヲ委任シ、城郭堡塞ヲ建築シ、命シ、及ビ兵器戰艦ヲ監督ス。中古ノ世ニハ、貴戚豪族亦各兵ヲ備ヘタリシカレ。此ノ如クナルハ、兵權大ニ分レテ、國家ノ一致和同ヲ損シ、其害遂ニ國內ノ和平ヲ破ルニ至ルヲ以テ、今世ハ決シテ此ノ如キコトヲ許サズ。號令ノ一途ニ出ルハ、軍隊ノ勢力ヲ盛ニシ、及ビ其目的ヲ確定スルニ於テ、甚緊要ナキコトナリ。軍隊ハ、單ニ君主ノ號令ノニ肅遵スヘキ旨ヲ誓ハシムヘキヤ、將兼テ國憲ヲモ遵奉スヘキ旨ヲ誓ハシム可キヤ、其可否ニ至リテハ、今時仍ホ論說紛然トシテ、未タ一定セズ。君主若シ自己ノ權力ヲ恣ニシ、國憲ノ條規ト相反ルル處置ヲ以テ、其軍隊ヲ使令セント欲スルコトアルハ、此論實際上ニ於テ大關係ヲ生ス。○今他ノ情實ニ關セシテ、只自由ニ論スルハ、國憲誓約（ヘルハッスングアイド）[按國憲ヲ遵奉ス可キ旨ヲ述フル誓約]ノ文中ニ、軍隊ハ敢テ國憲ニ悖反セル所業ヲ、助ケサル旨ヲ裁定スルコト、甚緊要ニシテ自カラ君主ヲシテ、輒シ國憲ノ規律ヲ破ル能ハサテシムルニ足ルカ如シ。去レテ軍隊ヲシテ單ニ君主ノ號令ニ肅遵スルノミナラス、亦兼テ國憲ヲモ遵奉スルノ誓約ヲ爲サシムルハ、軍隊乃チ重複ノ義務ヲ負フノ理ナルカ故ニ、軍情自ラ岐分シ、法令自ラ錯亂シ、其一致和同破レテ、勢ヒ遂ニ相爭鬪スルニ至ルノ害アルヲ知ラサル可ラス。○軍隊ハ、素ト唯號令ヲ奉シテ、一ニ之ヲ肅遵ス可キ者ニシテ、決シテ之ヲ是非スヘキ者ニアラサレハ、軍隊自ラ號令ノ善惡良否ヲ考思シテ、然後ニ之ヲ遵奉ス可キト、否トヲ定ムルヲ許スカ如キハ甚害ナリ。○今世ノ如ク、人々自在ニ事ノ善惡良否ヲ評論スルヲ得ルノ時ニ於テハ、殊ニ害アリトス。○軍隊既ニ國憲誓約ヲ爲スト

是故ニ北亞米利加ニテハ、官ニミリツク（按有事ノ日ニ臨テ徵集スル兵隊）ヲ編制スルノ權ノミナラズ、亦之ヲ徵集シ、及ビ叛賊ヲ平定スルノ權等、總テ皆コソグレンス（按立法府ナリ）ニ在リテ、統領ハ僅ニ少數ノ常備兵、及ヒ合邦ノ軍艦ヲ都督スルノミ、其他各邦ノミリツクニ至リテモ、コソグレンス之ヲ徵集スルニ非ンバ、統領決シテ之ヲ號令スルコト能ハス。○佛國民主國タリシ時ニハ、統領軍隊ヲ調理スル權ヲ有セシカニ、親王ノ元帥トナリテ、號令スルノ權ハナカリキ。○瑞士國ニテハ、ブンデス州ハ州ルルニシテ、（按立法府ナリ）閉會ノ時ニ於テハ、ブンデス州ト（按政府ナリ）能ク軍兵ヲ徵集スルノ權ヲ握ル、但シ之ヲ使役スルノ時間久シキヲ要スル歟。若シハ徵集スル所ノ兵數二千八千人ヲ超スル時ニ於テハ、必ズブンデス州ルルサハルンク、其集會セシメ、而シテ此府ノ會議ニテ、軍隊ヲ調理スルヲ俟ツヲ要ス。

第四 警保ノ大權（ポリツァイホーハイト）
 總テ國家警保ノ事ハ、官ニ君主ノ名ヲ用ヒ、其指揮ニ隨テ之ヲ施行スルノミニ止マラス。時宜ニヨリハ、君主親ラ此事ヲ施行スル事ヲ要ス。但シ其時宜ナル者ハ、殆希シナリ。即國家大危難ノ事起ルニ方リテ、之ヲ救防スルヲ要ス。時、若シハ、通常警保官吏ヲ爲ス所ヲ監察シテ、其擅恣ヲ防止スルヲ要ス。時、若シハ、日常警保ノ事務ニ至リテハ、殆、匪際ナシ、決シテ一人ノ能ク爲スルニキニアラス。故ニ別ニ官吏ヲ置テ、間斷ナク此事務ヲ行ハシム、是故ニ警保ノ理、及ヒ其制ニ至テハ、次卷ニ於テ更ニ詳論ス可シ。（按一卷之七、第八、第九ノ二款ニ詳論ス。）

第十七款
 第五 司法ノ大權（ユースチツァイフ）
 太古中古ノ世ニハ、君主親ラ最上等ノ法官トナリテ、獄訟ヲ總掌セリ。是ヲ以テ獨乙帝ハ獨乙各國君主ノ司法ノ權ヲ保護シ、且之ヲ嚮導トナシ、故ニ帝各國ヲ巡行スル時ニ於テ、親ラ其法院ニ臨

ミ、輒テ獄訟ヲ掌リ、而シテ是時ニ方リテハ、地方ノ法院ハ、必ズ其權ヲ失ヘリ。然ルニ輒近一二百年前ニシテ、此法ニ變シ、君主決シテ獄訟ノ本務ヲ掌ラサルノミナラス、此職務ニ關係スル所ノ君權モ亦、殆、消滅シテ、此職務遂ニ全ク法官ノ手ニ移ルコトナリ。但シ此法官ハ、君主ヨリ其職ヲ受ケ、且、君主ノ名號ヲ以テ、獄訟ヲ掌ル者ナリ。雖、必ズ不獨獨立スル者ニシテ、決シテ君主ノ指揮號令ヲ奉シテ、其職ヲ掌ル者ニアラス。○是故ニ「獄訟ノ事ハ、悉ク君主ヨリ出ツト云ヘル古言ノ意、今世ニ在リテハ、大ニ變換シ、且、其意ノ涉ル所モ、甚、限局スルニ至リ。世人動モスレハ、君主ハ全ク獄訟ノ事ヲ知ラサルヲ以テ、善トスル者アリ、果シテ然ラハ、頗ル君主國ノ理ニ反ルト云フ可シ。其故ハ何ツヤ、凡ソ國家ノ職官、君主ノ統下ニ屬セサル者、一ツモアル可キノ理ナキニ因テナリ。○輒近ニ至リテハ、法官獄訟ノ事務ヲ行フノ實事上ニ於テ、君主ノ指揮ヲ遵奉スルノ法ハ、全ク廢亡セリ。蓋、雖然ナル法律アリテ、緊ク法官ヲ束縛シ、決シテ其擅行ヲ許サ、ルヲ以テ、此ノ如クナルヲ要スルナリ。君主若シ實ニ獄訟ノ事ヲ掌ルキハ、其強大ナル威權ヲ恃テ、遂ニ獄訟ノ公正ヲ害シ、以テ法律ノ正理ヲ紊スニ至ル可シ。○是故ニ立憲君主國輒近ノ制ハ、君主親ラ獄訟ヲ掌ルノ法ヲ廢セシカニ、法官ハ尙君主ヨリ其職ヲ受レト、且、形貌ニ於テハ、必ズ君主ニ從屬スルノ規律ニ至ラハ、永存シテ亡フルコトナシ。○（按）形貌ニ於テ、君主ニ從屬スルコト、即實事ニ於テ、君主ニ從屬スルノ反對ナリ。實事ニ於テ、君主ニ從屬スルキハ、必ズ君主ノ命令ヲ遵奉セサル可ラス。故ニ本文ニ論スルカ如キ害アリ。）

瑞典一千八百零九年（文化六年）ノ國憲第十七章、及、廿一章ニ據シ、其君主親ラ最高等ノ法院ニ參列スルノ權アリ。他ノ立憲國ニテハ、絶テ無キ所ナリ。然リト雖、其他司法ノ權ノ尙君主ノ掌握ニ在ル者、左ノ數條ニ舉ルガ如シ。
 一、國憲並ニ獄訟ニ就キ、遵守スルニキ憲法ノ區域内ニ於テ、獄訟ノ總規則ヲ示合スルノ權利、君主ノ手中ニ在リ。
 二、法官ノ任、其職權ヲ授ルノ權利、亦君主ノ手中ニ在リ。但、ウイマク、オーストリア、及ヒプロシヤ

ルヲ(按)英ニ民間ノ撰擇ヲ以テ獄訟ニ預ル者ナリ、卷之八ニ詳ナリ)ノ如キハ、必シモ司法ノ職權ナ有スル者ニアラス、唯時アリテ、法院ニ列シ、法ヲ論スル者ナリ、故ニ法官トハ全ク其職ヲ殊ニス、故ニ君主是等ノ者ヲ授任スルハ、必シ緊要ノ事ニアラス、加之、獄訟ノ事ハ、務テ公明正大ヲ實ニ以テ之ノ理ヲ據テ之ヲ考フルハ、則チ君主是等ノ職任ヲ任スルハ、尤モ良善ノコトニアラス、

○**審判斷定セル事ハ、必シ君主ノ名號ヲ以テ之ヲ示令シ、且施行ス、蓋シ君主自ラ國家ノ正義公道ヲ保護スル所以ノ理、茲ニ於テ發顯スルナリ。**

○**普魯士國ノ國憲第六十八條ニ云ク、憲法ノ外、決シテ他ノ權ニ從屬セサル法官ナル者、君主ノ名號ヲ以テ、司法ノ權柄ヲ施行ス。○斷定セル事ハ、國王ノ名號ヲ以テ、之ヲ施行ス。**

○**獄訟ノ處置如何、其次第如何、國家秩序ノ保護如何、獄訟ニ係ルル文書如何、並ニ司法省(ユースツツ)ニモテリウム、按)直ニ獄訟ヲ司ル法院ニハ、アラズ、唯其事務ヲ司ル省ナリ、及ヒ其屬司ニ於テ、右文書ノ處置如何ヲ監察探索スルノ權利、皆君主ノ手中ニ在リ、又總テ獄訟ノ事ニ就テ、其官吏ナシテ、形勢表ヲ作り、之ヲ報知セシムルノ權利、亦君主ニ在リ、**

○**國家ノ安寧ヲ破リ、及ヒ政令ヲ害スル罪犯者アルニ方リテ、政府ノ權力ニアラザレバ、之ヲ追捕スル能ハサルハ、則チ追捕ノ命ヲ下スル權利、特ニ君主ニ在リ、蓋シ、スグーツァインワルト(按)追捕ノ權ヲ掌ル官ナリ、詳ナルハ、卷之八第四款ニ就テ看可シ)カ、常ニ觀察スル所ノ區域ハ、甚ク狭クシテ、高遠ナル治所ニ著意セサル者ナレバ、動モスルハ、其勉力スル處、却テ宜キニ適セズ、或ハ甚ク急劇ニ失、或ハ甚ク緩慢ニ流レ、其ニ國家ノ害ヲ生シ易シ、能ク此弊ヲ防クハ、獨**

○**君主ノ力ニ在リ、何者、君主ハ總テ治體ノ諸關係ヲ編察シテ、洩ス所ナキヲ以テナリ、**

○**刑法ニ關セル審問ヲ停止スル權利、亦君主ニアリ、但シ正義公道ヲ害セザラシカ爲ニ、必**

○**此權利ニ就テ、限制スル處アルハ、形ヲ要ス、**

○**普魯士ノ國憲第四十九條ニ云ク、獨ニ君主既ニ就緒セル審問ヲ、別格ノ憲法ニ從テ、停止スル**

ノ權ヲ握ル、然ルニ、以里ノ國憲第八款第四章ニ記ス所ハ、之ト相反ス、曰ク、(君主決シテ

就緒セル審問ヲ停止スル能ハス、ト、

○**罪科ヲ減シ、及ヒ赦スノ權利、亦君主ニ在リ、凡ソ人ヲ憐ムノ情ハ、素ト良心ニ備ル者ニシテ、君**

○**主仁恤ヲ以テ、罪科ヲ減シ、或ハ赦スノ權利ハ、既ニ時勢ニ愜ハサル法ノ刻薄ナル所チ和厚ナラ**

○**シヌ、及ヒ硬固ニシテ、變通シカタク法ヲ、今日千狀萬態ノ景況ニ隨テ、變通セシムルニ、缺ク可ラ**

○**サル者ニシテ、蓋シ君主ニ此權利アルハ、實ニ君主國ノ、大ニ他ノ政體ニ優ル所以ナリ、○君主**

○**決シテ親ラ、人ヲ罪スル能ハス、法官之ニ代リ、君主ノ名號ヲ以テ、憲法ニ由テ、人ヲ罪ス、去レテ君**

○**ハ、主ハ反テ、親ラ人ノ罪ヲ赦スヲ得ルナリ、君主若シ婦人ノ仁ヲ行フキハ、甚ク國家ノ安寧秩序ヲ**

○**傷ル可シ、去レテ寬裕ノ心ヲ以テ、眞ノ仁恤ヲ行フキハ、更ニ國家ノ安寧秩序ヲ堅固ナラシムルコ**

○**足ル、○仁恤ノ處置ト雖ヒ、亦法ニ合セサル可ラサルヲ以テ、立憲君主國ニ於テハ、必シ、ミニス**

○**テルノ、連署ヲ取ルヲ緊要トス、**

○**マルチン、ルテル(按)獨乙人、一千四百八十三年ニ生レ、五百七十年ニ死ス、加特力教ノ大ニ**

○**基督ノ本旨ニ背クヲ歎シ、別ニ波羅特士且教ノ一派ヲ立テシ宗祖ナリ、)曰ク、仁恤ト法律トハ**

○**君主必シ之ヲ行フ可シ、君主絶テ赫怒ノ威ヲ震ハス、空シク姑息ノ小惠ヲ施スキハ、實ニ王室ノ**

○**ミナラス、其弊ノ及フ處、國國民人、亦悉ク化シテ惡ハトナリ、且シ禮儀廉恥地ヲ拂フニ至ル可シ、**

○**又若シ君主宜シク怒ル可ラサルニ、却テ憤怒ヲ逞フシ、無益ノ刑ヲ濫施スルキハ、遂ニ苛酷ノ政**

○**令行ハレ、實ニ神ヲ敬スル善人スラ、尙之ニ恐怖シテ、一日モ安居スル能ハサルニ至ル可シ、ハイ**

○**デ(按)眞神ヲ知ラサル民ノ義)ノ言ニ「嚴刻ナル法律ハ、大ニ不正ノ法ナリ」ト云ヘリ、余又之**

○**ニ加ヘテ言ハシ、無益ノ仁恤ハ、大ナル不仁ナリ」ト云ヘリ、父ノ子ニ於ケルノ理ニ同シ、凡ソ人ノ**

○**父タル者、絶テ其鞭策ヲ加ヘズ、其放恣ノ行ヲ縱セバ、却テ是レ不慈ノ尤モ甚シキ者ト云フ可**

○**シ、何者、若シ此ノ如クナルキハ、其子倭ムル處ナク、遂ニ重刑ヲ蒙ルニ至ルハ、必然ニシテ、即父自**

ヲ之ヲ殺手ニ附スルニ、異ナラサレハナリト。

〔七〕死刑ノ施行ヲ許可スルノ權利、亦君主ニ在リ、故ニ君主自ラ之ヲ許可セサレハ、政テ死刑ヲ行フヲ得ス、蓋シ臣民ノ生命ヲ敬重スルニ於テ、至要ノ規律ナリ。

〔八〕斷定セル刑罰ヲ施行スヘキ命令ヲ下スノ權利、君主ニ在リ。

〔九〕法院ニテ訴訟ヲ採用セス、或ハ其裁斷ヲ怠ルコトアルニ方リテ、訟者之ヲ君主ニ訴フルコトアルハ、直ニ命令ヲ法院ニ下シテ、其審判ヲ促シ、或ハ政務ニ就テ起レル訴訟ヲ、裁決スルノ全權ヲ任スルノ權利、又ハ獄訟事務ノ妨害ヲ除去スルノ權利、皆君主ニ在リ。

〔十〕負債返償ノ延期ヲ許スノ權利、君主ニ在リ、道理ヲ辨別セサル債主アリテ、國內災厄ノ時ニ當リ、甚ダ已ムヲ得サルニ非スシテ、暴ニ負債者ニ迫リ、償還ヲ促スニ途ヘハ、君主已ムヲ得ス、其權

ヲ私法ノ區域ニ施シテ、償還ノ延期ヲ許スヲ得ルコト甚ダ緊要ナリ。

○此權利ハ、始テ羅馬ニ起立シ、其後獨乙帝國ノ國憲ニ於テ、帝ノ特權トシテ、裁定セシカ、爾來獨乙各國ノ君主モ亦、此權ヲ

掌握シテ、動モスレハ之ヲ濫用シタリキ、抑此權利タルヤ、實ニ全ク廢ス可ラスト雖モ、然レモ

素、一時債主ノ權利ヲ奪フコトナルカ故ニ、必熟慮シテ、眞ニ已ムヲ得サルノ時ニアラサレハ、

決シテ之ヲ施行ス可ラス、是故ニ必別ニ一法ヲ設立シ、以テ君主ノ特有セル、此權利ヲ限制ス

可シ、且若別種ノ憲法ヲ以テ、此權利ヲ施行スル所ノ國ニ於テハ、兼テ立法者〔按〕即立法院

ヲ云〕ノ權ヲモ、必ス限制スルコト緊要ナリ。

但シカビテ、ユスナツツ〔按〕君主親テ、獄訟ヲ掌ルノ制ヲ云フ〕ノ諸制ハ、既ニ全ク廢止セリ、方今

ノ民主國ニ於テ、獄訟ノ事ハ、通常全ク政府ヨリ分隔シ、形貌ニ於テモ、亦全ク政府ニ從屬セサル者ト

爲ス、古時主長ノ司法權柄ニ就テ、掌握セシ諸權利中、今僅ニ存スル者ハ、司法職官ヲ授任スルノ議ニ

預ルノ權利、罪人ノ追捕ヲ命スルノ權利、及ヒ斷定セシ所ヲ施行スルノ義務等是ナリ。○

但シ合衆國ニテハ、政務ニ於テ犯セシ罪科ノ外ハ、統領其罪ヲ減シ、及ヒ之ヲ赦スノ權利ヲ握ル、佛

國民主政體ノ時ニ於テモ亦、此權利ヲ握リタリキ、瑞士國ノ政府ニハ、全ク此權利アルコトナシ、

第十八款 第六 財務ノ大權〔ヒナンツ、ホーハイト〕

國家ノ需要ヲ供給シ、及ヒ之ヲ供給センカ爲メ、國家ノ所有〔スターツヘルモ一ゲン〕ヲ管理シ、稅

餉ヲ收取シテ、之ヲ公費ニ供用シ及ヒ歲入歳費ヲ計算スル等ノ事務モ、總テ亦必君主ノ統括スル

所ナリ、此事ニ於テハ、民主國ノ制度ト雖モ、亦甚ダ君主國ニ異ナラス、民主國ニ於テモ、財務ハ亦必

一途ニ出テサルヘカテサル所以ト、且其規律ノ完全具備セサル可ラサル所以ヲ知ル、是ヲ以テ眞ノ

權柄ニ係レル事務ハ、國民決シテ全ク之ヲ政府ニ委託スルナント雖モ、財務ニ至テハ、大抵政府ニ委

托シテ、國民之ニ關シテ欲スルノ情意ヲ抱クコト少シ。〔按〕財務ノ權ハ、他ノ諸權ノ命令、指揮、保護等

ノコト主トスルカ如クナラス、專ラ國用ノ供給ヲ主トナスカ故ニ、權柄ノ意自ラ少シ、是ヲ以テ、眞ノ

權柄ニ係レル事務ト、分別スルナリ。

第七 監臨ノ大權〔オーヘルアウフシツレフト〕

監臨ノ權ハ、他ノ施政權利トハ、全ク其趣チ異ニシ、命令、指揮、保護等ノ如キ、直ノ施政權ヲ行フヲ先

務トセス、今日現ニ實際ニ顯ハル、情實、事態ヲ通察スルヲ以テ、先務ト爲シ、次テ右ノ施政權ニ及

ホス者ナリ、是故ニ君主ハ、國家職官ノ規則職掌ヲ、監臨スル權アルノミナラス、又實ニ自主自立シ

テ、國家ノ訓督ニ賴ラサル、人物及ヒ事件〔按〕私人私事ヲ云フ〕ヲモ、兼テ總監スルノ權アリ、

政府ハ其版圖内ニ起リテ、國家ノ利病ニ係リ、或ハ國家ノ法制ニ關スヘキ諸事ヲ舉ク、總テ之ヲ通察

スルノ權ヲ有ス、○政府ハ右等ノ諸件ヨリ、國家ニ忠害ノ生スルヲ、深慮シテ、其安寧ヲ長全スルニ適

當セル方法ヲ、機會ヲ失ハスシテ、設ケンカ爲メ、常ニ著意シテ、怠ラサルヲ要ス、

古時佛朗哥國ニテ、發遣使〔センドボーチ〕ヲ置キ、方今復各國ニ於テ、形勢官〔スタチスチセル、プニ

ロー、一按〕版圖内ノ形勢表ヲ設ル官ナリ〕ヲ置クカ如キハ、即君主監察ノ權ヲ施行センカ爲ナリ、殊ニ

發遣使ノ如キハ、通常形勢表〔スタチスチツ〕ヲ設ルノ外、更ニ親シク州縣ノ情實事體ヲ視察セシム

ルカ爲、必要ナル者タルヲ以テ、今時ト雖モ、此制ノ全ク亡ヒタルニハ非ズ、○但シ國家タル者臣民
私事ノ秘密、及其親族間ノ秘密ヲ嚴密ニ探索シテ、遂ニ民人ノ自由ヲ妨ルニ至ル等ノコトハ、敬シテ爲
ス可ラス、且ツ縱令ニ必要ノ事ト雖モ、之ヲ探索スルニ、不正ノ術ヲ用フルハ、甚カラス、其他國家ノ
宜シク關係ス可ラサル事ニ關係シ、遂ニ臣民ノ後見(ベホールムンツンク)ノ如ナルニ至ルハ、又尤
モ善カラストス、一殊ニ邑社(ゲマインデ)按卷之十一ニ詳ナリ)及ヒ諸會社等ヲ創立スルニ、其事態
若シ國家ノ利害得失ニ關係スヘキ者アルハ、政府必シ其許スト否トテ、考定ス可キヲ以テ、必シ預メ
其情實事體ヲ、監察セサル可ラス、去レハ會社ヲ結フノ事、唯民人互相ノ私事ノミニシテ、絶テ國家ノ
利害ニ涉ラサル者ナラハ、政府敢テ之ニ關ス可ラス、○

○羅馬帝國ノ法ニテハ、縱令國家ニ利害ナキ會社ノ事ト雖モ、政府必シ之ニ關シテ、民人ノ自由ヲ
限制シタリキ、

第八 教育方法ノ監護(ソルゲ、ヒョール、ギ、クルツールヘルトニツセ)

國家ハ人材教育ヲ監護ス可シ、凡學術諸科、大小學校ノ規制ノ如キハ、專ラ國家ノ設立スヘキ者ニハ
アラサレハ、其責否得失、大ニ國家ノ成敗ニ關係アルカ故ニ、必シ之ヲ監護シテ、其弊害ヲ救ヒ、以テ教
育ノ方法ヲシテ、國家ニ裨益アラシムルハ、實ニ政府ノ權利及義務ト云フ可シ、
神教會ハ國家ノ内外ニ通セル大會ニシテ、自ラ國家羈輓ノ外ニ在テ、獨立スル者ナレハ、政府亦之ヲ
監察シテ、其弊害ノ國家ニ及フヲ、防止セサル可ラス、
是等ノ事ハ、總テ第九卷ニ於テ、詳論ス可シ、

第十九款

第九 權利施行ノ體裁(ホルメン、デル、アウヌユーブルク)即チ布告(ヘルオルドマング)及
命令(ベール)

以上論說スル所ヲ以テ、施政權柄、全ク斯ニ盡セリト爲ス可ラス、上文論スル所ハ、所謂一點ノ中心ニ
圓滿セル國權ノ、故シテ各殊ノ權利トナリ、發耀セル者ト云フ可キノミ(按、本卷第十五款、內權ノ

章ヲ參看ス可シ)是故ニ、此國權ハ、國家過フ所ノ景況ニ隨テ、猶數種ノ權利トナリ、諸方向ニ發耀シ
又景況新クニ生スレハ、隨テ復其新方向ニ發耀ス、眞ニ無盡ノ泉源ノ如ク然リ、
施政權柄ヲ施行スルノ體裁、乃チ左ノ如シ、

甲 アルゲマイチス、ヘルオルドマング(按)政府憲法許ス所ノ區域ニ於テ、徧ク令スル所ノ布告

チ示シテ此權柄ヲ施行ス、

乙 事ニ當リ時ニ臨ミ、アーンオルドマング、ベール(按)共ニ命令ノ義)及ヒヘルボット(按)

禁止ノ義)チ示シテ、此權柄ヲ施行ス、

甲行ニ舉タル布告ノ事ニ就テハ、既ニ上卷ニ論述セリ(卷之五第九款ヲ參看ス、ハシ)乙行ニ舉ル命
令、及ヒ禁止ノ如キモ亦、眞ニ政府ノ施政權柄ニ屬ス、○政府ヲ以テ、獨、吏務ノミヲ掌ル者ト爲シ決
シテ命令指揮ノ權柄ヲ、握ルヘキ者ト爲サ、ルハ、乃チ當今ノ通病ニシテ、其義ノ害タル、甚ク少ナラ
ス、凡國家ノ國家タル所以テ、失ハサラント欲セハ、政府唯臣民ヲ訓戒説諭スル等ヲ以テ、足レリト爲
ス可ラス、緊要ノ事ニ至テハ、必シ共ニ確乎不拔ノ威嚴ヲ以テ、命令指揮ヲ出シ、臣民ヲ、必シ之ニ聽
從セシムルノ權アラサル可ラス、○政府ノ命令指揮ナル者ハ、即チベール(按)命令ノ義)アウフ、
クラグ、(按)委任ノ義)レスクリプト、(按)臣民ノ請願ニ答フル文書ノ類)コンツェッション(按)
請願ノ許容)ハン(按)嚴命ノ類、ヘルボット(按)禁止ノ義)及ヒ其他尙許多アリ、

○華盛頓ノ人ト爲リ、ハ、國權ノ專恣ニ至ルヲ、惡ムコト尤甚クシ、去レハ一千七百八十六年(天明六年)第

十月三十一日ノ書翰ニ、左ノ文ヲ述ヘタリ、(足下余ニ勸ムルニ、シツセナシセツ) (按)合衆國ノ一部)
ノ騷亂ヲ鎮定スルニ、政府宜シク訓戒説諭ヲ用フ可シト云ヘリ、去レハ余ハ訓戒説諭ヲ用フルノ方
法、如何ヲ知ラス、縱令ニ今之ヲ用フルノ方法アルモ、恐ラシクハ此ノ如キ大騷亂ヲ鎮定スルニ於テ
適應セル妙術ト云フ可ラス、夫レ訓戒説諭ハ、決シテ政府ノ威權ト爲スニ足ラス)ト、○

〔按〕ノツセナセツニ騷亂起リシ時、其地ヨリ合衆國政府ニ請ヒ、訓戒説諭ヲ用ヒテ、和平ヲ謀ラノコトヲ欲セシ故、華盛頓之ニ答フル社文ノ如シ、蓋シ華盛頓ノ意謂ヲク、政府ノ權ヲ以テ、僅ニ訓戒説諭ヲ爲スニ過キストスルハ、甚ク不可ナリ、此ノ如キ、大騷亂發ルニ方リテハ、政府宜シク其威嚴ヲ張テ之ヲ鎮壓セサル可カラズ、訓戒説諭ヲ用フルカ如キハ、適シ政府ノ弱ヲ示ス者ニシテ、決シテ威權ヲ顯スニ足ラズト、信ニ確論ト云フ可シ、

政府此命令指揮ノ權ヲ、若ク施行スルニ於テハ、必ク現存ノ國憲、憲法及ヒ其他ノ規律ニ限制セラレ故ニ敢テ之ヲ毀損スルヲ許サズ、又敢テ其區域ヲ超ニルヲ許サズ、○政府ハ、公利公益ノ爲メニ己ム可ラサル所アレハ、即チ必ク之ヲ施行スヘキ命令ヲ下ス可シ、但シ施行スル者ヲ、必ク正善ノ方法ニ由ラシムヘシ、

此ノ如キ限制ハ、施政權柄ニ於テハ、立法權柄ニ於テヨリモ、施シ易ク、且ツ速ニ施シ得可シ、○殊ニ法院ノ如キハ、其職掌内ニ於テ審判斷定スルニ方リテハ、縱令政府ノ命令ト雖モ、形貌或ハ事理ニ於テ、憲法ニ合セサル所アレハ、決シテ之ヲ遵奉セサル、權アルノミナラス、尙且ツ其職掌當然ノ事ニ於テハ、全ク政府ノ意思ニ戻レル、處分ヲ以テ、國家ノ法制秩序ヲ保護スルノ權アリ、○然リト雖モ、法院ハ、政府ノ監督トナリテ專ラ政府ノ處分ヲ、監督スルノ權アラズ、且ツ又政府ノ命令指揮、形貌事理ニ於テ、或ハ憲法ニ悖戻スルコトアリモ、敢テ之ヲ審問スルノ權ナシ、○是故ニ、臣民政府ノ處置ヲ以テ、法院ニ控訴スルハ、通常許サ、ル所ナリ、(卷之八第五款ニ於テ、猶詳論スヘシ)、

政府ノ下等官員ノ如キニ至テハ、其職掌ノ區域内ニ於テ、政府ニ按ニミヌテ爾等ヲ云、ヨリ命セラレシコトハ、事理上ニ於テ、縱令憲法ニ悖戻スル所アルヲ察ルモ、必ク之ヲ遵奉セサルヲ得ズ、何者、下等官員ハ、全ク政府ニ從屬スル者ニシテ、決シテ獨立スル者ニアラサレハナリ、是故ニ此等ノ輩ハ、政府ノ處分ニ就テ、毫モ保任ノ義務ヲ負フ者ニアラス、實ニ保任ノ義務ヲ負フ者ハ、自ラ其事ヲ處分セル政府、即チミヌテ爾ナリ、(卷ノ七第三款ヲ、參看ス可シ)、

但シ國憲、或ハ憲法等ニ於テ、儘全ク此規律ニ相反スルコトナキニアラス、
第二十款

第十 政府非常ノ權

國家ハ、高尊ノ者ナルヲ以テ、之ヲ保護スルハ、乃チ政府ノ第一義務タリ、是故ニ國家ニ己ムヲ得サルノ事體(ノートハル)〔按大危亂ヲ云〕發スルニ方リテ、之ヲ救フハ、國家ノ第一義務タリ、是故ニ國家ニ己ムヲ得サル損シ、或ハ現存ノ法制秩序ヲ傷害スルモ、決シテ妨ゲナントス、實ニ國家ノ大危亂ヲ救フニ於テ、他術アラサレハ、一ニ私人ノ權利ヲ任ルハ、論スルヲ須ヒス、衆多群民ノ權利ト雖モ、必ク之ヲ壓抑セサルヲ得ズ、(國家ノ安寧健康ハ、至要ノ事ナリ)ト云ヘル格言アルニ非ラサヤ、故ニ此安寧健康ヲ保ツニ必要ナルコトハ、力ヲ極メテ爲サ、ル可ラス、但シ政府ヲ利シ、民ヲ害スルノ意ヲ以テ、民權ヲ犯スハ、極メテ不可ナリトス、

〔第一〕所謂政府非常ノ權、即チ政府不得ヒノ權ナル者ハ、全ク此理ヨリ生スル者ニシテ、所謂ホルシ不得己ノ權利(按本卷第三款(第三)ヲ、參看ス可シ)ト、其理同一ナリ、(按施行スル者ハ、全ク異ナレトモ、其國家ヲ救フノ理ハ、全ク同一ナルヲ云)但シ政府若シ此權ヲ施行スルキハ、人民ノ權利、及ヒ自由ニ於テ、決シテ損害ナキヲ保ツ可ラス、且ツ若シ政府此權ヲ施行スルヲ以テ、常規ト爲スルハ、其權遂ニ限制スル所アラズシテ、全ク暴政ニ陥ルハ、必然ナリ、故ニ平常ニ當テ、非常權ヲ施行スルハ、決シテ許サ、ル所ナリ、去レトモ實ニ己ムヲ得サルノ事體發スルニ方リテハ、此權ヲ用フルニアラサレハ、僅ニ其一部ヲ庇フカ爲メ、全權却テ大災害ヲ被ルニ至ル、是故ニ此權決シテ缺ク可ラス、○船艦颶風ニ遇フテ、殆ト道ル、ノ術アラサルニ方リテハ、船長實ニ其職ヲ辱シメサルノ器アレハ、斷然船客ノ物品ヲ激浪ニ投シ、敢テ惜マズ、又苦戰ノ時ニ於テ、敵隊ヲ捨ルニアラサレハ、決シテ全軍ノ捷ヲ奏スル能ハサル歟、若シシハ全軍ヲシテ、妨礙ナク、退行セシムル能ハサルニ臨テハ、老成ノ將ハ斷然數隊ヲ捨テ、敢テ顧ミサルハ、必然ナリ、國家大危亂ノ時ニ臨ミ、君主タル者ノ處置、豈獨リ之ニ反スルヲ得ンヤ、(按)全體ヲ救フハ、己ムヲ得ズ、其一部ヲ捨ルノ肝要ナル所以ヲ云フ)

治体ニ通曉セル國ニ於テハ、夙ニ此理ヲ辨識セシカ故ニ、既ニ國憲上ニ於テ、預メ此ノ如キ非常權ノ制ヲ設立シタリ、往古羅馬ニ於テ、ギクダートル(按國家大危亂ノ時ニ於テ、一時無限ノ大權ヲ掌握セル官)ニ立テシハ、即チ此理ニ出ル者ニシテ、彼ノ「コンスラート」天下ノ事ヲ以テ自ラ任スルハ、決シテ惡キコニアラス、ト云ヘル規律ハ、實ニ確言ト云フ可シ、又非尼西亞ニ於テハ、國家大危亂ノ時ニ臨テハ、厖ニ數人共ニ國家ヲ救フノ權ヲ掌握シタリ、其他英國ニ於テハ、ベアス、コルプスアリテノ規律(按「二千六百七十九年ニ於テ、立テタル法ニシテ、罪人ヲ捕縛スルキハ、必二十四字間ニ糾問ス可ク、決シテ之ヲ過コシ、長ク幽囚スルヲ許サ、ルノ法ナリ、蓋シ英國ニテ臣民ノ自由ヲ保護スルニ於テ、最モ緊要ナル者ナリ、)ナリ一時廢棄スルノ法(ス、ペンシオン)並ニ歐洲大地各國ニ於テ、ベラーゲルングス、ツウスタグランド、及ヒスタグランドレフトノ法(按「共ニ守城、或ハ大騷亂ノ時ニ方リ、將軍暫ク常律ヲ廢シ、嚴密ノ處置ヲ爲シ得ルノ法ナリ)アルカ如キ、皆非常權ノ己ム可ラサルヲ以テ也、君主國民主國ニ論ナリ、絶ヘテ己ムヲ得サル事體ノ生セザル理ハ、決シテ有ル可ラス、然ルニ儘其國憲上、全ク此非常權ヲ、設定セサル國アリ、或ハ能ク之ヲ設定スルモ、甚ク細詳ヲ得サル國アリ、又ハ非常權ノ、遂ニ專横ニ至ランヲ恐レ、故ラニ之ヲ禁スル國ナキニシモアラス、去レモ國家焉ソソ己ムヲ得サル事體ノ、絶ヘテ生セサル理アラシヤ、若シ此ノ如キ國ニ於テ、一旦大危亂ノ生スルアルニ遇ヘハ、之ヲ救防スルノ術、殆ト難シ、○但シ此ノ如キ國ニ於テモ、英邁ナル王公輔弼ハ、己ムヲ得サル事體ノ生スルニ遇ヘハ、必ス紙上ノ憲法ヲ捨テ、能ク天理法(ナットールゲセツツ)按天理ニ出ル憲法ノ義)ヲ取用シ、而シテ自ラ保任ノ義務ニ背イテ、破法ノ責問ニ進フチモ、顧忌セズ、敢テ國家ヲ救フチ以テ、其專任ト爲ス、○去レモ其勢己ムヲ得サルニ方リテハ、彼ノギクダートルノ無限權ヲ許スノ規律ヲ、像メ國憲ニ裁定セル國ニ於テ、事ヲ濟スニ比スレハ、其處分ノ難キ、實ニ數倍ナリ何者、臣民直ニ其處分ノ國憲ニ背ケルヲ責問スルコト、必然ナレハナリ、○然ルニ暗弱ナル、王公輔弼ハ、國家

内患外寇アルニ方リテモ、決シテ此ノ如キ勇斷ヲ、爲ス可ク能ハスシテ、空シク國家ヲ亡滅ニ附シテ救フ能ハス、

○〔按〕ミニステルハ、政令ノ國憲ニ合スルヲ、保任スルノ義務アルコト、既ニ本卷第十三款ニ詳論スルカ如シ、去レモ賢輔良弼ハ、此ノ如キ時ニ臨ミ、徒ニ國憲ヲ墨守シテ、國家ヲ危ウスルコトナリ、必ス自己ノ名利ヲ棄テ、身命ヲ抛テ、國家ヲ救フチ以テ、其專任ト爲ス、

〔第二〕非常權ヲ施行スルコトハ、己ムヲ得サルノ事體、既ニ發シタル時、若シハ未タ發セサルモ、其機既ニ現然トシテ、遂ニ除ク可ラサル時ニ於テ、可シ、唯國家全體ノ利益ヲ、増進スルノ目的ヲ以テ、此權ヲ施行スルハ、甚ク非理ナリトス、何者、若シ唯國家全體ノ利益ヲ、増進スル爲メ、非常權ヲ用フルヲ許スルハ、此權遂ニ常權トナルニ至ル可シ、此權若シ常權トナルキハ、國家ノ法制秩序モ、變亂ノ爲メ、遂ニ滅裂スルニ至リ、且ツ自由ノ權モ、亦共ニ保存スル能ハサルハ、必然ノ勢ナレハナリ、○國家ノ法制、並ニ臣民ノ自由ヲ保護スルハ、政府ノ常義務ナリト雖モ、此義務ヲ盡サンニハ、必ス現存ノ法ヲ守ラサル可ラス、

又非常權ヲ限制セシカ爲メニ、預メ己ムヲ得サル事體ヲ、認定指示スルノ規律ヲ綿密ニ立テタル國アリ、即チ羅馬ニ於テハ、セナートノ議ヲ以テ、己ムヲ得サルノ事體ヲ決定シ、英國ニ於テハ、己ムヲ得サルノ事體ヲ認定シテ、彼ノハベアス、コルプス、アクトナリ一時廢棄スルハ、獨リ、巴力門ノ權ニアルノ規律ヲ立テタリ、○佛國一千八百四十八年(嘉永元年)ノ國憲、第百零六章ニ、唯憲法上ニ己ムヲ得サル事體トシテ、認定セル、景況ノ發シタル時ニ於テノミ、ベラーゲルングス、ツウスタグランド(按前ノ「第一」ニ出ツ)ヲ用フヘキ旨ヲ載セ、復普魯士國ニテハ、戰爭及反亂ノ起リシ時ヲ以テ、己ムヲ得サル事體トナシ、而シテ此ノ如キ時ニ於テハ、國憲ノ二三條規ヲ、一時全ク廢止シ得ルコト爲セリ、○但シ古來王公輔弼、實際ニ臨ミ、非常權ヲ施スニ方リテ、此ノ如キ限制ヲ拘守スルキハ、決シテ國家ノ急ヲ救フニ足ラサルヲ知リシ時ニハ、此限制ヲ超ヘテ、尙其歩ヲ進メタリキ、

己ムヲ得サル事体ヲ指示スルノ規律ナキ國ニ於テハ、必^ニ國家元首之ヲ決定スルコト當然ナリ、但^シ立憲君主國ノ如キハ、此時ニ於テ、君主ト共ニ連署スル所ノミニステル、其處分ヲ保任スルハ、固^{ヨリ}當^ラ然^ニ、且^ツ預^メス、ト^ラツ^テラ^ト（按^テ國政ニ參議スル高官、卷之七、第六款）ニ詳ナリ）ニ謀レハ、更ニ善ナリ。○但^シ此決定ヲ以テ、國家元首自^ラ托^シテ、代^メ國府ニ托セサルハ、何^ソヤ、蓋^シ代^メ國府ハ、己ムヲ得サル事體ノ發スル時ニ臨^ミ、必^スシモ現^ニ集會スル者ニアラス、且^ツ代^メ國府ハ、事情切迫ノ時ニ臨^ミ、神速ニ救防ノ策ヲ運^シ、以テ適宜ノ處分ヲ施スノ職官ニアラス、加之、決^シテ此ノ如キ職掌ニ堪^ヘサルヲ以テナリ。○但^シ此權ハ、政府ノ常權ト異^ニシテ、素^ト強^クノ權ナルヲ以テ、政府若^シ己ムヲ得サルニ非^スシテ、恣^ニ此權ヲ施行スルコト、輒^ニ獨逸各國ニ於テ、其政府恣^ニ此權ヲ施行セシカ如クナルキハ、臣民塗炭ニ苦シムノ恐^レ少カラストス、是故ニ政府此權ヲ施行スルニ方リテハ、必^ス兩院之ヲ監督スルノ權ヲ握ル、甚^ク緊要ナリ。

（第三）縱令^シ事體己ムテ得サルノ時ト雖^モ、猶^モ國憲憲法ニ悖^レ辰セサル處ガチ以テ、防護シ得ルノ術アル間ハ、決^シテ非常權ヲ用フルヲ許サス、又己ムテ得サルノ事體、將^テ起^ラントスルノ機、先^ツ現^ハル、カ爲^ニ、能^ク憲法ニ由テ、防護スヘキ方法ヲ設ケ得ルキハ、則^チ非常權ノ區域、自^ラ減縮ス、（按^テ）本來非常權ト爲^シル條規モ、預^メ憲法ヲ以テ姑^ク之ヲ常權ノ規律トナスカ故^ニ、非常權ノ區域自^ラ減縮スルナリ。）普魯士國等ニ於ケルカ如ク、己ムテ得サル事體ノ生スル時ニ於テハ、政府一旦救時ノ憲法ヲ、告示スルノ權ヲ握ルル國ニ於テハ、政府ノ此權ヲ施行スルヤ、決^シテ非常權ヲ施行スト云フ可カラズ、既^ニ預^メ國憲、及^チ其他ノ憲法ヲ以テ、限定セル權利ヲ、施行スト云可シ。

（第四）古時羅馬ニテハ、己ムテ得サルノ事體生スルニ方リテハ、デク^トラ^ト（按^テ）本款（第一）ニ出ツ、ノ官ヲ立テ、非常權ヲ施行セシメシカドモ、若^シ此ノ如キ官ヲ立テサル國ニ於テハ、國家元首、必^ズ此權ヲ施行ス可シ、決^シテ從屬スル所ノ職官輩、之ヲ施行スルヲ許サス、但^シ寇賊假^ニ襲來スル時等、防禦瞬間ヲ争フニ方リテハ、官吏ハ勿^レ論、縱令^シ一私人ト雖^モ、亦能^ク一旦此權利ヲ施行シ、危急ヲ

救フニ於テ、決^シテ妨^ガナシ、但^シ直^ニ之ヲ政府ニ報シテ其後ノ處置ニ就テハ、政府ノ號令ヲ俟ツテ要ス、去^レル若^シ國家元首、其職ニ堪^ヘサルカ爲^ニ、遂^ニ己ムテ得サルノ事、起^ル時ニ於テハ、必^ズ重要ノ職官非常權ヲ施行セサルヲ得ス、即^チニステル、及^チ兩院、或ハ時宜ニヨリテハ、將軍等之ヲ施行ス可シ。

（第五）救防ノ目的ニ從^テ、其方法ヲ設定シ、及^チ之ヲ限制ス可シ。

未^ダ事^ナ時^ニ於テ、預^メ救防ノ方法ヲ設定セント欲スルハ、徒^ラニ無^益ノ勞ト云フヘキノミ、凡^ソ己ムテ得サルノ事體發スルニ當リテハ、一時公權利ヲ阻止シ、又ハ之ヲ廢棄シ、或ハ私權利ヲ毀損スル等、固^{ヨリ}妨^ガナシトス、例^ハ公事ノ商議及^チ會合ヲ禁止シ、出版ノ自由ヲ、一時阻止シ、又ハ非常法院（アウツ^ル）アルデン^トリ^ヘ、（ゲリ^フト）ヲ設ル等ノ如キ、都テ公權利ヲ阻止廢棄スル所以ナリ、所^レ謂^フ國家己ムテ得サルノ事體ナル者ハ、素^ト國事ニ關スルコトナルカ故^ニ、此事發スルニ至リテハ、是^レ院公權利ヲ阻止廢棄スルハ、私^人ノ日用交際、及^チ自由ノ權利ヲ限制スルヨリモ、甚^ク緊要ナリトス、但^シ國家安寧ニ存在スルノ權ハ、元^ト至高^ノ權利ナルカ故^ニ、己ムテ得サルノ事體發スルニ方リテ、國家存在ノ爲^ニ、妨^ガナシトナルヘキ諸權利ハ、舉^テ之ヲ禁止スルコト、甚^ク緊要ナリトス、救防ノ方法ヲ限制スルキハ、非常權ノ區域、亦自^ラ決定マルナリ、即^チ左ノ如シ。

甲 救防ノ方法ハ、救防ノ難易ニ適應スルヲ要ス、決^シテ不適宜ニ嚴ナル可ラス、又此方法ヲ施スカ爲^ニ、現存ノ方ヲ毀^テ限制スルモ、亦救防ノ難易ニ隨^テ、其可^ニ適スルヲ要ス、決^シテ不適宜ニ大ナル可ラス。

乙 既^ニ救防ノ志ヲ達シタル後、仍^モ非常權ヲ施行スルヲ許サス、是故ニデク^トラ^ト（前^ニ見ユ）ノ權ヲ施行スル時限ヲ、短小ニ定ムル國アリ、蓋^シ此權ヲ施行スル時限、遷延シキ時ハ、遂^ニ變シテ暴虐ノ權トナルヲ恐ル、ナリ。

丙 其事體唯一時ノ方法ヲ設クテ、救防シ得ヘキキハ、決^シテ悠久ノ方法ヲ施ス可ラス、且^ツ立法

丁

府ハ常ニ此方法ノ舉行ヲ監督シ、速ニ平常ノ法制ニ復セシムルヲ務ルノ權アリ、殊ニ己ムヲ得サル事體發起ノ際ニ於テ、一時令シテアルケマイチ、ヘルオールドスング(按)前款ニ出ツノ如キハ、立法府其時機ヲ察シ、務メテ速ニ廢止セシムルコトニ心ヲ用フ可シ、事體方ニ般ナルヲ以テ、縱令ヒ大ニ非常權ヲ施スコトアリモ、主トシテ之ヲ施行セシミニステルハ其方法ニ就テ、必^ス自ラ保任セサル可ラス、何者、若シ此ノ如キ時ニ於テ、ミニステル保任ノ義務ヲ負ハサルモ、是レ即チミニステル唯私利ノ爲ニ、國難ヲ救助スト云可ク、決テ實ニ國家ノ爲ニ、其難ヲ救助ストハ、云フ可ラサレハナリ、○非常權ヲ施行スル、愈嚴猛ナレハ、之ヲ施行スル者、其方法ノ已ムヲ得サルニ出ル所以チ、保任スルノ義務モ、亦愈大ナリ、非常權ヲ施行スル時ニ於テ、悠久ノ新法ヲ立ルコトハ、通常許サ、ル所ナリ、然レモ唯己ムヲ得サルノ事體ナルヲ以テ、現存ノ法ヲ毀損スト雖モ、奮ニ之ヲ犯法ノ處分トセサルノミナラス、却テ緊要ノ處分ト爲スナリ、去レテ法ニ合セサル事ヲ舉ケテ、之ヲ法ト爲スカ如キハ、甚^ク不可ナリ、凡ソ非常權ハ、唯非常ノ事發スルカ爲ニ、已ムヲ得ス、緊要ト爲ス者ニシテ、決シテ新法ヲ立ルカ爲ニ、緊要ト爲スニアラス、是故ニ政府ノ威權ヲ違ウ、新ニ私法ヲ設ケ、或ハ法院ノ審判裁斷ヲ經ス、恣ニ刑罰ヲ施ス等ノ處置、及ヒ其他現存ノ國憲ヲ、永ク變革スル等ノコトハ、通例非常權ノ已ムヲ得サル處分ト、目スルヲ許サス、○但シ此ノ如キ處分ト雖モ、或ハ認許サセサル可ラサルコトアリ、凡ソ已ムヲ得サルノ事體ヲ、救助スルノ術ハ、素^ク此事體ノ大小緩急ニ應ジ、舉措セサル可ラス、此事體ノ起リタル原因ヲ推スニ、若シ國憲ノ不善ヨリ生スル者ナルモ、國憲ニ隨テ、其原因ヲ除去スル能ハサルハ、固ヨリ論ナシ、故ニ此ノ如キ時ニ方リテ、國家ノ艱難ヲ救ハント欲スル者ハ、預^メ國憲ヲ改革セシコトヲ企テ謀リテ、之ヲ遂ケサル可ラス、既ニ輒近各國ニ於テ、顛覆及ヒ復舊顛覆ノアリヲオシ(按)一旦顛覆アリテ政體ノ變セシテ、又舊制ニ復センカ爲ニ、起ス所ノ顛覆ヲ云フ、爲ニ國憲數次顛圮シテ、遂ニ不具トナリシカ故ニ、此ノ如キ改革屢アリキ、○此ノ如キ改革ヲ爲スニ方リテハ、從來ノ立法

戊

府若クハ新ニ選任セル立法府等、能ク其方法ヲ監察シ、以テ現法ヲ犯ス所ノ新法ヲ認許シテ、遂ニ之ヲ眞實ノ法ト爲スノ權アルコトシ、○

普魯士王非的利維廉第四世(一千七百九十五年ニ生レ、八百六十一年ニ歿ス)ハ、一千八百四十九年(嘉永二年)ニ於テ、非常權ヲ施行シ、復佛國統領路易那破倫(按)那破倫第三世ナリハ、一千八百五十一年(嘉永四年)十二月二日ニ於テ、非常權ヲ施行シタリ、即チ非的利維廉第四世ハ、第二院(按)即チ下院ナリヲ廢シテ、獨リ自カラ代議者撰擇ノ法ヲ改革シ、復路易那破倫ハ、ナチオナルヘルサムルンク(按)議會ノ名ヲ解イテ更ニ新國憲ヲ制シタルヲ云フナリ、○此ノ如キ非常權施行ノ方法ヲ以テ、或ハ正ト爲シ、或ハ不正トナス者アリテ、其論一定セサレモ、普魯佛國共ニ遂ニ、之ヲ認許シテ、全ク遵奉スルニ至リシハ、又疑フ可ラス、

大井潤一 校

國法汎論卷之七上 目錄

國家職務及_レ眞ノ政令

第一款 國家職務ノ品類及_レ法ニ關セ_ル性

第二款 國家官吏ノ任用

第三款 國家官吏ノ權利及_レ義務

第四款 國家職務ノ止息

第五款 輔弼ノ官

(ロ)ニ出ツ、猶詳ナルコトハ、卷之八ニ就テ看ル可シ。ハ勿論、其他邑官(ゲマインデアマムテ)アドホカート(按)裁判所ニ於テ、原告人、被告人ニ代リテ、辯論スル官ナリ、詳ナルコトハ、卷之八ニ就テ看ル可シ。及ヒ王室ノ私臣等ニ至テモ、通例國家官吏ト稱ス可ラス、且、國事ト神事ヲ、全ク分別セル國ニ於テハ、ビシヨフアルレル(按)其ニ神教ノ官吏等モ亦、決シテ國家ノ官吏ニアラス、凡、以上諸官吏ニ於テハ、或ハ公事ヲ掌ルモ、全ク君主ヨリ、其職掌ヲ受ケス、或ハ其職務、國家ノ事上ニ、關係ナクレハナリ。

(第二)國家職務ノ品類異ナルニ隨テ、各其職官アリ、故ニ國家ノ各職官ハ、則國家全體ノ部分ニシテ、皆固ヨリ各殊ノ職務ヲ掌ル權有リ、是ヲ以テ、各職官皆之ニ充ツル所ノ官員アリテ、必、其意見ヲ以テ、其職務ヲ行フヲ要ス、但、權勢ニ至テハ、限制スル所ナキコアラズ。○是故ニ國家官吏ト泛稱スルハ、必、國家元首ヨリ寄托セラレシメ、職掌ヲ、自己ノ意思ヲ以テ、施行シ得ル者ヲ指目ス、去レモ、眞ニ國家官吏ト稱スヘキハ、君主ヨリ制驭ノ權(オブリグカイトリヘ、ゲワルト)ヲ、寄托セラレテ、之ヲ施行スル者ヲ云フノミ、其餘ニ至テハ、絶ヘテ國家ノ權柄ヲ、負荷スル者ニアラス、唯教育、或ハ經濟等、其他諸務ノ分課ヲ授托セラレタル者ト云フヘシ、是故ニ此等ノ官吏ハ、適當セル古語ヲ以テ之ヲ目セハ、唯公務官吏(エッヘントリヘル、プレーゲル)ト稱ス可キノミ。

例ヘハ公學ノ博士(プロヘットール)教官(レール)公病院ノ醫務(ゼレシトール)醫官(アルツト)及ヒ公務醫官(スターツアルツト)、(按)横死者ノ屍體ヲ檢査スルヲ掌ル醫官、及ヒ衣食住等、其他總テ一般ノ健康ニ利害アル者ヲ、檢査スルヲ掌ル醫官等ヲ云フ。公務建築官(スターツインゲニオイ)、(按)公屬ノ隄防橋梁等ノ建築ヲ掌ル官、(按)其他出納官(カッジール)、官地官(ドメーンヘルワルテル)ノ如キ財務官吏等ハ、皆公務官吏ナリ。

眞ノ國家官吏中ニ就テ、又政官(レギールングスベアマムテ)法官(ユスツツベアマムテ)ノ別アリ、乃チ政府ナル者ハ、實ニ政令ノ權ヲ施行スル者ナリ、故ニ其職掌内ニ於テ、公利公益ニ緊要ナルコトハ、必ス命令指揮シ、以テ之ヲ舉行スル權アリ、但、是等ノコトヲ爲スニ於テ、敢テ專斷スル能ハス、必ス上官

ノ命ヲ俟サルヲ得サルナリ。○然ルニ法官ハ之ニ反シ、敢テ自己ノ意見ヲ以テ、公利公益ニ緊要ナルト否トチ、考定スルヲ得ス、既ニ規定セル現存ノ法ヲ司守シ、獨リ之ニ由リテ、審判裁斷スルヲ得ルノミ、但シ此事ヲ行フニ就テハ、敢テ政府ノ命令指揮ニ束縛セラル、ヲ要セス、專ラ自己ノ知識ヲ用ヒテ可ナリ、是故ニ常規ニ由テ、之ヲ論スレハ、政官ハ、專ラ由自ニ處分スル者ト云フ可シ、法官ハ專ラ法制ヲ謹守シテ、處分スル者ト云フ可シ。

(第三)以上政官法官ノ外、猶一種補助官吏(スターツアインゲステルテ、又アマツゲヒユル)ト稱スル者アリ、此官吏モ亦決シテ國家ノ官吏ニアラスト云フ可ラス、然レモ其素性タリ、眞ノ職官ノ者ニアラス、故ニ亦職權ヲ有セス、尙且ツ獨立セル職掌ヲ有セス、唯上官ニ隨屬シテ、其補助ヲ爲スノミ、則チ史官(カンツェルリス)諸公府ノ監督(アウフセーヘル、イン、エッヘントリヘ、アインスタルト、(按)公學校、公病院等ノ監督ナリ)財務補助官(ヒナンツ、ゲヒユル)等是ナリ。○是等諸官吏モ亦、公務ヲ處分スルヲ以テ、猶僅ニ心思ニ係レル職掌有リ、是ヲ以テ國家官吏ノ部ニ列セサルヲ得サルナリ、然ルニ又職務上ニ於テ、自己ノ心思ヲ勞スルヲ須ヒス、唯上官ノ吩咐ニノミ、承奉スルカ如キ、卑官ニ至リテハ、縱令ヒ國家ノ爲メニ、必要ナル者ト雖ヒ、決シテ國家官吏ト稱スルニ足ラス、則チ使丁(ラカイ)守門卒(ホルチール)學校輕卒(ベデル)裁判向輕卒(ワイベル、及ヒゲリフツギトール)選卒(ゲンスダルト)等即チ是ナリ、故ニ此輩ハ、唯國家ノ奴僕、スターツベギンテト稱ス可シ、是ヲ以テ此輩ノ國家ニ對セル權利ニ於テハ、國家官吏ノ國家ニ對セル權利ト同一ニ、國法ヲ以テ論ス可ラス、唯私法ノ使役合約(ギーンストヘルダラグ)ノ規律ニ從テ、論ス可シ。

(第四)國家官吏ノ中、復文官(サヒールベアマムテ)武官(ミリテールステルレ)ノ別アリ、此區別ハ、素、羅馬帝コンスタンチン、デ、ゴローセ(紀元二百七十四年ニ生レ、二百三十七年ニ歿ス)ノ時ニ於テ、判然創立セシ者ニシテ、今猶全ク存ス。○但シ武官ノ中ニ於テハ、獨リ將校(オヒチール)ノミ、國家官吏ト稱ス可シ、兵卒(ソルダート)ノ如キニ至テハ、決シテ國家官吏ト云フニ足ラス、何者、號令ヲ司ル者ハ、獨リ將校ノミニシテ、兵卒ハ之ニ預ラス、必竟兵卒ノ兵役ニ從事スルノ義ハ、或ハ國民タル者悉皆

兵役ニ從事ス可キノ義務アルニ出テ、或ハ私法ノ規律ヲ以テ、備役セラル、ニ由ルヲ以テナリ、○武官ノ文官ト相異ナル所以ハ、殊ニ其規律嚴肅ヲ主トシテ、唯命是レ奉セサル可ラサルノ法アルト、及ヒ其職タル、實ニ自ラ處分スルノ權アラズ、殆ト唯其命セラル、所ヲ奉行スルト、此二件ニ在リ、(第五)在昔或ハ國家官吏ノ國家ニ對セル權利ヲ取テ、合約ヲ結フ所、私法規律ニ相同シカル可シト、説ク者アリシト雖モ、其理決シテ此ノ如クナラス、眞ニ國法ノ規律ニ出ル者ナリ、是故ニマンダート(按)甲乙二人互ヒニ合約シ、甲其事ヲ以テ、乙ニ委託スルノ文書ヲ具ス、之ヲマンダートト云フ、但シ乙ノ其事ヲ爲ス、決シテ備役ヲ受ルカ爲メニアラス、唯其榮譽ヲ欣フ爲メニ爲スナリ)或ハ卑賤ナル備役合約(シオンストミーテ、(按)備役ヲ以テ備役スルノ合約)ノ理ヲ以テ、國家職官ヲ論スル如キハ、大ナル謬ト云フヘシ、抑、國家職官ノ授任罷黜、及ヒ奉職等ノ、一モマンダート若クハ備役合約ノ理ニ合スル者ナシ、

凡ソ國家職官ハ、國家タル者、公事ノ爲メニ、其意見ヲ以テ授任スル者ナリ、而シテ之ヲ授任官(アーンストレルングス、デクレート)ト號ス、但シ儘之ヲ別種憲法(スベナアールゲセツ)ト稱スルモノアリト雖モ、其語甚、妥當ヲ缺ケハ、聽用ス可ラズ、何者、授任官ハ、通常立法府ノ施行スル所ニアラス、君主國ニテハ、君主必メ之ヲ施行シ、民主國ニテハ、儘又民選ニ出レハナリ、○或ハ外國人ヲ、國家公事ノ爲メニ、使役セント欲スル時ハ、預メ其旨ヲ本人ニ示シ、其唯諾ヲ得、相約シ、然後ニ公然之ニ職務ヲ授與スト雖モ、國家敢テ之ヲ外國人ニ請願スト、云フ可ラス、國家ハ必メ外國人ノ上ニ在アリ、專ラ其意見ヲ以テ、外國人ニ職務ヲ授與スル者ナリ、是故ニ時アリテ、右合約ヲ爲セシ後、若シ國家其約ヲ破リ、外國人ニ職務ヲ授與セサルコトアリ、外國人其違約ヲ、私法ニ因テ、法院ニ訴フルコト能ハス、縱令之ヲ訴フル、法院亦之ヲ國家ニ責メテ、決シテ此合約ヲ遂クシムルノ權ナシ、但シ國家此ノ如キ合約ニ背クノ故ヲ以テ、外國人全ク私法ノ規律ニ屬シタル償金ヲ、收受スルコトハ、許ス可シ、(按)例ハ外國人ヲ某事ニ使役スヘキヲ約シテ、國家遂ニ此約ヲ破リタル時ハ、外國人政府ヨリ償金ヲ取ルハ、當然ノコトナリ)

國家職官ノ眞ニ國家職官タル所以ハ、其職分タル、素、國家ノ爲メニ設クル所ニシテ、全ク公事ニ係リ、且、其活動宛カモ有機體ノ活動ニ相同シキニ在リ、故ニ總テ職官ナル者ハ、國家ノ生濟ニ於テ、必需ナルヲ以テ、其榮養ノ爲メニ設クル者ナリ、決シテ職官ヲ荷フ人ノ爲メニ、設クル者ニアラス、○是故ニ唯私人ヲ利スルカ爲メニ、職官ヲ與ヘ、或ハ職官ヲ以テ、私事ヲ營ムノ具ト爲スカ如キハ、大ニ不可ナリ、中古ノ時、各國ニ於テ、此ノ如キ事數、行ハレ、且、晚近ニ至リテモ、佛國ニ於テ、尙此ノ如キ事行ハレシハ、必竟國家ノ眞理、未ダ全ク開明セサルヲ以テ、國法猶私法ノ爲メニ束縛セラレ、其能力ヲ全伸スル能ハサリシニ坐スルナリ、

○(按)有機體ハ、即チ活物ナリ、活物ナル者ハ、各、精神體軀アリテ、精神自ラ能ク活動シ、亦能ク體軀ヲ活動セシム、金石土塊等ノ無機體、或ハ人造器械等ノ、自ラ活動スル能ハサルカ如キニアラス、玆ニ國家職官活動ノ力ヲ以テ、有機體ノ活動ニ比スレハ、國家職官タル者ハ、唯國家元首ノ命ノニ奉承スルニアラス、必メヤ自己ノ意見ニ隨テ、謀畫區處シ、自ラ其實ヲ盡スヲ以テナリ、職官ニ附加スル所ノ俸祿(ベツルツング)ノ如キハ、實ニ私法ノ理ニ出ル者ナリ、故ニ俸祿ノ有無、職官タルノ理ニ於テ、決シテ利害アルコトナシ、既ニ古來俸祿ヲ附加セサル職官儘之レアリ、然レヒ之レカ爲メニ、職官ノ理、少モ變ルコトアラザリシハ、蓋シ職官俸祿ノ有無ニ關セサルノ明證ナリ、

第二款 國家官吏ノ任用(アーンストレルング、デル、スターツギーテル)

(第一) 近今ハ職官ヲ世襲スルノ風、止ミタレ、中古ノ世ニハ、歐洲各國共ニ、世襲ノ職官多ク、子々孫々同官ヲ繼襲セシ故ヲ以テ、其威權殆ト王侯ノ如クナルニ至リテ、遂ニ國家ノ一致、及ヒ序次ヲ害シタリキ、元來職官ヲ負荷スル所ノ人ハ、能ク其任ニ堪ヘ、其責ニ任スルノ器ヲ備フル事、甚ク緊要ナリ、然ルニ能ク其任ニ堪ヘ、其責ニ任スルノ器ハ、子々孫々決シテ能ク世傳スル所ニアラスシテ、唯其人ニ存スル者ナリ、是故ニ職官ヲ世襲スルノ法ハ、人材ヲ得ルノ法ニアラス、却テ人材薦擧ノ道ヲ梗塞スル者ニシテ、國家ニ害アル鮮カラス、

但シ近今ト雖也、全ク世襲ノ官ナキニハアラス、去レヒ多クハ唯其人ニ榮譽ヲ與フルカ爲ニ、授ク
ル者ニシテ、決シテ職掌アル官ニアラサレハ、殆ト有名無實ノ者ナリ、例ヘハ王室ノ世襲職官(エルブ、
ホフ、アムト)ノ如キ是ナリ、(按)貴族等ニ榮譽ヲ與フルカ爲ニ、皇國ノ侍從等ニ類セル官ヲ授
ケテ、世襲セシムル國アリ、去レヒ實ニ其職ヲ奉スルニアラス、唯盛典祭儀等ノ時其席ニ列スルノミ
ナリ、

(第二)古時ノ民主國ニ於テハ、職官授任ノ期限ヲ定メテ、僅ニ數年間ト爲スノ法、徧ク流行シ、而シテ
或ハ再任ヲ許シ、或ハ再任ヲ許サ、ルモアリキ、方今ノ民主國ニ於テモ亦、此ノ如キ授任期限ヲ定ム
ル職官アリ、殊ニ瑞士國ニ於テ此法ヲ用フ、○邑官(ゲマインデムト)ノ如キハ、固ヨリ大ニ才力
ノ鍛鍊ヲ要スルヲ甚ク罕レナレハ、右ノ如ク授任ノ期限ヲ定ムト雖モ、事ニ就テ甚ク妨ナシ、去レヒ國
家官吏ノ如キハ、實ニ積年累月、其職ニ鍛鍊習熟セサル可カラズ、而シテ近今萬事學術ヲ要スル世
方リテハ、此事最モ緊要ナレハ、右ノ如ク授任ノ期限ヲ定ムルカ如キハ、施政上實ニ大害アリ、凡ソ此
ノ如キ期限ヲ立テタル國ニ於テハ、其弊ノ赴ク所各人自己ノ榮利ヲ求メント欲シ、比朋黨與其志ヲ
達セント欲シ、皆相爭執シテ、國家ノ職官ヲ得ルヲカ故ニ、官吏ノ交換スルヲ頻數ニシテ、且ツ之
レカ爲ニ國家ノ存在ヲ危ヒ、其安寧ヲ破リ、遂ニ職官ノ遠大ナル能力ヲ損壞スル、甚ク甚クカラスシテ
、其國家ニ害アルヤ、實ニ大ナリ、是故ニ授任ノ期限ヲ立ルノ法ハ、其任ニ適セサル官吏ヲ罷メ、若ク
ハ民人ノ信ヲ失ヘル有リト雖、實ニ其責ニ任スヘキ英才ヲ擧ゲテ、之ニ代ハラシムルニハ、頗ル利
アレヒ、此利ハ上ニ論スル所ノ、諸弊害ヲ償フニハ足ラサルナリ、○但シ貴族政治(アリストクラシー、
)ノ國ニテハ、萬事恆常ヲ守リ、且ツ適度ヲ失ハサルヲ好ムノ風行ハル、カ故ニ、此ノ如ク職官授任ノ
期限ヲ立ルモ、甚ク害アリトイヘヒ、民人政治(デモクラシー)ノ國ハ、全ク之ニ反シテ、素官吏ノ交
換ヲ好テ、職官授任ノ短キヲ欲スルノ僻アルカ故ニ、此ノ如キ制度ハ實ニ害アリ、加之、此ノ如キ制度
アルトハ、知能ノ士ハ、寧ロ他業ヲ撰ムモ、敢テ仕官ニ潔トセサルニ至ルカ故、國家人材ヲ得ルヲ甚ク難
シ、且ツ議論屢變遷スルカ爲ニ、確手タル條理立メスシテ、遂ニ知能ノ士ヲ驅除スルノ弊害アリ、甚ク
恐ルヘシ、

(第三)職官ノ授任ヲ應諾スルト否トハ、本人ノ自由ニ任スルヲ當然ニシテ、既ニ一般ノ通則トナレ
リ、但シ國家ノ職務タル、素國家ト本人トノ、合約ニ出ルヲ以テノ故ニアラス、元來人ノ精神才智ノ
上ニ係レル職務ヲ、他人ヨリ強逼シテ、奉セシメント欲スルモ、決シテ得ヘキニアラス、且ツ縱令ヒ本
人自ラ之ヲ奉スルモ、唯勢已ムヲ得サルニ出ルキハ、決シテ功益ノアル可キニアラス、唯實ニ本人自
ラ好テ、其職官ヲ應諾セル時ノミ、又好テ能ク勉勵スヘキヲ以テナリ、加之、政府其臣民ヲシテ、國家
ノ爲メ、特別ニ勞苦セシムルノ理モ、亦決シテアラサレハナリ、○此規律ハ、方今君主民主ノ各國ニ於
テ、共ニ皆從用ス、

但シ國家ノ職官トイヘヒ、殆ト邑官ニ類スル者、若クハ邑官ト相關涉スル者ニ至リテハ、此例ヲ以テ
論ス可ラサル者アリ、蓋シ是等官吏ハ、其才能ヲ要スルヲ甚少ク、且其人數ハ、甚ク多ク要スルカ
故ニ、其職務ハ凡ソ臣民悉皆當然盡スヘキ職務ト同一理ナリト視做シテ、全ク本人ノ自由ニ任セサ
ルヲト爲セシナリ、

(第四)國家ノ職官ニ適應スヘキ人材ヲ、考試スルノ方法ニ於テハ、獨乙ノ任官規制(ベアムテノシス
テム)ハ、殊ニ嚴密ニシ、實ニ官試(スターツアリエーフング)ニ於テ、及第セシ者ニアラサレハ、任用
スルコトナシ、蓋シ此規律ノ善良ナルコトハ、敢テ疑フ可ラス、他各國ニ於テ、官吏ヲ選任スルニ、必ス求
官吏生(カンザギー)即考試ヲ受ケタル者ナリ)ノ考試法ニ由ルヲ要セサルカ如キ比ニアラス、○官
試法アルトハ、既ニ學術習熟ヲ經テ、能ク其任ニ適スヘキ者ニアラサレハ、任用セラル、コトナシ、且ツ
又在廷ノ官吏、勳モスレハ、其比朋黨與ニ脅サレ、及ヒ王室ノ爲メニ欺カレ、漫ニ事ヲ誤ルカ如キ、弊害
決シテ生スルコトナシ、其他少年ニシテ有志ノ徒、專ラ學習ヲ以テ、就官ノ正路ト爲シ、決シテ僥倖ヲ得

ソト欲スル者ナリ。尙且ツ不學無識者等浪リニ就官ノ志ヲ起スカ如キ弊害モ亦決シアルコトナシ。○然レモ徒ニ此法ノミヲ株守ルルハ甚ダ不可ナリ。時アリテハ儘此法ニ由ラサルコトモ無カシテ凡ソ外國人ヲ任用セント欲スルニ方リテ。官試ヲ要セスト雖モ其材能顯然タル時ハ勿論。假令ヒ國人ト雖モ實ニ賢俊ノ徒ヲ舉ル時ニ方リテハ敢テ考試ヲ用フ可ラス。蓋シ天性聰敏ノ徒ハ縱令ヒ學習ノ常規ヲ踏マサルモ儘大ニ有レ爲ノ才能ヲ顯スコトアリ。然ルチ唯學習ノ常規ヲ踏マサルノ故ヲ以テ徒ラニ之ヲ任用セサルハ實ニ政府ノ迷誤ニアラスヤ。例ヘハミニスデル及ヒスターツラート(按)議政ノ官(等)ノ如キ、當路輔弼ノ才能ヲ要スル官及ヒ大學博士(プロフェッソール)ノ如キ等學識ノ廣博ヲ要スル官ニ任用スヘキ人物ニ於ケルカ如キ、即チ是レナリ。但シ此ノ如キ規律外ノ事ヲ行フニ當リテハ是ニ由リ或ハ遂ニ規律ヲ傷害スルノ患、全クアラストハ云フ可ラス。然レモ能ク着意シテ此事ヲ爲セハ此患ヲ防ク亦甚難キニアラス。

右論スルカ如ク獨乙ノ法ハ大ニ他各國ノ法ニ優リテ良善ト稱ス可シ。然レモ弊害モ亦之ニ加ハリテ。勳モスレハ其佳好ノ葉實ヲ損敗スルコトナキニアラス。弊害トハ何ソヤ獨乙ニテハ始テ求官生ナ官ニ莅任シ或ハ既ニ官ニ就ケル者ヲ猶高官ニ登用スル等。多クハ唯從來勤仕スル年數ノ多少ニ拘リテ專ラ其才能ヲ論セサルチ云フナリ。○凡ソ天性敏捷ナル者數年間、卑官ニ在リテ、雇工ニ類セル賤役ヲ爲スルハ遂ニ是ニ由テ其英氣疲倦挫推シ、全ク天性ヲ耗スルニ至ル可シ。故ニ數年ノ後始テ擢ンテ高官ニ用ヒラレ重職ヲ委託セラル。既ニ疲倦挫推セル衰叟、豈能ク國家ノ用ヲ爲スニ足ル可ケンヤ。○但シ此弊害タル素ト任官規制ノ惡シキカ爲ニ生シタルニハアラス。全官吏權ヲ專ラニスルノ惡習ヨリ生シテ漸ク増益シタルニ由ルナリ。

○按 始テ官ニ任用スルニ從來勤仕セル年數ノ多少ヲ以テスルト云ヘルコト甚ダ解ス可ラス。去レモ既ニ考試ヲ受ケ未ダ官ニ就カザル時、始テ試補トナリテ其職掌ヲ試習スルコトアリ。蓋シ此試習ノ年數ヲ云フ歟。

考試ノ方通常分ッテ二次トス。乃其一次ノ考試ハ全ク大學ノ業課ヲ卒タル後ニ施ス者ニシテ之ヲ學事考試(テオレナリセ、フリ、フンク)ト云フ。即チ博士之ヲ掌ナリ。凡ソ此考試ニ於テハ考試ヲ爲ス者モ亦考試ヲ受ル者モ其材能ニ適セル事ヲ爲スカ故ニ其宜シキヲ得ルコト決シテ他方法ノ及フヘキニアラス。且ツ此考試ノ方法良善ナルキハ風教自ラ後來大學生徒ノ志ヲ獎勵スル甚ダ勸ナカラストス。其二次ノ考試ハ即實事ノ考試(ブラクチャーセ、プリーエーフンク)按)財務ノ官ニ任用セント欲スル者ハ財務ノ實際ヲ考試シ、外務ノ官ニ登用セント欲スル者ハ外務ノ實際ヲ考試スルノ類チ云)ト稱ス。○凡ソ求官生ナル者必ス法科及ヒ政科共ニ其大要ヲ研究セサル可ラサルハ固ヨリ論ヲ俟タズ。去レモ一人ニシテ法政諸科ヲ併セ研究シテ法政ノ二官ヲ兼攝スルニ堪ユル者ハ世上殆ク罕ナルヲ以テ求官生ノ自ラ好ム所ニ隨ヒ一科ニ就テ或ハ專ラ法科ヲ修メシメ或ハ專ラ政科ヲ講セシムルコト甚ダ緊要ナリ。然ルニ求官生ヲシテ漫ニ數科ヲ學テ徒ラニ廣博ニ地ヲシメト欲スルハ却テ其好ム所ノ一科ヲ專修セント欲スルノ志ヲ挫折シテ遂ニ其材能ノ發達ヲ妨害スルナリ。然ルニ獨乙ノ考試ハ必ス眞ノ法學(アイゲントリヘ、ニリスアルデシツ)按)博士法學ト云フキハ國法列國法ヲ始メ民法訴訟法治罪法刑法商法其他理財學等ヲ總稱ストイヘモ其中ニ就テ國法學及ヒ理財學ヲ除テ其餘ノ者ヲ眞ノ法學ト稱スルナリ)ヲ考試スルチ主トシテ國法學理財學(ナチオナルエコノミー)等ノ優劣ニ注意スルコト甚ダ少シ。蓋シ獨乙考試法ノ宿弊ナリ。卑賤ナル官吏ヲ任用スルニハ敢テ官試ヲ要セス。只管預實地ニ練熟シ殊ニハ唯記錄ヲ掌ルニ堪ユレハ乃チ可ナリ。

七上九 他各國ニ於テ用ユル所ノ任官規制ハ獨乙ノ如ク確實ナラス。又整備セズ。故ニ立憲君主國及ヒ民主國共ニ動モスレハ朋黨相引クノ風盛ナルカ故ニ大臣或ハ權臣少黨與首長等ト治體ニ於テ志ヲ同ウスル者若クハ其寵遇ヲ受クル者ハ未ダ曾テ學業ヲ研究セズ。未ダ曾テ實際ニ練磨セストイヘハ頻ニ能ク任用セラレ。又既ニ學業ヲ研究シ復能ク實際ニ練磨シテ頗任ニ堪ニヘキ者ト雖モ大臣若

者ニアテス、唯公事ヲ奉行セシムル爲ニ、與フル者ナリ、是故ニ官吏タル者、其職掌ノ權利、及ヒ事務ノ規律ヲ以テ、永ク其身ニ附著セル者ト爲ヌテ得ス、抑、此權利規律ハ、或ハ憲法ノ議定ニ出テ、或ハ上官ノ示命ニ出ル者ナリ、是故ニ憲法ヲ以テ、此權利規律ヲ改革スルハ、官吏タル者、命令之ヲ欲セズト雖モ、敢テ之ヲ拒ムノ權ナク、且、從來職官ニ附屬セサル職務ノ、又新ニ増加スルコトアリ、亦敢テ之ヲ拒ムノ權ナシ、蓋シ職官ハ、眞ニ全ク國家ニ從屬スル者ナリ、故ニ官吏ノ權利義務モ、亦固ヨリ國家ニ從屬スル者ナリ、

(第二)官吏ハ、其職官ニ相應セル稱號(ナール)及ヒ高官ノ榮譽ヲ示ス尊稱ナク、例ヘハ、大臣、參議、卿、輔、及殿下、閣下等ノ如シ)及ヒ品階(ラング)及ヒ高卑諸目相應ノ品階アリ)ヲ得ルノ權利アリ、但此權利ハ全ク國法ニ屬スル者ニシテ、決シテ私權利ト云フ可ラス、是故ニ憲法ヲ以テ、稱號品階ヲ改革スルハ、素ヨリ當然ノコトニシテ、決シテ私法ノ區域ヲ侵セル處分ト云フ可ラス、但シ官吏其職ヲ退クル後、猶故ノ如ク、稱號品階ヲ保有シ得ルコトアリ、然ルモ、則此專退職セル者ノ私權利トナルナリ、(按)功勞アリシ官吏等ニハ退職ノ後モ、猶稱號品階ヲ與ヘ置カトアリ、

(第三)官吏タル者公務ノ爲ニ消セシ費用、及ヒ公事ノ爲メニ受ケタル損失等ノ償還ヲ得ル權利ハ、唯官吏ノ私權利ト稱スヘキノミ、而シテ俸祿アル官吏、或ハ俸祿ナキ官吏共ニ、皆此權利ヲ有ス、(第四)官吏其職務ヲ奉スルカ爲メ、其賃金(按)即俸祿ヲ云フ)ヲ求ルハ、決シテ當然ノ理ニ出ルコトラス、此職官ニ俸祿ヲ附加シ、彼職官ニ俸祿ヲ附加セサル等ノコトハ、全ク國家ノ自カラ定ムル所ナリ、而シテ官吏俸祿アル職官ニ任シテ、俸祿ヲ得ルノ權利ハ、全ク私權利ニ屬スル者ナリ、何者、俸祿ナル者ハ、政府其金(スカーツカッセ)ヲ以テ之ヲ給スレハナリ、(按)金錢給與ノコトハ、決シテ國法ニ關スル者ニアラス全ク、私法ニ屬スルヲ以テナリ、

但シ俸祿ニハ、二個ノ本質アリ、既ニ獨ニ各國ノ内、其國憲ニ於テ、明クニ品位祿(スタンデスゲハルト)及職務祿(ペーシンストゲハルト)ノ別ヲ爲セル國アリ、而シテ品位祿ナル者ハ、即チ官吏ヲシテ、

其品位ニ相應セル營生ヲ爲サシムルニ緊要ニシテ、且、官吏ノ學識鍛鍊ヲ要スルハ、此祿殊ニ缺ク可ラサル者、成ルナリ、○職務祿ナル者ハ、全ク職務ヲ奉スルニ就テ、要スル所ノ費用、及ヒレブレセシタチチノコスステン(按)政府ニ代リテ、爲ス所ノ費用ト云フ義ニシテ、殊ニ外國ニ差遣セル公使等ニ、此費用多シ)ノ爲ニ設ケル者ナリ、官吏若シ其職ヲ免サレ、其官ヲ退ケル時ニ於テ、此二祿ノ區別判然タル可シ、何者官吏其職ヲ免サレ、其官ヲ退ケル後モ、或ハ猶舊ニ依テ、品位祿ヲ得ルコトアリト雖モ、職務祿ヲ得ルノ權利ハ、免職ノ後、全ク消滅スレハナリ、是故ニ品位祿ハ、殊ニ私權利ニ屬シ職務祿ハ、職官及ヒ公務ニ密合スル者ナリ、○儘又謝金(スボルテル)又ケヒール(按)俗ニ手数料ト云ヘル如キ者ニシテ、例ヘハ、賣買、貸借等、官ノ職印ヲ得ル時等ニ於テ、私人ヨリ其事ヲ掌レル官吏ニ報ユル金ナク、ナ得ル職官アリ、此謝金ハ、即チ官吏ノ別俸トナリ、而シテ形貌ニ於テハ、必シ職務祿ノ如ク然リ、又官吏ノ生計ニ便利ナラシメンカ爲メニ、之ヲ本俸ニ合算スルコト雖モ、此理ハ亦變スルコトナシ、(按)例ヘハ本俸ハ、一年一千圓ニシテ、謝金ハ、大凡五百圓前後ナルモ、之ヲ合シテ、一千五百圓ノ俸祿ト定ムルカ如キ本俸ニ合算スト云フナリ、)○但此ノ如キ職官ノ職掌ヲ、唯公利公益ニ著眼シテ定ムルコト、全ク國家ノ權ニ在ルカ故ニ、又憲法ヲ以テ、右謝金ノ額ヲ定立シ、或ハ改革スル等ノコトアルハ、固ヨリ當然ナリ、而シテ若シ謝金大ニ減少スルコト方リテ、憲法ヲ以テ俸祿ノ額ヲ適宜ニ増加スルハ、唯其事ノ良好處分ナラシメテナリ、故ニ命令ニ國家此事ヲ爲サ、ルモ、本人私法ノ規律ヲ以テ、政府ニ迫リテ、其損失ニ就キ、十分ノ償金ヲ取り得ルノ理、決シテ有ル可ラス、

(第五)俸祿ハ、素シ私法ノ理ニ屬スル者ナルカ故ニ、官吏若シ過失ナクシテ、俄ニ其職ヲ罷ラルハ、ハ、則猶舊ニ奉仕年限ノ間ハ、必シ安息祿(ルーヘゲハルト)及ヒ救助祿(ベシオン)ヲ得ルノ權利アリ、而シテ彼品位祿ナル者、即チ安息祿トナル、固ヨリ當然ナリ、去レテ預シ品位祿ハ、職務祿ノ區別ヲ立ルコトナケレハ、則直ニ俸祿ヲ以テ、安息祿トナス可シ、但シ俸祿全額ノ内ニ於テ、實ニ職務ノ施行ニ就テ、緊要ナル費用及ヒレブレセンタチチノコスステン(前ニ出ツ)ニ充ツヘキ部分ハ、必シ其中ヨリ減除ス可シ、預シ憲法ヲ

以テ、安息祿ノ額數、及ヒ其規律ヲ評定スルヲ良好ト爲ス、何者、官吏俄ニ其職ヲ罷メラルレハ必ス安息祿ヲ受ルノ權利アルハ、固ヨリ疑ヘキコトニアラサレドモ、預憲法上ニ其額數ノ規律アラサレハ、官吏ノ免職毎ニ之ヲ定ムルハ、輒ニ甚難シクシテ、且此ノ如クナルハ、政府或ハ之ヲ定ムルニ、動モスレハ私情ヲ交ユルカ如キ流弊モ亦行レテ、其害タル甚少ナカラサレハナリ、○安息祿ハ、現ニ國家ノ用ヲ爲サ、ル者ニ與フル祿ナルカ故ニ、其總計甚々増加スルハ、國家遂ニ之ヲ資給スルニ堪ヘサルノ恐アリ、去レ方今ノ世、實ニ一事業トシテ、奉務スヘキ職官(按)唯榮譽ノ爲ニ、奉務スル職官ト相異ナル者ナシ、ニ俸祿ヲ附シタルハ、實ニ已ム可ラザルカ如ク、方今適宜ノ安息祿ヲ賜與スルノ制アルモ、亦猶實ニ已ム可ラザルノ理ニ出ルナリ、凡官更ノ俸祿ハ、工商諸業ノ利アルニ比スレハ、其利甚薄シクシテ、殆其家眷ヲ撫養スルヲ得ルニ過サレハ、俸祿ヲ以テ富チ致スハ、甚難キモノナリ、然ルニ官吏タル者ハ、其初預、學、習、練、磨ノ功ヲ積ミ、且既ニ其職ニ就ケル後ニ及ヒテモ、勉勵辛苦ノ勞ヲ要スルコト殆工商諸業ノ比ニアラザルコト明ナリ、故ニ國家タル者、斯國務ニ盡力セシ者ヲ願テ之ヲ以テ貧困ノ憂ナカラシムルノ義務ヲ負ハサル可ラズ、國家此ヲ爲サント欲セハ、安息祿ノ制ヲ立ルノ外、決シテ他術アラサル可シ、○國家安息祿ヲ資給スルニ堪ヘサルノ憂アルハ、即此祿制ヲ以テ可シ、且安息祿ノ制ナキハ、官吏動モスレハ、賄賂ヲ貪リ、或ハ民物ヲ剝奪スル等ノ害少ナカラズト雖モ、若此制アルハ、此ノ如キ害モ、亦隨テ生セサルノ理ナリ、

國家死亡セル官吏ノ寡婦孤兒等ヲ教育スルハ、決シテ當然ノ義務ト云フ可ラス、何者、職官ハ其久シキモ、本人ノ終生ニ止マルニ過キサレハ、俸祿モ亦決シテ子孫ニ及ブノ理アラサレハナリ、去レ政府或ハ慈悲ヲ以テ、右等ノ徒ノ救助金ヲ預備スル國アリ、但此金ハ、殊ニ官吏俸祿ノ内ニ就キ、常ニ數分ヲ減除シテ、之ヲ蓄積シ、以テ其寡婦孤兒ニ、適宜ニ資給スルナリ、

(第六)官吏ノ義務ハ、多ク其有スル所ノ權利ニ對シテ、生ズル者ナリ、且官吏タル者、其上官ニ對シテ恭順(ケホ)ルヲサトムニ守リ、國家國民ニ對シテ忠義(トイ)モ、盡シ、及ヒ官事ヲ秘匿スル(ケ)

ハイムニス)等ノコトハ總テ其身初、國家職官ニ列スルヨリ、生スル所ノ義務ナリ、故ニ此義務ヲ盡シ、官吏通常ナス所ノ職務誓約(ギ)ノストアイド)及ヒ職官誓約(アムツアイド)ニヨリ、始テ生スルニハアラス、唯此誓約ニ由テ其義務益確實トナルノ、凡誓約ナル者ハ、決シテ職官ノ義務ヲ定立スル者ニアラス、又決シテ此義務ノ區域ヲ變革スル者ニアラス、

職官ノ品性異ナルニ隨テ、恭順ノ種類亦相同シカラス、例ヘハ、政官ノ恭順ハ法官ノ恭順ト、其旨全ク相異ナリ、何者、政官ハ政府ニ從屬シテ、實ニ其指令ニ恭順スヘキ者ナレドモ、法官ハ之ニ反シテ、實事ニ於テハ、全ク獨立シテ、殆政府ニ從屬セサルノ規律ニシテ、實ニ公正ナル獄訟ニ於テ、最モ緊要ノ事ナレハナリ、(按)法官實事ニ於テハ、政府ニ從屬セサルコト詳ニ卷之六第十七款ニ見ユ)○但、從令、政官ト雖モ、奴僕ノ如ク、政府ノ命令ハ、際限ナク、偏ニ遵奉スルヲ緊要ト爲スニハアラス、必、現存ノ法制、及、道義ノ理ニ由テ、其中自ラ限制スル所アリ、然レニ官吏タル者ノ遵奉スヘキ命令ト、遵奉スヘカテサル命令アリテ詳ニ之ヲ判定スルハ、殊ニ難事ノ一ナリ、

(七)上官其職掌内ニ於テ、當然ノ法則ヲ以テ下セル命令、及、委託ハ、即形貌ニ於テ、法ニ合スル者ナルカ故ニ、屬官タル者、必、自己ノ職掌ニ應ジテ、之ヲ遵奉施行スヘキコト固ヨリ當然ナリ、去レ、上官若シ職掌外ノ事、及、唯私情ニ涉ル事ヲ依頼シ、或ハ署名セル命令書ヲ要スル時、之ヲ用ヒスシテ、依頼スルカ如キハ、之ヲ拒テ遵奉セサルコト固ヨリ當然ト云フ可シ、何者、官吏タル者ハ、決シテ上官ノ僕妾トアラズ、實ニ國家ノ官吏タレハナリ、凡、上官指令セル事ノ、能ク正理公道ニ協フト否トハ、特ニ命令ノ形貌ニ於テ、判然タルヘケレハ、先、此形貌ヲ考定スルコト最モ緊要ナリ、(按)命令ノ方法、當然ノ法則ニ協フト否ト考定スルコト云、命令ノ事理ヲ考定スルニハアラス、但、上官指令セル事實、ニ其職掌内ニ屬スルヤ否ヤ、判然明カナリ難キト雖モ、上官若シ之ヲ以テ、斷然其職掌内ニ屬スルトナセハ、屬官タル者ハ、敢テ之ヲ拒ムノ權ナシ、故ニ此ノ如キハ、方テハ、屬官タル者ハ、自己ノ所見ヲ上官ニ縷述シ、以テ上官ノ更ニ再考熟思シテ、其行フト轍ムコト決スルヲ俟ツノ權利アリ、加之、上官ノ指令ヲ奉スルニ、敬思ヲ加ヘサルハ、其底ル所、國家ノ法制紊レ、安寧ノ破ルヘキヲ察セハ必

ス自己ノ意ヲ述、上官ヲ諫メ、以テ上官ノ再思熟考スルヲ俟ツヲ以テ、自己ノ義務トナスヲ要ス。
〔乙〕官吏上官ノ命ニ恭順スルノ要ナルハ、論ヲ俟ストイヘ、上官若シ神教及道義ヲ毀壞スヘキ旨ヲ命シ、或ハ覆法ノ所業ニ與スヘキヲ命スル時ニ於テモ、猶之ニ恭順ス可キノ理ハ、決シテ有ラズ、神教及道義ヲ毀壞シ、或ハ覆法ノ所業ニ與スルカ如キハ、決シテ國家ノ事務職官ノ職掌ト爲ス可ラス、蓋シ天神ノ人ニ禁シタル事及刑法ノ國家臣民ニ禁シタル事ヲ以テ之ヲ國家官吏ニ求ルノ理ハ萬々アル可ラサレハナリ。

〔丙〕但シ上官ノ指令、唯事理ニ於テノミ、正理及憲法ニ背戻スルコトアリ、(按)形貌ニ於テハ法ニ合セサルコトナキヲ云)屬官敢テ之ヲ拒ムノ權ナシ、此ノ如キ時ニ於テハ、唯自ラ緊要ナリト思惟セテ、上官ニ述告スルノ權アルノミ、凡ソ屬官タル者ハ、常ニ上官ノ能ク正理憲法ヲ遵守シテ、敢テ之ニ背カサルヲ希フヲ要ス、故ニ上官時アリ誤リテ、輕卒ニ思考シ、遂ニ背法ノ事ヲ指令スルコトアラハ、屬官タル者ハ、公平ノ心、尊敬ノ意ヲ以テ、上官ヲ熟諫スヘシ、此ノ如クナルキハ、上官ノ意、或ハ之ニ由テ回リ、其指令ヲ改ムルコト、必ズシモ之レナシト云フ可ラス、○屬官タル者ハ、政府及上官過誤アルニ方リテハ、必ズ忠告シテ之ヲ改メシメ、以テ政府上官ヲシテ、他日ノ悔ナカラシムルヲ怠ル勿レ、而シテ政府上官遂ニ之ヲ用ヒスシテ、猶其處分ヲ改ムルコトナケレハ、屬官タル者ハ、即己ムヲ得ス、止之ニ恭順スルヲ以テ、其義務ト爲スヘキノミ、○但シ此ノ如キ時ニ於テハ、其處分ヲ保任スル者ハ、獨政府上官ノミ、屬官ハ決シテ之ニ預ルコトナシ、此ノ如キ時ニ於テ、屬官タル者政府上官ニ恭順セサルヲ許スキハ、遂ニ政府ノ一致破レ、威權ヲ共ニ濫弊スルニ至ルコト必然ニシテ、其害タルヤ、保任ノ義務ヲ負ヘル、政府上官ノ一二背法ヨリ生スル害ヨリモ、更ニ甚シカル可シ。

○儘此理ヲ國憲上ニ詳定セル國アリ例ヘハ、亞諾威爾國一千八百三十三年(天保四年)ノ國憲、第一百六十一章ニ云、「上官當然ノ規律ヲ以テ下セル指令ハ、獨、上官ノミ之ヲ保任ス可シ、屬官ハ決シテ保任セズシテ可ナリト、指令ノ國憲ニ背戻セル時ニ於テモ、屬官ノ處分ハ、復全ク上ニ論スルカ如シ、(按)前條ニハ、指令ノ

憲法ニ背戻セル者ニ就テ云、「茲ニハ國憲ニ背戻セル者ニ就テ云フ、相混スルコト勿レ」故ニ屬官タル者ハ縱令ヒ上官ノ指令スル處、國憲ノ一二規律ニ背戻スル所アリト思惟スルモ、敢テ之ヲ拒ムヲ許サス、若シ之ヲ拒ムヲ許スキハ、上下ノ序次紊亂シテ、上權遂ニ亡滅スルニ至ルノ患ヒアリ、但シ若シ別種ノ規律アリテ、常法外ノ處分ヲ許ス者ハ、此限ニアラス。

〔第七〕忠義(トロイニ)ハ、其達スル所、恭順ノ義務ヨリモ更ニ廣シ、官吏上官ヨリ指令セラレタル事ヲ、形貌及事理ニ於テ、能ク遵奉シテ、之ヲ履行スルハ、乃チ能ク恭順ヲ盡セリト云フ可シ、去レハ未ダ忠義ヲ盡セリト云フ可ラス、夫レ忠義ハ、唯指令ヲ遵奉スルノミニ止マラス、猶官吏自己ノ所業ニ就テ存スルアリ、但シ今世忠義ヲ爲ムノ意ハ、中古レヘハ、略、封建ノ制ニ類似スル者ナリ、卷之四第十九款ニ詳ナリ)ノ世ニ於テ、唯忠義ノミヲ以テ、國家制度ノ大基本ト爲セシトハ、全ク別趣ニシテ、(按)中古レヘハ、專ラ國憲、憲法等ヲ以テ、君臣間ノ規律ヲ立ルコトナシ、唯忠義ノミヲ爲ムノ風俗ナリキ)必ズ憲法ヲ以テ、官吏ノ權利ヲ確定シ、且、職官ノ事務ヲ以テ、唯君臣ノ義ヨリ生シテ、偏ニ君ノ爲ニ盡スヘキ務ト爲サス、專ラ治安ノ緊要ナル理ヨリ生シテ、偏ニ國家ノ爲ニ盡スヘキ務ト爲スハ、論ヲ俟ス、去レハ此理ニ由リ、忠義ヲ以テ、今世ノ開明ニ適セスト云ハ、甚シク可ナリ、今世ト雖ヒ、忠義ハ決シテ廢廢ス可カラズ、蓋シ百官能一致親睦シテ、同ク國家ノ爲ニ力ヲ盡スハ、專ラ忠義ノ存スルニ由テナリ。

國家大小ノ事ニ於テ、屬官ノ意見論議、縱令ヒ或ハ上官ト相異ナルコトアリ、唯是ヲ以テ、屬官既ニ忠義ヲ傷フトハ云フ可ラス、去レハ若シ屬官國家制度ノ大本ヲ信セズ、專ラ之ヲ傾倒セシコトヲ謀ルカ如キハ、既ニ國家官吏タルニ必要ナル忠義ノ務ヲ傷フト云フ可シ、例ヘハ、君主國ノ官吏ニシテ、民主政體ヲ立テシコトヲ謀リ、或ハ民主國ノ官吏ニシテ、君主政體ヲ起サンコトヲ企ルカ如キ、則是ナリ、其他官吏タル者、若シ政府ヲ傾覆セントスル所ノ逆謀ニ與スルカ如キハ、亦全ク忠義ヲ傷害スト云フ可シ、官吏タル者此ノ如キニ至リテハ、政府決シテ安全ヲ保ツ能ハサル、敢テ辨ヲ俟タズ、○又官吏タル者政府ノ嚮導者ナルミニニテ、離脱シテ、之ヲ倒サンコトヲ謀ルモ、亦忠義ヲ傷フ者ニシテ、勢此ノ旨

キニ至ルキハ、政令ノ權遂ニ全ク陵夷スルニ至ル可シ、官吏ノ所業、縱令ヒ未ダ曾テ不恭順ヲ顯サ、ル
中ト雖亦然リ、○官吏タル者、政府上官ト全ク相反スル意見ヲ抱クアリ、未ダ曾テ忠義ヲ傷フト
云フ可カラス、加之、縱令ヒ心中政府上官ヲ惡ムノ情アルモ、其奉職上ニ於テ、尙ホ忠義ヲ盡セハ、則未
曾テ忠義ヲ傷フ者ト爲ス可ラス、去レモ官吏若シ、怨惡ノ情ヲ奉職上ニ施スニ至ルキハ、遂ニ國權ノ一
致破レテ、殆ト安全ナル能ハサルニ至ル必然ナリ、但シ官吏ノ意見、政體ノ本意、或ハ政令ノ方向ト、全ク
相表裏スルカ爲メ、ニ政府上官ニ對シテ、忠義ヲ盡スノ心ヲ捨テ、遂ニ抗拒ノ情ヲ言行ニ顯ハサ、ルテ
得サルニ至ルキハ、君子ハ必シ其官ヲ辭セサル可カラス、若シ然セザレハ、官吏タルニ必要ナル忠義ノ
務ト自己ノ意見ト相戾リテ、君子ノ體面ヲ損スルコト甚ダカラス、然ルニ法官ノ如キハ、其職掌政令
ニ關セス、又政府ノ意思ニ屬セスシテ、獨立スル者ナルカ故ニ、曾テ上ニ論スルリ、如キ忠アラズ、

○ギヅウ(佛人、一千七百八十七年ニ生ル)カ著ハセル、華盛頓一生史ノ緒論中、華盛頓ノ論ヲ舉ク、

曰ク「余吾國ノ政柄ヲ掌握スル間ハ、人或ハ政府衆議ト全ク相表裏セル所見ヲ抱クヲ知リ、而シテ
之ヲ要路ニ擧ルコトハ、敢テ爲ス能ハス、若シ此ノ如キコト爲セハ、則政府自刃スルナリト」(按)

「政府自ラ好シテ倒ル、ナリト」云意)○又ベルツ(獨乙人、一千七百九十五年ニ生ル)カ著、

セルスタイン一生史中(按)スクインハ獨乙人、一千七百五十七年ニ生レ、八百三十一年ニ死ス、
普魯士ニミニスレルスクインカ、忠義ヲ存セサル官吏ノ國家ニ、大害ヲ爲ス所以ヲ歎シタル論ヲ舉ク、

曰ク「凡ソ國家官吏、過半廉恥ヲ失ヒ、忠義ヲ喪フニ至リテハ、已ムヲ得ズ、嚴酷ノ處置ヲ施シ、或ハ劇
ニ其職ヲ放チ、或ハ之ヲ幽囚シ、或ハ之ヲ放逐シ、以テ國家ヲ害シ、政府ヲ倒サント欲ス
ル暴論ノ發行スルヲ防クノ外、決シテ他ノ術計アルコトナシト」

其他官吏タル者ハ、國家元首ノ許可ヲ受クザレハ、敢テ外國ノ職官ヲ兼任セズ、又外國ノ勳爵俸祿等
ヲ受ケズ、其他總テ外國君主、若シハ其政府ノ免許等ヲ受ケサルコトモ、亦官吏ノ忠義ト云フ可シ、
[第八]官事ヲ秘匿スルコトハ、ハインストゲハイムニス、又アマツヘルスケーゲンハイト)モ、亦官吏ノ必

守ルヘキ義務ナリ、去レモ此事全ク限界ナキニハアラス、唯其發露ニ由テ、政府若シハ其事ニ關セル
私人ノ爲メニ、害ヲ生スヘキ事件ハ、必シ秘匿シテ、敢テ漏洩セサル可ク、且大義ニ於テモ、敢テ漏洩ス
ルヲ要セサル事件(按)若シ政府上官等大惡無道ノ隱謀アルニ方リテハ、縱令ヒ政府上官ニ害アリモ、
之ヲ漏洩シテ、其害ヲ防カサル可ラス、蓋シ人ノ天神ニ仕フル大義此ノ如シ、ハハ秘匿シテ漏洩セサ
ルヲ要ス、其他ハ之ヲ漏洩スルモ、決シテ妨ナシトス、然ルニ決シテ秘匿スルヲ要セサル事件ヲモ
猶秘匿シ、或ハ國憲及ヒ憲法ニ悖戾セル處分ヲ、掩蔽スルノ意ヨリ、故サレシ之ヲ秘匿スルト、及ヒ經忽
ニ官事ヲ漏洩スルトノ二事ハ、譬ハ猶相對セル巖礁ノコトシ、宜シク共ニ之ヲ避ケテ、其中路ヲ行
クヘシ、

(第九)國家ハ其法制秩序ヲ保護スルノ義務ヲ負フカ故ニ、官吏若シ其職ヲ怠リ、或ハ其規律ニ背ク
コトアルキハ、必シ之ニ刑罰ヲ加フノ權利ヲ握ル、但シ此罪ニ二種アリ、其一ハ、職官ヲ以テ犯ス所ノ大罪
(アマツヘルブローヘン)(按)例ヘハ賄賂ヲ貪リ、官金ヲ私シ、或ハ官事ヲ漏洩スル等ノ罪ナリ)ニシ
テ刑法ヲ以テ罰スル所ノ者、其二ハ、職官ノ義務ニ背ク罪(アマツヘルブレッツング)(按)尋常ノ法ニテ
ハ、罪トナラザレモ、職官上ニ於テノミ、罪トナル者ナリ)ニシテ懲戒法(デスナプリナールヘルハ
ーレン)(按)上官其屬官ヲ罪スルノ法ナリ)ヲ以テ罰スル所ノ法ナリ、而シテ申刑(按)職官ヲ以テ犯セ
ル罪)ハ、專ラ一般ノ公正廉直ヲ保護スルヲ本旨ト爲シ、乙刑(按)職官ノ義務ニ背ク罪ヲ罰スル刑)
ハ、專ラ國家ノ安寧健全ヲ保護スルヲ本旨ト爲ス、故ニ此二刑中又司法(ゲリフト)、警保(ポリツ)
イ、二權ノ別アリ(按)司法ハ、專ラ公正廉直ヲ保護スルノ權、又警保ハ、專ラ安寧健全ヲ保護スルノ
權ナルカ故ニ、若シクハ云フナリ)○甲ハ即、尋常ノ刑法ヲ用ヒ、且、通常ノ治罪法ニ由テ、之ヲ審判
スルヲ常則トス、但シ又國家ノ爲メニ謀リテ、此常則ヲ棄テ、以テ他法ヲ用フル事ニ據アリ、即、其一ハ
職官ヲ以テ犯セル大罪ヲ審判スルノ權ヲ以テ、法院當然ノ權トシ、之ニ委セズ、唯政府若シハ此事
ヲ法院ニ委任スヘキ權ヲ有スル職官ヨリ、法官ニ指令シテ、此罪ヲ審判セシムルノ法ト、又其二ハ、別
ニ官吏ノ審判ヲ爲スヘキ法官ヲ設置スルノ法ト、是リナ、

懲戒ノ治罪法ハ、其區域尋常ノ治罪法ヨリモ廣博ナリ、故ニ刑官ハ、判シテ殆ト無罪トシ、釋セシ所業ト雖モ、懲戒法ニ於テ、國家ノ要務、及其職官ノ義務ニ戻レル所業タルハ、必懲戒刑ニ處セサル可ラス。○都テ職務ニ於テ犯セル罪ハ、小罪ト雖モ、懲戒刑ヲ以テ之ヲ罰シ、且ツ職務ヲ怠ルノ罪モ又、之ヲ以テ罰ス。其他官吏ノ尋常私事ニ關セル所業ト雖モ、若シ職官ノ威ヲ汚シ、民人ノ信ヲ失フニ足ルモノナレハ、必懲戒刑ヲ以テ之ヲ罰ス。

○普魯士國一千八百四十九年(嘉永二年)ノ布告(ヘルオールドスング)第一章ニ云、「官吏タル者ハ、官事私事ニ論ナク、言行宜シク、民人ノ望ニ協ヒ、其信ヲ得ヘシ、是レ即其諸義務中ノ一ナリ」

懲戒刑ハ、分テ二類トス、即其一ハ、唯過失ヲ罰スル刑(オールドスングスストラフ)ナリ即チ懲戒(ワルヌング)誹責(ヘルワイス)及些少ノ罰金(ベシユレンクテ、ゲルドアーセ)等ノ如シ、其二ハ、暫ク職務ヲ停ムルノ刑(アインステル、ング、イン、アムテ)按其職官ヲ免サスシテ、唯暫ク職務ノミヲ停ムル處ノ刑ヲ云フ、他官ニ遷謫スルノ刑(ヘルセツング、アムテン、アウフ、アイチ、アन्दレ、ステル)本人ノ請願ニ依ラスシテ、安息ヲ命スル刑(ウンフライザルリゲ、ヘルセツング、イン、デン、ル)ハ、スグ(按)安息ヲ命スト雖モ、猶安息祿ヲ給ス、或ハ放職(エントラッスング)按(俸祿モ共ニ放ツナリ)ノ刑等ナリ而シテ第一刑ハ、通常審判ノ法ヲ用ルヲ要セス、唯上官ノ權ヲ以テ、處分スルヲ許ス、去レテ第二刑ニ於テハ、上官若シ專恣不正ノ處分ヲ爲スルハ、大ニ屬官ノ權利ヲ枉害スルノ恐れアルヲ以テ、必審判ノ法ヲ用ヒサルヲ得ス、或ハ又放職ノ刑ハ、尋常ノ法院ニテ施行シ、暫ク職務ヲ禁ズル刑、他官ニ遷謫スル刑、及安息ヲ命スル刑等ハ、總テ政府ニテ施行スルノ法ヲ立ル國アリ。○但尋常ノ法院ハ、官吏ノ罪ヲ審判スルニ於テモ、唯其平民ノ罪科ヲ審判スルノ方法ヲ用フルヲ知ルノミ、是ヲ以テ、唯其人ヲ視テ、其職官ヲ視ル能ハス、故ニ職官ニ於テ、緊要ナル事ヲ、十分ニ辨知スル能ハス、又官吏ノ言行善其ナラサルハ、大ニ國權ノ一致相同ヲ傷害スル所以ノ理ヲモ、詳細ニ洞悉スル能ハサル者ナリ、然ルニ此ノ如キ法院ニ、官吏ノ罪科ヲ審判スルノ特權ヲ與フルハ、決シテ眞法ト

云フ可ラス、況ヤ此法アルハ、二三官吏ノ幸ハ、却テ國家及諸職官ノ害トナリ、且ツ私法獨リ提テ獲テ國法ヲ倒ズノ理ナリ。○或ハ其編制宜シキヲ以テ能ク國法ノ理ヲ詳悉シ、實ニ官吏ノ罪ヲ審判スルニ堪ユル法院處ノアラハ、此ノ如キ特權ヲ委任スルモ、國家ノ爲ニ決シテ害ヲ生スルコトナカル可シ、若シ此ノ如キ法院アラザレハ、已ムヲ得サルニ方リテハ、政府必、此權ヲ握リテ、官吏ノ言行、其任ニ當ラサルモノヲ、退黜スルヲ緊要ト爲ス。

○(按)尋常ノ法院ハ、能ク私人ノ罪ヲ審判シ得ト雖モ、職官ノ罪ヲ審判スルニ至テハ、拙陋ナル者多シ、故ニ職官ニ於テ、有罪トナルヘキ所業ヲモ、私法ニ照準シ、無罪ト爲スコトナキニアラサス。若シ此ノ如シナルハ、罪ヲ免レシ官吏ハ、僥倖ヲ得レト、之ニ由テ、國家諸職官ノ規律ハ、遂ニ紊亂セサルヲ得ス、是レ即チ本文二三官吏ノ幸ハ、却テ國家及諸職官ノ害トナリ、且ツ私法獨リ提テ獲テ國法ヲ倒スト云フ所以ナリ。

○普魯士國一千八百四十九年(嘉永二年)七月十一日ノ布告ニ云、「官吏忠義ノ務ヲ、傷フ時、若シハ職掌ニ於テ緊要ナル臆量ヲ失フ時、其他政府ヲ怨惡スル黨ニ與ニスル時ニ於テハ、殊ニ之ヲ退黜スルヲ要スト」

第四款 國家職務ノ止息(エンデ、アス、スターツヤーンステス)

(第一)官吏ハ職官ノ爲ニ任用スル者ニシテ、決シテ官吏ノ爲ニ職官ヲ設ケルニアラス、故ニ職官ヲ廢止スルハ、官吏亦其職ヲ喪フハ、固ヨリ當然ナリ、總テ職官ノ廢立ヲ定メ、及其品類ナルコトハ、公衆ノ利害如何ヲ視テ、施行スル者ナリ、故ニ此事ハ、全ク國法ニ屬スル處分ト云フ可シ、然レモ官吏ノ品位祿ヲ得ルノ權利ハ、全ク私法ノ理ニ出ル者ナルカ故ニ、縱令職官ヲ廢止スルコトアリモ、此權利ヲ併セテ、共ニ廢止スルノ理ハ、決シテ有ル可ラス、元來右ノ如ク、職官廢止ノ爲ニ無官トナリシ者ハ、若シ其職官ノ廢止ナケレハ、即チ猶數年ノ間、俸祿ヲ得ヘキ者ナルカ故ニ、縱令無官トナリシ後ト雖モ、其數年間ハ、必品位祿ヲ受ルノ權利ヲ有ス。

〔第二〕官吏授任セラレタル職官ノ奉仕ヲ承諾スルト否トハ、本人ノ自由ニ任スト、一般ノ通則ナルカ如ク、職官ヲ辭謝スルコトモ亦、近今ノ國法ニ於テハ、必、本人ノ自由ニ任スト、通則ト爲スニ至レリ、但、任官ヲ承諾スルノ自由ヨリ、復、之ヲ辭謝スルノ自由ノ由テ起ルニハアラス、辭謝ノ自由ヲ生スル因故ハ、必、他ニ在ル者アリ、何者、總テ義務ヲ擔當スルト否トノ、本人ノ自由ニ在ルノ理ヲ推テ又之ヲ放棄スルモ、其自由ニ在リトスルノ理ハ、決、有ル可ラサレハナリ、他ノ因故トハ何ヤ、即、本人ノ氣力及ヒ情意ナリ、凡、國家職官ノ如キハ、特ニ官吏タル者ノ氣力ノ強弱、情意ノ向背ニ由テ利害ヲ生スルコト最モ多ク、而シテ政府總令ト官吏ノ氣力ヲ強壯ナラシメ、情意ヲシテ歸向セシメント欲スルモ、勢、決シテ能ハサルナリ、然ルニ本人氣力ノ強弱ト、情意ノ向背ト間ハス、強ヒテ職務ヲ掌ニシメント欲シ、敢テ其辭謝ヲ許サ、ルキハ、決シテ國家ノ爲ニ、少益アラサルコト必然ナリ、○但シ若、國民各、奉務スヘキ職官（按、本卷第三款〔第三〕ヲ參看ス可シ）ノ如キハ、少ナクモ預定セル期限内ハ、必、辭職ヲ許サ、ルコト爲ス、○

○普魯士ラントドント（按、國土ノ法ト云フ義ニシテ、普魯國固有ノ法ヲ云、羅馬法等ヨリ撰用セル法ニアラサルナリ）ニ云、〔官吏自ラ職ヲ辭スルニ方リテ、之ヲ許容セサルハ、唯公衆利益ノ爲ニ甚、害アル時ノミナル可シト〕○巴以里國一千八百十八年（文政元年）ノ布告ニ云、〔國家官吏ハ其職ヲ辭スルコト自由ナル可シ、但、品位、職務、稱號及ヒ職掌、標章（按、服色等ノ標章ヲ云フ）ハ、皆之ヲ失フ可シ、總テ職ヲ辭スルニ、其辭スル所以ノ理ヲ陳述スルヲ要セス〕ト、

○例ハ英國ノ法ニテハ、一年間セリツ（按、州縣ノ一官）ノ官ニ奉仕セシ者ハ、其後三年間ノ休暇ヲ得ヘキコト、本人ノ自由ニ任ス、但、官吏自ラ職官ヲ辭スルノミニテハ、猶、其職官ヲ離ル、コト能ハス、蓋、官吏タル者、恣ニ職官ヲ離ル、ノ地ハ、決、アラサレハナリ、官吏若、恣ニ職官ヲ離ル、ハ、是即、自ラ職官ヲ放棄スルナリ、凡、官吏ノ辭職ヲ請フキハ、當テ職官ヲ授任シタル、國家元首復、之ヲ罷免スルニ、其際、只十分ノ理柄生

ス、故ニ官吏タル者、實ニ此罷免ヲ得テ、始、テ其職ヲ離ル、ヲ得ルナリ、且、免官ノ時期ヲ定ルカ如キハ、公衆ノ利害ヲ視テ、施爲スルコト、全ク政府上官ノ權ニアリ、

官吏緊要ノ事故（按、疾病老衰等ノ類ヲ云）アラスシ、辭職スルカ爲ニ、其請ヲ允スルハ、乃、職官ヨリ生スル所ノ權利ハ、國家ニ屬スル者、（按、職掌ニ係レル權利ハ、論、稱號、品階等ヲ得ルノ權利ヲ云、及ヒ私法ニ屬スル者、按、俸祿ヲ得ルノ權利ヲ云）ノ別ナク、皆之ヲ失フ可シ、

〔第三〕去レ、官吏當然安息ヲ請フノ權利ヲ得タル者ハ、前條ノ理ヲ以テ論シ難シ、但、此ノ如キ官吏ト雖、安息ヲ請フキハ、眞ニ職掌ニ係レル權利ヲ失フハ、固ヨリ言ヲ俟ス、唯稱號品階等ノ如キ、榮譽ノ權利、及ヒ俸祿（按、安息祿ノミヲ云）ヲ得ルノ權利ハ、猶、必、保存スルヲ得可シ、而シテ其救助祿（按、即安息祿ナリ）ノ多少ハ、通例當テ勤仕セル、年數、及ヒ其人ノ年齢ニ隨テ、各差アリ、○高齡（獨乙ニテハ七十歳、比、時ニテハ六十五歳）ニシテ、且、既ニ數十年間（三十年、或ハ四十年）勤仕セル者、及ヒ

縱令、此年數ニ滿シタルモ、疾病等ニ由テ勤仕ニ堪ヘサル者ハ、救助祿ヲ得ルノ權利ヲ得ヘシ、且、官吏若シ、職務ノ爲ニ、疾病、痲痺等ヲ得テ、遠ニ勤仕ニ堪ヘサルニ至ルキハ、必、復救助祿ヲ得ル固ヨリ當然ナリ、何者、國家ノ職務ヲ委任セラレタル者、其職務ノ爲ニ、傷害ヲ受ルキハ、國家之、償フノ義務ヲ負フハ、固ヨリ法ノ公理ニ出レハナリ、

〔第四〕官吏ノ請求ニ依ラズ、其職ヲ罷免シ得ヘキヤ、否、且、如何ナル時ニ於テ、罷免シ得ヘキヤノコトニ就テハ、近今各國ノ議論相異ナリ、獨乙國ニ於テハ、既ニ其帝國ノ時ニ於テ、法學士ノ論ニ基キ、官吏タル者ノ私身ノ爲ニ、大ニ、其家計ヲ慮リテ、職官ハ、通例官吏ノ終生休有スヘキ權利トナシ、而テ政府敢テ恣ニ之ヲ罷免スルコトナカリキ、唯、官若シ、其職掌ニ背シキハ、必、法院ノ審理ニ由テ、免職セラレタリキ、○但、時アリ、大ニ、榮譽ヲ與ヘテ職ヲ免ルスハ、決、國家ノ理ニ戻由ラサル所以ヲ論スルノ徒モ、隨之レアリシカモ、前世期（一千七百年代ヲ云）ノ末ニ至リテハ、終身任用スルヲ以テ、善シトスルノ論、盛ニ世ニ行ハレ、遂ニ近今ノ國憲ニ於テ、終身任用ノ法ヲ立テ、國アルニ至ル、蓋、自由ノ進步シタル所以ニシテ、且、政府ノ專恣ヲ防制スルノ良法ト云フヘシ、即、獨乙ニテ此法ヲ用

由ノ進步シタル所以ニシテ、且、政府ノ專恣ヲ防制スルノ良法ト云フヘシ、即、獨乙ニテ此法ヲ用

ヒ、又近世ニ至リテハ、瑞士國ニテモ、某官ニ於テ之ヲ用フ、但、僅ニ定期間任用スルノ官殊ニ多シ、然ルニ英國ニテハ、政論別黨、ボリナールセ、バルター（按）政治ノ方法ニ就テ、議論相異ナルカ爲メ、黨與數派ニ分ル、之ヲ政論別黨ト云、ノ威權益ニシテ、職官ハ、特ニ國家ノ爲メニ授任スル者ニシテ、決シテ私人ノ願望ニ由テ、授任スル者ニアラスト云フ論チ、主張スルカ故ニ、獨乙ノ議論ニハ、全ク相反シテ、苟クモ官吏タル者ノ私身ノ爲メニ、慮ルノ論ナク、特ニ國家ノ爲メニ謀ルノミ、故ニ英國ニテハ、君主自由ニ職官ヲ授任スルノ權利ト共ニ、又之ヲ自由ニ赦免スルノ權利ヲモ併セ握リテ、決シテ此權利ヲ限制セサルノ法ヲ立ツナリ。○但、法官ハ、必、實ニ君主ニ從屬セサルヲ良法ト爲スカ故ニ、君主トイヘ、自由ニ罷免スル能ハサルノ法アリ、既ニ維廉三世（一千六百五十年ニ生レ、七百零二年ニ歿ス）ノ世ニ於テ通常法（ゲマイチス、レフト）（按）英語ニヨリモシラウト云、即慣用法ナリ）ノ法官ハ寵愛（按）國君ノ寵ヲ云、アル時間、任用スルノ舊法ヲ改メ、而シテ行狀（按）法官ノ行狀ナリ正善ナル時間、任用スルノ法ヲ立ツナリ但、行狀正善ナラサルコトアルニ至リテハ、必、國君巴力門ト商議シテ、之ヲ免黜スルコトナセリ。○北亞米利加ノ法ニ亦、英法ニ倣フ、佛國ニテハ、政官ヲ免スルハ、往古ヨリ君主ノ專ニスル法アリキ、唯法官ヲ免黜ス可ラサルコトハ、既ニ第十六世期（按）一千五百、年代チ云）ニ於テ、通則トナセリ、

獨乙ノ法ハ、官吏タル者ノ私身ノ爲メニ慮ルコト、實ニ甚シキニ過ルル弊アルハ、辨チ俟タズ、去レ、若シ此弊ヲ除去シ、而シテ更ニ國家ノ爲メニ謀ルコトヲ爲セハ、此法却テ他ノ立憲各國ノ法ニ優ルコト明カナリ、他各國ノ法ノ如キハ、君主自由ニ官吏ヲ免職スルヲ許ストイヘ、獨乙ノ法ハ、實ニ之ヲ許サ、ルノ益アルノミナラス、亦政論別黨ノ縱ニ政府ヲ籠絡シテ、遂ニ官吏進退ノ權ヲ奪フノ防クニ足ルノ益アリ、

職官ハ、國家ノ爲メニ設立スルノ理ニ由テ、國家ハ必、自己ノ安寧ノ爲メニ、官吏ヲ任用スルノ權利アルルキハ、又自己ノ安寧ノ爲メニ謀リテ、一官吏ヲ免黜シ、他ノ一官吏ヲ以テ之ニ代任スルノ權利ヲモ

併テ掌握セサル可ラス、而シテ此權利ハ、必、當テ之ヲ任用セシ者ノ掌ルヘキコト、固ヨリ當然ナリ、故ニ若シ何レノ官、此權利ヲ掌握スヘキ手ノコト、決定シ難キキ方リテハ（按）當テ任用シ掌リシ官、若シ既ニ廢絶シタルカ如キキニ於テハ、本法ノ如ク、當テ任用シ掌リシ官、復、赦免ヲ掌ル可ラサルカ故ニ、何レノ官此權利ヲ施行スヘキ手、甚、決定シカクキナリ、國家元首、此權利ヲ掌握ス可シ、○官吏ノ退黜ヲ、獨リ、法院ニ委任スル所ノ各國ニ於テモ、退黜ノコト、若シ全ク政治上ニ關係シ、少モ私法ノコトニ關係ナキキハ、必、此規律（按）任用ノ權ヲ握ルル者、復、赦免ノ權ヲモ握ルルノ規律ナリ）ヲ用フルヲ要ス、

北亞米利加ニテハ、統領當テセナートノ補助ヲ以テ、任用セシ官吏トイヘ、統領獨リ之ヲ赦免スルノ權利ヲ握ルルノ法アリ、甚、理ニ戻レリ、

但、其法（按）國家安寧ノ爲メニ謀リテ、官吏ヲ免黜スルノ法）亦必、限制スル所アリ、即、政府ニ從屬セサル法院ノ爲メニ、之ヲ限制シ、或ハ官吏ノ私身ノ爲メニ慮リテ、之ヲ限制ス、是故ニ司法ノ事チ、全ク法院ノ特權ニ任スル國ニ於テハ、甲ノ限制（按）政府ニ從屬セサル法院ノ爲メニ、限制スルナリ）チナスカ爲メニ、近世一法ヲ立テ、縱令、政府ノ權ト雖モ、法官チ本人ノ意ニ戻リテ、免職スルヲ得ス、又他官ニ遷任スルヲ得ス、若シ安息ヲ命スルモ、必、全職ヲ給セサルヲ得サルコトナシ、而シテ英國ニテハ、實ニ已ムヲ得サルニ方リテハ、巴力門ノ議ヲ以テ、法官チ罷免スルノ規律ヲ立テ、又獨乙ニテハ、法院ノ審判ヲ以テ、之ヲ罷免スルノ規律ヲ立テ、

乙ノ限制（按）官吏ノ私身ノ爲メニ慮リテ、限制スルチ云ナリ）チ爲スニハ、大概左ノ數件ノ外、免黜ノ事チ行フ可カラスト爲ス可シ、

甲 官吏犯罪アルカ爲メニ、官吏タルノ品行ヲ損スルコト、灼然タルキハ、之ヲ罷免ス可シ、

乙 官吏任用ノ後、縱令、罪犯ノコトアラスト雖モ、其、職掌ニ勉勵セズ、或ハ膽量アラスシテ、其品行官吏タルニ堪ヘサルコト明カナルキハ、之ヲ罷免ス可シ、

丙 官吏精神昏迷シテ、職官ノ事務ヲ失忘シ、實ニ國家ノ爲メニ、緊要ノ務、チ爲スニ堪ヘサルキハ、之ヲ罷免ス可シ、即、例ニハ、癡狂放心等チ患フル者はナリ、

丁 官吏縱令其身ニ一ノ間然スヘキヲナシト雖モ、自ラ他ノ事故ニ由テ、實ニ其職ニ居ル能ハサルニ至ル時、若クハ大イニ人望ヲ失スルニ至ルモ、遂ニ其職ヲ罷免ス可シ、即チ官吏ノ事ヨリシテ、雄強ナル外國政府ト、葛藤相生シ、解ス可ラサルニ至ルモ、縱令其官吏、常ニ能ク職務ヲ盡シテ、曾テ之ニ背キシヲナシト云フモ、遂ニ其職掌ヲ奉スル能ハサルニ至ルカ故ニ、已チ得ス、其職務ヲ停メサル可ラス(余カ見テ以テスレハ、普魯士王佛帝那破倫第一世ノ強威ニ敵シ難キカ爲、ニ、遂ニミニステルス、タインチ罷メシカ如キ是レナリ。)(又官吏公衆ノ惡ミチ受ケテ、之ニ由テ遂ニ騷亂ノ起ラントスルモ、縱令其官吏亦能ク常ニ職務ヲ盡シテ、曾テ之ニ背キシヲナシト云フモ、既ニ大イニ人望ヲ失フチ以テ、之ヲ罷メサル可ラス。

○(按)スタインハ普國柱石ノ臣ト稱セラレシ賢相ナリシカ、當時佛帝那破倫第一世カ、擅ニ獨乙チ謀ルチ惡ミ、之ヲ抗拒スルノ策ヲ企テシカ故ニ、那破倫ノ威ヲ以テ、普國ニ迫テ、之ヲ退黜セシメタリ、

右數件ノ如キヲアルニ方リテハ、國家必ス其官吏ヲ罷免シ、以テ公衆ノ爲メニ妨害ヲ避ケサル可ラス、但シ第一件、即チ甲行ニ論セルカ如キヲアルニ方リテハ、法院、刑法ノ通則ニ隨テ、官吏ノ罪ヲ審判スルヲ當然ナルヲ以テ、政府ハ敢テ之ニ關セス、獨リ法院此事ヲ掌リ、其權ヲ以テ官吏ヲ退黜ス可シ、然ルモハ稱號品階、俸祿、及救助祿ヲ得ルノ權利等ヲモ、亦共ニ剝奪スルヲ當然ナリ。

第二件、即チ乙行ニ論セルカ如キハ、官吏實ニ罪犯ノヲアルカ爲メニ、之ヲ黜クルニアラサルヲ以テ、決シテ尋常ノ法院ヲシテ、審判セシム可ラス、必ス懲戒法ニ由テ、之ヲ罷メ可シ、但シ本人チシテ、自己ヲ防護スルニ、自由ヲシムルヲ意ヲ用フルヲ肝要ナリ、(按)冤罪アルチ恐ル、カ故ニ、本人チシテ、其情實ヲ陳セシムルヲ、自由ヲシムルヲ肝要ナリ。)(○罪過(按)實ニ罪犯ト稱スルニ足ラサルモノナ云)ノ大小ニ隨テ、或ハ相應ノ安息祿ヲ與ヘテ、安息ヲ命シ、或ハ官吏ノ私身ノ體面、及ヒ其稱號、品階等ヲ妨害セスシテ、唯其職ヲ免スル(但シ俸祿ヲ得ルノ權ハ、全ク廢除ス可シ)等ノ差等アルヘシ、

然ルニ上段ノ赦免(按)安息祿ヲ與ヘテ、安息ヲ命スルノ一段チ云)ハ、唯職官ヲ免スルノミニシテ、未ダ官吏ノ其職ニ在リテ、受ケタル私權利(按)安息祿ヲ得ルノ權利)チ、損害スルニ至ラサルヲ以テ、下段ノ赦免(按)官吏私身ノ體面、及ヒ其稱號、品階等ヲ損害セスト雖モ、職官ト共ニ、全祿ヲ廢除スルノ一段チ云)ニ於ケルヨリモ、更ニ自由ニ處分スルノ權利、尙政府ニ在ルヘキヲ、論チ俟タス。

第三件、即チ丙行ニ論セルカ如キヲアルニ方リテハ、安息(按)安息祿ヲ給ス)チ命スルヲ當然ナリ、故ニ通例放職(按)安息祿ヲ停ム)スルヲ許サス、何者、官吏決シテ罪アルニアラス、唯精神心思ノ常チ失フ者ナレハナリ。

第四件、即チ丁行ニ論シタルカ如キヲアルニ方リテハ、或ハ安息ヲ命シ、或ハ他官ニ遷任ス可シ、但シ其職官ノ品性ハ、必ス實ニ前官ニ同シカル可ク、(按)例ヘハ、甲省ノ卿ナレハ、乙省ノ卿ニ遷シ、或ハ乙省ノ輔ナレハ、甲省ノ輔ニ遷スノ類チ云)且、品階、俸祿、共ニ舊ニ依テ變メ可ラス、○丙丁ノ二行ニ論シタルカ如キ時ニ於テハ、政府上官、能ク事情ヲ酌量シテ、至當ノ處分ヲ爲ス、最モ緊要ナリ、而シテ現ニ免職ス可キ官吏、曾テ國家元首ノ授任ヲ受ケシ者ナラハ、必ス國家元首ノ准許、及ヒ命令ヲ俟テ、之ヲ免ス可シ。

然ルニ政府故ナク、縱ニ官吏ヲ免黜シ、剩サヘ此時ニ於テ、官吏チシテ、自己ノ利益ヲ防護スル(按)冤チ訴フル等ノ類)チ得サラシムルノ國、近今儘之レナキニ非スト雖モ、甚ダ職官ノ安靜ニ害アリ。

(第五)姑ク職掌ヲ禁スルヲ(ス、ペンシオン(按)前款第九ニ出ツ)ハ、或ハ刑罰ノ爲メニ施行シ、或ハ公衆ノ利益ノ爲メニ、唯一時ノ處分トシテ、施行ス可シ、(按)意下條ニ於テ明瞭ナリ)而シテ刑罰ノ爲メニ施行スル時ニ於テハ、或ハ法院、治罪法ヲ以テ之ヲ施シ、或ハ政府上官懲戒法ヲ以テ之ヲ施シ得可シ、然ルモ官吏、姑ク其職掌ヲ施行スルノ權利ヲ失ヒ、及ヒ通例其時間ハ、法祿ノ全額、若クハ若干部分ヲ受ル能ハサル可シ、

姑ク職掌ヲ禁スルヲ、公衆利益ノ爲メニ一時ノ處分トシテ、施行スルヲニ就テハ、憲法ヲ以テ、預メ其時ヲ定ム可シ、例ヘハ官吏罪犯ノ訴ヘアル時ノ如キ是ナリ、但此ノ如キ訴ヘアラスト雖モ、儘政府

ノ權ヲ以テ、右ノ如ク一時ノ處分ヲ爲ス可アリ、即チ安息ヲ命スルノ制度ナキ國ニ於テ、大ニ民人ノ
 怨怒ヲ受ケタル官吏ヲシテ一時之ヲ避ケシメント欲スル時ノ如キ是レナリ（按）本文論スルカ如
 キ状態アルトモ、官吏ヲシテ、仍其職掌ヲ爲サシメントスルハ、大ニ公衆ノ爲ニ害アリ、故
 ニ前文ニ姑ク職掌ヲ禁スルコトヲ、公衆利益ノ爲ニ、一時ノ處分トシテ、施行スト云フナリ）○一時ノ
 處分ヲ爲スノ意、決シテ刑罰ヲ施スカ爲、ニアラサルハ、其官吏ノ官ニ任リテ受ケタル私權利（按）
 俸祿ヲ得ルノ權利）ハ、決シテ奪フ可ラス、然レモ敢テ俸祿ノ全額ヲ與フルヲ要セス、唯其一半ノ品位
 祿ノミヲ與フ可シ、何者、官吏實ニ私事ノ爲ニ受ル者ハ、唯此祿ノミナレハナリ、○又縱令ニ罪犯審問
 ノ時間、姑ク其職掌ヲ停ムル時ト雖モ、品位祿ハ與フ可シ、但シ若シ罪過ノ爲ニ、償金、及罰金ヲ出サ
 シムルコト有ルニ於テハ、之ニ充ツルカ爲、ニ此祿ヲ本人ニ付與セスシテ、姑ク法院ニ附托ス可シ、

第五款 輔弼ノ官

（第一）ミニステルハ、國家元首ノ輔弼トナリテ、君權ノ諸方面ニ發揮スルヲ助クル者ナリ、凡ソ立憲

君主國ノ如キハ、其君主政令諸謀ノ處分ニ於テ、必ス本謀ヲ委任セルミニステルノ輔佐ヲ假ラサルヲ
 得ス、而シテミニステルハ、其處分ニ就テ、必ス保任ノ義務ヲ負ハサル可ラス、○又民主國トイヘル、一
 統領（アイン、ブレンデント）ヲ以テ政府ノ主長トナセル國（按）北亞米利加ノ如キ是レナリ、瑞士ノ如
 キハ、教員ヲ以テ、政府ノ主長ト爲ス）ニテハ、必スミニステル、即スターツセクレンテールヲ置テ、統領
 ノ輔佐ト爲ス、但シ民主國ノ統領ハ、自ラ保任ノ義務ヲ負フカ故ニミニステルノ爲、ニ其權ヲ限制セ
 ラル、一、君主ニ比スレハ、更ニ少シ、

ミニステルハ、決シテ國家元首ノ私臣ニアラス、故ニ元首ノ命令依囑ヲ、悉皆遵奉スルノ義務ヲ負
 ハサルノミナラス、必ス亦自ラ任シテ、政府ノ嚮導トナリ、以テ君主ノ命令依囑スル所、實ニ法ニ合シ
 テ、國家ニ緊要ナリヤ否ヲ考定シ、且ツ自ラ見ル所ヲ以テ、之ヲ君王ニ論述スルノ權アリ、國政ノ大體
 ニ於テ、君主ノ所見、若シミニステルト合セサルコトアルハ、是ニ由テ政府ノ能力挫折シテ、盛ニ發進
 スル能ハサルノ恐レアリ、是ヲ以テ君主ハ、必ス其欲スル所ニ隨テ自由ニミニステルヲ選任スルヲ得

ルノ法アリ故ニ他人強ヒテ薦ムル所ノ人物アルモ、君主若シ之ヲ信セザレハ、必ス之ヲ擧ルヲ要セ
 ス、且、縱令ヒ君主ノ擧ント欲スル人物ト雖モ、其人若シ君主ヲ信セザレハ、亦必ス其選舉ヲ承奉シテ
 ミニステルトナルヲ要セサルナリ、○君相相信スルハ、實ニ緊要ナリト雖モ、其間必ス兄弟朋友ノ親
 愛アルカ如クナル可シト云フニハアラス、唯政治上ニ於テ、君主ハ其ミニステルノ才幹、實ニ現今ノ
 政令ヲ執ルニ堪ユルヲ信シ又ミニステルハ、君主輔佐ヲ吾レニ任シテ、敢テ疑フ所ナキヲ信スレハ即
 足レリ、

（第二）國務ノ品類、及ニ方向ニ隨テ、之ヲ區分シテ、數部ト爲、ノ方法數種アリ、但シ事務ノ區域甚々廣博
 ナル各部ハ、必スミニステル一員、其首位ニ在、テ、之ヲ統括、ルヲ善シトス、何者、每部必ス一人其精神ノ
 全力ヲ以テ、之ニ任スル者アラサル可ラザレハナリ、○數部デバルテマン）ノ區分ハ、通例左ノ如シ
 （甲）外務省、ダス、オイセレ）總テ外國交際、及、其諸關係ノ事務ヲ掌ル、其他合邦（ブन्दススター
 テン）按）各部ノ上、別ニ大政府アリテ相統合スル者ヲ云、米國瑞士等ノ如シ、盟邦、スターテンブ
 テン）按）各國相盟合スル者ヲ云、獨乙ノ如シ、ニ於テハ、兼テ其各邦聯合ノ事ヲ掌ル、
 （乙）内務省（ダス、インテレ）總テ國內諸部（インテレ）オルガニスムス（按）州縣等ヲ云）ヲ總管シ、
 且、國內ノ諸政令ヲ掌ル、但シ別種重要ノ事務ハ、別ニ諸省（按）以下諸省ヲ云）ヲ置テ、之ヲ掌ラシム、
 （丙）兵部省（キリーグスミニステリウム）國家ノ兵備軍務ヲ掌ル、
 （丁）警保省（ポリツァイミニステリウム）國家ノ警保權ヲ掌ル、但シ或ハ之ヲ司法省ニ合シ、或ハ内
 務省ノ屬司トナセル國アリ、

（戊）司法省（ユフツツミニステリウム）國家元首ノ預ル所ノ司法事務ヲ掌ル、（按）法院ト混ス可ラ
 ス、尙卷之六第十七款ヲ參看ス可シ）
 （己）財務省（ヒナンツミニステリウム）財務ノ權ヲ施行シ、財用ノ供給ヲ掌ル、

一庚) 教部省(シルツースミス)ニステリウム) 神教、及ヒ諸學術ノ教育ニ關係セル事務ヲ掌ル、
 (辛) 土木ノ公役、及工商ノ事務ヲ掌ル所ノ省(ミニステリウム、ヒュール、エッヘントリ)ハ、アルバイテ
 ン、ハンデル、ウノド、ゲエルベ) 在昔ハ、此事務ヲ、内務省、若シハ財務省ニ合併セシカモ、今時開化ノ世
 ニ於テハ、是等ノ事業ヲ盛大ニスルコト、甚タ切要ナルヲ以テ、多クハ別ニ一省ヲ置テ、之ヲ掌ラシム、
 民主國ニ於テハ、或ハ合議官(コルレギー、又ラート)ヲ置テ、右ノ諸事務ヲ掌ラシム、蓋シ民人政體
 (デモクラチー)ヲ貴ヘル國ニ於テハ、總テ一人全權ヲ握リテ、事務ヲ統括スルヲ嫌忌スルコト、甚
 キカ爲ナリ、(按)瑞士國ノ如キハ、合議官ヲ置ク、米國ハ然ラス、
 (第三) 國家元首、右諸省ミニステルノ上ニ在リテ、之ヲ統括ス、果故ニ君主ハ必ス、各ミニステルト親
 シク接遇スルヲ要ス、但シ國政ノ大體ニ於テミニステル各員ノ所見、互ヒニ合同一致スルコトモ、亦甚
 緊要ナリ、蓋シ各省ノ事務、互ニ關涉スル所アリテ、甲省ミニステルノ處分乙省ミニステルノ處分ニ利
 害ヲ生スルカ如キコト、必スシモ無キ能ハス、是ヲ以テミニステル總員ヲ合シテ、ミニステル合院ゲサ
 ムトミニステリウム(按)即スターツミニステリウムナリ)ヲ設ケ、以テ共ニ要務ヲ商議セシムル
 ノ制度アルナリ、然ルニ此制アラサルハ、ミニステル各員、各自ニ君主ト議シテ、事ヲ決定スルノミ
 ニシテ、決シテ、相共ニ商議スルコトナキカ故ニ政令ノ爲ニ害アリ、○ミニステル合院ノ内、相合同一致
 スルハ、其勢力益強ナルカ故ニ、君主及ヒ兩院、并ニ國民ノ爲ニ、壓制セラル、カ如キ、恐レアルコトナ
 シ、去レテ若シミニステル相合同一致スルコト、甚シキニ過キテ、遂ニ君主ノ威權ヲ蔑如シ、其統御ヲ仰
 サルニ至ルカ如キハ、甚メ不可ナリ、是故ニ君主タル者ハ、ミニステル各員ニ召シテ、政ヲ議シ事ヲ定
 ムルモ、決シテ妨ケナク、且ミニステル總員ノ中、一人ヲ汰シテ、之ヲ退黜スルモ、亦決シテ妨ケナシ
 トス、
 ミニステルブレシデント(按)ミニステルノ首領ト云フ義ニシテ、本邦太政大臣ノ如シ、但シ又兼テ一省

卿ノ職ヲ帶フ、二人アリテ、ミニステル合院ノ首坐ヲ占ム、英國ニ於テハミニステルノ中ニ於テ
 必、門閥品階ノ最モ貴者ヲ撰テ、之ヲミニステルブレシデントト爲スヲ善シトス、是レ全ク形ヲ取リ、
 實ヲ捨ツル者ナレド、蓋シ英國ノ能ク實際ニ老練シテ發明スル所以ナリ、然ルニ他各國ニ於テハ、多
 シハ實ニ政柄ノ大綱ヲ執レル者ヲ以テ、ミニステルブレシデントト爲スコト常ナリ、○第一法(按)英國ニ
 テ用フル法ナリ)ヲ用フルハ、二個ノ利益アリ、何者、第一、君主猜忌ノ情ヲ生スルコト少ク、第二ニハ
 實ニ政柄ヲ執レルミニステルヲ離視セル徒ノ射ル箭、直ニ此ミニステルニ中ルコト少クシテ、且其
 實權決シテ痿痺スルノ患ナクナリ、然リト雖モ、第二法(按)實ニ政柄ヲ握レルミニステル
 ナ、ミニステルブレシデントトナスノ法ナリ)ヲ用フルハ、ミニステル合院能ク和同シテ、其勢力盛
 強トナリ、且、院中ノ序次、自ラ宜シキヲ得ルノ益アリ、

(按)實ニ政令ノ大綱ヲ執レルミニステルヲ以テ、ミニステルブレシデントトナスハ、其威
 權愈々盛ナルカ故ニ、自ラ君主猜忌ノ情ヲ發セサル能ハス、且、此ミニステルヲ離視セル徒ノ、之
 ナ傾倒センヲ謀ルモ、亦愈々熾ナリト雖モ、門閥品階貴キ者ヲ、ミニステルブレシデントト爲ス
 キハ、權威甚々盛ナラサルカ故ニ、君主ノ之ヲ猜忌スルモ自薄ク、且此時ニ於テハ、實ニ政柄ヲ執
 レルミニステルハ、譬ヘハ此門閥品階貴キミニステルヲ干盾トシテ、自ラ其後面ニ潛伏スルカ
 如キ景狀ナルカ故ニ、之ヲ監視セル徒ノ傾倒ヲ謀ル勢力モ、自ラ殺弱スルナリ、
 (第四)ミニステルハ、政令ノ處分ニ就テ、君主ニ自己ノ所見ヲ述告シテ、其裁定ヲ乞ヒ、及ヒ君主出ス
 所ノ施令ノ文書ニ、共ニ連署スル者ナリ、又君主ハ、ミニステルノ論述スル所ヲ聞テ、其可否得失ヲ
 自由ニ思量シ、且、若シ議政官、スターツテート(按)本卷第六款ニ詳カナリ)ノ議ヲ聽カント欲セハ、
 則チ召シテ之ニ謀リ、而シテ自己ノ所見ヲ以テ、或ハ之ヲ採用シ或ハ之ヲ採用セサルノ權ヲ有ス、君主
 縱令ヒ一二ノ政令ニ於テ、ミニステルノ議ヲ採用セサルコトアリモ、之ニ由テ、ミニステル其職ヲ退ク

ヲ要スルノ理、決メアルナシ、蓋シ君主僅ニ一ノ議ヲ採用セサルハ、未タミニステルヲ厭惡スルニア
ラサレハ也。去レモ若シ此ノ如キ時ニ於テ、君相ノ際、其見ル所全ク相表裏シ、國政ノ大體ニ於テ、遂ニ後來
其議論ノ和同セサル可キ勢、預シメ洞察ス可キニ至リテハ、已ムヲ得ス、其ミニステルヲ罷免スルノ
外、決シテ他術アルコトナシ、而シテ其處分ニ至テハ、或ハ君主之ヲ罷免シ、或ハミニステル自ラ解職ヲ求
ム可シ、兩様共ニ必、自由ナルヲ要ス、

君主ハ必、ミニステルノ建議ヲ俟ツテ要スルノ理ハ、決シテ之レアラス、又預メ自己ノ意見ヲ示シテ、
ミニステルヲシテ、靜ニ之ヲ熟思シ、其施行ノ方法ヲ設定シテ、以テ上聞セシメ、而シテ其可否得失ヲ
裁定スルノ權アリ、但シミニステルハ、必、自己ノ所見ヲ君主ニ建白シ、又君主ノ處分、或ハ不正不當ノ
コトアレハ、之ヲ諫諍シ、君主若シ之ヲ聽カサルキハ、已ムヲ得ス、連署ヲ辭シ、其事ヲ輔佐セサルヲ以テ、
自己ノ義務ト爲ス可シ、

日常小事ノ如キハ、政令ノ要務ナラサルヲ以テ、君主專ラ之ヲミニステルニ委託シ、通例之ニ關セ
サルヲ善トス、但シミニステル事ヲ施行スル、或ハ粗漏ニ涉リ、又ハ專恣ノ處分ヲ爲ス等ノ恐レアラ
ハ、小事ト雖モ、君主必、親カラ之ヲ聞知セサル可ラス、○政令諸務ノ方法ヲ一致セシメテ、互ヒニ膠離
セサラシメ、及ヒ公衆安寧ノ術ヲ營ム等ノ如キ、大政務ニ至リテハ、君主必、怠慢ナク、丁寧綿密ニ注
意シ、而シテ其力ノ及フ限りハ、必、自ラ主トナリテ、之ニ從事スルヲ要ス、但シミニステルノ輔佐ヲ假
ルハ、固ヨリ當然ナリ、總テ君相ノ際、互ヒニ其處分ニ就テ、隱秘スルハ、甚々不可ナリ、

〔第五〕君主實ニ施行セント欲スル政令ノ文書ニハ、必、其事ニ參與セルミニステル、君主ト共ニ連署
スルヲ要ス、若シ此連署ナキ文書ハ、未、眞實ノ政令タルヘキ形貌ヲ得サル者トス、ミニステル斯連署
ヲ、爲スキハ、之ニ由テ、其處分ヲ保任スルノ義務ヲ負フ可シ、故ニ若シ其處分ノ不正不當ナルカ爲メ
ニ、他日罪ヲ受ルコトアルニ方リテ、當テ特ニ君命ニ由テ、處分セシ由ヲ辨スル能ハ、決シテ其ヲ免カ
ル、能ハサルコト當然ナリ、總テミニステルタル者ハ、敢テ君主ノ非ヲ舉ゲテ、自ラ其罪ヲ道ル可ラス、政
令處分ノ惡キハ、全ク自己ノ罪ナリト爲シ、又其處分ノ仁善ニシテ、公衆ノ之ヲ感戴スルニ至ルハ、全ク
君主ノ功ナリト爲スヲ要ス、

ミニステル保任ノ形狀ニ數種アリ、
〔甲〕公論〔エ〕ヘントリヘ、マイヌング〔按〕天下ノ公論ヲ云フ、ニ對シテ、保任ス可シ、凡ソ出版ノ自
由ヲ許セル國ニ於テハ、天下千萬ノ眼目、悉クミニステルノ舉動ヲ注視ス、〔按〕出版自由ノ國ニテ
ハ、新聞ヲ以テ、善惡ニ就キ、ミニステルノ舉動ヲ公告スルカ故ニ、天下悉ク之ヲ知テ、論スルヲ得ルナ
リ、故ニ其一舉一動、直ニ天下ノ評論ニ掛ラサル者ナシ、殊ニミニステルヲ監視スル黨與ノ論ニ至
テハ、最モ其感ヲ極ム、方今各國共ニ、君主其處分ヲ保任セサルノ規律アリト雖モ、此規律決シテミニ
ステルノ罪ヲ掩フ能ハス、且、縱令ヒ君主言ヲ設ケテ、ミニステルノ非ヲ庇護セント欲シ、某處分ハ決
シテ獨、ミニステル自己ノ意ニ出ルニアラス、他特ニ吾意ヲ體シ、吾命ヲ奉シテ、行フ所ナリト説
クト云フ、亦決シテミニステルヲ救フニ足ラサルナリ、

〔乙〕兩院ニ對シテ保任ス可シ、兩院ハ、公衆ニ代リ、其公平ノ意ヲ遞傳シテ、君主ニ告訴スルノ權利
アリ、且、專ラ其事ヲ處分セシミニステルニ、處分ノ嫌疑スヘキ所以テ、告述スルノ權利アリ、
ミニステル若シ兩院多數〔メ〕ールハイト、デル、カムメルン〕ノ望ヲ失フキハ、國家ノ爲メニ甚々重害
タリ、何者、形勢此ノ如クナルニ至ルキハ、兩院ミニステルノ處分ニ就キ、其方法ヲ准許スルヲ欲セザ
ルカ故ニ、縱令、其方法中、公衆ノ爲メニ仁善ナルコトアルモ、或ハ阻害セラレテ、遂ニ行フ能ハサルニ至
レハナリ、是故ニミニステル大、ニ兩院ノ嫉惡ヲ受ケテ、遂ニ銷ス可カラサルニ至リテハ、已ムヲ得
ス、其職ヲ罷免スルノ外、他術アルナシ、去レモ此事決シテ、國法ノ規律タルニハアラス、既ニ各國ニ於
テ、唯兩院少數〔イン〕デルハイト、デル、カムメルン〕ノ左祖ヲ得タルミニステル、多數ノ嫉惡ヲモ顧

ミス猶多年ノ間、自若トシテ其職ニ止マリシ例少カラス。○英國ニテハ往昔ヨリ巴力門政令（バル
ラメソツレギールンク）按英國ニテハ、巴力門ノ威權益ニシテ、專ラ政令ノ實權ヲ握ルルノ法行ハ
レテ、巴力門ノ威權益強ナルヲ實ニ驚クニ堪タリ、蓋シ若シ他ノ立憲各國ニ於テ、巴力門ノ威權此ノ
如ク盛強ニ過ルキハ、殆ト治安ニ害アルヤ、必然ナリト雖モ、英國ニテハ、此法却テ治安ニ益アリ、故ニ
ミニスレル若シ巴力門ノ爲ニ一敗ヲ取ルコトアルハ、動モスレハ、其職ヲ辭スルニ至ルコト、從來ノ風習
トナレリ、然ルニ此國ニ於テスラ、古來二三ノミニスレルハ、大ニ下院ノ嫉惡ヲ受ケテ、尙且數年間
能ク政柄ヲ握リタリキ、例ヘハ賢相ビット（一千七百五十年ニ生レ、其八百零六年ニ死ス、）ノ如キ則
是ナリ。○蓋シ若シ大地各國ニテ、ミニスレル一敗ヲ取ル毎ニ、輒チ其職ヲ辭スルノ風習アルキハ、
國家ノ爲メニ甚ダ不利ナル可ト雖モ、英國ニテハ、却テ不利ナラサルハ、何ヤ、英國ニテハ、君主及ヒ兩
院ノ信ヲ兼テ得タル人傑少カラス、且此國ニテハ、國家ノ礎石トナリテ、強盛ノ威權ヲ備フル者
ハ、貴族、富人、及ヒ識者ニシテ、貴族ハ、父祖ノ品行ヲ墜サンチ恐レ、富人ハ、自己ノ利ヲ失ハント恐
レ、識者ハ、其道ニ背カンコト恐ル、カ爲メニ、輕舉妄動ヲナシテ、敢テ政府ニ抗拒セント欲スルノ意
アラサレハナリ、然ルニ大地ノ羅馬人種各國、及ヒ日耳曼人種各國（按前冊ニ註ス、）ノ如キハ、未ダ
英國ノ如ク、眞ノ靜寧ヲ得ル能ハスシテ、殊ニ平民（按殊ニ貧賤無識ノ徒ヲ云、）ノ權甚ダ強大ニ過
ルチ以テ、縱令ヒミニスレル一旦兩院多數ノ嫉惡ヲ受ルコトアリ、敢テ之ヲ顧ミズ、自若トシテ其職
ニ止マルチ緊要トス、但シミニスレル若シ終始多數ノ嫉惡ヲ受ルニ至リテハ、勢復々其職ニ居ル能ハサ
ルハ論チ俟タス。

○當時下院君主ニ抗疏シテ、左ノ旨ヲ述タリ曰ク、「政府若シホルク（卷之六上ニ出ツ）ノ代者タル
臣等ノ信セサル政令ヲ執テ、敢テ改メサルキハ、必ス國家ノ安寧ヲ害ス可シト、（按蓋シビットチ
惡テ、此ノ如ク云フナリ）然ルニビット其後遂ニ天下ノ信ヲ得タリ、故ニ下院改選ノ後ニ及ヒテハ、

其多數悉クビットニ左袒スルニ至レリ、（按）方今普國ノ賢相卑思麥ノ如キモ、其初メ甚ダ人望ヲ得
サリシカ、方今ハ殆ト全國ノ人望ヲ得ルニ至レリト云フ。

是故ニ通例ノ景狀ヲ以テ論スレハ、ミニスレルトナリテ、國務ヲ掌ルヘキ者ハ、必ス君主及ヒ兩院ノ信
チ得ル者ナル可シ、

（内）國事ノ告訴（スターツカラーグ）アルニ方リテハ、國事法院（スターツゲリフト）ニ對シテ、保
任ス可シ、國事ノ告訴ヲ爲スノ法ハ、各國ニ於テ相殊ナリ、或ハ各院各自ニ之ヲ爲シ得ルノ國アリ
或ハ獨リ百姓院（ホルクソスガムメル）（按即下院ナリ）之ヲ爲シ得ルノ國アリ、或ハ兩院合シテ、始メテ
之ヲ爲シ得ルノ國アリ、唯兩院合シテ、始メテ告訴ヲ爲シ得ルノ國ニ於テハ、告訴ノ事甚ダ限制セラル
、ナリ、（按）蓋シ兩院ノ論一致セザレハ、告訴ヲ爲シ得ルハナリ、○又此ノ如キ告訴ノ審判ヲ掌ル
ヘキ官ニ至リテモ、各國復々相同シカラス、或ハ上院之ヲ掌リ、或ハ別種ノ國事法院之ヲ掌ル、（卷ノ五
第十一第十二ノ兩款ヲ參看ス可シ）

（第六）ミニスレルノ政令ニ關セル保任（ボリチャーセ、ヘルアントナルトリフカイト）ハ、其法律ニ關
セル保任（ユリスチセ、ヘルアントナルトリフカイト）トハ、相異ナリ、政令ニ關セル保任ノ制、全備
セル國ニ於テハ、ミニスレル唯見ル所チ愆リ、不當ノ政令ヲ爲セシ時ト雖モ、亦得テ之ヲ告訴スルチ
許スカ故ニ、ミニスレル必ス其處分ノ保任ヲ辨解セサル可ラス、之ヲ政令ニ關セル保任ノ辨解ト云フ、
但シミニスレル若シ現存ノ法制（國憲及ヒ憲法）ヲ毀損シ、及ヒ罪科ヲ犯セシ時ニアラサレハ、決シテ
法律ニ關セル保任ノ辨解ヲ爲スチ要セス、○是故ニ、政令ニ關セル保任ノ辨解ハ、縱令ヒミニスレル
背法ノ罪科ナシト雖モ、其裡治不當ニシテ、國家ノ安寧ヲ營ムニ足ラサル時ニ於テ爲ス可シ、又法律
ニ關セル保任ノ辨解ハ、唯法ニ戻レルコトヲ爲セシ時ニ於テノミ爲ス可シ、
瑞典國ニテハ、ミニスレル若シ右ニ様ノ保任ニ背ケルキハ、別ニ其告訴ヲ掌ルノ官アリ、乃チミニ
ステルノ政令不當ナル時及ヒ現存ノ法制ニ背ケル時ニ於テハ、共ニステンデ（按即代國府ナリ）ノ

一部局之ヲ告訴スルヲ得、(按)瑞典國ニテハ、代國府中ニ、數部局ヲ置キ、諸事ヲ分掌セシム、其中國憲ヲ保護スルヲ掌ル一局アリ、此局即ミニステルノ罪過ヲ告訴スルヲ掌ルナリ、但、政令不當ナルキハ、之ヲステンデ(按)代國府ノ全部ヲ云フ)ニ告訴シ、若、國憲及ヒ憲法ニ背戾セルコトアルキハ、スターツアーソワット、(按)罪犯者ヲ追捕シ、及ヒ罪犯者ヲ告訴スルヲ掌ル官ナリ、卷之八第四款ニ詳ナリ)ノ紹介ヲ以テ、之ヲオーベルステル、ゲリフツホフ(按)最高法院)ニ告訴スルヲ得ルナリ、○ステンデ其一部局ヨリ告訴セシ旨意ヲ思量シテ、若、理アリトスルキハ、其事ヲ君主ニ開シ、告訴セラレタルラート、(按)議政ノ官)若クハスターツセクレンテール(按)ニステルナリ)ヲ罪セシメテ請フノ權アリ、凡ソラートタル者ハ、能ク其任ニ堪ヘキ材能ヲ具ヘ、且、能ク實際ニ練磨シ兼テ公正廉ニシテ、能ク天下ノ人望ヲ得ルヲ要スルコト、國家ノ憲法ナリ、故ニ若シ其政令不當ナルカ爲メニ告訴セラル、キハ、既ニ天下ノ人望ヲ失フコト明瞭ナルヲ以テ、仍長ク其職ニ在ル能ハサルコト、固ヨリ明カナリ、○但シ國事法院(スターツゲリフト)ハ、法律ノ規律ヲ以テ、其犯人ノ罪科ヲ審判シ、而シテ之ニ法律上定ムル所ノ刑ヲ加フ、

英國ニテハ、右論スルカ如ク、政令ニ關セル保任ト、法律ニ關セル保任トノ別ヲ立ルコトナシ、故チ以テニステルノ事ニ就テ、告訴スヘキコトアルキハ、總テ其事ノ、或ハ專ラ政令ニ關シ、或ハ專ラ法律ニ關シ、ニ論ナク、下院之ヲ告訴シテ、上院之ヲ審判ス、且、此國ニテハ、ニステルノ施行セシ所業中ニ就テ、必、告訴スヘキ所業ト、告訴ス可ラサル所業ノ區別ヲ立テ、及ヒ刑罰ヲ加フヘキ所業ト、刑罰ヲ加フヘカラサル所業トノ區別ヲ判ツテ、或ハ保任法(ヘルアノトナルトリフカイツケセツ)ニ保任ノ規律ヲ定ムル法ナリ、及ヒ處刑法(ストラフゲセツ)ニステルヲ刑スル法ナリ)ヲ設ル等ノコトヲ以テ、甚、緊要ト爲サス、唯時ニ臨テ、國家ノ爲メニ至當ノ處置ヲ施スヲ以テ、緊要ト爲ス、○此國往昔ハ、甚、慘酷ノ處置多カリシカ、爾後實際ニ練磨スルニ隨テ、漸ク變シテ寬仁ノ處置ヲ爲スコト

ナレリ、又北亞米利加ニ於テハ、政令ニ關セル事、及ヒ法律ニ關セル事共ニ、都テセナート(按)上院ナリ)其告訴ヲ受ケテ、之ヲ判定スト雖、其權小限制スル所アリテ、唯縱カニ放職、(ニントセツツング)ノ及ヒ不應實、アムツウエンヘーヒグカイト、(按)職官ニ應セストシテ、罷免スル義務、猶再考スヘシ)ノ罰ヲ加フルノ事、若シ刑法ヲ以テ刑罰ヲ加フルコト、當然ナル可シト思フキハ、其審判ヲ尋常ノゲスナルチンゲリフト(按)ゲスナルチンゲリフト)法院ノ義ゲスナルチンゲリフトハ、卷之八ニ詳カナリ、ニ委スル法ナリ、余カ所見ヲ以テスレハ、此法蓋シ英國ノ法ノ全備セル者ナラン、

○英國ノ法學士中、或ハ尋常刑法ノ理ニ由テ、唯罪犯アル時ニ於テノミ、保任ノ法ヲ用ヒ、其餘ハ之ヲ用ヒサルノ規律ヲ立テント欲セシ者アリシカモ、此論遂ニ行ハレサリキ、
 佛國ニテハ、ニステル唯國家ニ對セル罪犯(スターツヘルゲトヘン)ニ對セル罪犯ト相異リ)アル時ニ於テノミ、下院之ヲ上院ニ告訴スルノ法アリ、但、又政令不當ナルノ罪モ亦、國家ニ對セル罪犯ノ部ニ屬スルコトナセリ、凡ソ告訴スヘキ罪ハ、第一ニ、謀叛ノ罪(ヘルラート、佛語ニトラヒソント云)即、總テ君主及ヒ國家、并ニ國憲ヲ危ウスルヲ云、第二ニ、民財ヲ剽奪スルノ罪(エルブレッスング佛語ニコンキニシオント云)即、法ニ背イテ、稅歛ヲ厚ウシ、賄賂ヲ貪リ、官金ヲ私耻スル等ノコト、復、之ニ屬ス、第三ニ、忠義ヲ捨テ、其職掌ニ背シノ罪(ヘルウントロイウング、佛語ニフレワリカシオント云)其他總テ憲法ニ背戾スル罪、權威ヲ恣ニスル罪、并ニ總テ國家ノ公益公利ヲ損害スル罪(按)政令不當ノ罪ナリ、等並ヒ亦之ニ屬ス、

獨乙ニテハ、從來專ラ法律ニ背ケル罪ニ著眼シテ、政令ヲ害セル罪ニ、注意スルコト甚、少シ、是故ニ其審判ヲ以テ、唯國事法院ニ任シテ、嘗テ政府ニ任スルコトナシ、
 [第七]ニステルノ保任、有名無實トナラサルヲ要スルカ故ニ、各國共、近今ノ國憲ニ於テハ、君主ニステルノ罪過ノ查問ヲ停止スルノ權、及ヒ其既ニ審判セル罪ヲ赦ス等ノ權利ヲ限制シ、或ハ廢棄シ

タリキ、七（按）君主查問ヲ停止シ、或ハ罪ヲ赦ス等ノ權ハ、卷之六第十七款ニ詳ナリ）
 比耳時ノ國憲第九十一章ニ云、カッサチオンスホフ（按）上等法院、ミニステルノ罪ヲ審判スルキ
 ハ、立法府ノ一院、其赦罪ヲ請フニアラサレハ、君主敢テ之ヲ赦ス可ラスト、
 大井潤一 校

國法汎論卷之七 上終

國法汎論卷之七 下 目錄

- 第六款 議政ノ官
- 第七款 兵權○常備軍及ヒ護國軍
- 第八款 警保
- 第一款 警保ノ本性
- 第九款 第二 警保ノ區分及ヒ其專要ノ職掌

目録

瑞士

イ、カ、ブルン、ヤ、ユ、リ、著
加藤弘之 譯

第六款 議政ノ官(スターツテート)

〔第一〕方今ノ世ニ於テハ、兩院アリテ、憲法ヲ議定シ、ミニステル合院アリテ、國政ノ要務ヲ施行シ、其他ノ諸事務ニ至テハ、各省ニ於テ、其ミニステル之ヲ分掌シ得ルカ故ニ別ニ議政ノ官ヲ借シハ無用ニ屬スルノ説ヲ、唱フル者アリ、

實ニ君權無限ノ國(アプロソルテ、モナルヒー)ニ於テハ、兩院ヲ設クルコトナク、唯議政ノ官アリテ、兩院ノ職掌ヲ關攝スルカ故ニ、此國ニテ此官ヲ置クハ、立憲君主國(コンスチツチオチルレ、モナルヒー)ニ於テ、此官ヲ置クヨリモ、更ニ緊要ナルコト、論ヲ俟タズ、但シ縱令ニ兩院ヲ置ク所ノ立憲君主國ト雖モ、此官全ク無用ニ屬ストハ云々可ラス、抑ク此國ニテハ、議政ノ官、直ニ憲法ヲ制定スルノ職掌ヲ帶フルニハアラス、去レヒ兩院ニ於テ政府ヨリ示ス所ノ法案(ゲセツ)ニスホールシラザルコトヲ採用スルト否トハ、殊ニ其法案ノ得失可否ニ由ルカ故ニ、必ス議政官ヲ置テ、預此法案ヲ商議取捨セシムルコト、甚々緊要ナリ、是即議政官ノ主務タル所ナリ、○ミニステルハ、能ク政務ヲ創始シ、其方向ヲ示定シ、及其分ヲ嚮導スル者ナリ、去レヒ其職タル、素ト治安ノ劇務ヲ統理シテ、心身須臾モ、閑靜ナル暇アラサルカ故ニ、其政令ニ就キ、曾テ潛思熟慮スル能ハサル者ナリ、故ニ必ス閑散ニ居リ、潛思熟慮ヲ以テ、其本務トスル者アラサル可ラス、而シテ此職務ヲ負フ者ハ、能ク廣博ナル國務ヲ詳悉シ、且憲法、及慣用法ノ可否得失ヲ、自在ニ觀察シ、并ニ國事ノ至要ナル者ト、否ラトル者トヲ辨識スルコト、緊要ニシテ、且又比別黨與ノ論判ノ爲メニ、決シテ動カサルコト、亦甚緊要ナリ、然ルニ兩院ノ如キハ、素ト此ノ如キ職務ヲ負フニ適セサルノミナラス、固ヨリ此ノ如キ職務ヲ負フ可キ者ニアラス、又ミニステルヲシテ、此職務ヲ負ハシメント欲スルモ、前論スルカ如

〔第五〕又議政官ヲシテ、ミニステルノ處分ニ就キ、監察セシムルヲ善トナス、凡ソミニステルヲ監察シテ、其處分ノ非違ヲ責問シ、以テミニステルヲシテ之ヲ辨解セシムル權ヲ有スル高官〔按〕議政官ヲ云フアルハ、一ハ君權ヲ保護シテ、其盛大ヲ傷フコトナク、一ハ臣民ヲ保護シテ、其權利及利益ヲ全ウスルノ功アルコト、實ニ堪ヘカラスミニステルヲ監察スル高官アラサルハ、ミニステル或ハ其罪惡ヲ隱蔽シ得ヘシト雖モ、若シ此官アルハ、罪惡アリト雖モ、速ニ發露スヘキカ故ニ、國家ノ災害ヲ未萌ニ却滅スルヲ得ヘシ、且、之レヲ爲シ、自ラ後來ノ罪惡ヲ免ルルヲ得ルニ至ルヘシ、

〔第六〕歐羅巴各國ニ於テ始メテ議政官ヲ設置セシハ、其來ル甚ク尙シ、但シ其職掌及ヒ經制ノ方法等ニ至リテハ、各國亦異同アリ、○議政諸員ハ、優大ナル識見ノ相合シテ、君主ノ知囊トナル者ナリ、是故ニ或ハ此官ヲ以テ數年間國事ニ勤勞セル報酬ニ充ツル者ト爲シ、或ハ老衰セル官吏ニ與フル、虚職ト爲スカ如キハ、甚ク不可ナリ〔按〕ミニステル及ヒ其他高官ニ在リテ、數年間勤勞セシ者ヲ罷免セント欲スレハ、數年間ノ勤勞ヲ空ウスルカ故ニ、唯其勤勞ヲ謝スルカ爲メニ、之ヲ議政官ニ轉ルン議政官タル者ハ、實ニ經世ノ才識ヲ備ヘ、兼任スルコトアルカ如キハ、甚ク不可ナリト云フノ意、ルン議政官タル者ハ、實ニ經世ノ才識ヲ備ヘ、兼テ法學ニ博通シ、及ヒ深ク實際ニ練磨スルコト甚ク緊要ニシテ、此三件ヲ兼備スル者、獨リ能ク其任ニ堪ユルヲ得ルノミ、○ミニステル議政官ニ對シ、自己ノ權ヲ違ウシテ、議政官ヲ壓制ス可ラス、元來ミニステルノ直ニ事務ヲ掌ルト議政官ノ實ニ監察ヲ掌ルトハ、其職掌全ク相殊ナリ、若シ事務ヲ掌ル官、其權ヲ弄シ、監察ヲ掌レル官ヲ制スルニ至ラハ、監察ヲ掌レル官ハ全ク其用ヲ爲サ、ルニ至ル可シ、故ニミニステルハ、必ク議政官ニ列シ、共ニ商議スルコトヲ爲ス、夫レハ只事ノ可否ヲ論スルノミニシテ其決議ニ加ハテサルヲ良法ト爲ス、

第七款 兵權、ミリテール、○常備軍、ステール、及ヒ護國軍、ランド、ケワルト、デ、ヘール、及ヒ護國軍、ランド、

〔第一〕國家ノ兵權ハ、全ク國家外面ノ權勢ヲ發耀スル所以ノ者ニシテ、且、此權〔按〕即兵權ヲ云フハ必ク此目的ニ應ジテ、整治スルカ故ニ、國家諸權柄中ニ於テ、最モ猛烈ナル者ナリ、是故ニ軍隊ハ、必ク嚴肅ナル軍法ヲ以テ、之ヲ緊束シ、及ヒ十分無限ノ恭順ヲ以テ、其義務トナスコト、甚ク緊要ニシテ、是等ノコトハ、他ノ諸權柄ニ於テ絶ヘテアラサル所ナリ、蓋シ外面ノ權勢ハ、多クハ形體法ヒシトセス、ゲセツ、〔按〕形體ニ備ハル自然ノ法ヲ云フ、即格物學ニ於テ講スル法ナリ、及ヒ運動法、メカニトセス、ゲセツ、〔按〕堅硬物ノ流動學ニ於テ講スル法ナリ、而シテ此二法、ヨリ生スル者ニシテ、此法ヲ施用スルノ權力〔按〕即兵權ヲ云フハ、其目的ヲ達スルニ至ル迄ハ、決シテ弛マサルヲ要ス、〔按〕戰爭ハ即外面權ノ發スル者ナリ、凡ソ戰爭ヲ爲スヤ必ク兵士ト兵器ヲ用ヒサル可ラス、而シテ兵士兵器ノ能力ハ、殊ニ形體及運動ノ二法ニ出ルナリ、去レテ又必ク此二法ヲ施用スル所ノ權柄アラサル可ラス、是即兵權ナリ、然ルニ若シ將卒ヲシテ自由ニ其意見ヲ述フルヲ許スルハ、軍隊ノ一致、及其能力共ニ墜弛シテ、遂ニ全ク其用ヲ爲サ、ルニ至ルヤ、必然ナリ、○國家ノ兵備ハ、即國家ノ威力ナリ、兵士ノ務ハ、殊ニ國家ニ奉スル所ノ務ナリ、故ニ甚ク貴ク、且、譽多シ、而テ此兵備ハ、攻撃ト防守トノ爲ニ設置スル者ナリ、然ルニ或ハ一防守戰ノミ獨リ能ク立憲國ノ意ニ適スト云フ、殊ニ怪シム可シ、縱令國家ノ權利ヲ保守スルカ爲メ、戰ト雖モ、景況ニ隨テハ、必ク攻撃ヲ施スヲ要スルノ理アルコト、猶私人ノ私權利ヲ保守センカ爲メ、自ラ法院ニ告訴スルヲ要スルノ理アルカ如シ、加之、掠奪戰ト雖モ、又必ク爲ス可クナルトスルハ不可ナリ、但シ近今ハ、列國法〔ヘルケルレフト、即西國公法ナリ〕大ニ開明シ且、開化モ亦増進シタルカ故ニ、掠奪戰ハ、甚罕ナルノミ、

〔第二〕中古ノ世ニハ、常備軍ヲ設置スルコトナカリシカ、爾後君權無限ノ政〔アブソルチスムス〕盛

ナルニ至リテ、始テ常備軍ヲ設置セリ、然ルニ方今ノ世ハ、君權無限ノ政變ヒタレモ、獨リ常備軍ハ國家ノ爲ニ必要ナルヲ以テ、必ズ之ヲ置クコトナレリ、凡ソ常備軍ヲ創立セシ以來、道理ニ合セサル戰爭ハ、漸次ニ跡ヲ絶シ、且、兵事ノ學術大ニ開明シ、其他武人モ、眞ニ武人タルノ德行ヲ備フ

レニ至レリ、常備軍ノ員數ハ、國ノ位置、及、隣邦ト相關セル景況ニ隨テ、其多寡ヲ生ス可シ、故ニ殊ニ國內ノ法ニ關シテ、其多寡ヲ生スルニアラス、但シ又此事モ、必、アラストハ云フ可ラス、何者、常備軍ノ兵數甚多キハ、之ニ由リテ已ムテ得ス、厚ク收斂セサル可ラサルニ至ルハ、固ヨリ論ナリ、其他動モスレハ、君主其國憲ニ背イテ、兵權ヲ弄シ、私政ヲ恣ニスルカ如キ弊害ノ生、ルヲ以テ、立憲國ニ於テハ、務テ兵數ノ增多スルコトヲ禁スルハ、固ヨリ當然ナレハナリ、(按)國內ノ法ニ關シテ、兵數ノ多寡ヲ定ムルナリ、去レ共結局兵數ノ多寡ヲ定ムルハ、決シテ國內ノ法ニ由ルニアラス、特ニ國家保護ノ難易ニ由ルニミ、若シ政府ノ眼力權勢、二ツナカラ缺クル所ナケレハ、國內ノ安寧ヲ保護スルカ爲メニハ、僅ニ少數ノ常備兵ヲ設置スレハ足レリ、然ルニ若シ國界ノ形勢自ラ外寇ノ侵襲ヲ受ケ易ク、且、少鄰邦ノ交誼既ニ破ル、ニ至リ、而シテ鄰邦甚々巨大ノ常備軍ヲ備フルニ方リテ、其侵襲ヲ防遏シテ、國家ノ安寧ヲ保クニハ、實ニ之ニ對峙スヘキ兵備ナカル可ラス、是時ニ於テ、僅ニ護國軍ヲ備フルノミニテハ、決シテ國家ノ危難ヲ濟フニ足ラス、

(第二)方今ノ世ニ於テハ、臣民タル者、國家ノ兵役ニ從事スルヲ以テ、當然ノ義務トナスコト、殆ト通則トナルニ至レリ、而シテ止其護國軍ニ入ルヲ以テ、當然ノ義務トナスノミナラス、亦常備軍ニ入ルヲモ、必ス當然ノ義務トナス、但シ實事ニ於テハ、獨リ兵卒ノ職ノミ、臣民當然ノ義務ニシテ、將校ノ職ハ、必ス志願ニ依テ、之ヲ備役スルナリ、○極乙太古ノ法ニテハ、臣民當然ノ義務トハ、云フ唯國內ノ防禦、及、國中ノ戰爭ニ從役スヘキ國兵(ホルクスヘール)トナルコトヲミナリキ、但シ非常ノ變亂アル時、若クハ敵國ヲ侵襲スル時ニ當テ、兵士トナリ、元帥ニ從行スル者ハ、皆自ラ請願セ

ル者ノミナリキ、又中古ノ世ニ於テハ、眞ノ兵役ハ封地(レトヘンスベシツ)ノ受有ニ由リテ生シタリキ、新世ニ至リ、常備兵始テ立チシ時ニ於テハ、皆自ラ請願スル者ヲ備役スルノ法ナリキ、○是故ニ太古ノ法ニヨレハ、常備軍ニ入ルハ、必、自ラ請願スル者ニ止マルヘク、又護國軍ニ入ルハ、臣民當然ノ義務ニシテ、凡、臣民タル者ハ、悉皆免ル可ラサル者ト爲ス可シ、蓋、此太古ノ法ハ、大ニ常備軍ノ性ニ適スト云フ可シ、何者、常備軍ノ職務ハ、即チ一種ノ職業ナルヲ以テ、此軍ニ入ル所ノ兵卒ハ、固ヨリ武事ヲ好ミ、且、能ク武技ニ長スルノ性質ヲ備ヘ、進ンテ兵士トナルヲ欲スル者ニアラサレハ、決シテ用フルニ足ラサレハナリ、○然ルニ已ムテ得サルノ事理アラサルコト、各人チシテ其學習ヲ廢シ、其職業、及、今日諸般ノ務、ヲ開イテ、専ラ兵事ヲ練習セシメントスルハ、即、私人ノ自由權ヲ侵スル所業ト云フヘキノミ、故ニ時勢實ニ已ムテ得サルニアラサレハ、此ノ如キ所業ヲ以テ正理ニ合スル者ト爲ス可ラス、○之ニ反シテ、自ラ請願スル者ヲ備役シテ、常備兵トナスノ法ハ、國法ニ於テ、固、然スヘキ所ナキノミナラス、此法ヲ用フルキハ、實ニ武事ニ練熟セル精銳ノ軍兵ヲ得ルニ足ル可シ、但、若シ兵役ヲ欲スルモノ甚々多カラサルカ爲メニ、請願者ノミニテハ、常備軍ノ兵數甚々僅少ナルニ方リテ、若シ一旦事アルキハ、已ムテ得ス、兵役ヲ以テ、臣民當然ノ義務トナシ以テ許多ノ兵士ヲ募ルヲ要ス、○但、此ノ如キ勢態ハ、實ニ驕奢淫逸ニ流レテ、衰弊極リナキ國ニアラサレハ、殆トアラサルコトナリ、而シテ此ノ如キ國民ハ、國費ヲ以テ、外國ノ兵ヲ備役スルニ至リテモ、敢テ慨歎スル能ハス、總テ此ノ如キ國ニテハ、本國ノ民人ヲ以テ、強大ノ軍隊ヲ編制スル能ハサルカ故ニ、國土ヲ防禦スルコト方リテハ、自己ノ金、及、自己ノ自由ノ一分ヲ割テ、最モ高價ナル平和安寧ヲ買ハサルヲ得サルナリ、

英國荷蘭、及、北亞米利加ニテハ、常備軍設置ノ方法、至當ヲ得ルト雖モ、他各國ニ於テハ、方今ノ軍制ニ於テ、臣民ノ常備兵トナルヲ、其當然ノ義務ト爲ス、但、其法二種アリ、即チ一法ハ、兵士ヲ取ルニ、拮据子ヲ以テ之ヲ定ムルヲ常則トナス、去レ拮据子ヲ得タル者、若シ自ラ兵士トナルヲ欲セ